
男女共同参画社会に関する 意識調査報告書

～男女共同参画社会の実現をめざして～

令和3年3月

鹿沼市

目 次

1. 調査の概要	1
1) 調査の目的	1
2) 調査の概要	1
3) 調査項目	1
4) 集計分析にあたって	2
2. 調査結果の概要	3
1) 男女平等に関する意識について	3
2) 結婚・家庭生活・子育て・介護について	3
3) 女性の働き方や活躍について	4
4) 男女の地域・社会参画について	4
5) ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について	5
6) 配偶者や女性に対する暴力について	5
7) 男女共同参画を推進するための取組について	6
3. 調査結果	7
1) あなたご自身について	7
2) 男女平等に関する意識について	12
3) 結婚・家庭生活・子育て・介護について	29
4) 女性の働き方や活躍について	80
5) 男女の地域・社会参画について	100
6) ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について	110
7) 配偶者や女性に対する暴力について	117
8) 男女共同参画を推進するための取組について	144
資料編	161
【その他の自由記述：抜粋】	161
【調査票】	166

1. 調査の概要

1) 調査の目的

この調査は、令和3年度に「かぬま男女共同参画プラン 2022（令和4年度～令和8年度）」を策定するにあたり、過去の市民意識調査や県調査と比較検討しながら、男女共同参画に関する市民意識の現状や変化、地域性等を的確にとらえ、問題・課題等を明らかにし、今後の男女共同参画を推進する上での基礎資料とするために実施した。

2) 調査の概要

- | | |
|----------|----------------------------|
| (1) 調査地域 | 鹿沼市全域 |
| (2) 調査対象 | 市内在住の満18歳以上の男女（基準日7月1日現在） |
| (3) 標本数 | 2,000人 |
| (4) 抽出方法 | 住民基本台帳に基づき、男女別年齢階層による無作為抽出 |
| (5) 調査方法 | 郵送による配布・回収 |
| (6) 調査期間 | 令和2年7月31日(金) ～ 8月17日(月) |
| (7) 回収結果 | 回収数 756件 |
| | 有効回収数 756件 |
| | 有効回収率 37.8% |

3) 調査項目

- (1) あなたご自身について
- (2) 男女平等に関する意識について
- (3) 結婚・家庭生活・子育て・介護について
- (4) 女性の働き方や活躍について
- (5) 男女の地域・社会参画について
- (6) ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について
- (7) 配偶者や女性に対する暴力について
- (8) 男女共同参画を推進するための取組について

4) 集計分析にあたって

- (1) 本報告書では、回答すべき箇所が回答されていないものは「無回答」として扱う。また、答えなくてもよい回答者を「非該当」としている。
- (2) 比率は全て百分率(%)で表し、小数点第2位を四捨五入し算出しているため合計が100%にならない場合がある。
- (3) 複数回答「あてはまるものすべてに○」の設問については、回答者数を基数としているため、比率を合計すると100%を超えている。
- (4) 図や表、文章では、選択肢の一部を省略して表記している箇所がある。また、グラフの3%未満の数値については、表記していない箇所がある。
- (5) グラフに表記される「n」については、回答者数を示している。
- (6) グラフ横の回答を分類した(計)については、四捨五入せずデータ上で合計しているため、グラフの表記の計と異なる場合がある。
- (7) 経年比較の平成27年度及び平成22年度調査については、「鹿沼市 男女共同参画社会に関する市民意識調査報告書」のそれぞれの報告書より引用している。
- (8) 居住地区別比較については以下の表のとおり分類している。
- (9) 県との比較について、栃木県調査は、「令和元(2019)年度栃木県政世論調査 調査報告書 令和元(2019)年10月 栃木県」より引用している。

【居住地区分類】

地区割	地区名				
旧市街地	1鹿沼地区				
菊沢地域	2菊沢地区				
西北部地域	3東大芦地区	5板荷地区	6西大芦地区	7加蘇地区	10南摩地区
東部台・北犬飼地域	8北犬飼地区	9東部台地区			
押原地域	4北押原地区	11南押原地区			
旧栗野地域	12栗野地区	13粕尾地区	14永野地区	15清洲地区	

2. 調査結果の概要

1) 男女平等に関する意識について

◆「男は仕事、女は家庭」という考え方について、鹿沼市では、「男女とも仕事をもち、家庭でも責任を分担するのがよい」(49.9%)が最も高く、次いで「男女の役割は固定せずに、男女どちらが仕事をしても家庭にいてもよい」(36.1%)であった。これらを合わせた86.0%の方が仕事と家庭において男女平等が望ましいという意識を持っており、平成27年度調査と比較すると約9ポイント高くなっている。

◆社会全般の男女の地位については、「政治の場で」、「社会通念・習慣・しきたりなどで」では『男性有利(計)』との回答が概ね7割と高くなっており、一方「家庭生活で」では『女性有利(計)』との回答が2割近くを占めている。また、「学校教育の場で」、「家庭生活で」、「法律や制度の上で」では、『平等』との回答が高くなっている。平成27年度調査との比較では多くの項目で『平等』との回答が増加しているものの、「学校教育の場で」以外の項目で『男性有利(計)』が『平等』を大きく上回っており、依然として多くの場面で男性の方が有利という意識が高くなっている。

2) 結婚・家庭生活・子育て・介護について

◆結婚や離婚、家庭、男女の役割等に対する考え方については、「結婚したら、家庭や仕事について、互いに話し合い、分担すればよい」、「婚姻が続けられないと感じた時は、我慢せず、ひとり親となる生き方を選んでもよい」で『思う(計)』との回答が高く、7割を超えている。一方、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」では『思わない(計)』が8割を占めている。性別でみると、「人生をより充実したものにするために、結婚はした方がよい」では、男性で『思う(計)』の回答が7割を超え、女性よりも高いのに対し、「結婚は個人の自由であるから、しなくてもよい」「婚姻が続けられないと感じた時は、我慢せず、ひとり親となる生き方を選んでもよい」では、女性で『思う(計)』の回答が7割を超え、男性よりも高くなっている。

◆家庭での役割分担では、『夫(計)』が高い項目は、「主な収入を得る」(70.8%)、「ゴミ出し」(36.9%)、「町内行事などの参加」(35.2%)となっている。『妻(計)』が高い項目は13項目中8項目で、中でも「食事のしたく」(76.5%)、「洗濯」(72.5%)で7割を超えている。「夫婦同じ程度」が高い項目は、「子どものしつけや勉強」(44.4%)、「親や身内の介護」(36.9%)が高くなっている。

◆夫婦の役割分担の現状については、『満足(計)』との回答が62.1%であったが、性別でみると、男性では『満足(計)』が概ね8割であるのに対し、女性では『満足(計)』と『不満(計)』が概ね半々となっている。また、平成27年度調査との比較では、『満足(計)』は12.2ポイント上回った。

◆男の子は男らしく、女の子は女らしくという考えをどう思うかについては、「どちらかといえば、『性別にとらわれず』がよい」が32.5%と最も高く、次いで『性別にとらわれることなく』がよい」が25.5%と、性別にとらわれない方が望ましいと考える方が半数以上となっており、特に20代、30代で男女とも高い割合となっている。

◆子どもの男女平等人間関係形成に大人が心がけるべきことについては、「地域や家庭の中で、夫婦や男女がお互いを尊重し、協力しあう姿を見せる」、「学校の進路指導や就業教育において、性別にとらわれることなく、個人の希望と能力を重視する」がともに 6 割を超えている。

◆男性の育児の参加については、「時間の許す範囲内で参加した方がよい」(50.5%) が最も高く、次いで「女性と分担して、積極的に参加した方がよい」(41.7%) となっており、前回調査との比較では「女性と分担して、積極的に参加した方がよい」が約 9 ポイント高くなっている。また、男性の介護参加についても、「時間の許す範囲内で参加した方がよい」(47.0%) が最も高く、次いで「女性と分担して、積極的に参加するのがよい」(45.4%) となっている。

◆男性が育児休業を取得することについては『取得したほうがよい (計)』の回答が 79.7%、介護休業を取得することについても『取得したほうがよい (計)』の回答が 84.1%と、ともに高い割合となっている。また、どちらも前回調査と比較して 14 ポイント以上高くなっている。

3) 女性の働き方や活躍について

◆女性が職業を持つことについては、「子どもができてもしっかりと職業を続ける方がよい」(30.7%) が最も高く、次いで「結婚後や出産後も仕事は続けるが、パートタイムにきりかえるなど負担を軽くする方がよい」(22.6%) となっている。前回調査との比較では、「子どもができて、しっかりと職業を続ける方がよい」が約 8 ポイント高くなっている。

◆「子どもができて、しっかりと職業を続ける方がよい」と回答した方で、「女性が結婚後、出産後も働き続けるために重要と思うこと」については、ほとんどの項目で『重要 (計)』の回答が 8 割以上となっており、特に「パートナー (男性) の理解や家事・育児などへの参加」、「保育施設や学童保育の充実」、「企業等事業所の理解」、「育児・介護休業などの休暇制度の充実」ではほとんどの方が「とても重要」「重要」と考えている。

◆「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」と回答した方で、「女性が結婚や出産で退職し、その後再就職するために重要と思うこと」については、「技能習得のための訓練施設の充実」以外の項目で 9 割以上となっており、特に「企業等が再就職を希望する人を雇用する制度の充実」、「家族の理解や家事・育児などへの参加」、「企業等事業所の理解」が高い割合となっている。

◆職場での男女平等については、「福利厚生」、「定年、退職、解雇」、「教育や研修制度」の項目で『平等 (計)』の回答が 6 割を超え高くなっている。一方、「人事配置や昇進」、「仕事の内容」では『平等でない (計)』が概ね 4 割と高くなっている。

◆働く場で女性が更に活躍するためにどのような取り組みが必要かについては、「女性の採用・昇進等について、公正・公平な評価」(66.0%) が最も高く、次いで「職業能力の開発・向上の機会を男女同等に与えること」(48.9%)、「職場における女性の活躍の必要性についての理解促進」(39.8%) となっている。

4) 男女の地域・社会参画について

◆参加している地域活動については、「自治会、まちづくりなどの地域活動」(29.5%) が最も高く、次いで「自然保護、環境美化、リサイクルなどの環境保全活動」(18.8%)、「PTA、子ども会などの子どもや青少年の育成活動」(16.3%) となっている。また、「参加していない」が 45.1%となっている。

◆地域活動に参加していない理由としては、「仕事が忙しいから」(41.1%)が最も高く、次いで「参加したいと思うものがないから」(22.9%)、「近くに活動の場がないから」(20.5%)となっている。前回調査との比較では、「近くに活動の場がないから」が約8ポイント高くなっている。

◆政策方針決定の場に女性が参画することについては、『増える方がよい(計)』との回答が69.8%となっており、概ね7割がさらなる女性の社会参画を望んでいると回答している。『増える方がよい(計)』について、性別では男性より女性の方でやや高く、年代・性別では20代女性、30代男女で比較的高くなっている。

◆女性の社会参画を増やしていくために重要な取り組みとしては、「男性優位の組織運営を改善すること」(31.6%)、「女性を登用することへの抵抗感をなくすこと」(19.3%)、「女性自身が積極的な参画意識をもつこと」(12.7%)、「女性の能力開発の機会を充実させること」(12.1%)となっている。前回調査と比較すると「男性優位の組織運営を改善すること」が約8ポイント高くなっている。

5) ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)について

◆生活の中で、「仕事」、「家庭生活(家事・育児・介護など)」、「地域・個人の生活(地域活動・学習・趣味・付き合いなど)」の優先度については、《希望》では『仕事』と『家庭生活』をともに優先、「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先」が高い割合となっているが、《現実》ではいずれも10ポイント以上下回っている。一方、「『仕事』を優先」は、《希望》で4.6%であるのに対し、《現実》では32.8%と20ポイント以上上回っている。前回調査との比較では、《現実》で「仕事を優先」が8ポイント以上高くなっている。

◆性別に関わらず仕事と家庭を両立していくために必要な条件については、「女性が働くことや男性が家事育児を行うことに対し、周囲の理解と協力があること」(51.2%)が最も高く、次いで「代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること」(47.0%)、「育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的給与を充実すること」(46.7%)となっている。

6) 配偶者や女性に対する暴力について

◆配偶者に対する暴力については、「どんな場合でも暴力にあたる」という回答は、「身体を傷つける可能性のある物でなぐる」、「刃物などを突きつけて、おどす」、「足でける」、「いやがっているのに性的な行為を強要する」、「平手で打つ」の項目で7割以上となっている。

◆配偶者から実際に受けたことについては、「人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた」、「なぐったり、けったりするなどの身体に対する暴行を受けた」がともに1割を超えており、前回調査との比較でもほぼ同様の結果となった。

◆配偶者から暴力を受けた方の相談先については、「友人・知人に相談した」(30.5%)が最も高く、次いで「家族や親戚に相談した」(28.6%)となっている。一方、「どこ(だれ)にも相談しなかった」が42.9%となっている。前回調査との比較では、「どこ(だれ)にも相談しなかった」が約9ポイント減少し、「友人・知人に相談した」、「家族や親戚に相談した」、

「警察に連絡・相談した」が3ポイント以上高くなっている。

◆配偶者から暴力を受け、だれにも相談しなかった理由については、「相談するほどのことではないと思ったから」(54.5%)が最も高く、次いで「自分にも悪いところがあると思ったから」(31.8%)、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」(30.3%)が続いている。前回調査との比較では、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」が約9ポイント高くなっている。

7) 男女共同参画を推進するための取組について

◆今後、女性の参画を進める必要がある分野については、「国会・県議会・市町村議会等の議員」(67.7%)が最も高く、次いで「国の省庁、県庁、市町村の役所等」(48.8%)、「企業の管理職、労働組合の幹部」(44.4%)となっている。

◆男女共同参画の推進のために自分でできることについては、「家庭で男女共同参画について話し合う」(35.1%)が最も高く、次いで「男女共同参画について学ぶ」(33.9%)、「職場・学校で男女共同参画について話し合う」(32.7%)となっている。前回調査との比較では、「職場・学校で男女共同参画について話し合う」が約8ポイント高くなっている。

◆男女共同参画社会を実現するために、鹿沼市が今後どのようなことに力を入れていくべきだと思うかについては、「子どもや介護を要する人などをあずかってくれる施設を充実する」(86.5%)が最も高く、次いで「学校教育や生涯学習・社会教育の場で男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する」(82.0%)、「職場における男女の平等な扱いについて周知徹底を行う」(79.0%)となっている。

◆男女共同参画に関する社会の動きや言葉の認知度については、「DV（ドメスティック・バイオレンス）」(77.5%)が最も高く、次いで「デートDV（交際相手からの暴力）」(54.0%)、「男女雇用機会均等法」(53.7%)となっている。

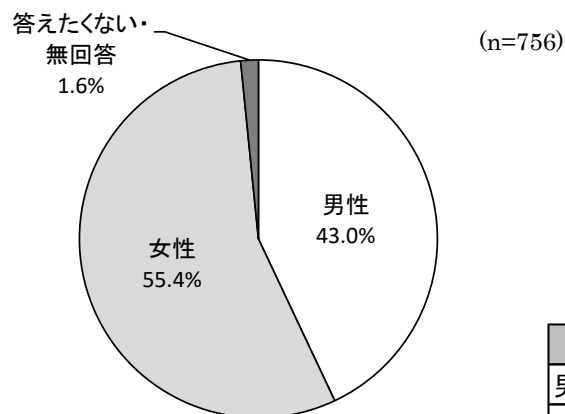
3. 調査結果

1) あなたご自身について

《性別》

F1. 性別をお答えください。(1つだけに○)

「男性」が43.0%、「女性」が55.4%となっている。

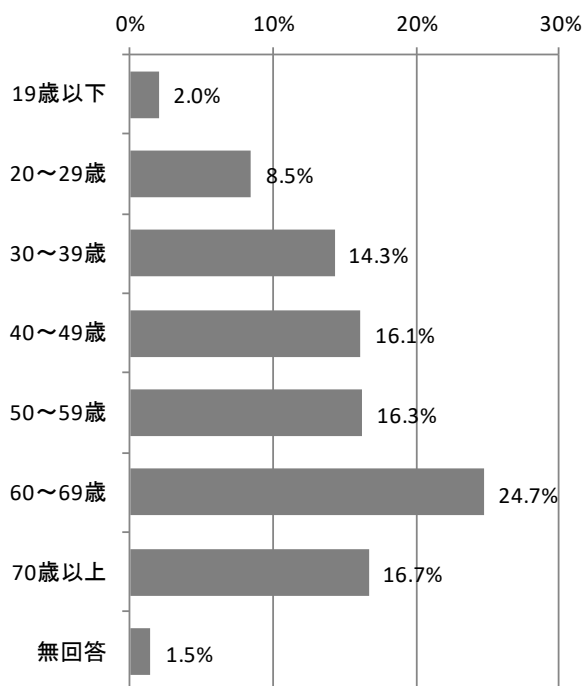


項目	度数	構成比
男性	325	43.0%
女性	419	55.4%
答えたくない・無回答	12	1.6%
合計	756	100.0%

《年代》

F2. あなたの年齢は何歳ですか。(1つだけに○)

「60～69歳」が24.7%と最も高く、次いで「70歳以上」16.7%、「50～59歳」16.3%となっている。

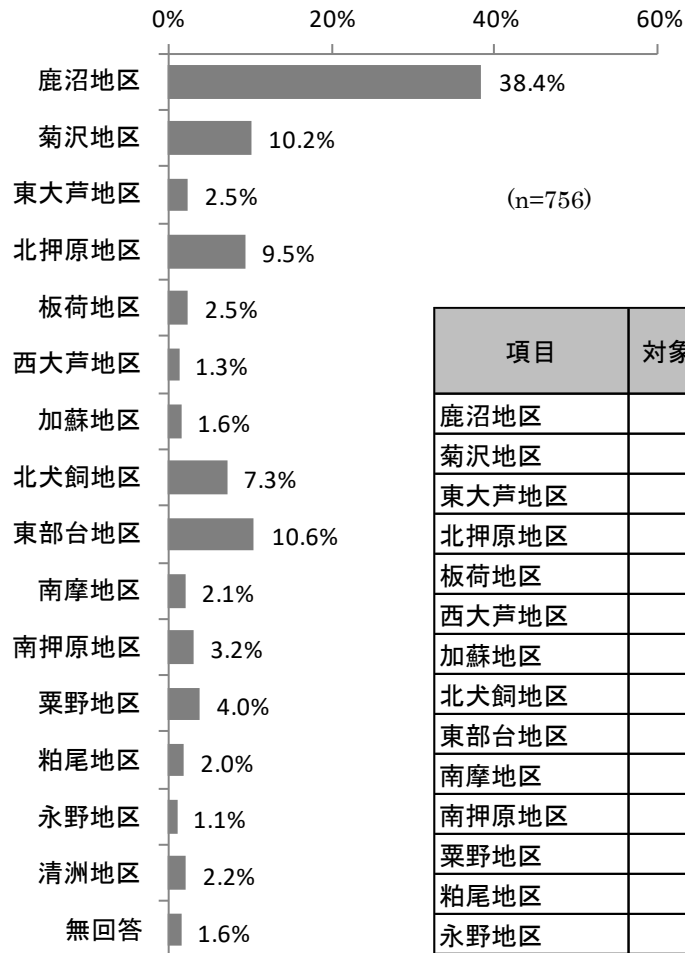


項目	度数	構成比
19歳以下	15	2.0%
20～29歳	64	8.5%
30～39歳	108	14.3%
40～49歳	122	16.1%
50～59歳	123	16.3%
60～69歳	187	24.7%
70歳以上	126	16.7%
無回答	11	1.5%
合計	756	100.0%

《居住地区》

F3. あなたのお住まいの地区はどこですか。(1つだけに○)

「鹿沼地区」が38.4%と最も高く、次いで「東部台地区」10.6%、「菊沢地区」10.2%、「北押原地区」9.5%となっている。



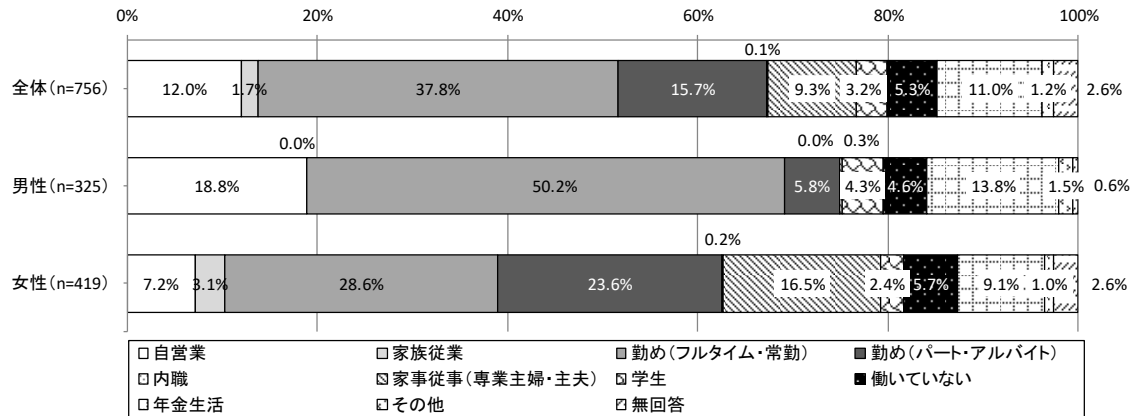
項目	対象者数	対象者構成比率	度数	構成比
鹿沼地区	478	23.9%	290	38.4%
菊沢地区	278	13.9%	77	10.2%
東大芦地区	62	3.1%	19	2.5%
北押原地区	240	12.0%	72	9.5%
板荷地区	42	2.1%	19	2.5%
西大芦地区	22	1.1%	10	1.3%
加蘇地区	42	2.1%	12	1.6%
北犬飼地区	198	9.9%	55	7.3%
東部台地区	318	15.9%	80	10.6%
南摩地区	60	3.0%	16	2.1%
南押原地区	78	3.9%	24	3.2%
栗野地区	62	3.1%	30	4.0%
粕尾地区	36	1.8%	15	2.0%
永野地区	22	1.1%	8	1.1%
清洲地区	62	3.1%	17	2.2%
無回答			12	1.6%
合計	2,000	100.0%	756	100.0%

《職業》

F4. あなたの職業は次のどれにあてはまりますか。(1 つだけに○)

「勤め（フルタイム・常勤）」が 37.8%と最も高く、次いで「勤め（パート・アルバイト）」15.7%、「自営業」12.0%となっている。

性別でみると、「勤め（フルタイム・常勤）」は男性（50.2%）が女性（28.6%）より 21.6 ポイント高く、「勤め（パート・アルバイト）」では女性（23.6%）が男性（5.8%）より 17.8 ポイント高くなっている。



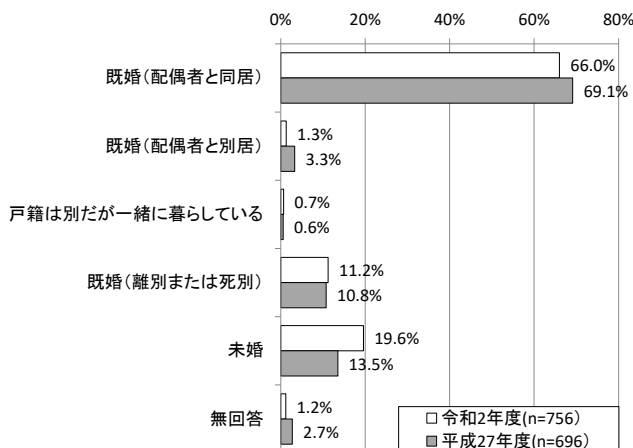
項目	度数	構成比
自営業	91	12.0%
家族従業	13	1.7%
勤め(フルタイム・常勤)	286	37.8%
勤め(パート・アルバイト)	119	15.7%
内職	1	0.1%
家事従事(専業主婦・主夫)	70	9.3%
学生	24	3.2%
働いていない	40	5.3%
年金生活	83	11.0%
その他	9	1.2%
無回答	20	2.6%
合計	756	100.0%

《婚姻の状況》

F5. 婚姻の状況について、あなたは次のどれにあてはまりますか。(1 つだけに○)

「既婚（配偶者と同居）」が 66.0%と最も高く、次いで「未婚」19.6%、「既婚（離別または死別）」11.2%となっている。

前回調査と比べると、「未婚」が前回よりも 6.1 ポイント増加している。



項目	度数	構成比
既婚(配偶者と同居)	499	66.0%
既婚(配偶者と別居)	10	1.3%
戸籍は別だが一緒に暮らしている	5	0.7%
既婚(離別または死別)	85	11.2%
未婚	148	19.6%
無回答	9	1.2%
合計	756	100.0%

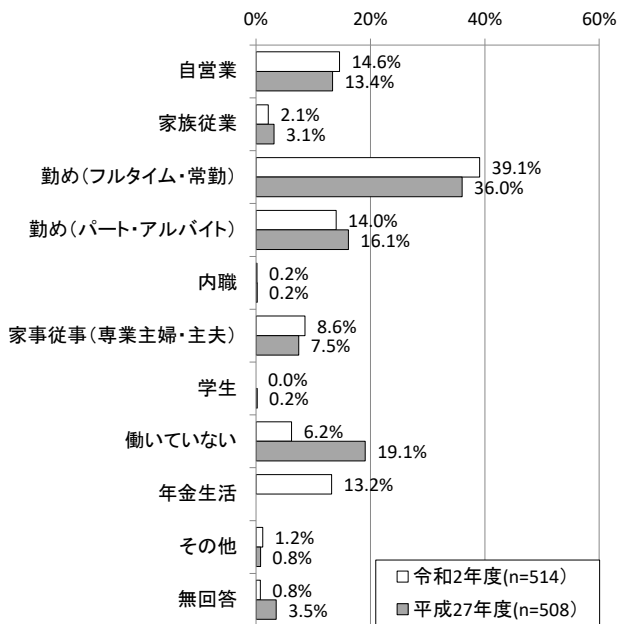
《配偶者の職業》

【F5. で、「既婚（配偶者と同居）」～「戸籍は別だが一緒に暮らしている」と回答した方に】

F5-1. あなたの配偶者の職業は次のどれにあてはまりますか。（1つだけに○）

「勤め（フルタイム・常勤）」が 39.1%と最も高く、次いで「自営業」14.6%、「勤め（パート・アルバイト）」14.0%となっている。

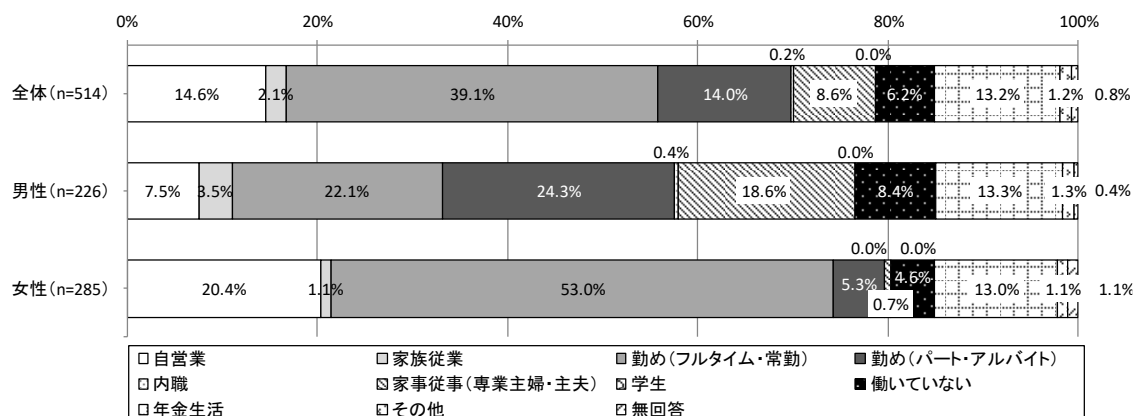
前回調査と比べると、「勤め（フルタイム・常勤）」が前回よりも 3.1 ポイント増加している。



項目	度数	構成比
自営業	75	14.6%
家族従業	11	2.1%
勤め(フルタイム・常勤)	201	39.1%
勤め(パート・アルバイト)	72	14.0%
内職	1	0.2%
家事従事(専業主婦・主夫)	44	8.6%
学生	0	0.0%
働いていない	32	6.2%
年金生活	68	13.2%
その他	6	1.2%
無回答	4	0.8%
回答者数	514	100.0%
非該当	242	
合計	756	

【配偶者の職業：性別】

配偶者の職業を性別でみると、「勤め（フルタイム・常勤）」は女性の配偶者（53.0%）が男性の配偶者（22.1%）より 30.9 ポイント高く、「勤め（パート・アルバイト）」は男性の配偶者（24.3%）が女性の配偶者（5.3%）より 19.0 ポイント高くなっている。

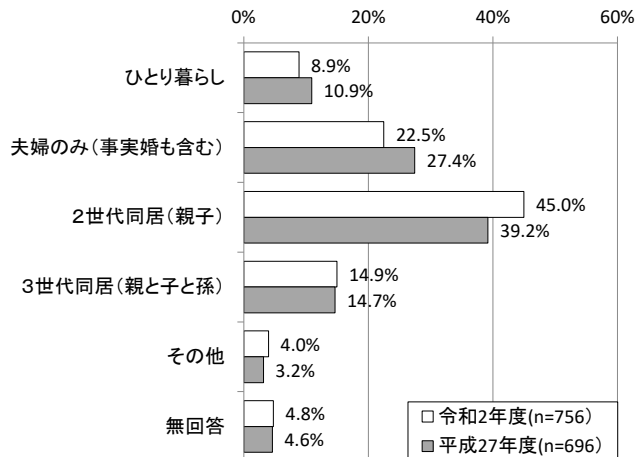


《世帯構成》

F6. あなたの世帯構成は次のどれにあてはまりますか。(1つだけに○)

「2世代同居(親子)」が45.0%と最も高く、次いで「夫婦のみ(事実婚も含む)」22.5%、「3世代同居(親と子と孫)」14.9%となっている。

前回調査と比べると、「2世代同居(親子)」が前回より5.8ポイント増加している。



項目	度数	構成比
ひとり暮らし	67	8.9%
夫婦のみ(事実婚も含む)	170	22.5%
2世代同居(親子)	340	45.0%
3世代同居(親と子と孫)	113	14.9%
その他	30	4.0%
無回答	36	4.8%
合計	756	100.0%

《乳幼児・70歳以上の方との同居》

【F6. で、「2世代同居(親子)」～「その他」と回答した方に】

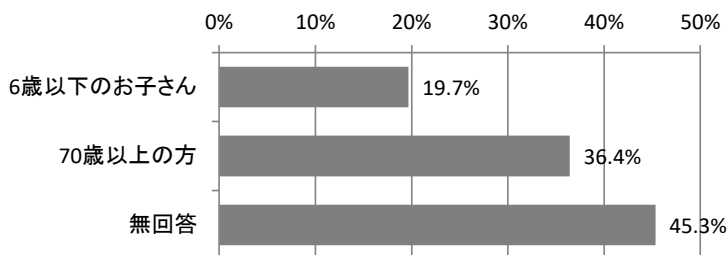
F6-1. あなたの世帯では、あなたを含めて次の方と同居していますか。

(あてはまるものすべてに○)

「6歳以下のお子さん」が19.7%、「70歳以上の方」が36.4%となっている。

また、無回答については、どちらもいない方と考えられる。

前回調査と比べると、「6歳以下のお子さん」が前回より7.3ポイント、「70歳以上の方」が3.2ポイントそれぞれ増加している。



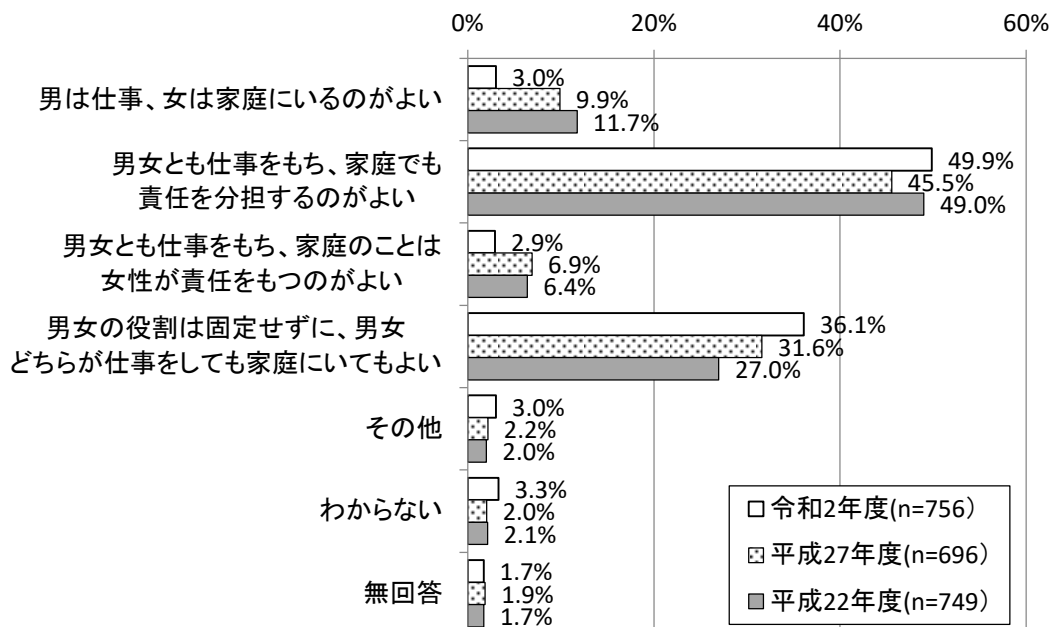
項目	度数	構成比
6歳以下のお子さん	95	19.7%
70歳以上の方	176	36.4%
無回答	219	45.3%
回答者数	483	
非該当	273	
合計	756	

2) 男女平等に関する意識について

問1. 「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。次の中から選んでください。（1つだけに○）

「男女とも仕事をもち、家庭でも責任を分担するのがよい」が49.9%と最も高く、次いで「男女の役割は固定せずに、男女どちらが仕事をしても家庭にいてもよい」が36.1%となっている。

前回調査と比べると、「男女とも仕事をもち、家庭でも責任を分担するのがよい」が前回より4.4ポイント増加し、「男女の役割は固定せずに、男女どちらが仕事をしても家庭にいてもよい」が4.5ポイント増加している。

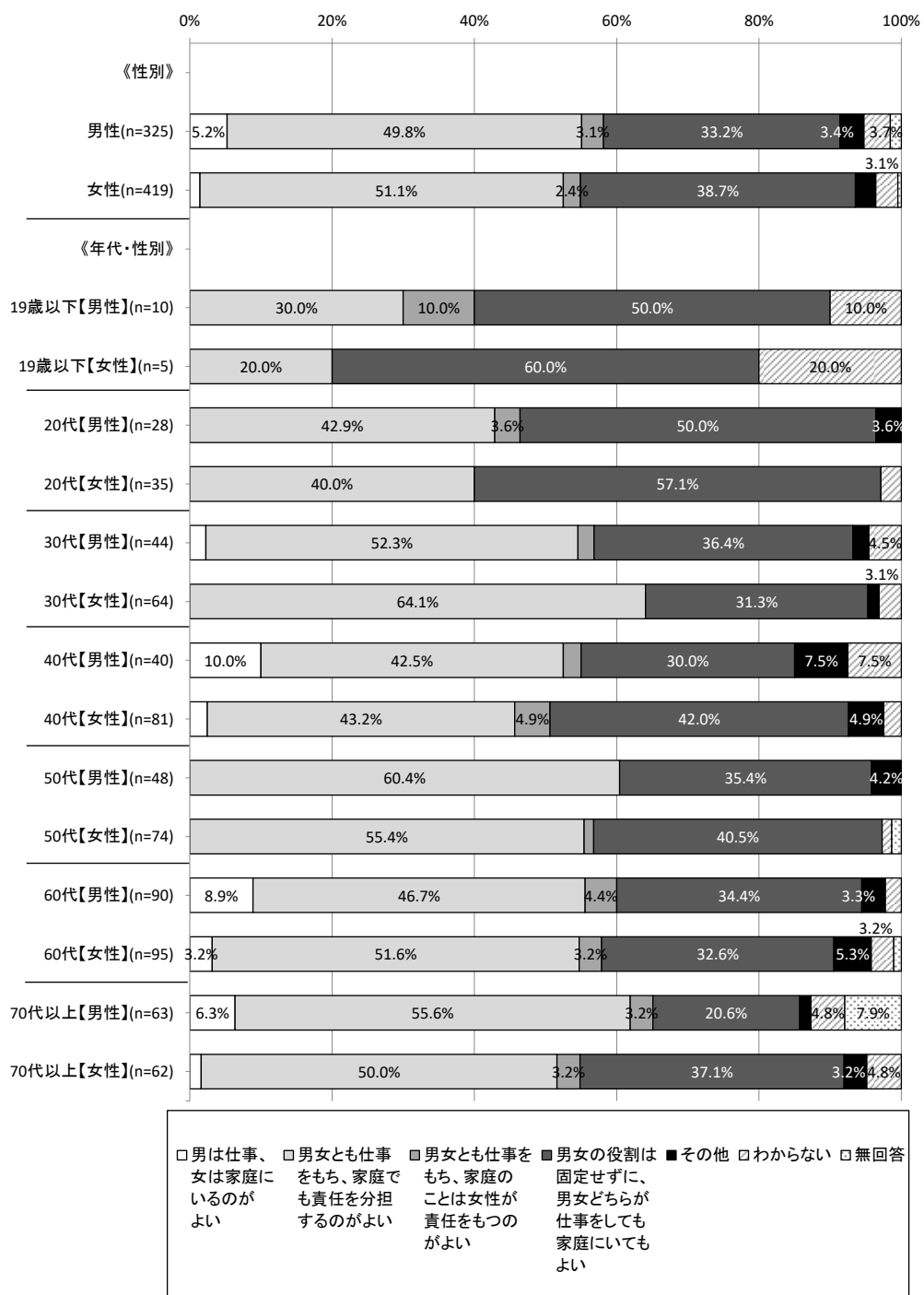


項目	度数	構成比
男は仕事、女は家庭にいるのがよい	23	3.0%
男女とも仕事をもち、家庭でも責任を分担するのがよい	377	49.9%
男女とも仕事をもち、家庭のことは女性が責任をもつのがよい	22	2.9%
男女の役割は固定せずに、男女どちらが仕事をしても家庭にいてもよい	273	36.1%
その他	23	3.0%
わからない	25	3.3%
無回答	13	1.7%
合計	756	100.0%

【「男は仕事、女は家庭」という考え方について：性別・年代】

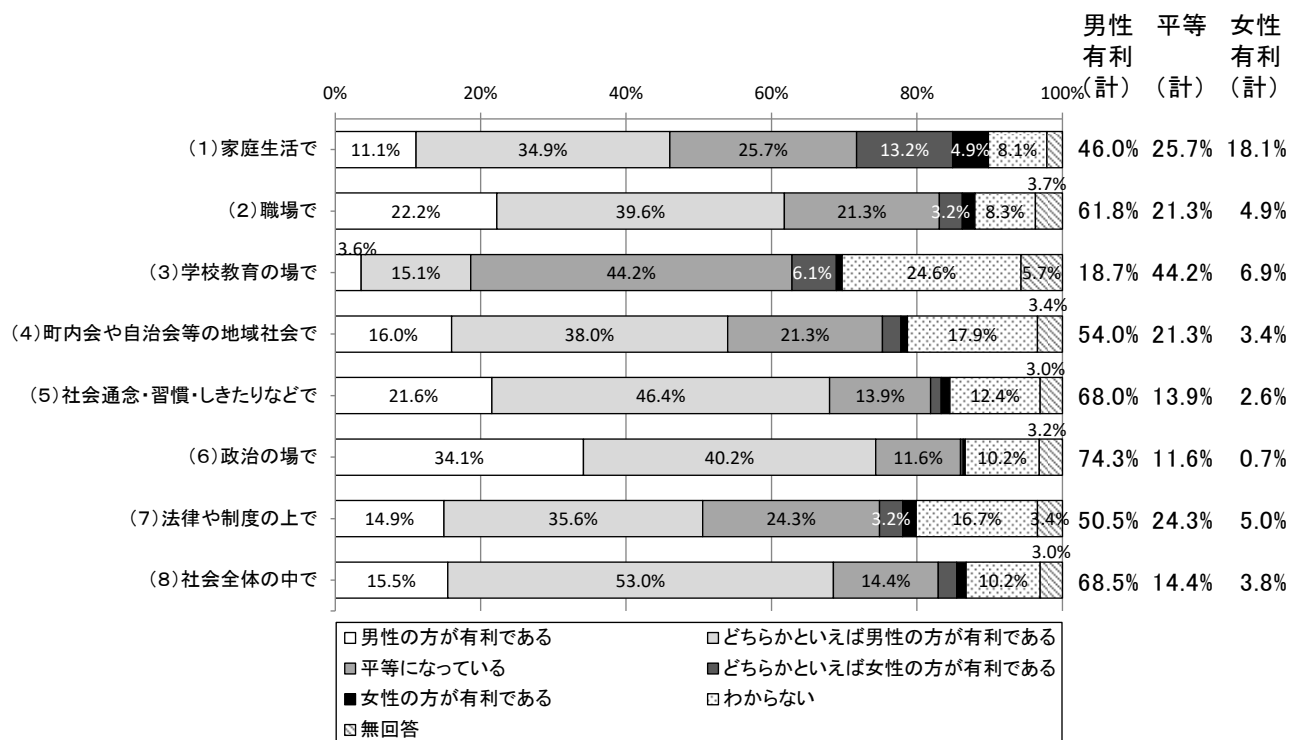
性別でみると、「男女とも仕事をもち、家庭でも責任を分担するのがよい」は、男性(49.8%)、女性(51.1%)どちらもほぼ半数となっている。「男女の役割は固定せずに、男女どちらが仕事をしてても家庭にいてもよい」は、女性(38.7%)が男性(33.2%)を5.5ポイント上回っている。

年代・性別でみると、30代女性では、「男女とも仕事をもち、家庭でも責任を分担するのがよい」が64.1%と他に比べ高くなっている。20代以下では「男女の役割は固定せずに、男女どちらが仕事をしてても家庭にいてもよい」が半数以上となっている。



問2. あなたは、現在、男女の地位はどの程度平等になっていると思いますか。次の（１）～（８）についてそれぞれ選んでください。（それぞれ１つだけに○）

『男性有利（計）』では、「政治の場で」（74.3%）が最も高く、次いで「社会通念・習慣・しきたりなどで」（68.0%）が高くなっている。また、『女性有利（計）』では、「家庭生活で」（18.1%）が最も高く、『平等』では「学校教育の場で」（44.2%）、「家庭生活で」（25.7%）、「法律や制度の上で」（24.3%）などが高くなっている。

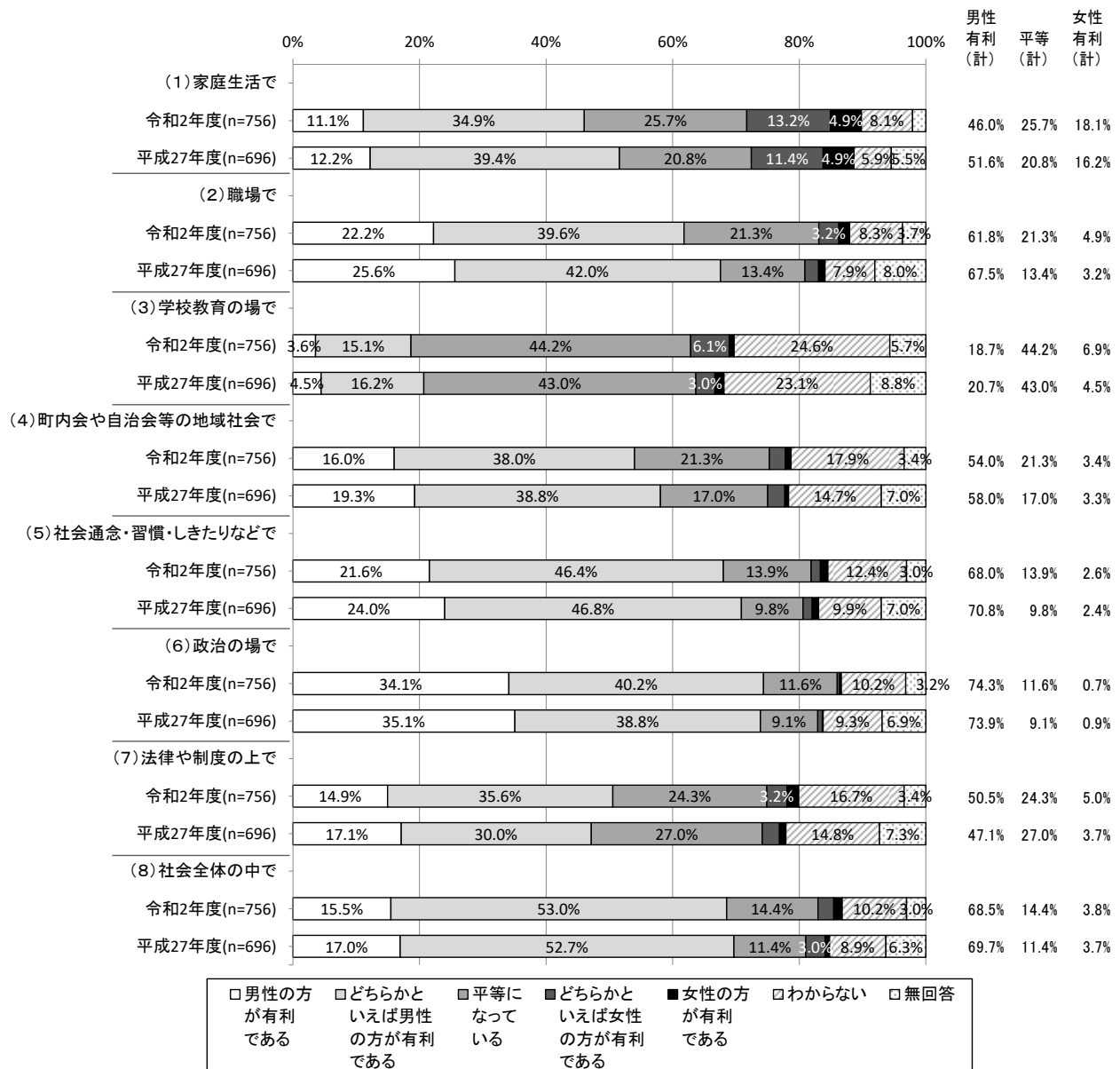


項目	男性の方が有利である	どちらかといえば男性の方が有利である	平等になっている	どちらかといえば女性の方が有利である	女性の方が有利である	わからない	無回答	合計
(1) 家庭生活で	84	264	194	100	37	61	16	756
(2) 職場で	168	299	161	24	13	63	28	756
(3) 学校教育の場で	27	114	334	46	6	186	43	756
(4) 町内会や自治会等の地域社会で	121	287	161	19	7	135	26	756
(5) 社会通念・習慣・しきたりなどで	163	351	105	11	9	94	23	756
(6) 政治の場で	258	304	88	3	2	77	24	756
(7) 法律や制度の上で	113	269	184	24	14	126	26	756
(8) 社会全体の中で	117	401	109	19	10	77	23	756

項目（構成比）	男性の方が有利である	どちらかといえば男性の方が有利である	平等になっている	どちらかといえば女性の方が有利である	女性の方が有利である	わからない	無回答	合計
(1) 家庭生活で	11.1%	34.9%	25.7%	13.2%	4.9%	8.1%	2.1%	100.0%
(2) 職場で	22.2%	39.6%	21.3%	3.2%	1.7%	8.3%	3.7%	100.0%
(3) 学校教育の場で	3.6%	15.1%	44.2%	6.1%	0.8%	24.6%	5.7%	100.0%
(4) 町内会や自治会等の地域社会で	16.0%	38.0%	21.3%	2.5%	0.9%	17.9%	3.4%	100.0%
(5) 社会通念・習慣・しきたりなどで	21.6%	46.4%	13.9%	1.5%	1.2%	12.4%	3.0%	100.0%
(6) 政治の場で	34.1%	40.2%	11.6%	0.4%	0.3%	10.2%	3.2%	100.0%
(7) 法律や制度の上で	14.9%	35.6%	24.3%	3.2%	1.9%	16.7%	3.4%	100.0%
(8) 社会全体の中で	15.5%	53.0%	14.4%	2.5%	1.3%	10.2%	3.0%	100.0%

【男女の地位の平等観：経年比較】

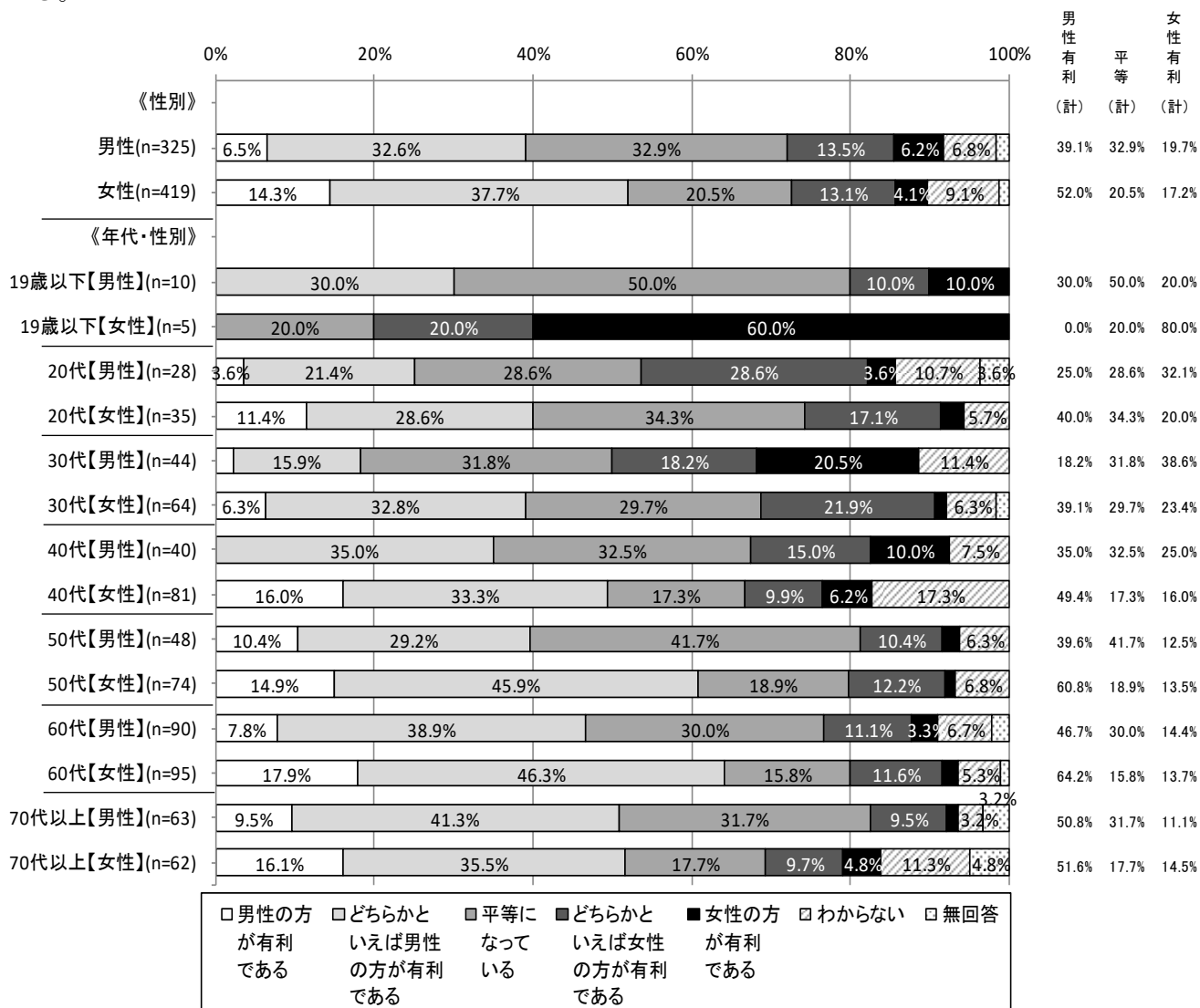
前回調査と比べると、「法律や制度の上で」を除いて『男性有利(計)』との回答が減少し、『平等』との回答が増加している。『平等』についてみると、「職場で」は7.9ポイント増、「家庭生活で」は4.9ポイント増となっている。



【男女の地位の平等観（１）家庭生活で：性別・年代】

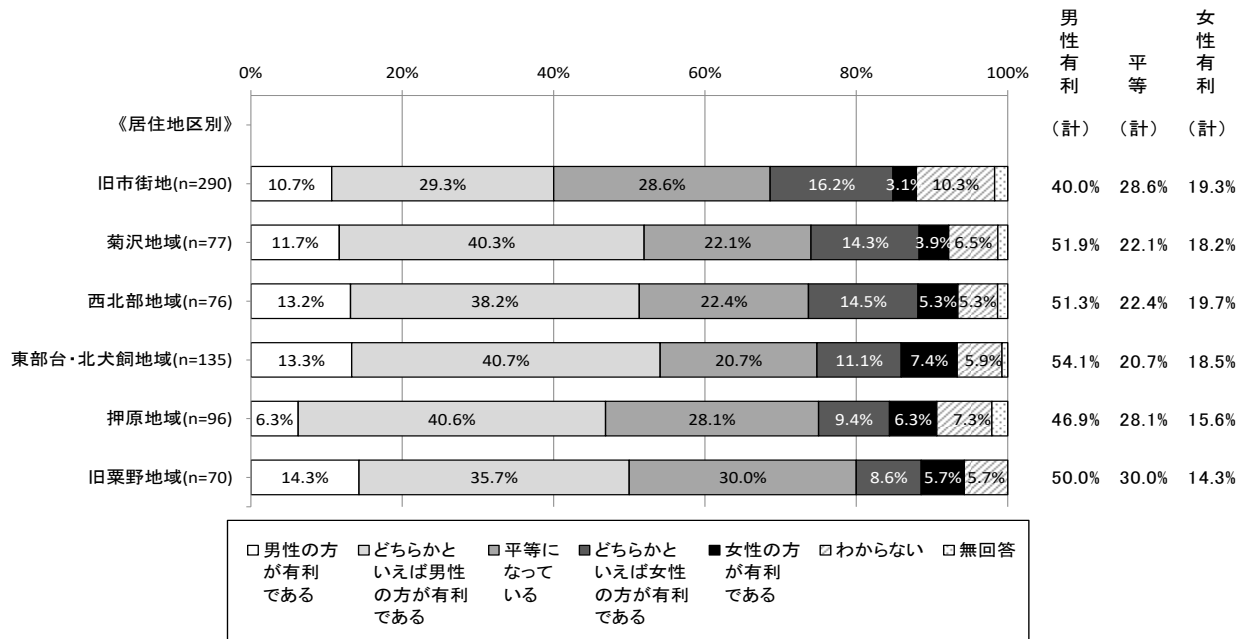
性別でみると、『男性が有利（計）』との回答は、男性（39.1%）より女性（52.0%）の方が高くなっている。

年代・性別でみると、50代以降の女性で、『男性有利（計）』と5割以上の方が回答している。



【男女の地位の平等観（１）家庭生活で：居住地区別】

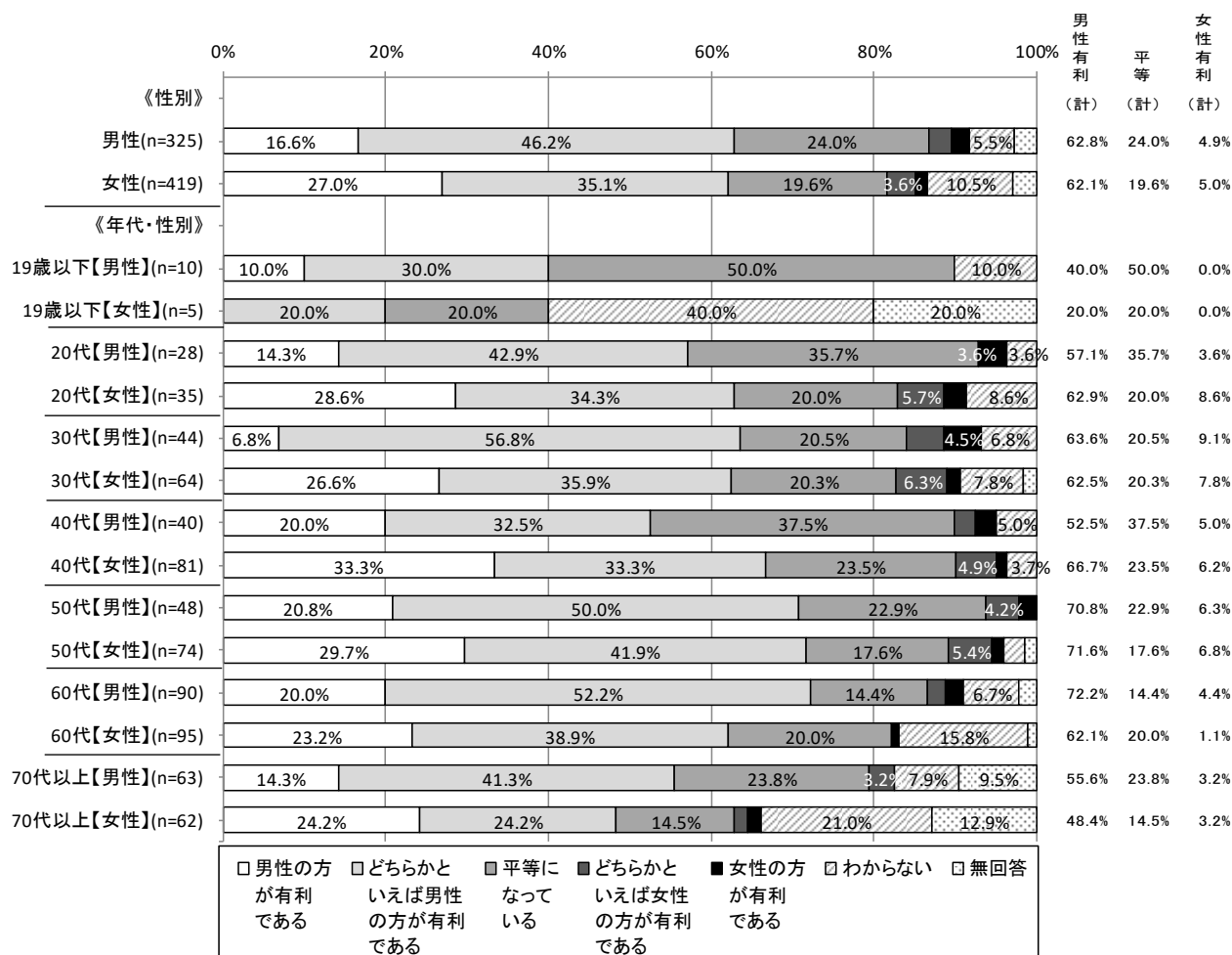
居住地区別では、『男性有利（計）』との回答が高い地区は、「東部台・北犬飼地域」（54.1%）、
「菊沢地域」（51.9%）、「西北部地域」（51.3%）となっている。



【男女の地位の平等観（２）職場で：性別・年代】

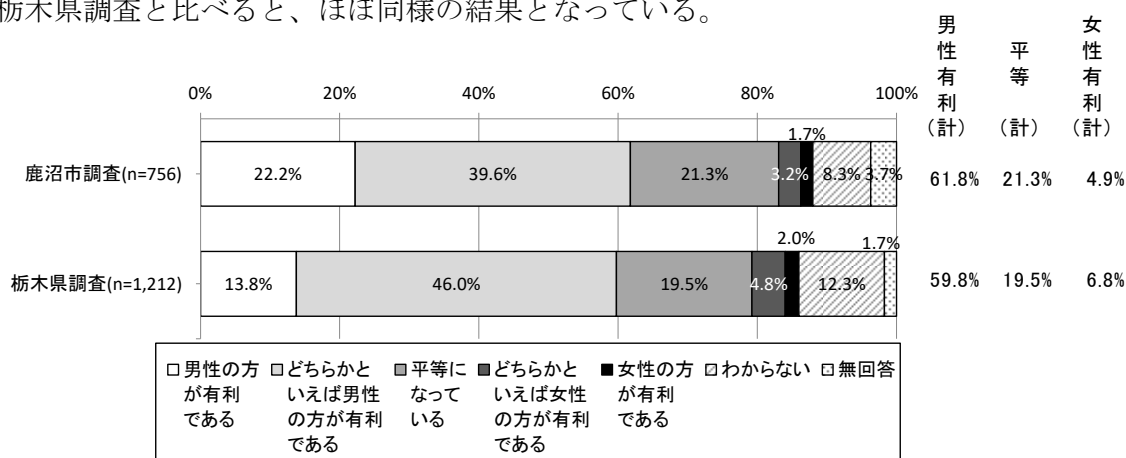
性別で見ると、『男性有利（計）』との回答は男女とも６割以上で、『平等』との回答は、男性（24.0%）より女性（19.6%）の方が低くなっている。

年代・性別で見ると、20代、40代の女性と30代、50代、60代の男女で『男性有利（計）』との回答が６割を超え、比較的高くなっている。



【男女の地位の平等観（２）職場で：栃木県調査との比較】

栃木県調査と比べると、ほぼ同様の結果となっている。

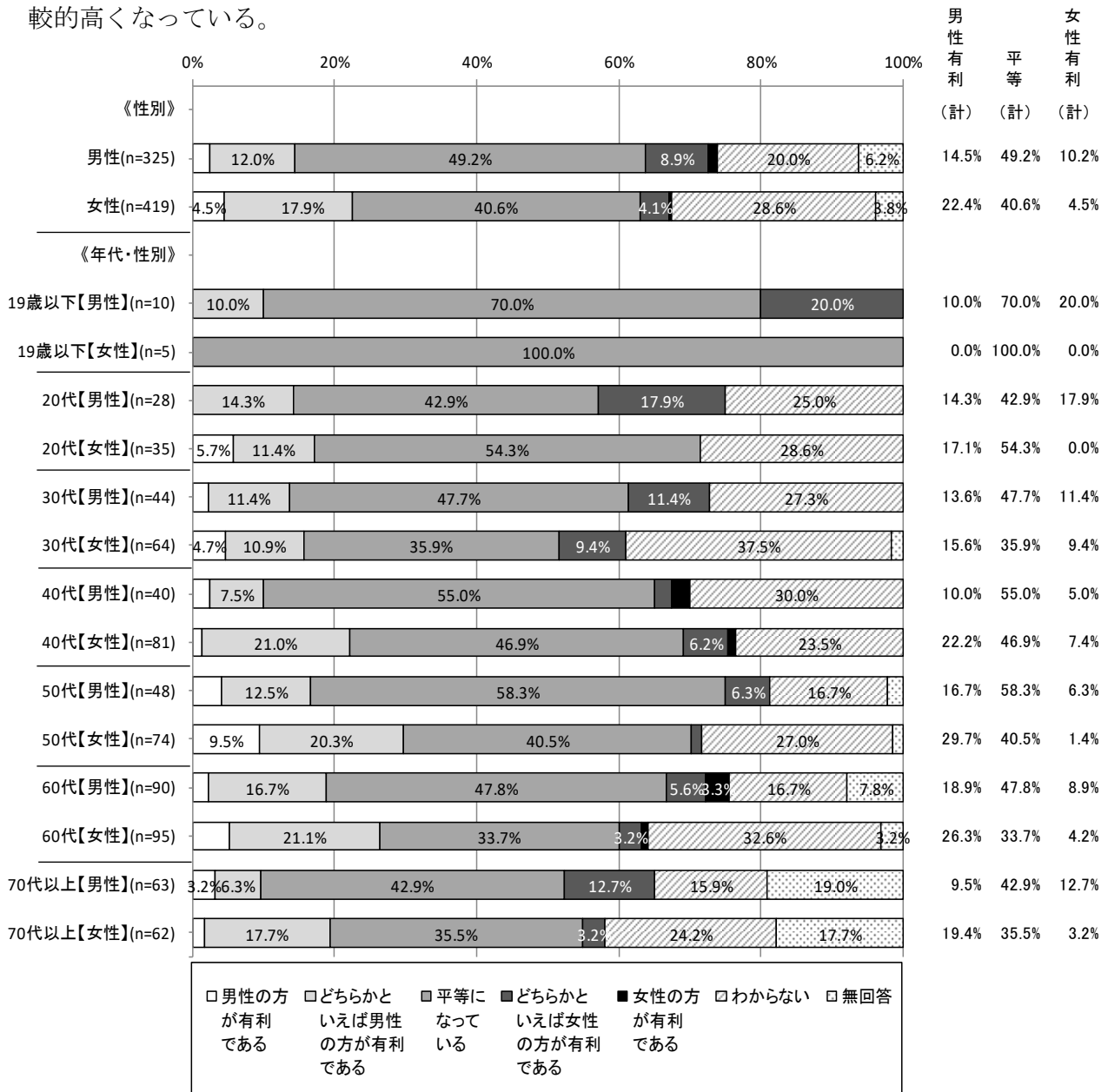


※栃木県調査の項目は、「有利である」を「優遇されている」で掲載している。以降、(8) 社会全体の中での比較においても同様。

【男女の地位の平等観（３）学校教育の場で：性別・年代】

性別で見ると、男女ともに『平等』の回答が最も高く、女性(40.6%)より男性(49.2%)の方が高くなっている。

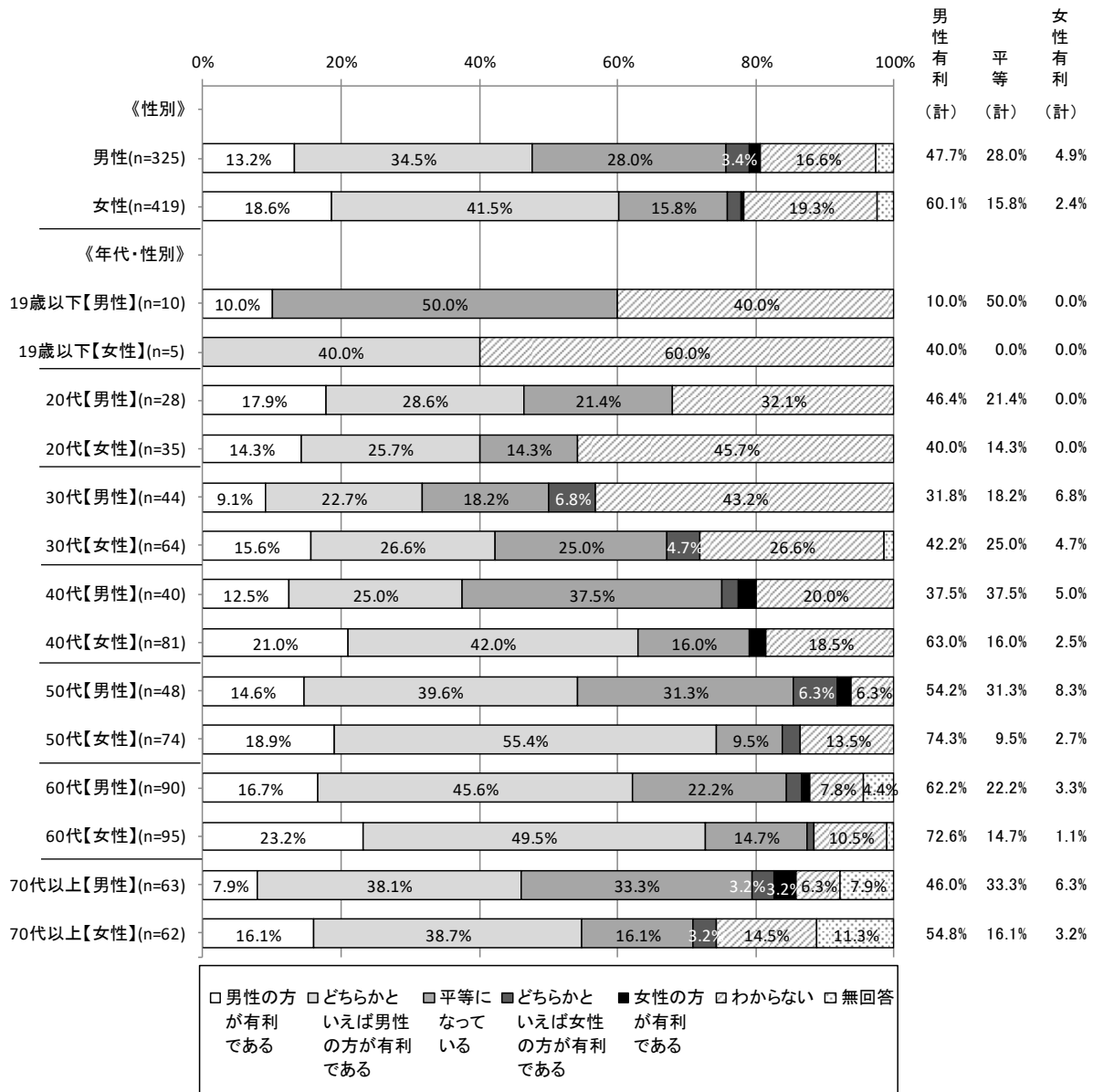
年代・性別で見ると、20代女性と40代、50代の男性で『平等』の回答が5割を超え、比較的高くなっている。



【男女の地位の平等観（４）町内会や自治会等の地域社会で：性別・年代】

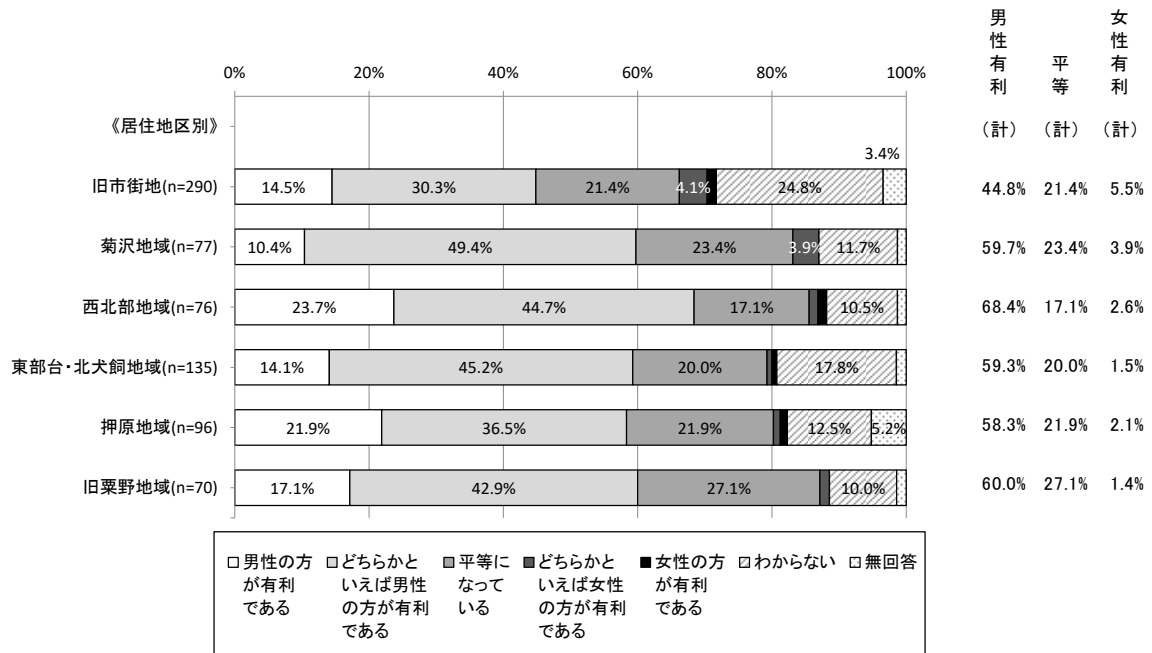
性別でみると、『男性有利（計）』との回答は、男性(47.7%)より女性(60.1%)の方が高くなっている。

年代・性別でみると、50代、60代の女性で『男性有利（計）』との回答が7割を超え、比較的高くなっている。



【男女の地位の平等観（４）町内会や自治会等の地域社会で：居住地区別】

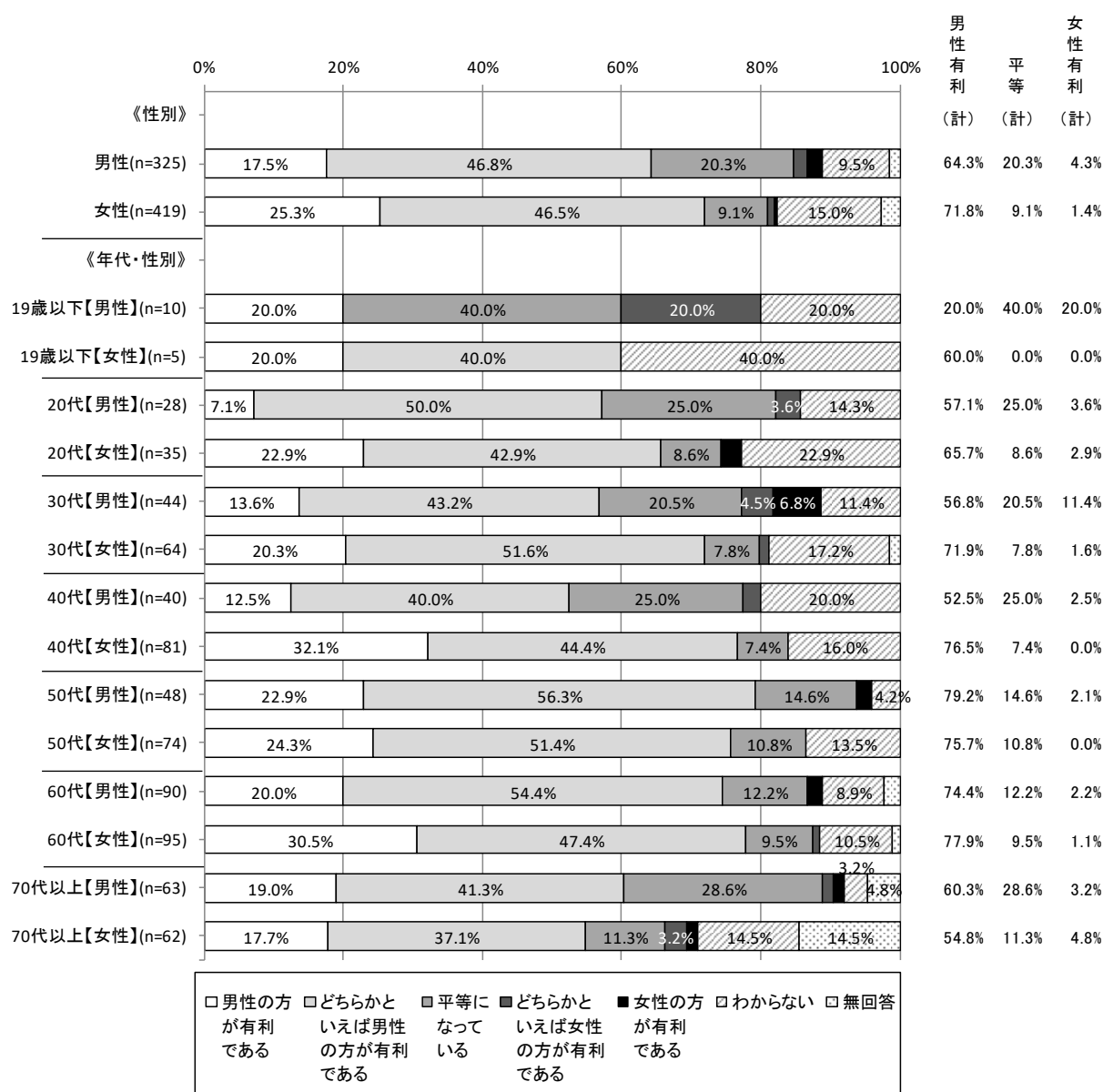
居住地区別では、『男性有利（計）』との回答が高い地区は、「西北部地域」（68.4%）、「旧栗野地域」（60.0%）となっている。



【男女の地位の平等観（５）社会通念・習慣・しきたりなどで：性別・年代】

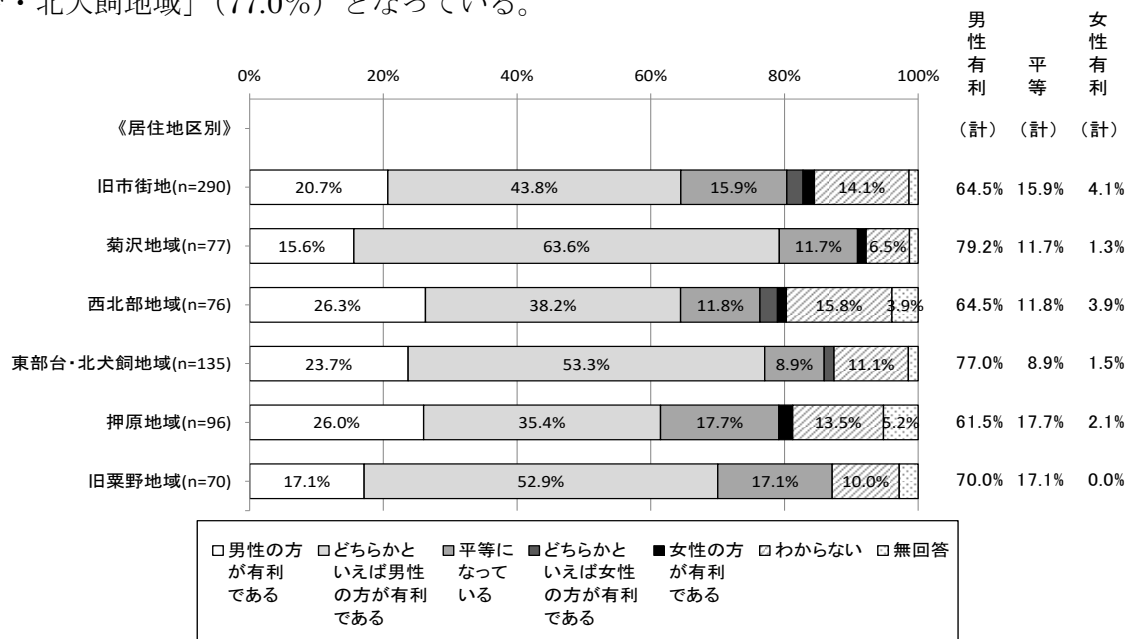
性別でみると、『男性有利（計）』との回答は、男性(64.3%)より女性（71.8%）の方が高くなっている。

年代・性別でみると、30代、40代女性と50代、60代の男女で、『男性有利（計）』との回答が7割を超え、比較的高くなっている。



【男女の地位の平等観（５）社会通念・習慣・しきたりなどで：居住地区別】

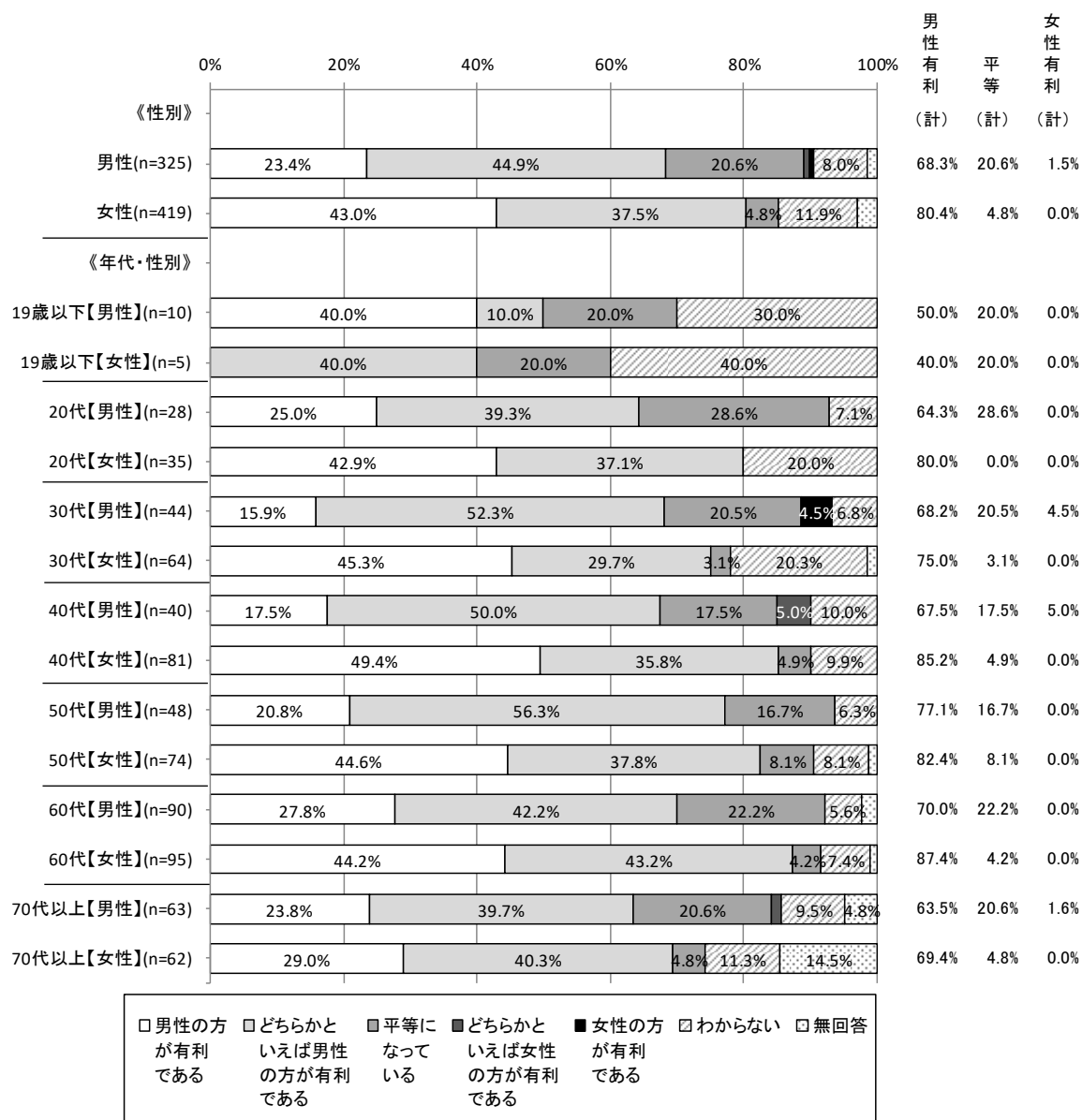
居住地区別では、『男性有利（計）』との回答が高い地区は、「菊沢地域」（79.2%）、「東部台・北犬飼地域」（77.0%）となっている。



【男女の地位の平等観（６）政治の場で：性別・年代】

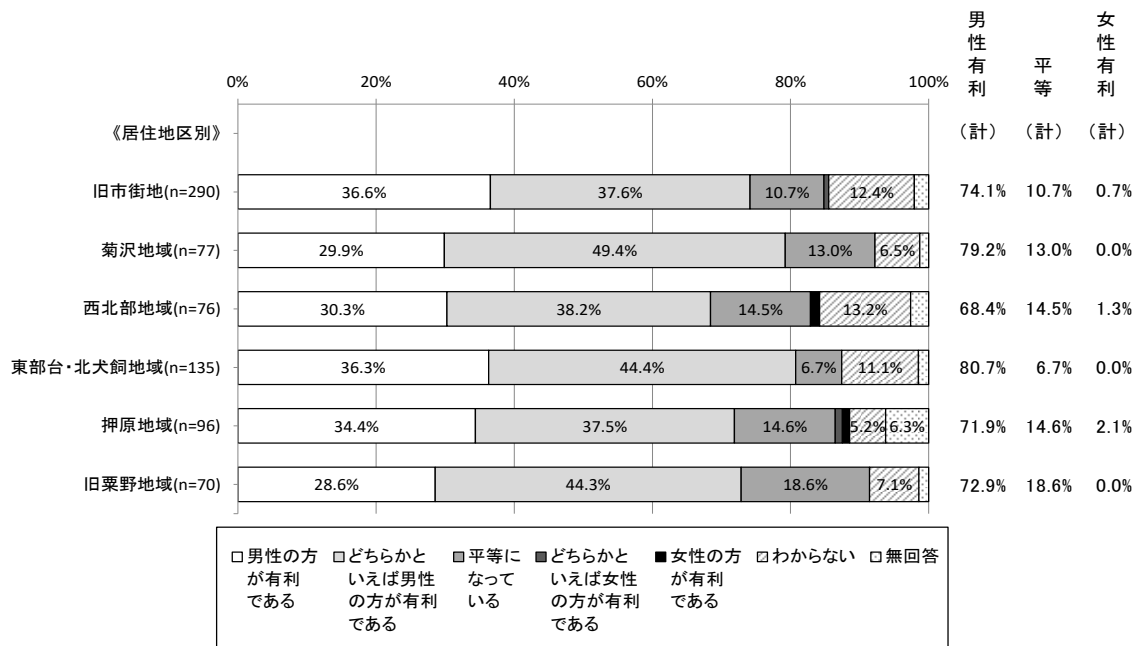
性別でみると、『男性有利（計）』との回答は、男性(68.3%)より女性(80.4%)の方が高くなっている。

年代・性別でみると、20代、40代、50代、60代の女性で『男性有利（計）』との回答が8割を超え、比較的高くなっている。



【男女の地位の平等観（６）政治の場で：居住地区別】

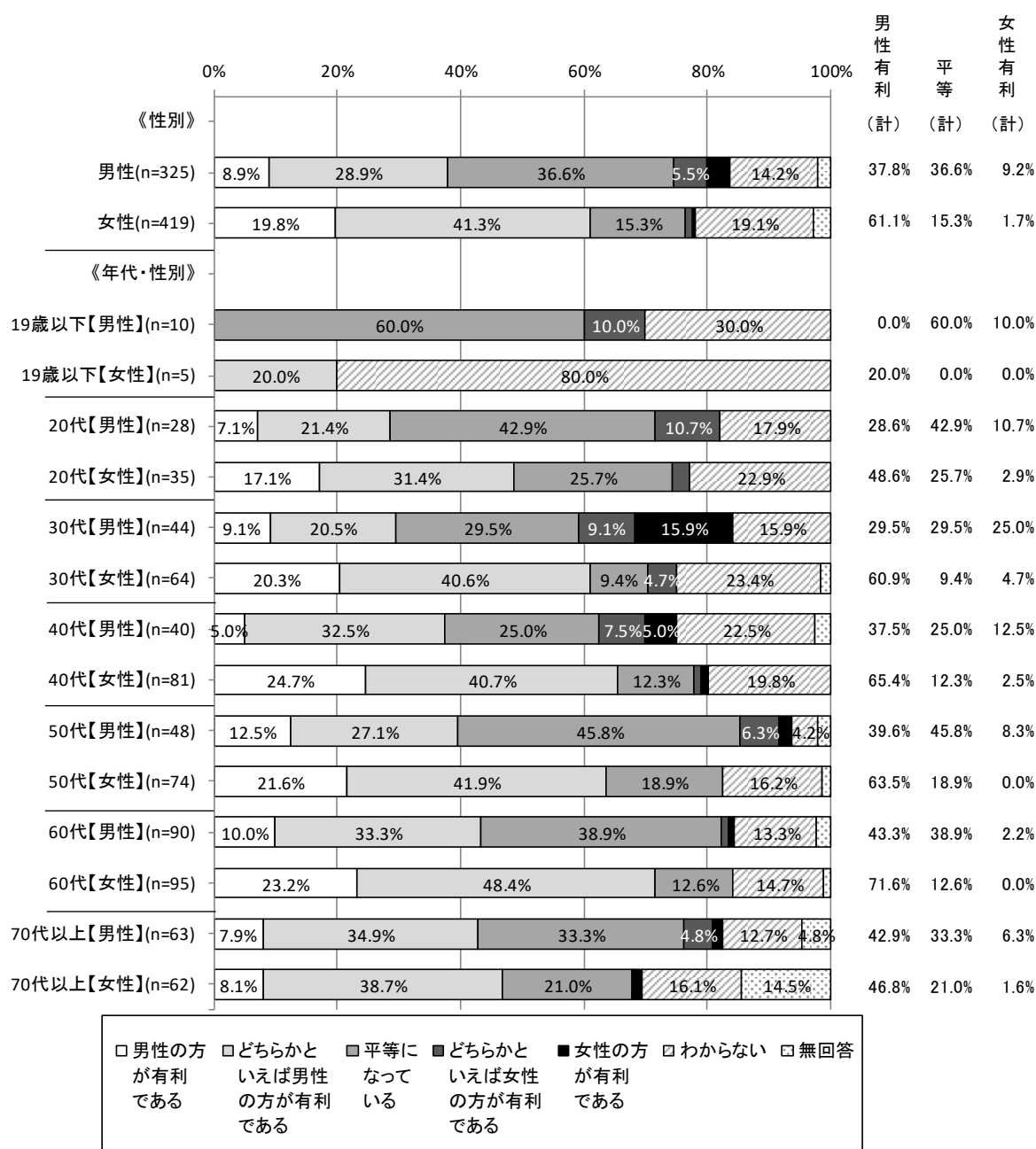
居住地区別では、『男性有利（計）』との回答が高い地区は、「東部台・北犬飼地域」（80.7%）、
「菊沢地域」（79.2%）となっている。



【男女の地位の平等観（７）法律や制度の上で：性別・年代】

性別でみると、『男性有利（計）』との回答は男性（37.8%）より女性（61.1%）の方が高く、『平等』との回答は女性（15.3%）より男性（36.6%）の方が高くなっている。

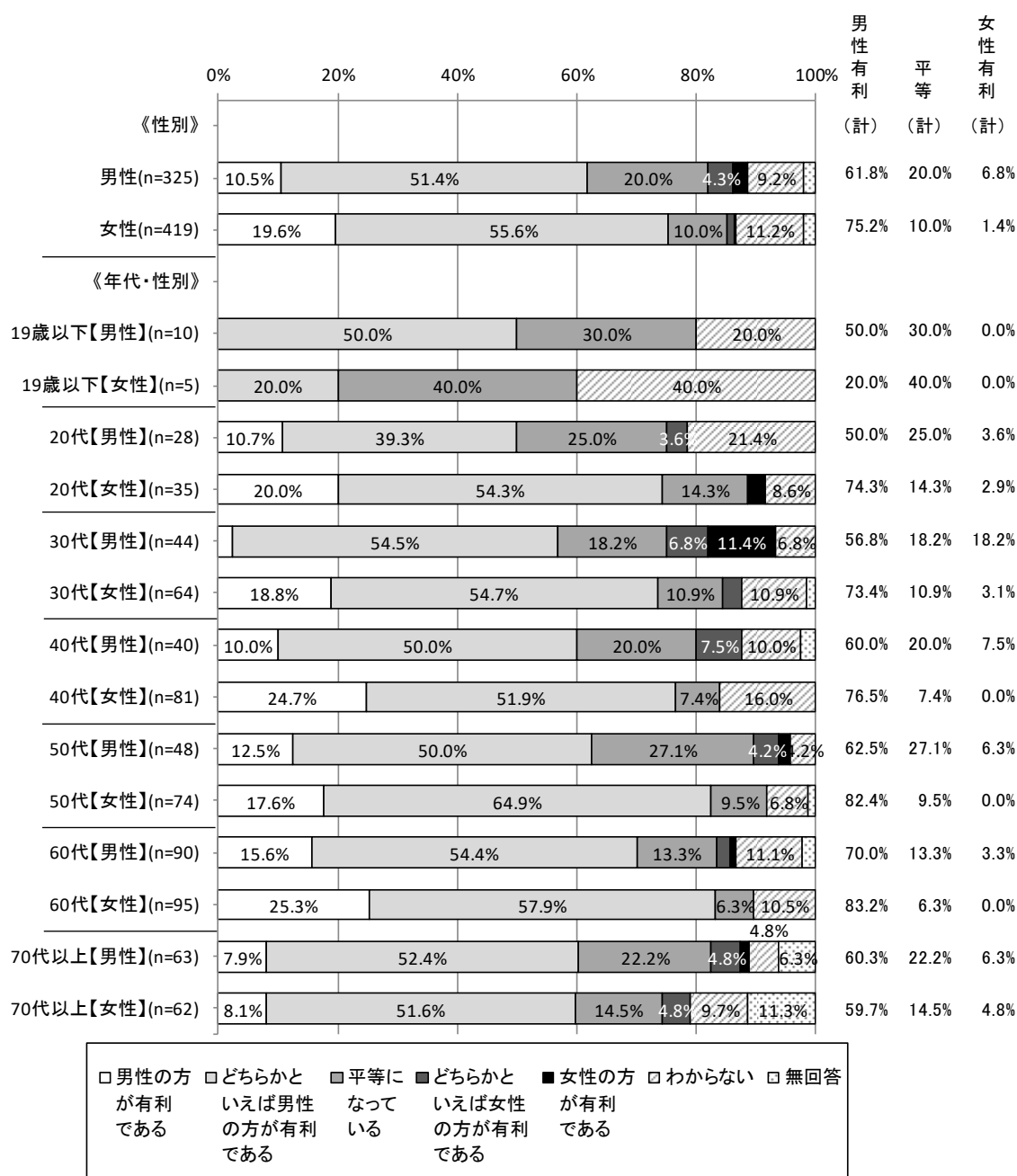
年代・性別でみると、60代の女性で『男性有利（計）』との回答が7割を超え、20代、50代の男性で『平等』との回答が4割を超え、それぞれ比較的高くなっている。



【男女の地位の平等観（８）社会全体の中で：性別・年代】

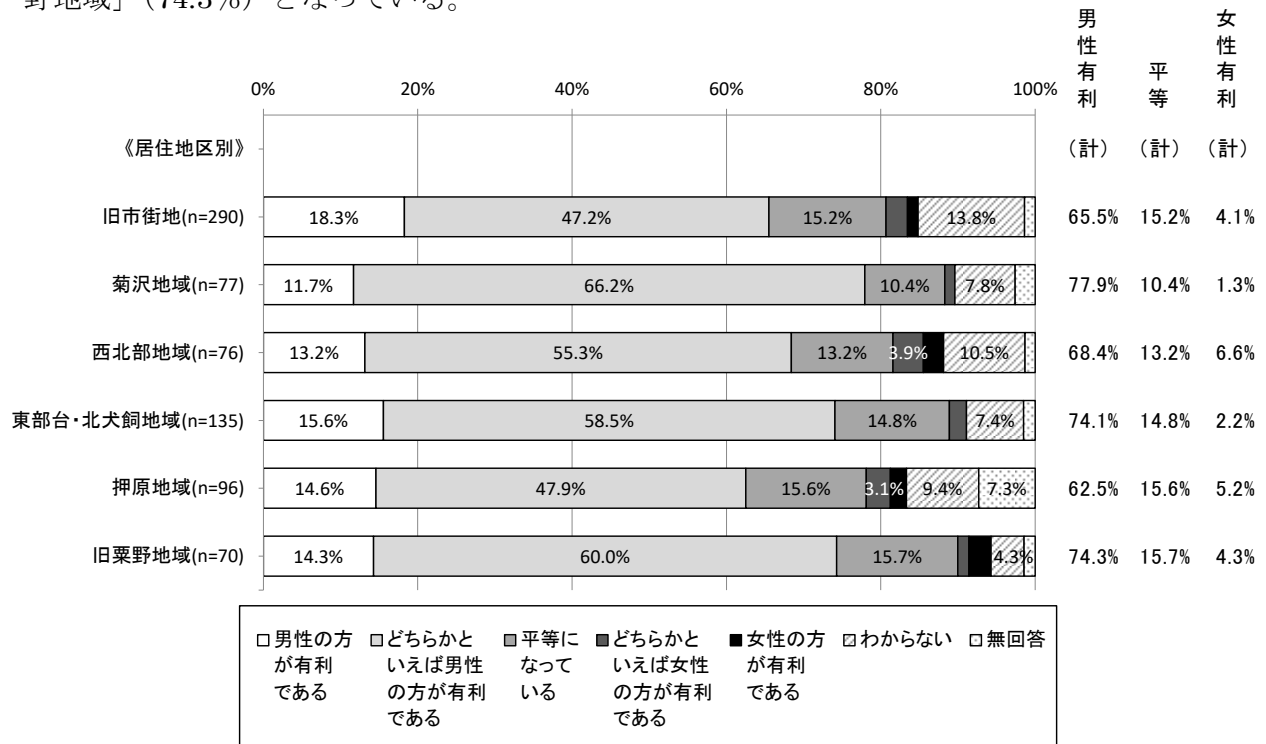
性別でみると、『男性有利（計）』との回答は、男性(61.8%)より女性(75.2%)の方が高くなっている。

年代・性別でみると、50代、60代の女性で『男性有利（計）』との回答が8割を超え、比較的高くなっている。



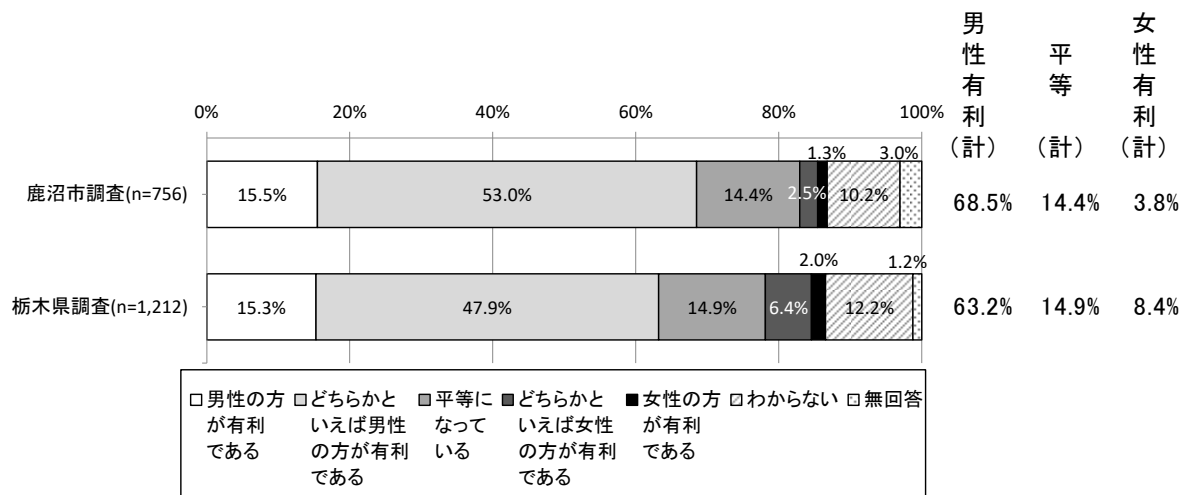
【男女の地位の平等観（８）社会全体の中で：居住地区別】

居住地区別では、『男性有利（計）』との回答が高い地区は、「菊沢地域」（77.9%）、「旧栗野地域」（74.3%）となっている。



【男女の地位の平等観（８）社会全体の中で：栃木県調査との比較】

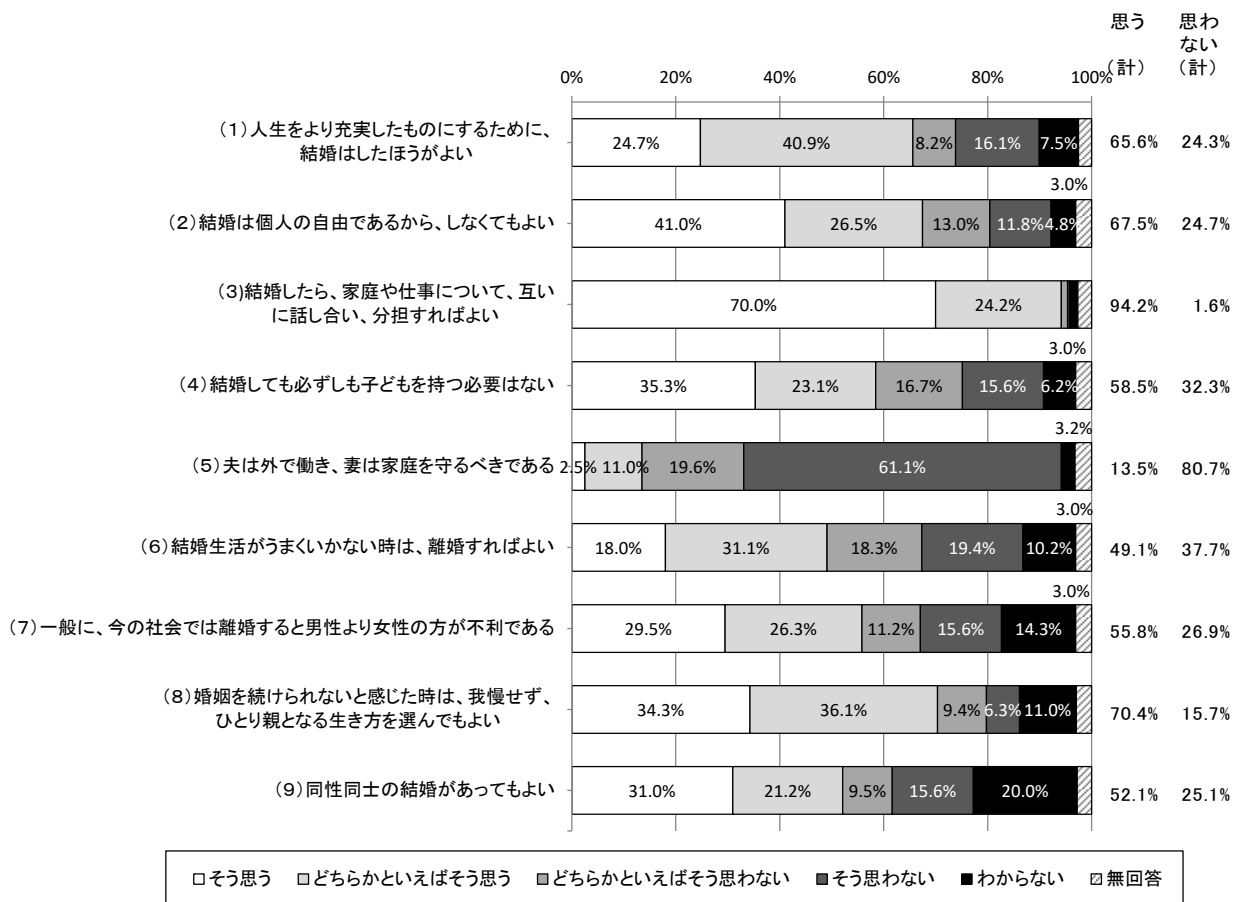
栃木県調査と比べると、『男性有利（計）』との回答は、鹿沼市調査（68.5%）の方が栃木県調査（63.2%）よりも 5.3 ポイント上回っている。



3) 結婚・家庭生活・子育て・介護について

問3. 最近では、家族のあり方が大きく変化しており、結婚や離婚、家庭、男女の役割等に対してさまざまな考え方があります。あなたは、次の意見についてどう思いますか。(それぞれ1つだけに○)

「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」を合わせた項目『思う(計)』で高いのは「結婚したら、家庭や仕事について、互いに話し合い、分担すればよい」(94.2%)、「婚姻を続けられないと感じた時は、我慢せず、ひとり親となる生き方を選んでもよい」(70.4%)となっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」、「そう思わない」を合わせた項目『思わない(計)』では「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」(80.7%)が最も高くなっている。



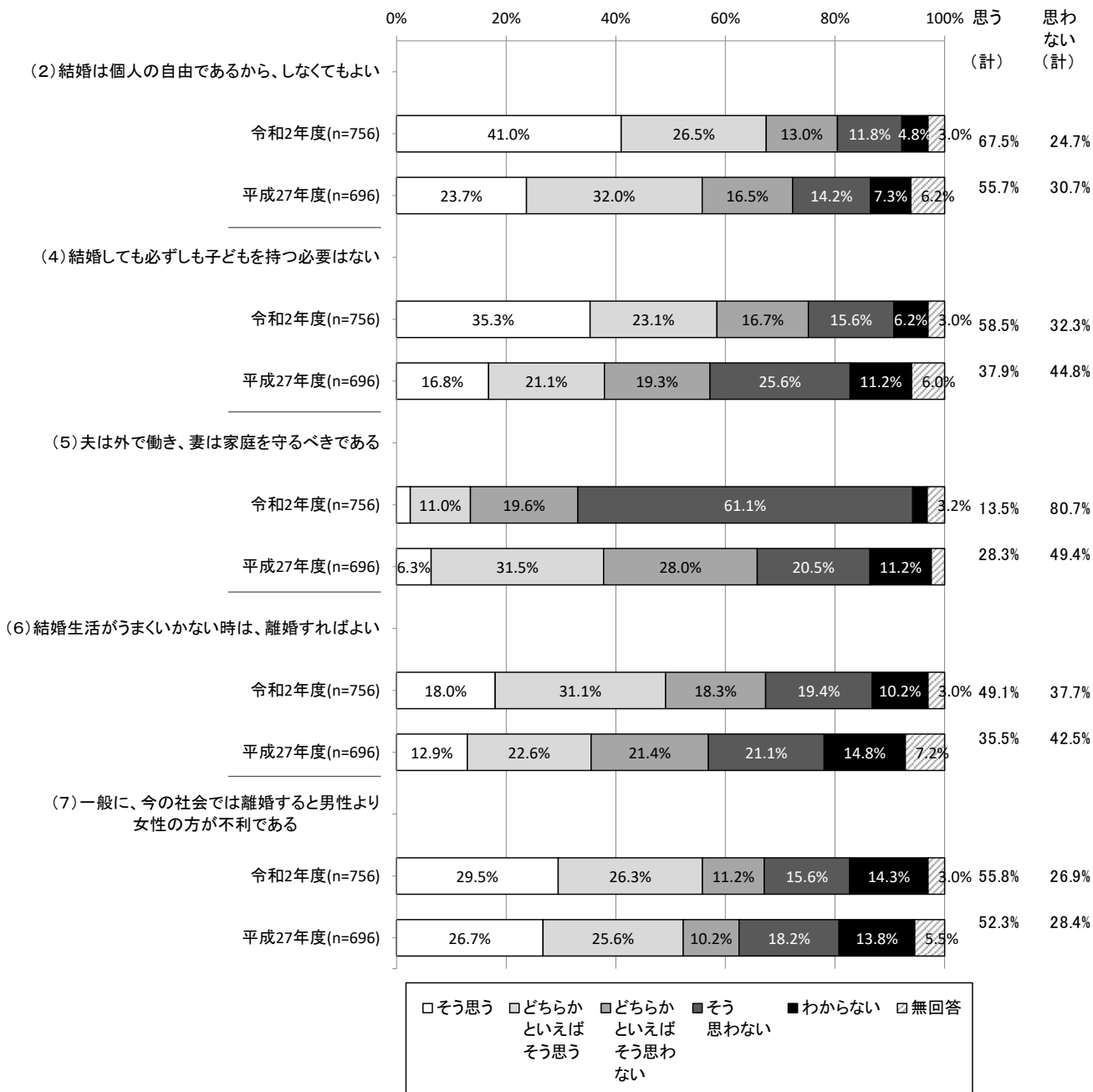
項目	そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらかといえ ばそう思わな い	そう思わない	わからない	無回答	合計
(1) 人生をより充実したものにするために、結婚はしたほうがよい	187	309	62	122	57	19	756
(2) 結婚は個人の自由であるから、しなくてもよい	310	200	98	89	36	23	756
(3) 結婚したら、家庭や仕事について、互いに話し合い、分担すればよい	529	183	9	3	12	20	756
(4) 結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない	267	175	126	118	47	23	756
(5) 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである	19	83	148	462	20	24	756
(6) 結婚生活がうまくいかない時は、離婚すればよい	136	235	138	147	77	23	756
(7) 一般に、今の社会では離婚すると男性より女性の方が不利である	223	199	85	118	108	23	756
(8) 婚姻を続けられないと感じた時は、我慢せず、ひとり親となる生き方を選んでもよい	259	273	71	48	83	22	756
(9) 同性同士の結婚があってもよい	234	160	72	118	151	21	756

項目(構成比)	そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらかといえ ばそう思わな い	そう思わない	わからない	無回答	合計
(1) 人生をより充実したものにするために、結婚はしたほうがよい	24.7%	40.9%	8.2%	16.1%	7.5%	2.5%	100.0%
(2) 結婚は個人の自由であるから、しなくてもよい	41.0%	26.5%	13.0%	11.8%	4.8%	3.0%	100.0%
(3) 結婚したら、家庭や仕事について、互いに話し合い、分担すればよい	70.0%	24.2%	1.2%	0.4%	1.6%	2.6%	100.0%
(4) 結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない	35.3%	23.1%	16.7%	15.6%	6.2%	3.0%	100.0%
(5) 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである	2.5%	11.0%	19.6%	61.1%	2.6%	3.2%	100.0%
(6) 結婚生活がうまくいかない時は、離婚すればよい	18.0%	31.1%	18.3%	19.4%	10.2%	3.0%	100.0%
(7) 一般に、今の社会では離婚すると男性より女性の方が不利である	29.5%	26.3%	11.2%	15.6%	14.3%	3.0%	100.0%
(8) 婚姻を続けられないと感じた時は、我慢せず、ひとり親となる生き方を選んでもよい	34.3%	36.1%	9.4%	6.3%	11.0%	2.9%	100.0%
(9) 同性同士の結婚があってもよい	31.0%	21.2%	9.5%	15.6%	20.0%	2.8%	100.0%

【結婚・家庭・離婚についての考え：経年比較】

前回調査と比べると、『思う（計）』との回答が増えているのは、「結婚は個人の自由であるから、しなくてもよい」、「結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」、「一般に、今の社会では離婚すると男性より女性の方が不利である」、「結婚生活がうまくいかない時は、離婚すればよい」の順となっている。

また、『思う（計）』との回答が減っているのは、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」となっている。



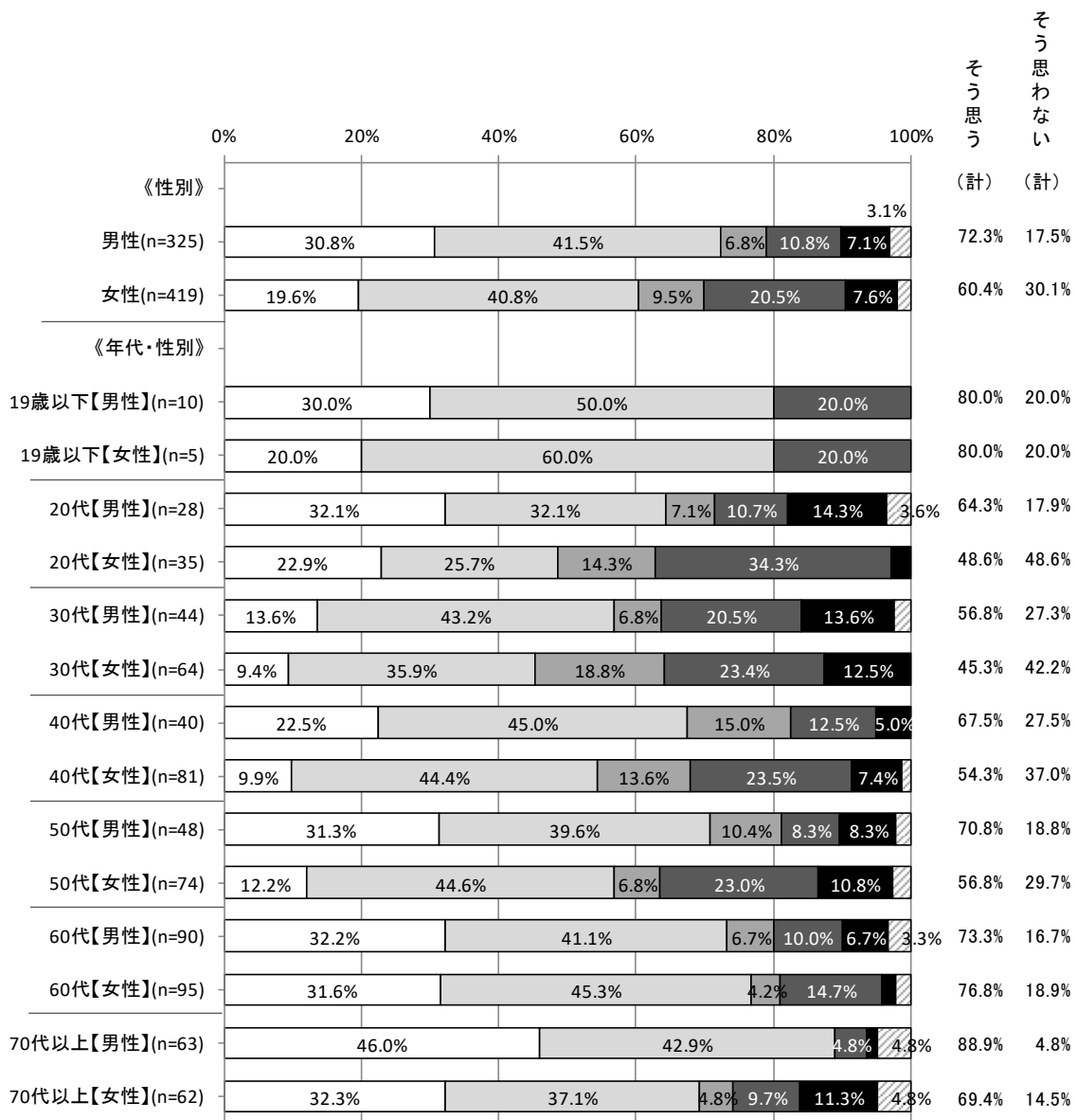
※ (1)、(3)、(8)、(9) は前回調査（平成 27 年度調査）では未実施。

【結婚・家庭・離婚についての考え】

（１）人生をより充実したものにするために、結婚はしたほうがよい：性別・年代】

性別でみると、『そう思う（計）』との回答は、男性（72.3%）の方が女性（60.4%）よりも高くなっている。

年代・性別でみると、20代、30代の女性では『そう思う（計）』と『そう思わない（計）』がともに4割台で概ね同程度となっている。それ以外の区分では、『そう思う（計）』が過半数を占めている。



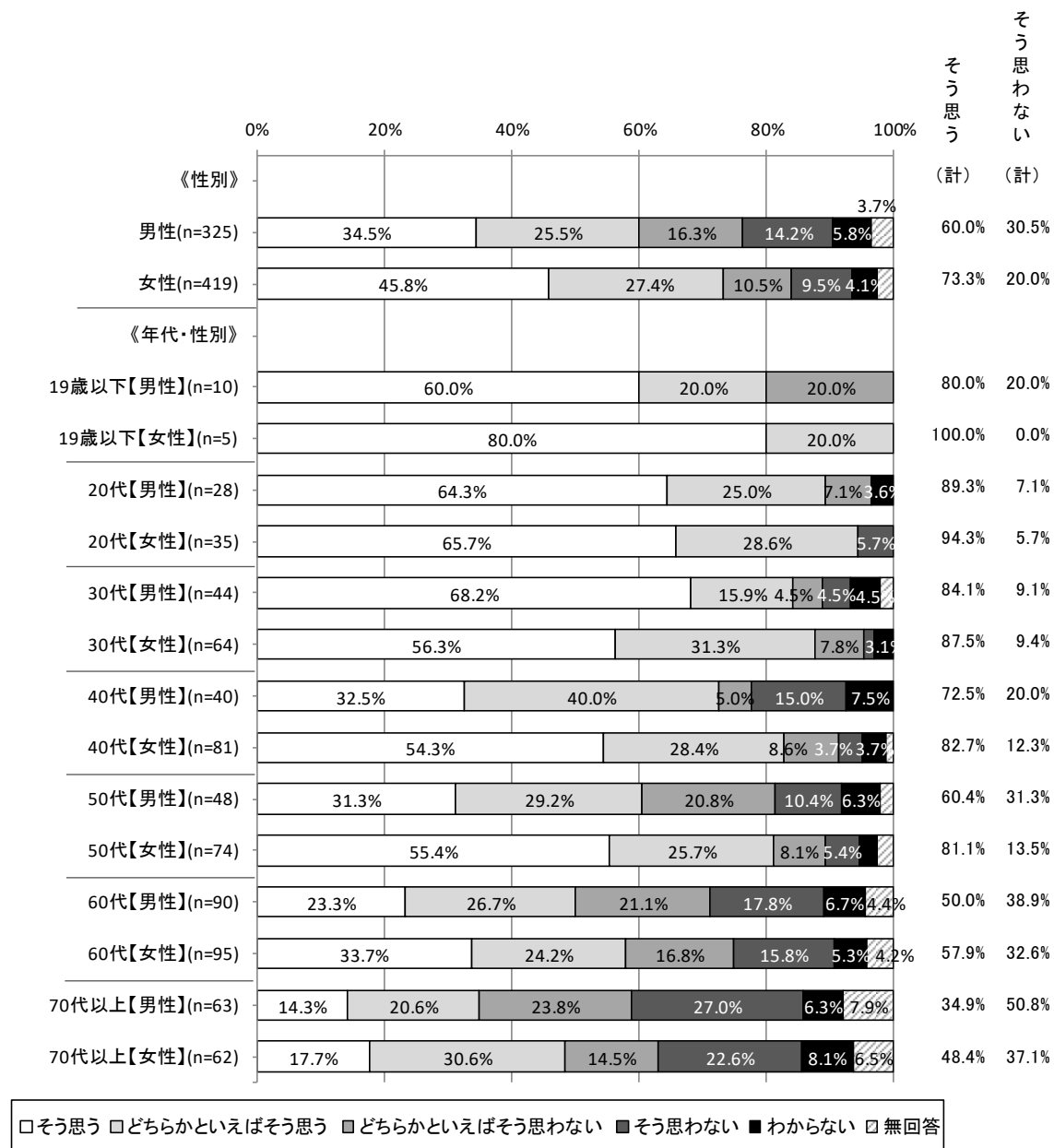
□そう思う □どちらかといえばそう思う □どちらかといえばそう思わない ■そう思わない ■わからない □無回答

【結婚・家庭・離婚についての考え

（２）結婚は個人の自由であるから、しなくてもよい：性別・年代】

性別でみると、『そう思う（計）』との回答は、男性(60.0%)より女性(73.3%)の方が高くなっている。

年代・性別でみると、30代以下の男女、40代、50代の女性で『そう思う（計）』との回答が8割を超え、比較的高くなっている。一方、70代以上の男女では『そう思う（計）』との回答が半数を下回っている。

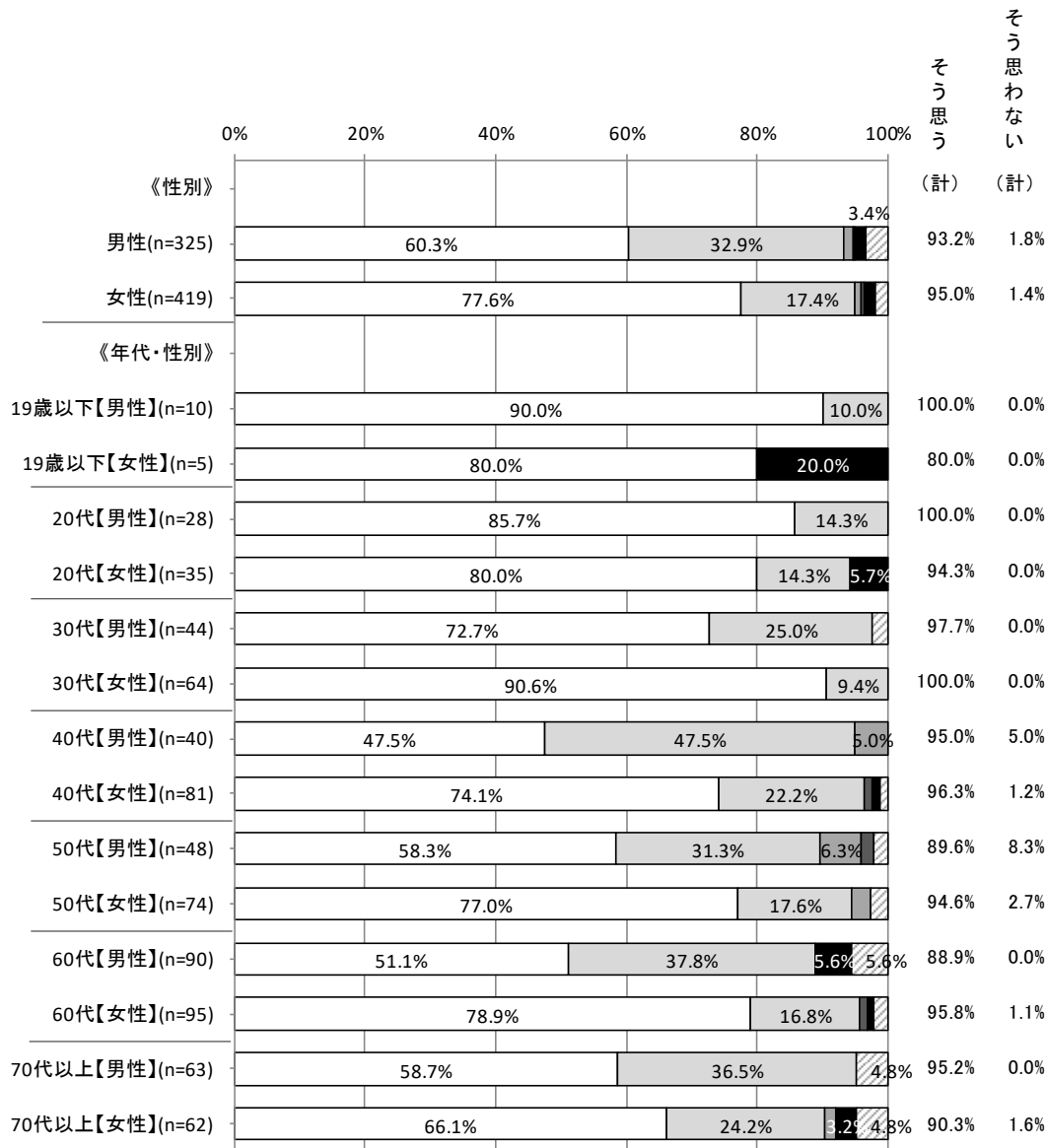


【結婚・家庭・離婚についての考え

（３）結婚したら、家庭や仕事について、互いに話し合い、分担すればよい：性別・年代】

性別でみると、『そう思う（計）』との回答は、男性・女性ともに９割を超えている。

年代・性別でみると、すべての区分で『そう思う（計）』との回答が８割以上を占め、高い割合となっている。



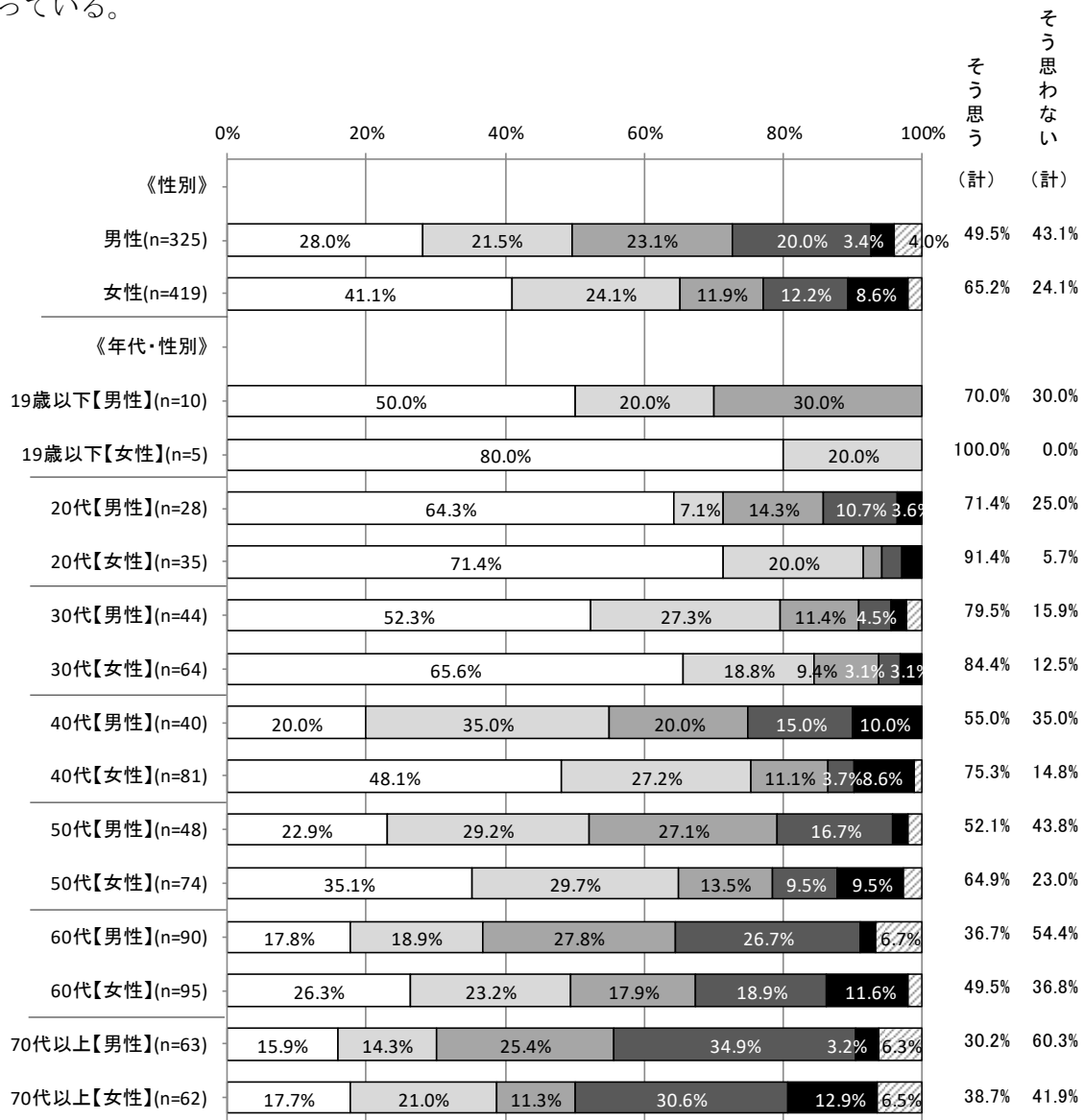
□ そう思う □ どちらかといえばそう思う ■ どちらかといえばそう思わない ■ そう思わない ■ わからない □ 無回答

【結婚・家庭・離婚についての考え

（４）結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない：性別・年代】

性別でみると、『そう思う（計）』との回答は男性（49.5%）より女性（65.2%）の方が高く、『そう思わない（計）』との回答は女性（24.1%）より男性（43.1%）の方が高くなっている。

年代・性別でみると、30代以下の男女、40代女性で『そう思う（計）』との回答が7割以上と比較的高いのに対し、60代、70代以上の男女で『そう思う（計）』との回答が半数を下回っている。



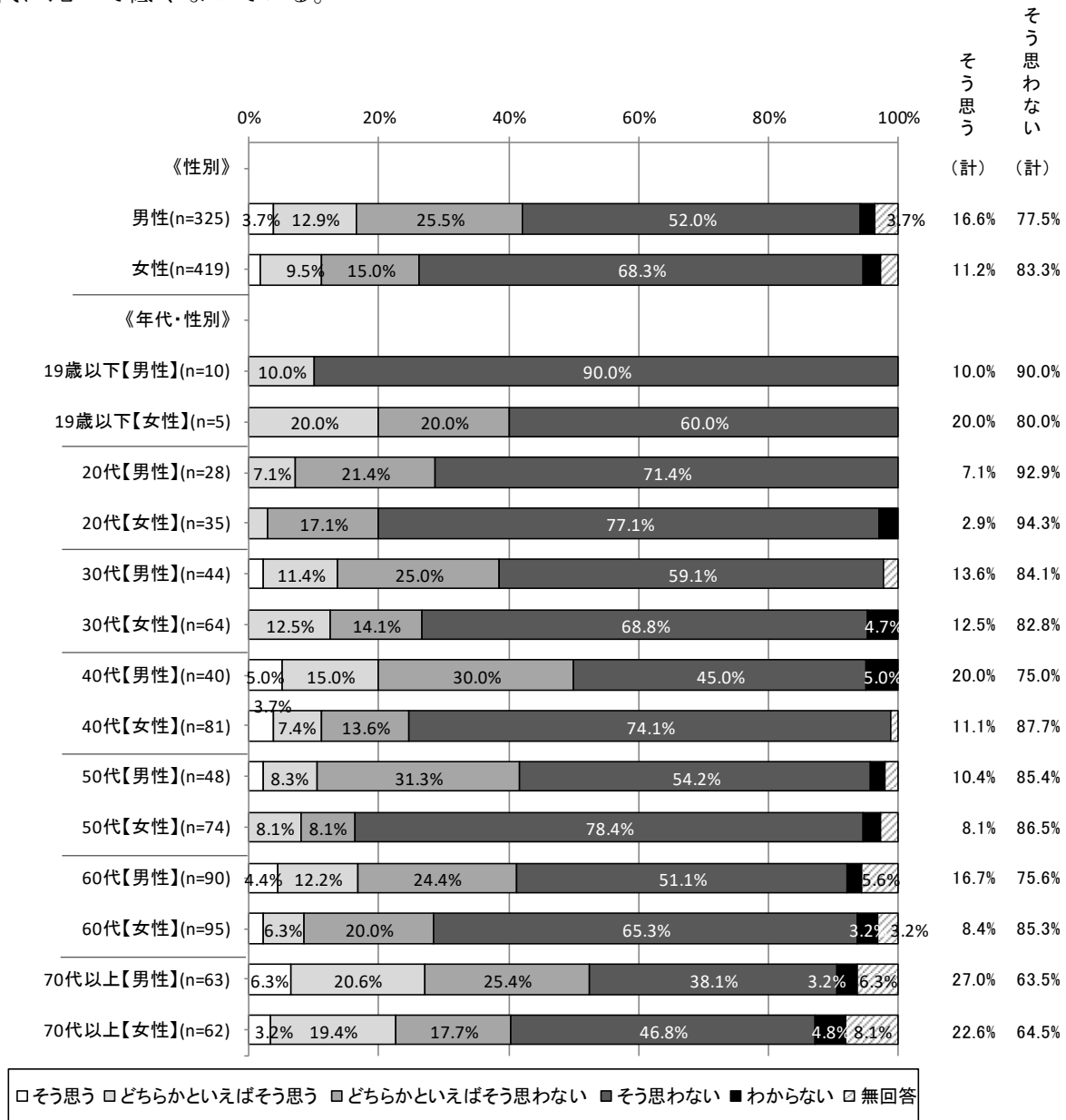
□ そう思う □ どちらかといえばそう思う ■ どちらかといえばそう思わない ■ そう思わない ■ わからない □ 無回答

【結婚・家庭・離婚についての考え】

（５）夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである：性別・年代】

性別でみると、『そう思わない（計）』の回答は男女とも 7 割を超え、高くなっている。

年代・性別でみると、70 代以上の男女では『そう思わない（計）』が 7 割を下回り、他の年代に比べて低くなっている。

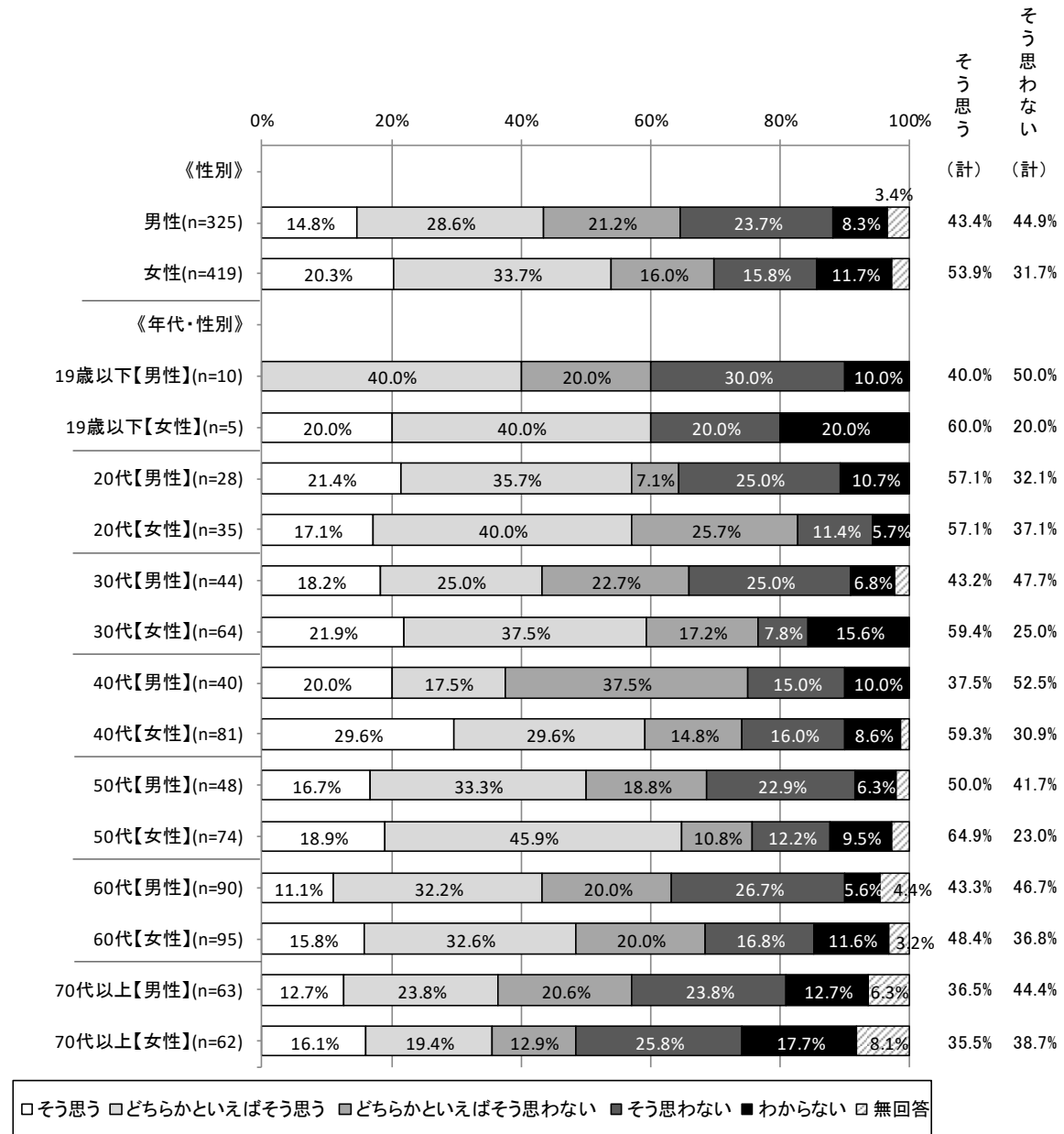


【結婚・家庭・離婚についての考え

（６）結婚生活がうまくいかない時は、離婚すればよい：性別・年代】

性別でみると、『そう思う（計）』の回答は女性（53.9%）で半数を超え、男性では『そう思う（計）』と『そう思わない（計）』がともに４割台で同程度となっている。

年代・性別でみると、『そう思う（計）』の回答は20代、50代では男女ともに５割以上と高く、『そう思わない（計）』の回答は40代男性で５割以上と高くなっている。

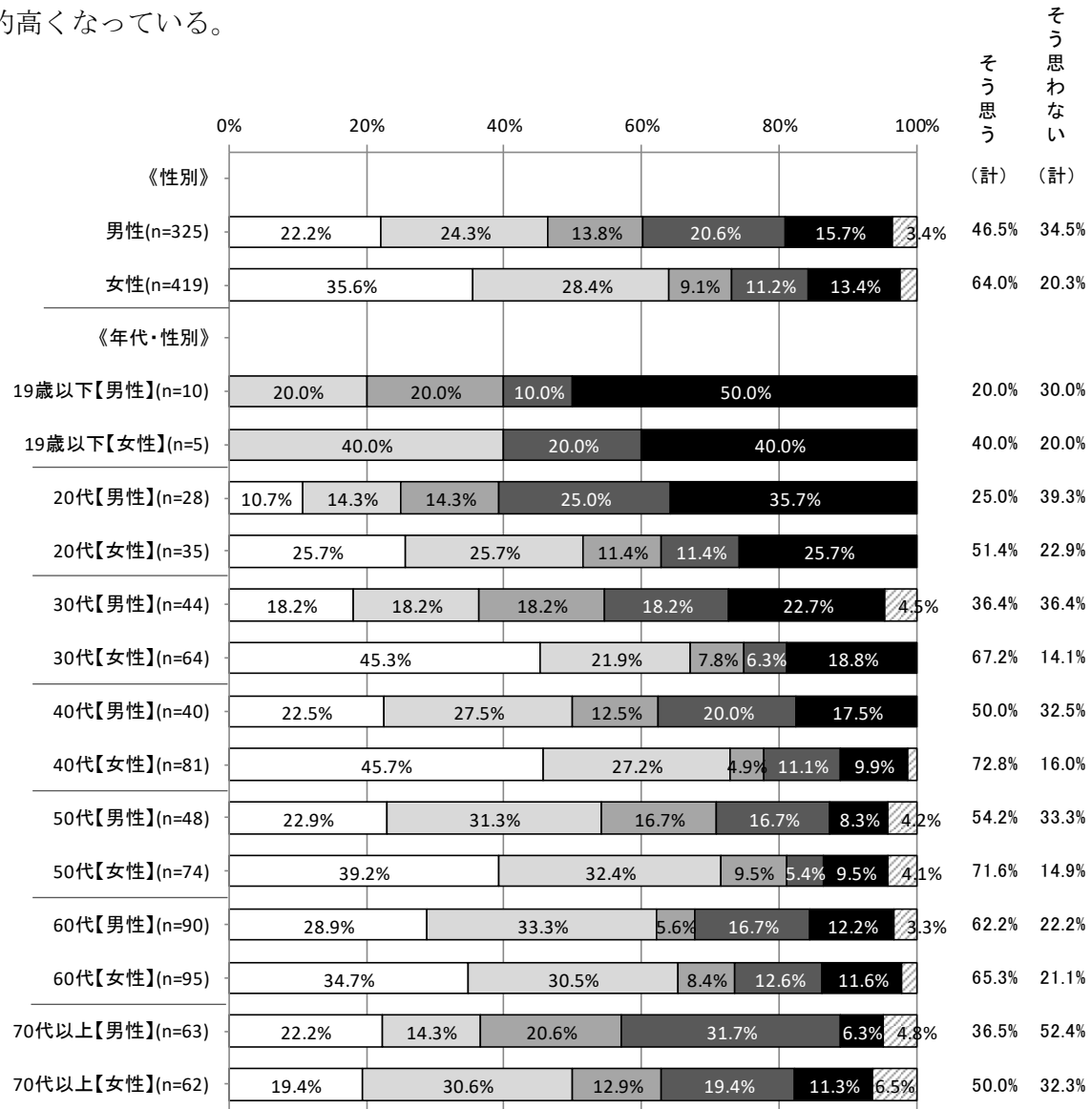


【結婚・家庭・離婚についての考え

（７）一般に、今の社会では離婚すると男性より女性の方が不利である：性別・年代】

性別でみると、『そう思う（計）』の回答は、男性（46.5%）より女性（64.0%）の方が、高くなっている。

年代・性別でみると、『そう思う（計）』の回答は40代、50代の女性で7割を超え、『そう思わない（計）』の回答は20代男性で約4割、70歳以上の男性で5割以上と、それぞれ比較的高くなっている。



□そう思う □どちらかといえばそう思う □どちらかといえばそう思わない ■そう思わない ■わからない □無回答

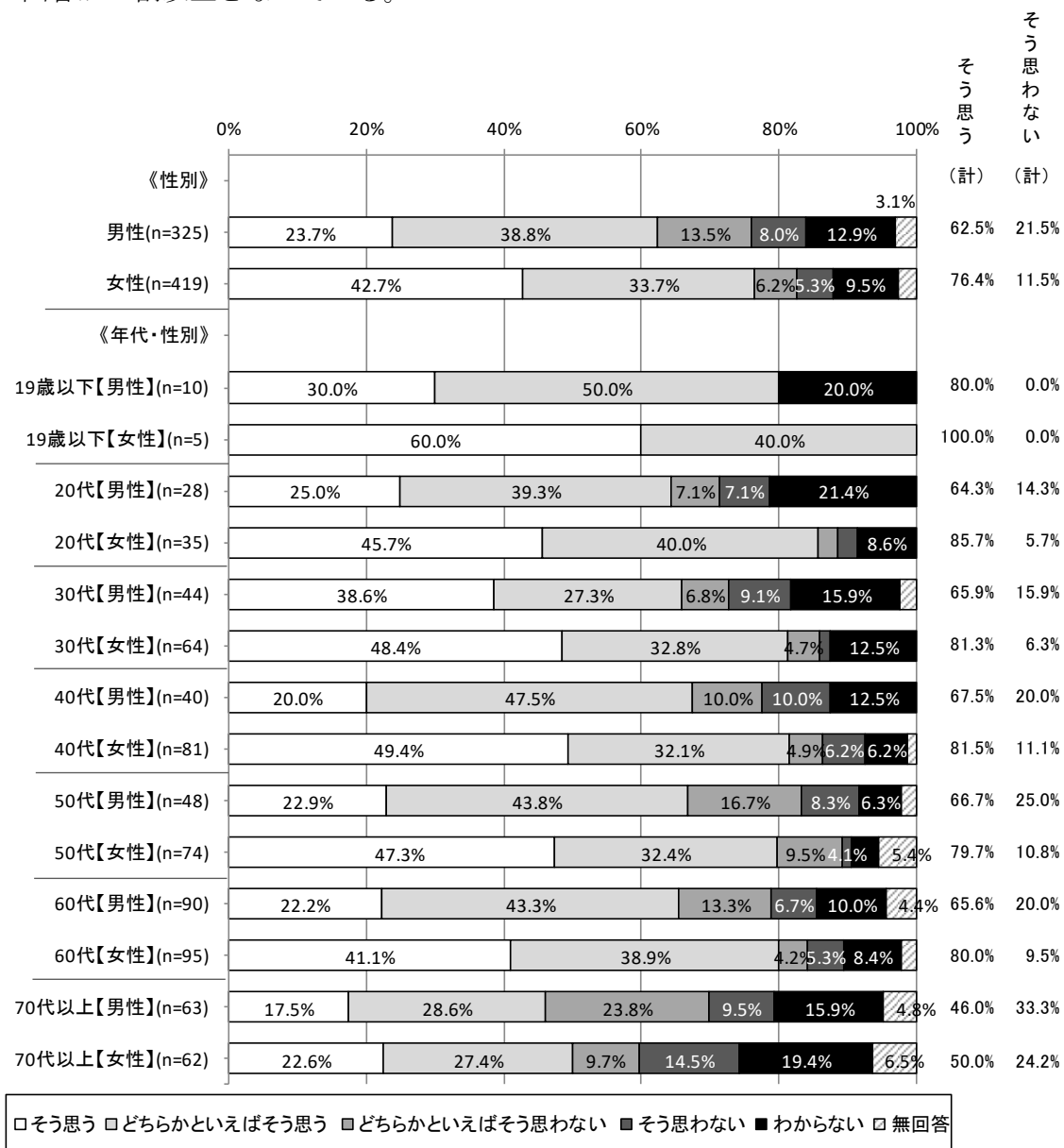
【結婚・家庭・離婚についての考え

（８）婚姻を続けられないと感じた時は、我慢せず、ひとり親となる生き方を選んでも

よい：性別・年代】

性別でみると、『そう思う（計）』との回答は男性（62.5%）より女性（76.4%）の方が高くなっている。

年代・性別でみると、70代以上の男女を除き『そう思う（計）』との回答が6割を超え、高くなっている。70代以上の男女と40代、50代、60代の男性では『そう思わない（計）』との回答が2割以上となっている。

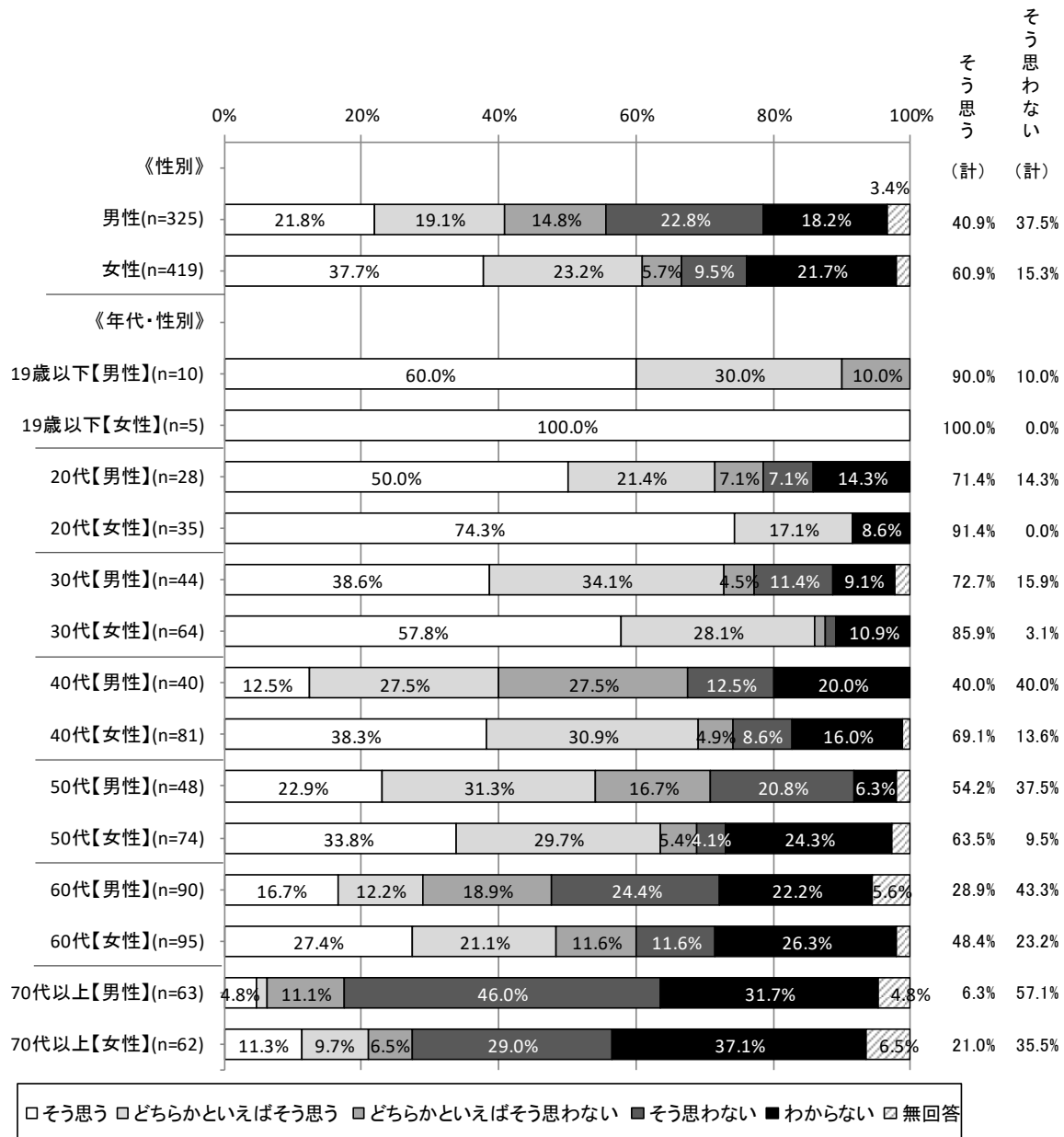


【結婚・家庭・離婚についての考え

（９）同性同士の結婚があってもよい：性別・年代】

性別でみると、『そう思う（計）』との回答は男性(40.9%)より女性（60.9%）の方が高くなっている。

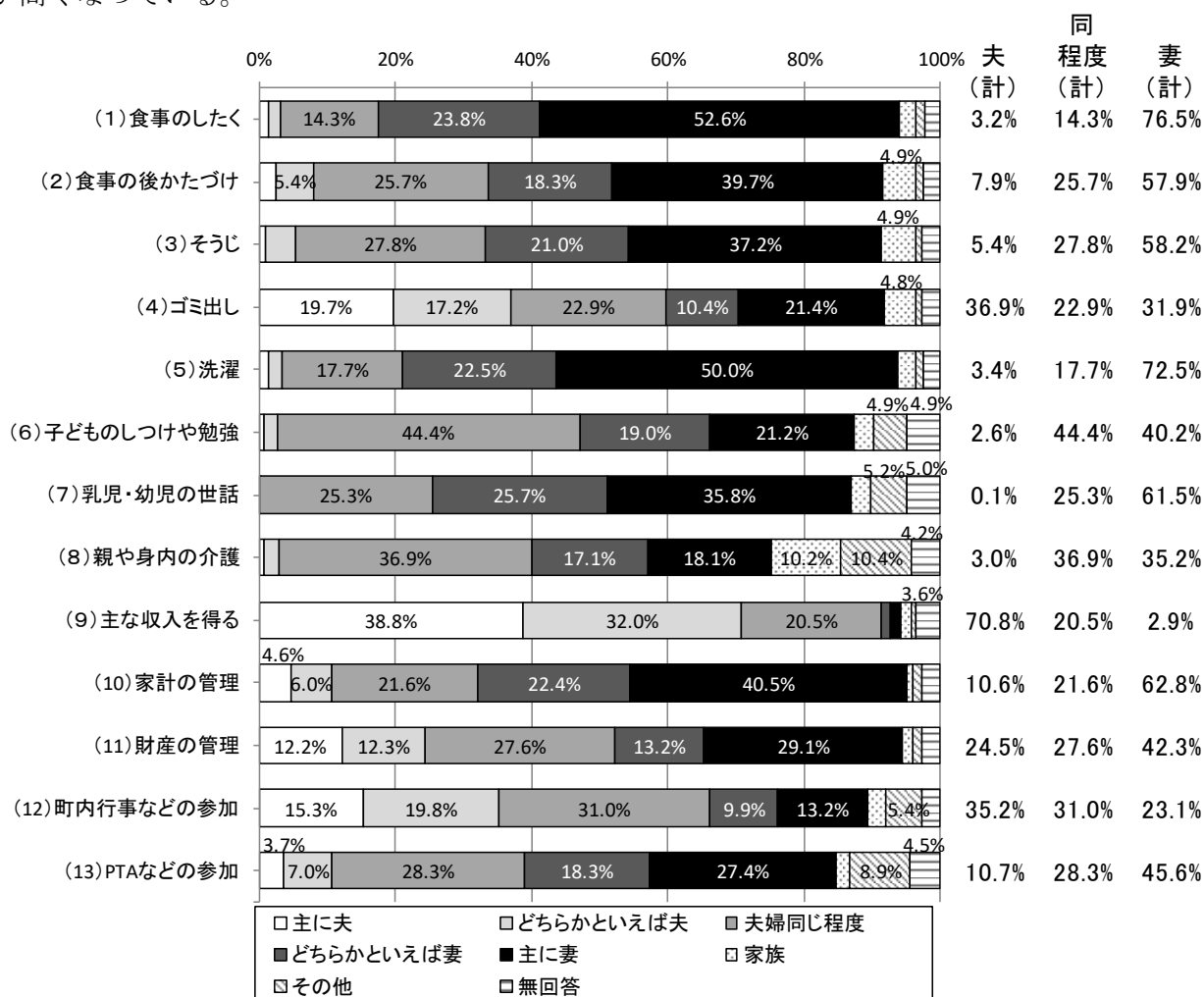
年代・性別でみると、30代以下の男女で『そう思う（計）』の回答が7割を超え、高くなっている。



問4. あなたは、次の（１）～（１３）について、夫婦の間でどのように分担していますか。
配偶者がいない場合は、配偶者がいるとしたらどのようにしたいと思いますか。

（それぞれ１つだけに○）

「主に夫」「どちらかといえば夫」を合わせた項目『夫（計）』で最も多いのは、「主な収入を得る」（70.8%）となっている。「夫婦同じ程度」では「子どものしつけや勉強」（44.4%）が高く、「主に妻」「どちらかといえば妻」を合わせた項目『妻（計）』では「食事のしたく」（76.5%）、「洗濯」（72.5%）が7割を超えている。また、「家族」では「親や身内の介護」（10.2%）が高くなっている。

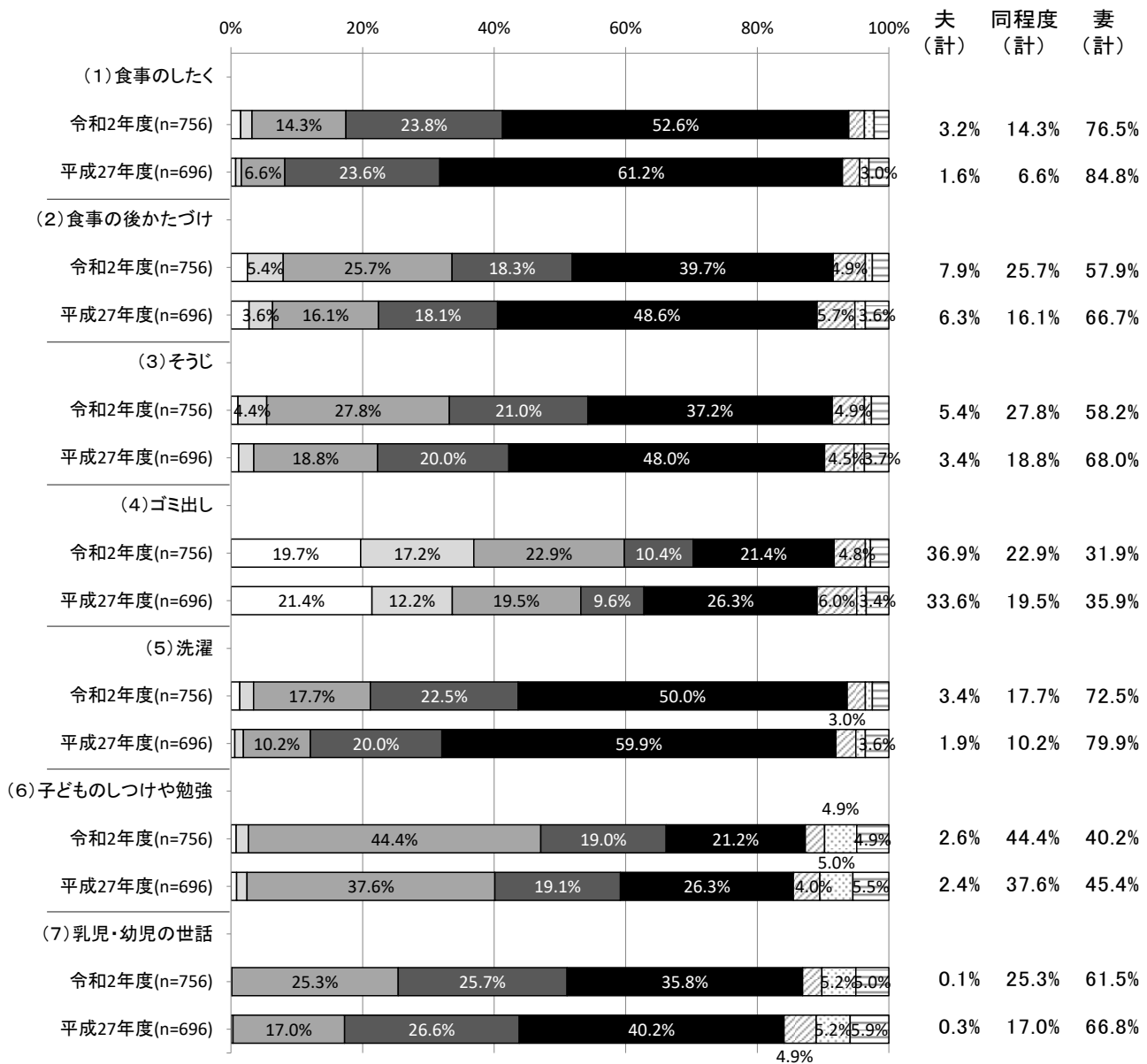


項目	主に夫	どちらかといえ ば夫	夫婦同じ程度	どちらかといえ ば妻	主に妻	家族	その他	無回答	合計
(1) 食事のしたく	11	13	108	180	398	18	11	17	756
(2) 食事の後かたづけ	19	41	194	138	300	37	8	19	756
(3) そうじ	8	33	210	159	281	37	8	20	756
(4) ゴミ出し	149	130	173	79	162	36	6	21	756
(5) 洗濯	10	16	134	170	378	21	8	19	756
(6) 子どものしつけや勉強	6	14	336	144	160	22	37	37	756
(7) 乳児・幼児の世話	0	1	191	194	271	22	39	38	756
(8) 親や身内の介護	5	18	279	129	137	77	79	32	756
(9) 主な収入を得る	293	242	155	11	11	12	5	27	756
(10) 家計の管理	35	45	163	169	306	8	10	20	756
(11) 財産の管理	92	93	209	100	220	12	10	20	756
(12) 町内行事などの参加	116	150	234	75	100	20	41	20	756
(13) PTAなどの参加	28	53	214	138	207	15	67	34	756

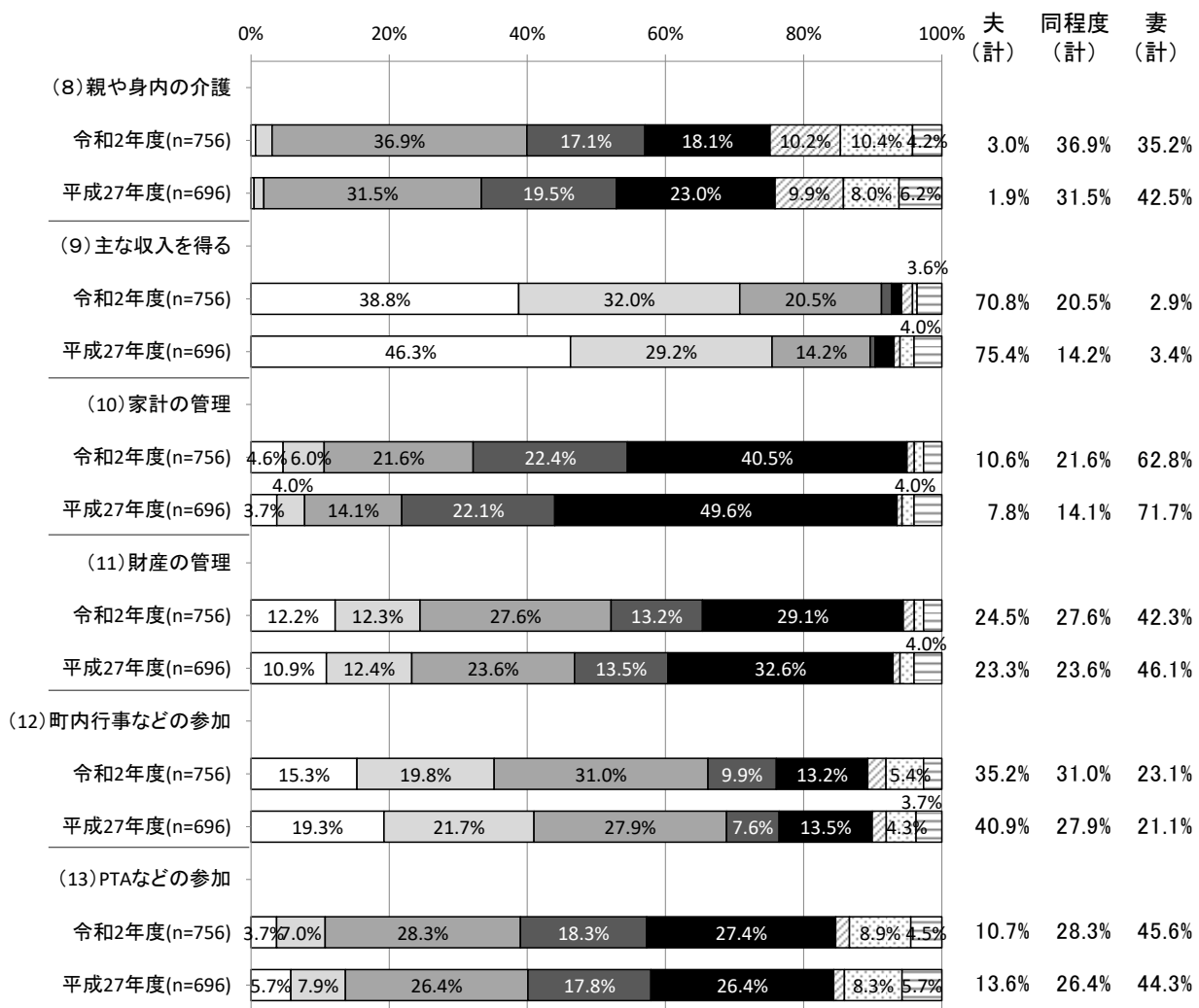
項目(構成比)	主に夫	どちらかといえ ば夫	夫婦同じ程度	どちらかといえ ば妻	主に妻	家族	その他	無回答	合計
(1) 食事のしたく	1.5%	1.7%	14.3%	23.8%	52.6%	2.4%	1.5%	2.2%	100.0%
(2) 食事の後かたづけ	2.5%	5.4%	25.7%	18.3%	39.7%	4.9%	1.1%	2.5%	100.0%
(3) そうじ	1.1%	4.4%	27.8%	21.0%	37.2%	4.9%	1.1%	2.6%	100.0%
(4) ゴミ出し	19.7%	17.2%	22.9%	10.4%	21.4%	4.8%	0.8%	2.8%	100.0%
(5) 洗濯	1.3%	2.1%	17.7%	22.5%	50.0%	2.8%	1.1%	2.5%	100.0%
(6) 子どものしつけや勉強	0.8%	1.9%	44.4%	19.0%	21.2%	2.9%	4.9%	4.9%	100.0%
(7) 乳児・幼児の世話	0.0%	0.1%	25.3%	25.7%	35.8%	2.9%	5.2%	5.0%	100.0%
(8) 親や身内の介護	0.7%	2.4%	36.9%	17.1%	18.1%	10.2%	10.4%	4.2%	100.0%
(9) 主な収入を得る	38.8%	32.0%	20.5%	1.5%	1.5%	1.6%	0.7%	3.6%	100.0%
(10) 家計の管理	4.6%	6.0%	21.6%	22.4%	40.5%	1.1%	1.3%	2.6%	100.0%
(11) 財産の管理	12.2%	12.3%	27.6%	13.2%	29.1%	1.6%	1.3%	2.6%	100.0%
(12) 町内行事などの参加	15.3%	19.8%	31.0%	9.9%	13.2%	2.6%	5.4%	2.6%	100.0%
(13) PTAなどの参加	3.7%	7.0%	28.3%	18.3%	27.4%	2.0%	8.9%	4.5%	100.0%

【夫婦の役割分担：経年比較】

前回調査と比べると、「町内行事などの参加」「PTAなどの参加」を除く項目で『妻（計）』が減少し、全ての項目で『同程度』が増加している。特に「食事の後かたづけ」「そうじ」「乳児・幼児の世話」の項目で『同程度』が8ポイント以上の増加となっている。また、「主な収入」「町内行事などの参加」で『夫（計）』が4ポイント以上減少している。



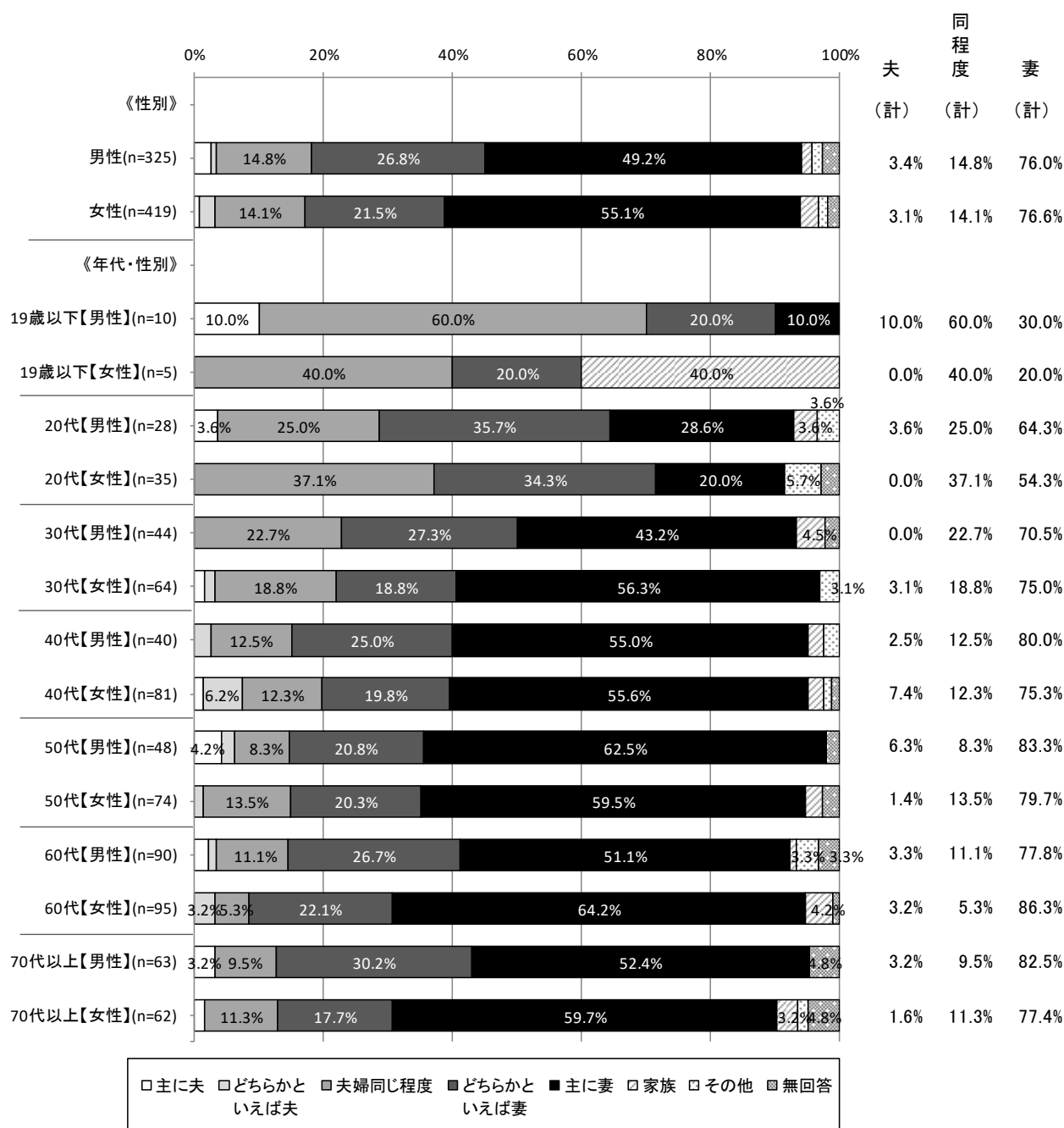
□主(計)に夫 □どちらかと
いえば夫 □夫婦同
じ程度 ■どちらかと
いえば妻 □家族 □その他 □無回答



☐ 主に夫 ☐ どちらかと ☐ 夫婦同 ☐ どちらかと ☐ 主に妻 ☐ 家族 ☐ その他 ☐ 無回答
 いえば夫 じ程度 いえば妻

性別でみると、男女ともに7割以上が『妻（計）』という結果になっている。

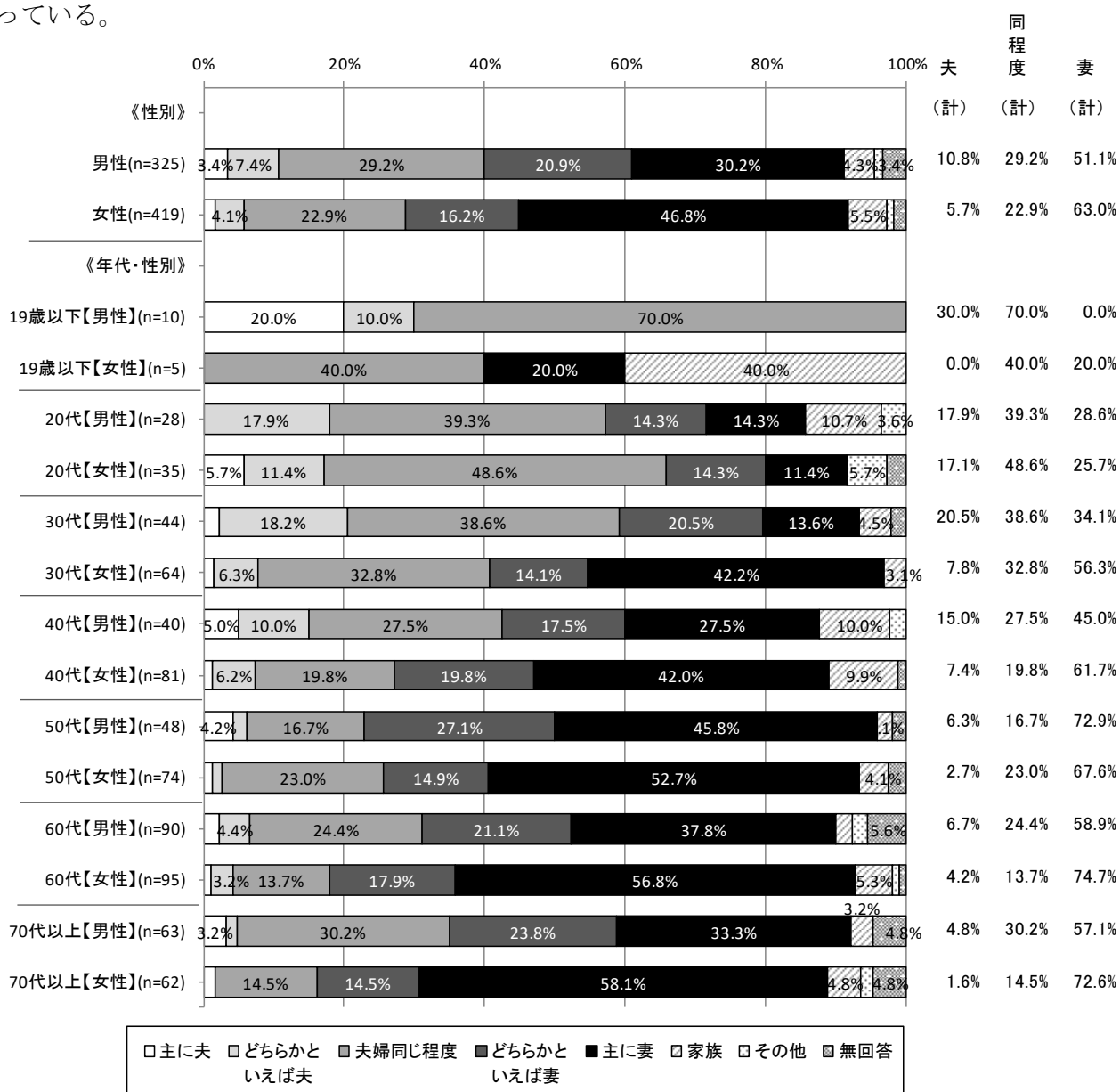
年代・性別でみると、30代以上の男女では『妻（計）』という回答が7割を超え、高くなっている。



【夫婦の役割分担（２）食事の後かたづけ：性別・年代】

性別でみると、男女ともに『妻（計）』の回答が高く、半数を超えている。

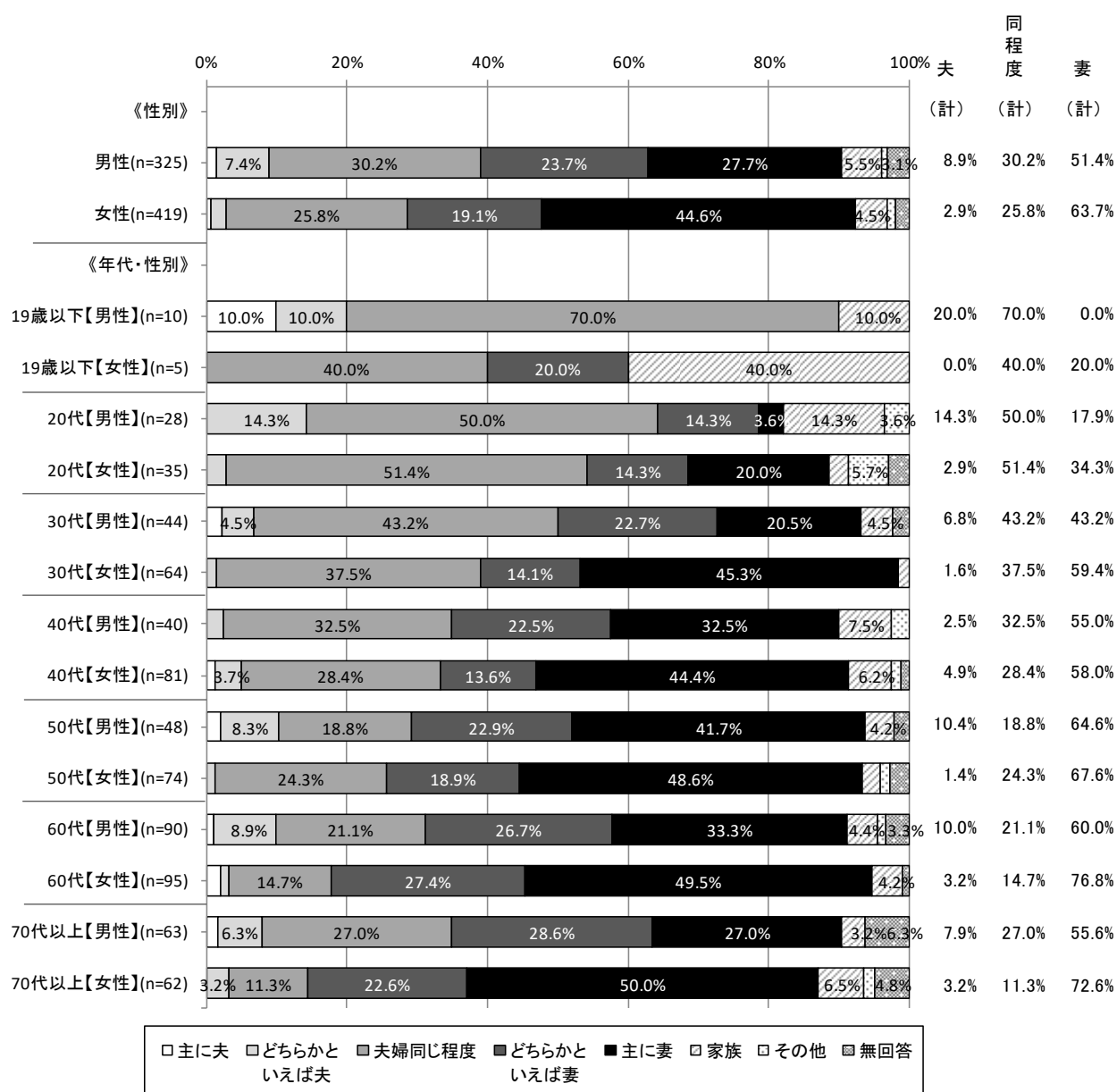
年代・性別でみると、『同程度』の回答は、30代以下の男女、70代以上の男性で3割以上と高くなっている。また『夫（計）』は40代以下の男性で1割を超え、比較的高い割合となっている。



【夫婦の役割分担（３）そうじ：性別・年代】

性別でみると、男女ともに『妻（計）』の回答が高く、半数を超えている。

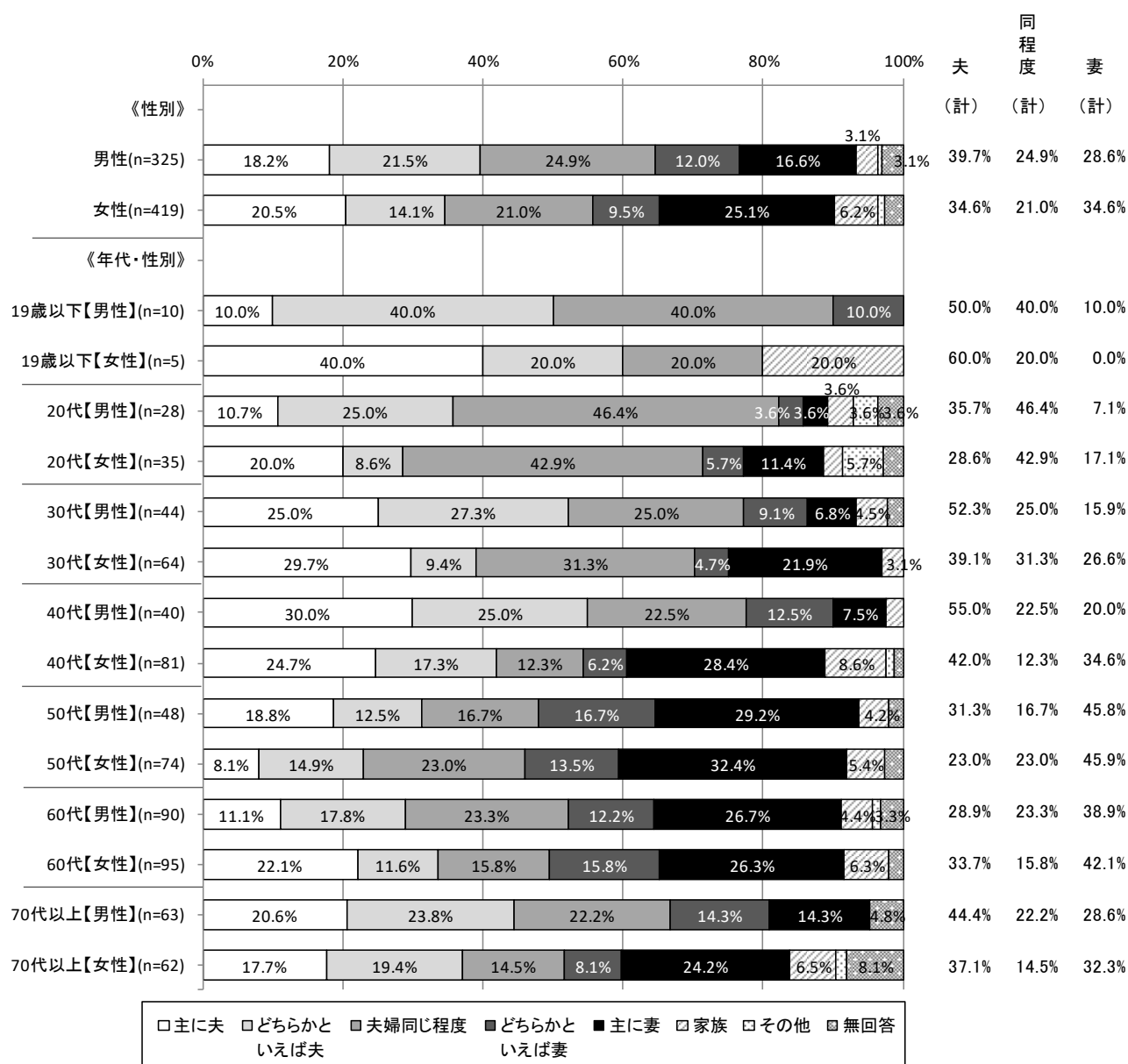
年代・性別でみると、19歳以下の男性、20代の男女では『同程度』の回答が5割以上と比較的高くなっている。



【夫婦の役割分担（４）ゴミ出し：性別・年代】

性別でみると、男性では『夫（計）』の回答が約４割で『妻（計）』を上回り、女性では『夫（計）』『妻（計）』ともに同率となっている。

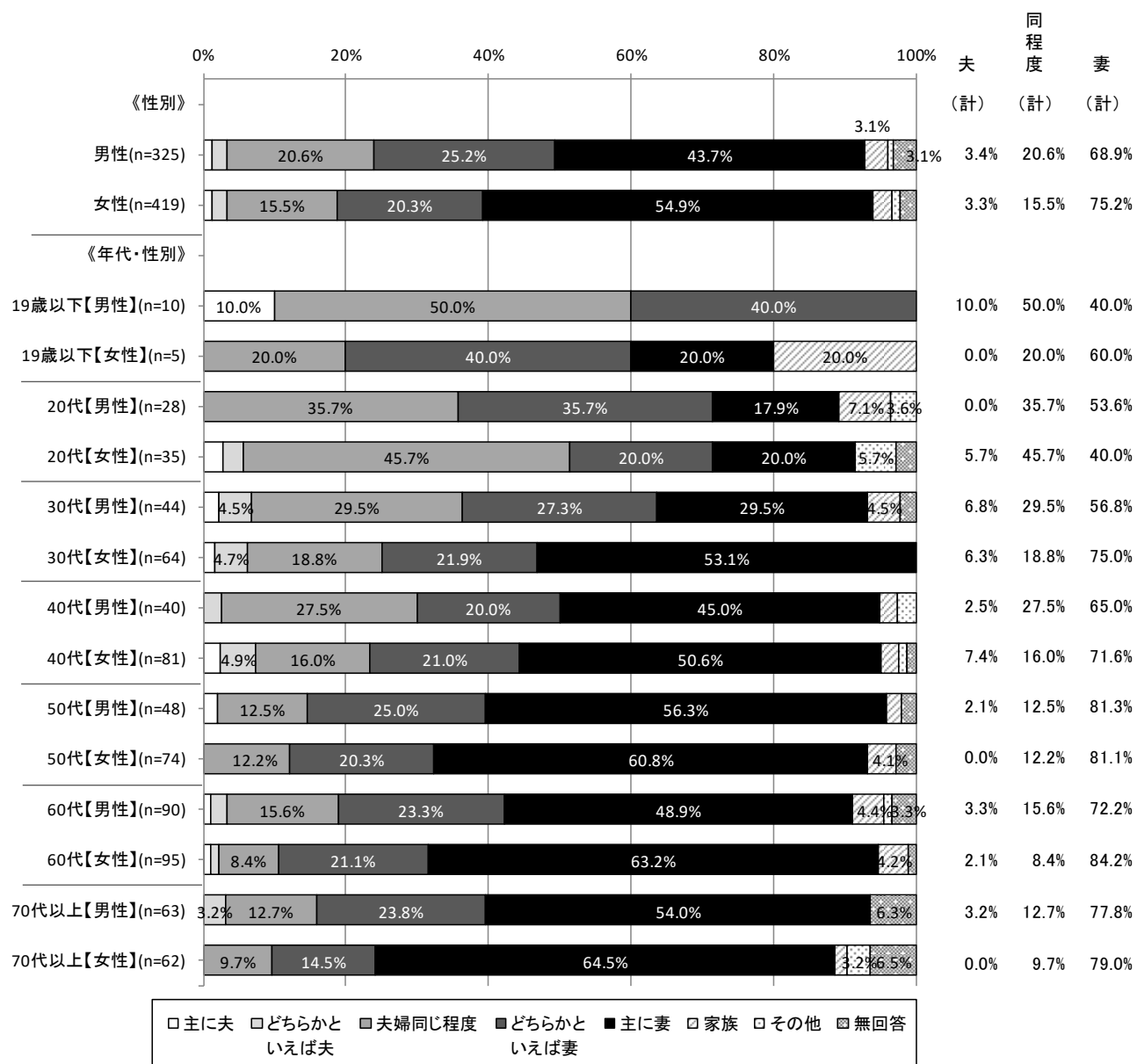
年代・性別でみると、50代、60代の男女を除き『夫（計）』が『妻（計）』を上回っている。
20代男女では『同程度』が４割を超え、比較的高くなっている。



【夫婦の役割分担（５）洗濯：性別・年代】

性別でみると、『妻（計）』の回答は、男性（68.9%）よりも女性（75.2%）の方が高くなっている。

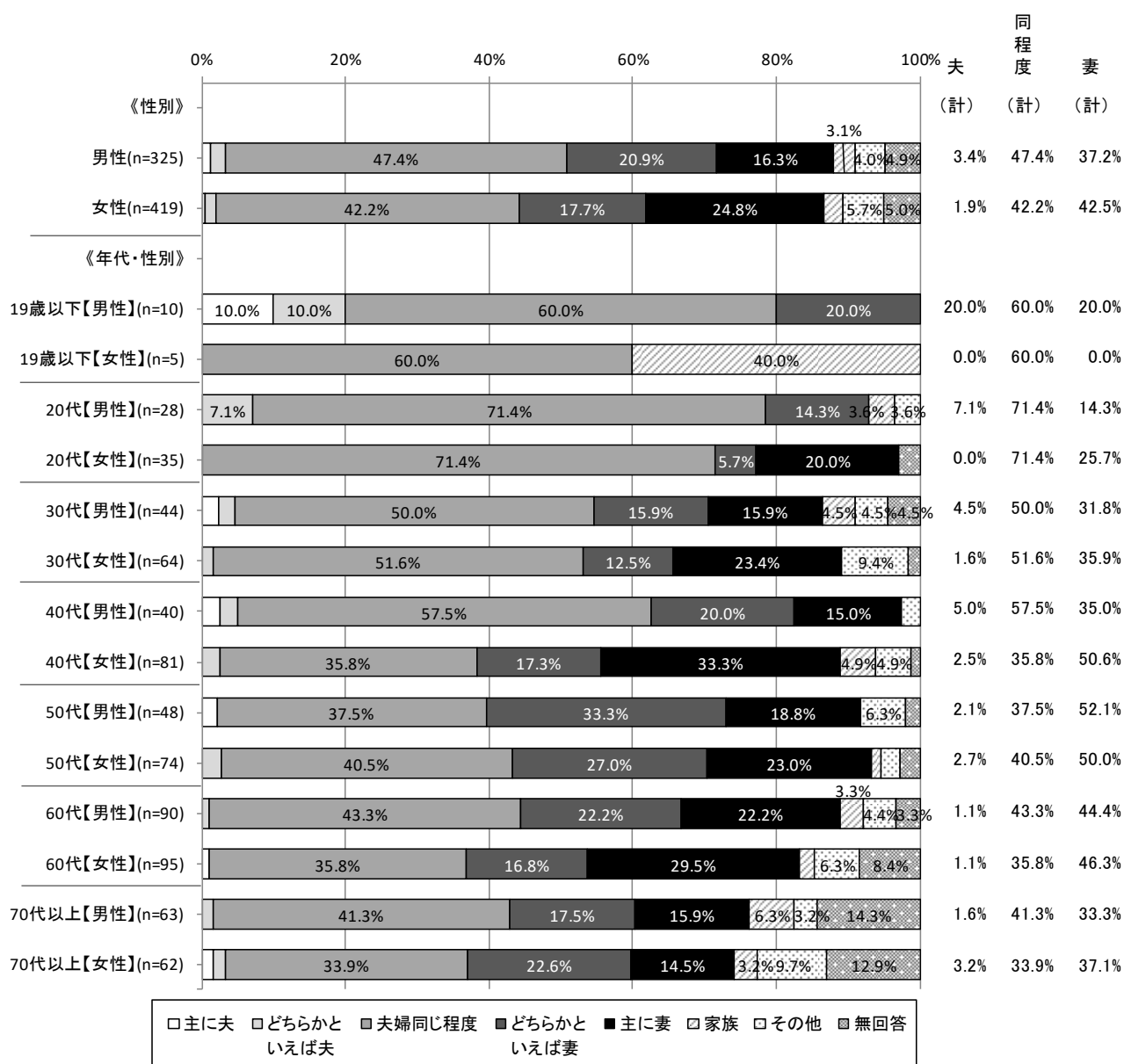
年代・性別でみると、『同程度』は、20代以下の男女と30代、40代男性で2割以上と比較的高くなっている。『妻（計）』は、50代男女と60代女性で8割を超え、比較的高くなっている。



【夫婦の役割分担（6）子どものしつけや勉強：性別・年代】

性別でみると、男性では『同程度』が47.4%で『妻（計）』を上回り、女性では『同程度』『妻（計）』が4割台でほぼ同じ割合となっている。

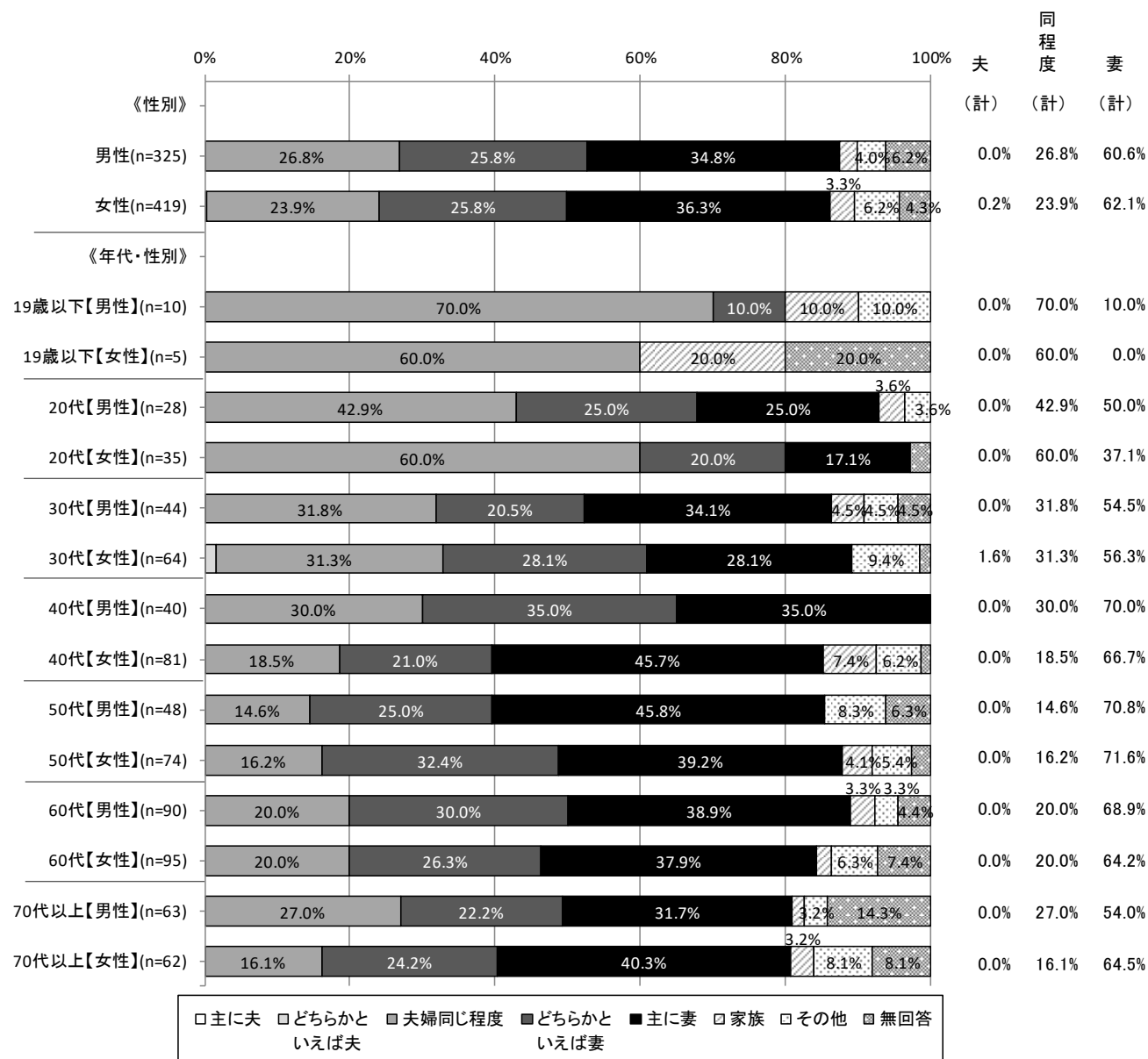
年代・性別でみると、20代男女では『同程度』がともに7割を超え、比較的高くなっている。40代女性、50代男女では『妻（計）』が5割以上となっている。



【夫婦の役割分担（7）乳児・幼児の世話：性別・年代】

性別でみると、男女ともに『妻（計）』の回答が6割を超えている。

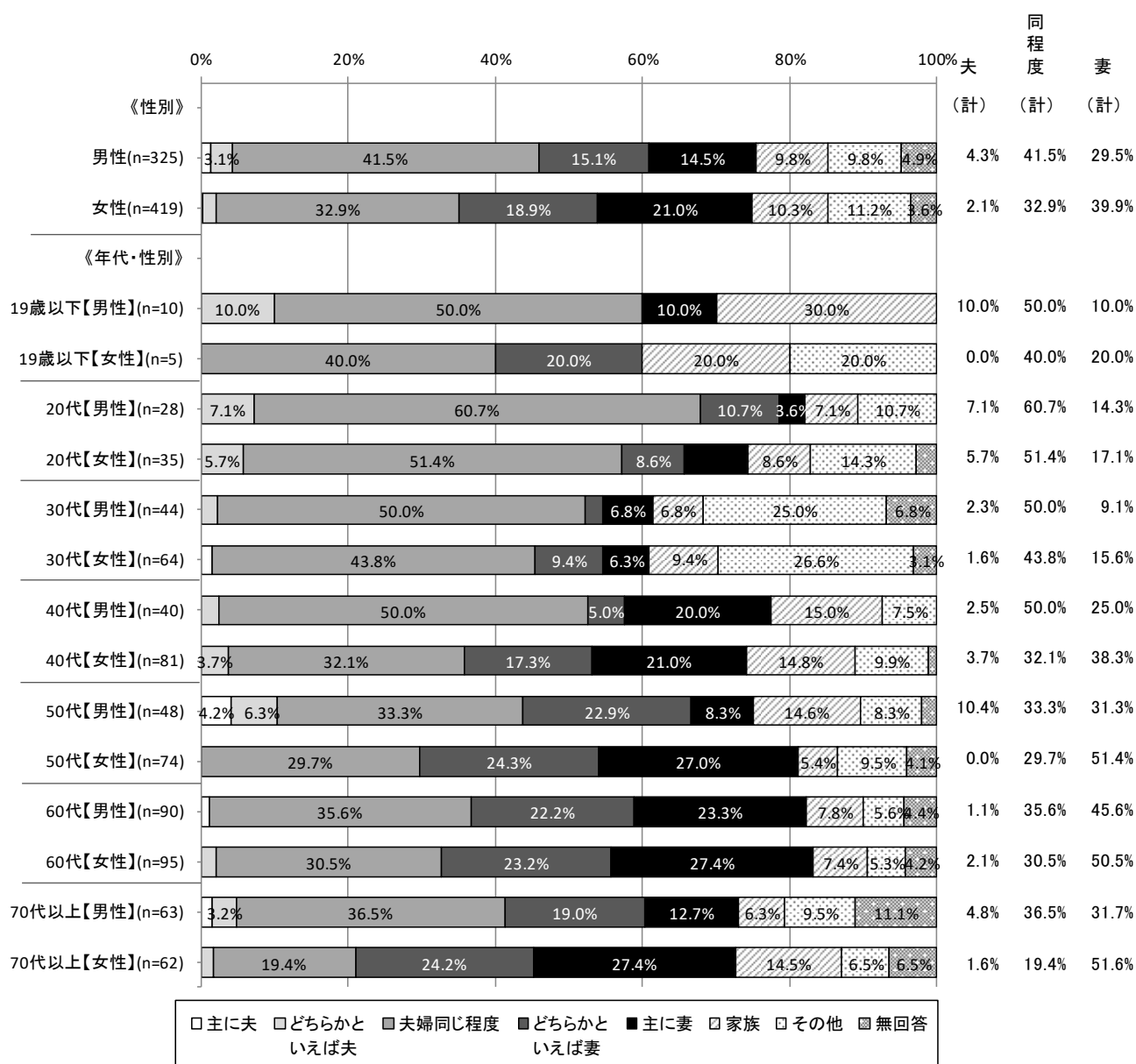
年代・性別でみると、30代以下の男女と40代男性では『同程度』が3割以上と比較的高くなっている。30代以上では男女ともに『妻（計）』が過半数を占めている。



【夫婦の役割分担（８） 親や身内の介護：性別・年代】

性別でみると、『妻（計）』は男性（29.5%）よりも女性（39.9%）の方が高く、『同程度』は、女性（32.9%）よりも男性（41.5%）の方が高くなっている。

年代・性別でみると、『同程度』は、30代以下の男女と40代の男性で4割以上と高くなっている。『妻（計）』は50代、60代、70代以上の女性で5割を超えている。



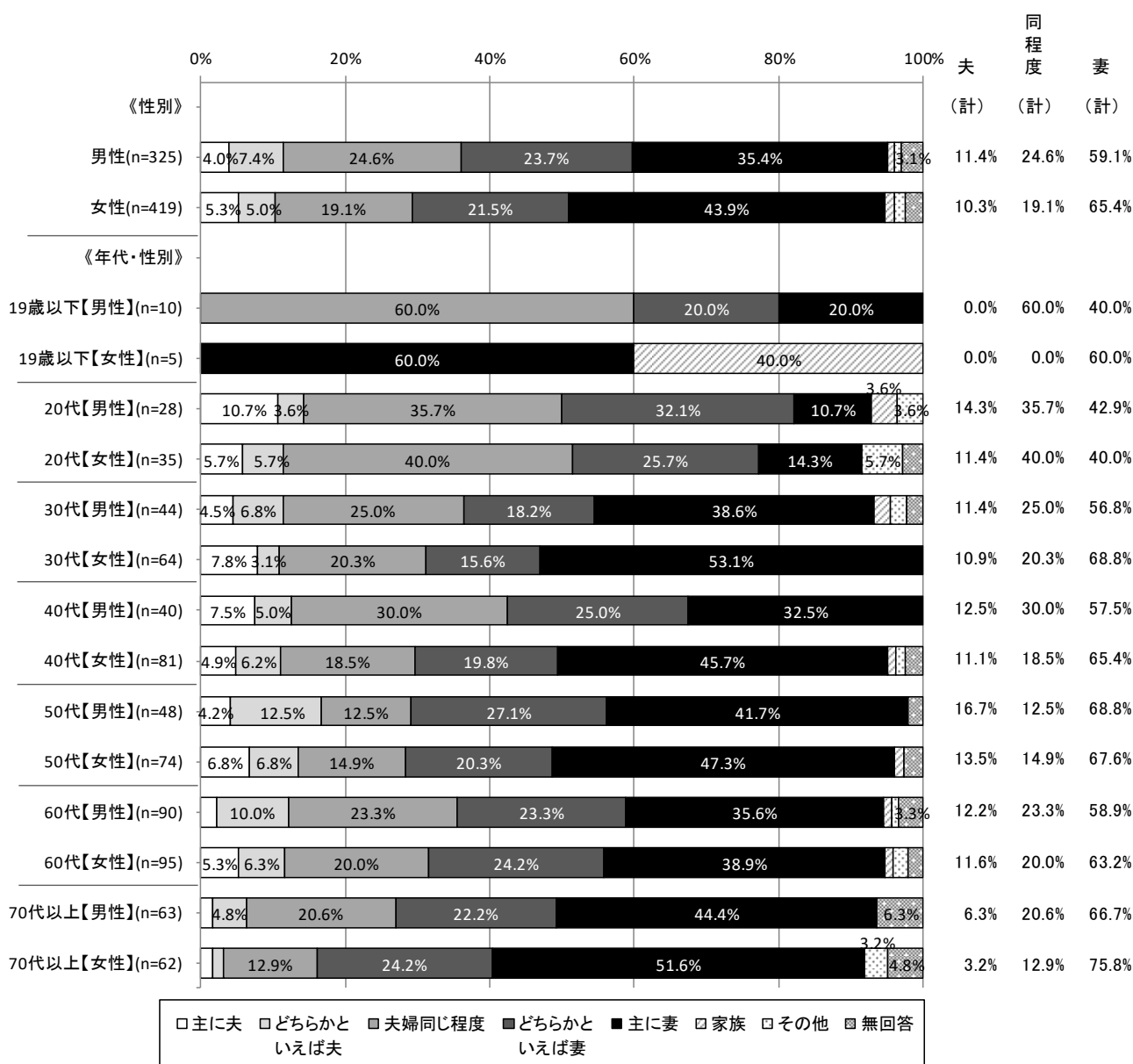
年代・性別でみると、20代女性では『同程度』が約4割と特に高くなっている。



【夫婦の役割分担（10）家計の管理：性別・年代】

性別でみると、『妻（計）』の回答は、男性（59.1%）よりも女性（65.4%）の方で高くなっている。

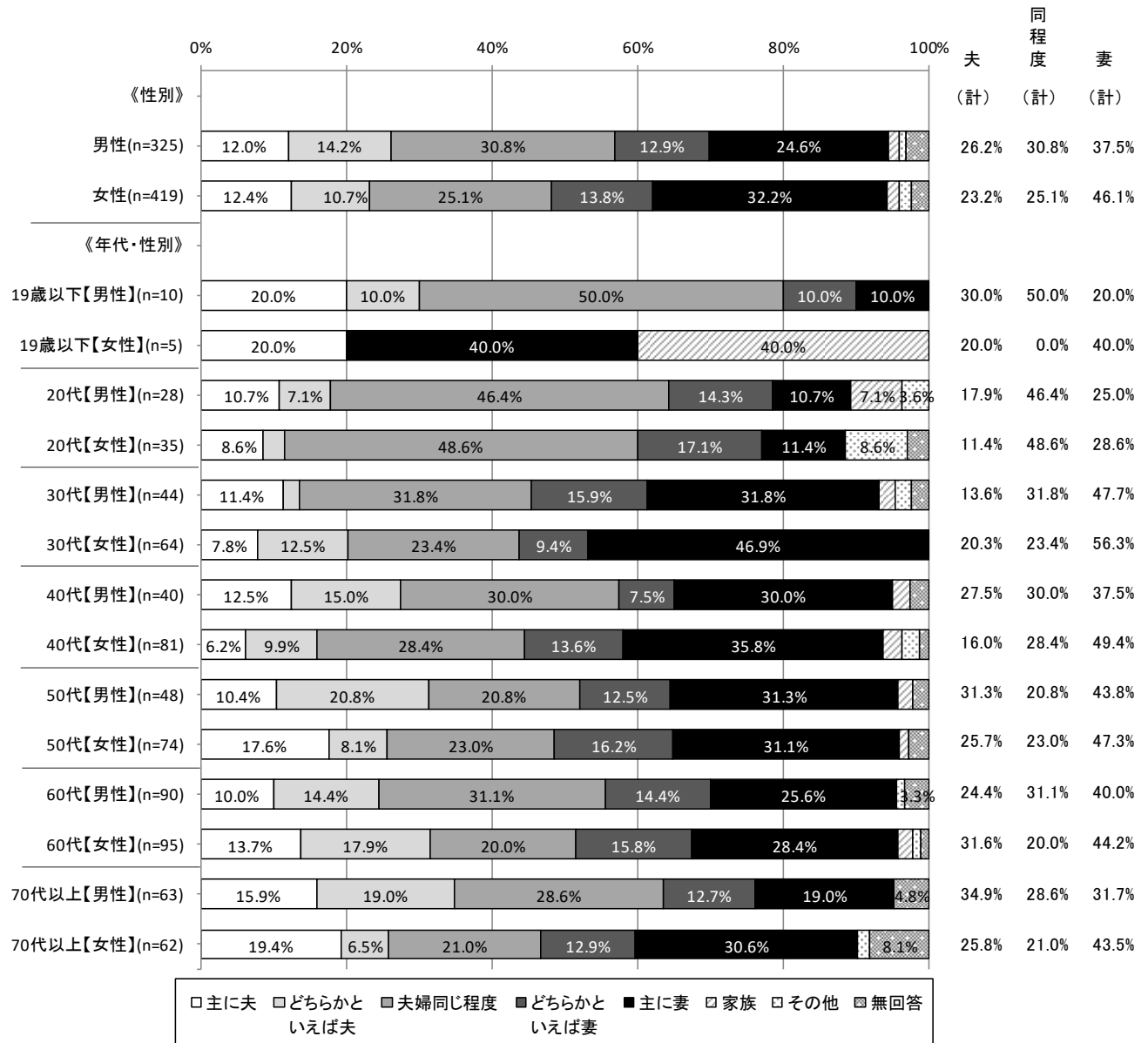
年代・性別でみると、20代男女では『同程度』が3割以上と比較的高く、『妻（計）』が概ね4割と比較的低くなっている。40代男性では『同程度』が30.0%と比較的高くなっている。



【夫婦の役割分担（11）財産の管理：性別・年代】

性別でみると、『妻（計）』の回答は、男性（37.5%）よりも女性（46.1%）の方で高くなっている。

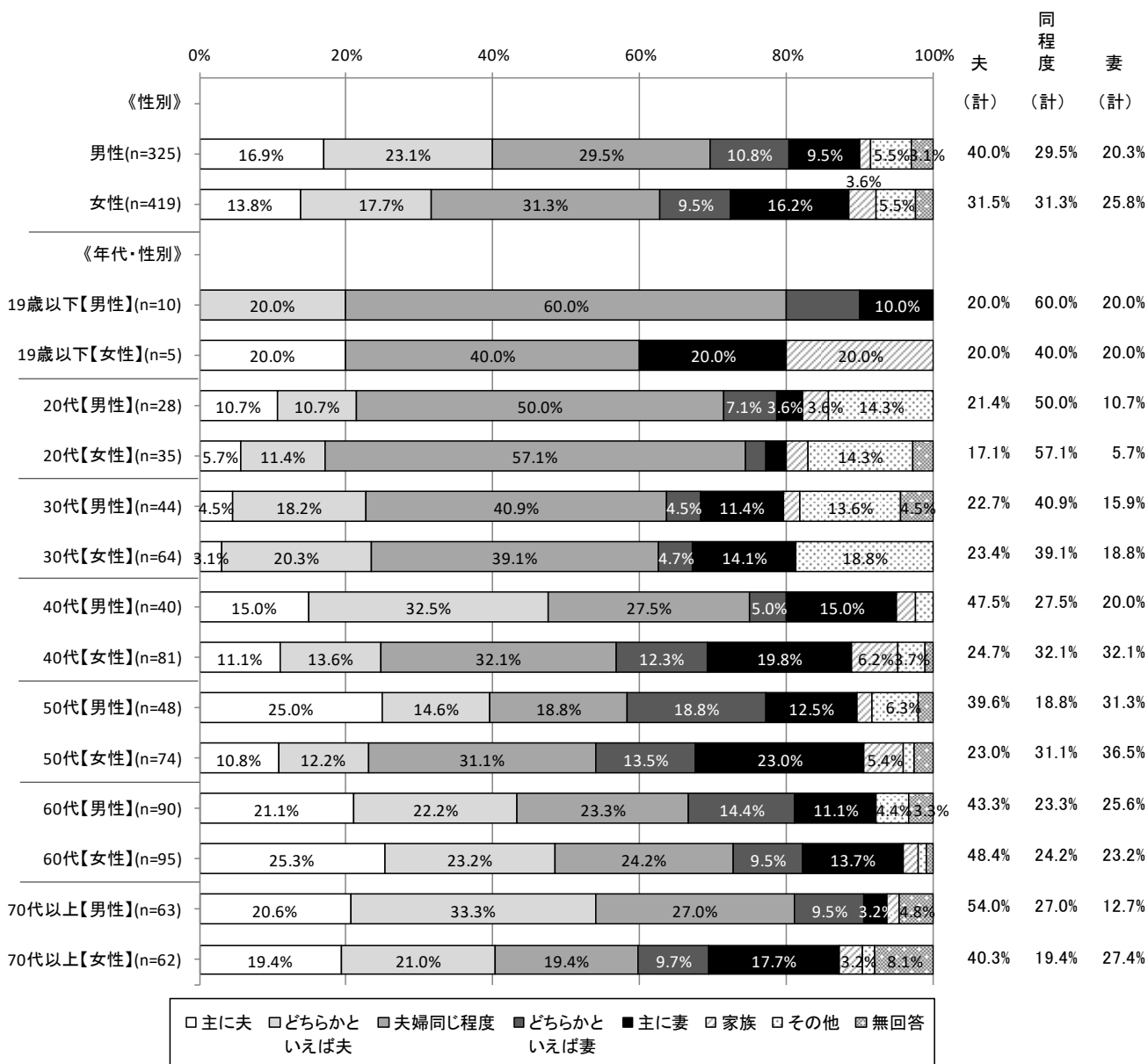
年代・性別でみると、19歳以下男性と20代男女では『同程度』が4割を超え、比較的高くなっている。70代以上男性では『夫（計）』が3割半ばで『妻（計）』を上回っている。



【夫婦の役割分担（12）町内行事などの参加：性別・年代】

性別でみると、『夫（計）』との回答が、女性（31.5%）よりも男性（40.0%）の方で高くなっている。

年代・性別でみると、40代男性、60代以上の男女で『夫（計）』の回答が4割を超え、比較的高くなっている。20代以下の男女、30代男性では『同程度』の回答が4割以上と比較的高くなっている。

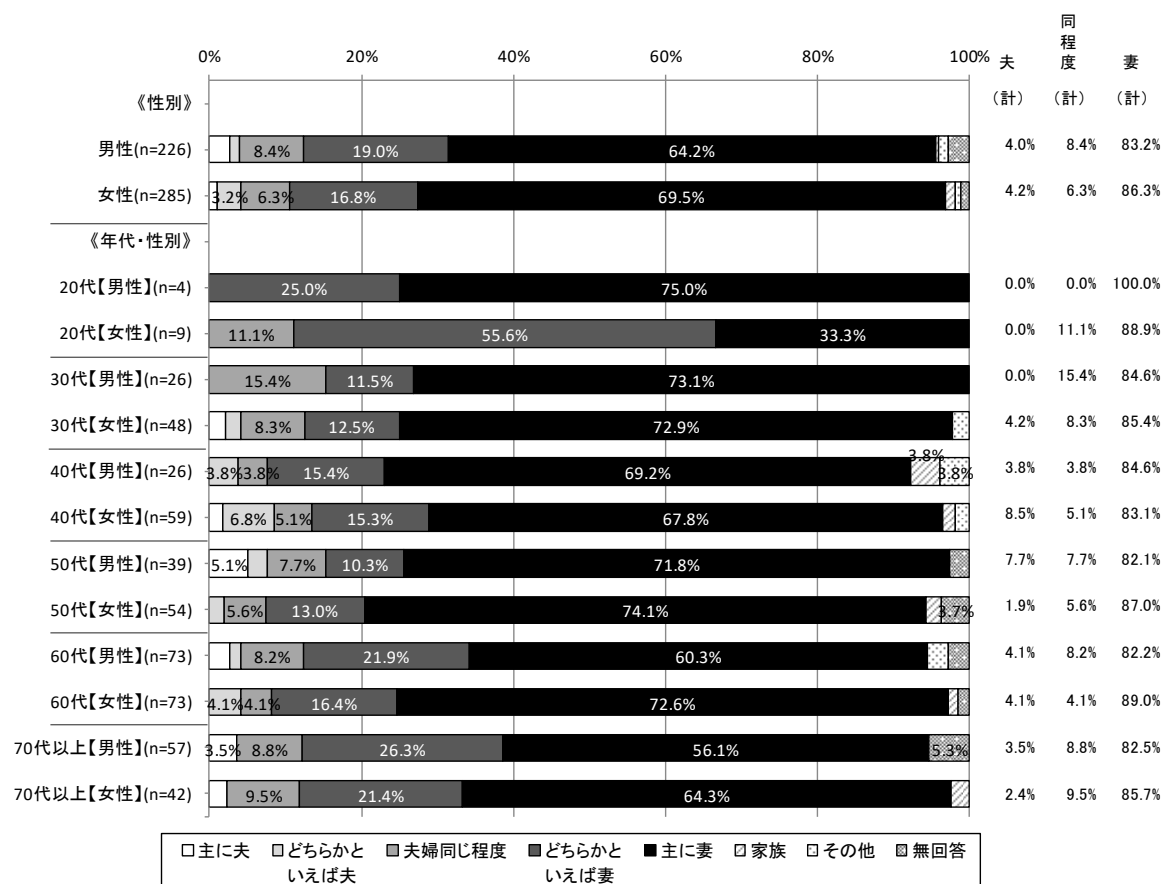


年代・性別でみると、50代、60代の男女で『妻（計）』、19歳以下男性と20代男女で『同程度』の回答がそれぞれ半数以上となっている。

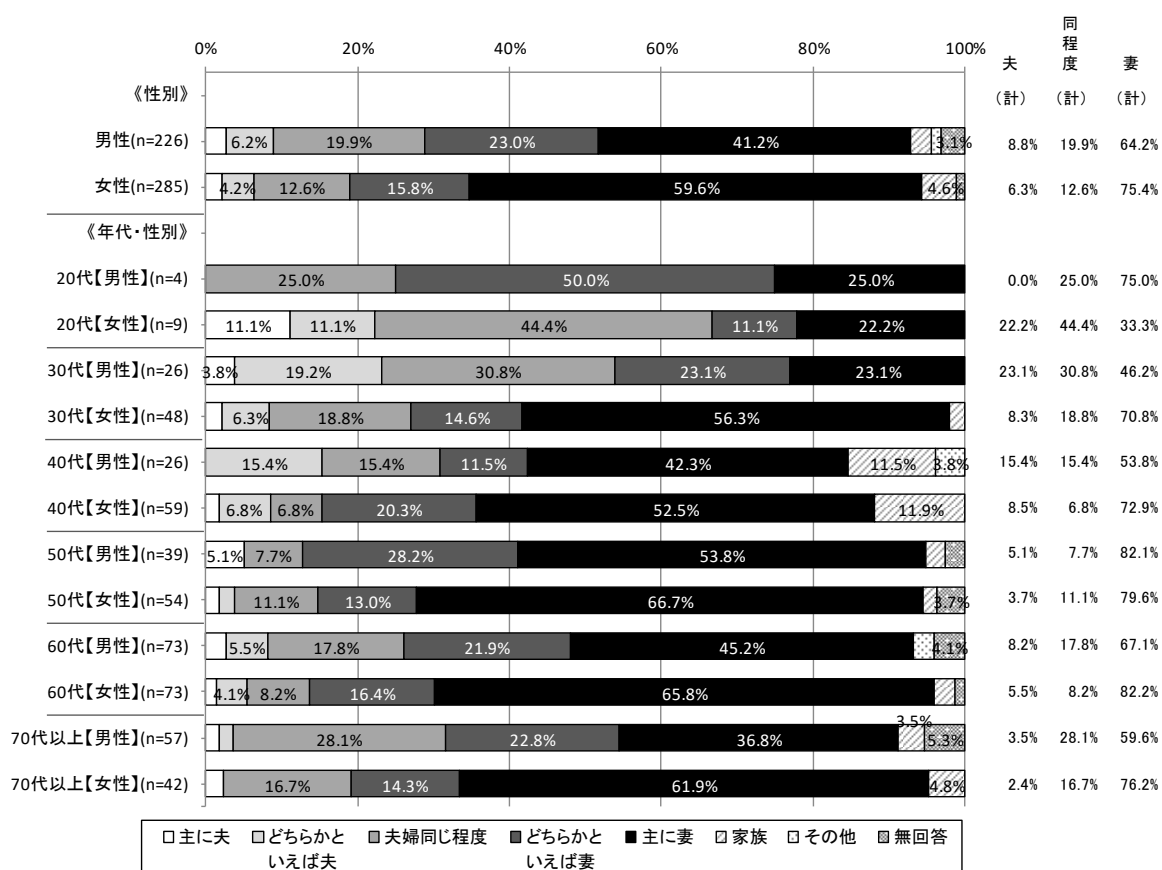


＊夫婦の役割分担の各項目について《配偶者がいる方のみの集計》を参考に掲載

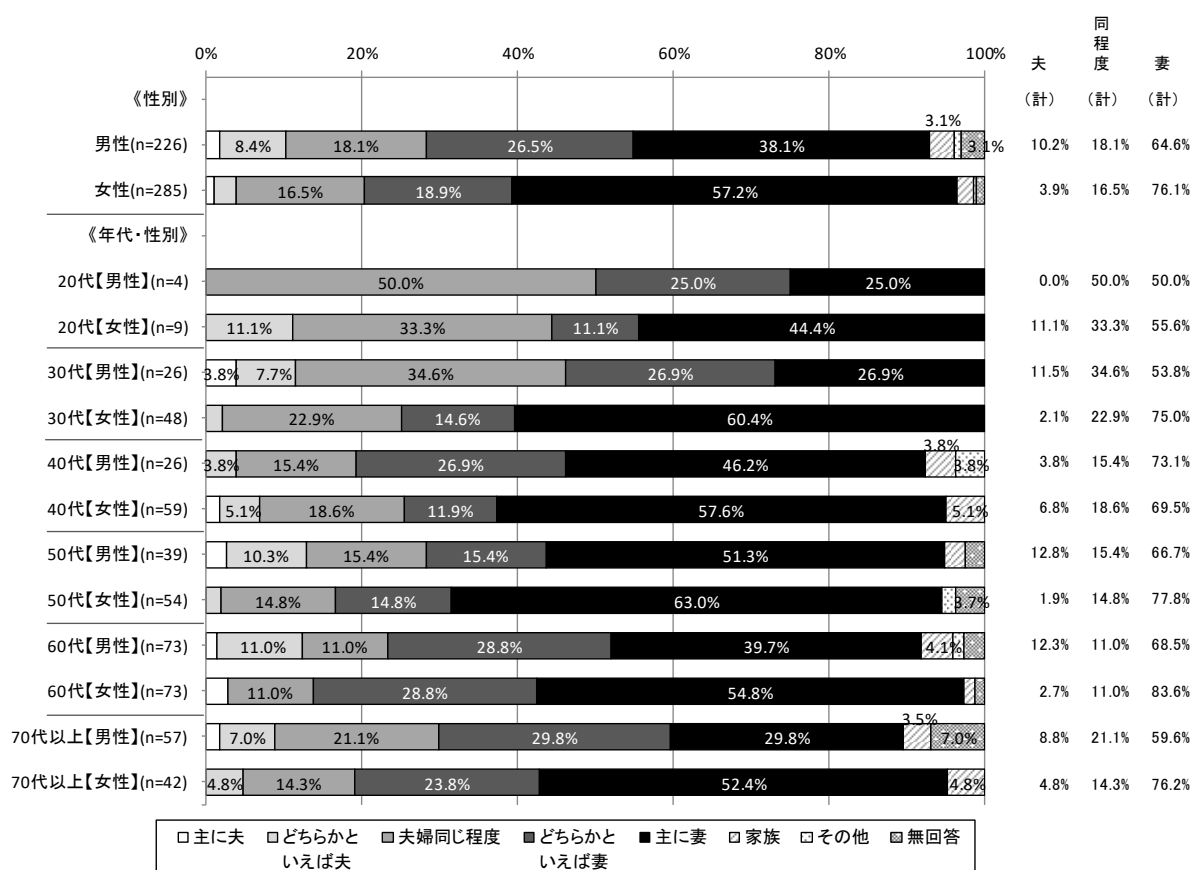
【夫婦の役割分担（１）食事のしたく：性別・年代】《配偶者がいる方のみの集計》



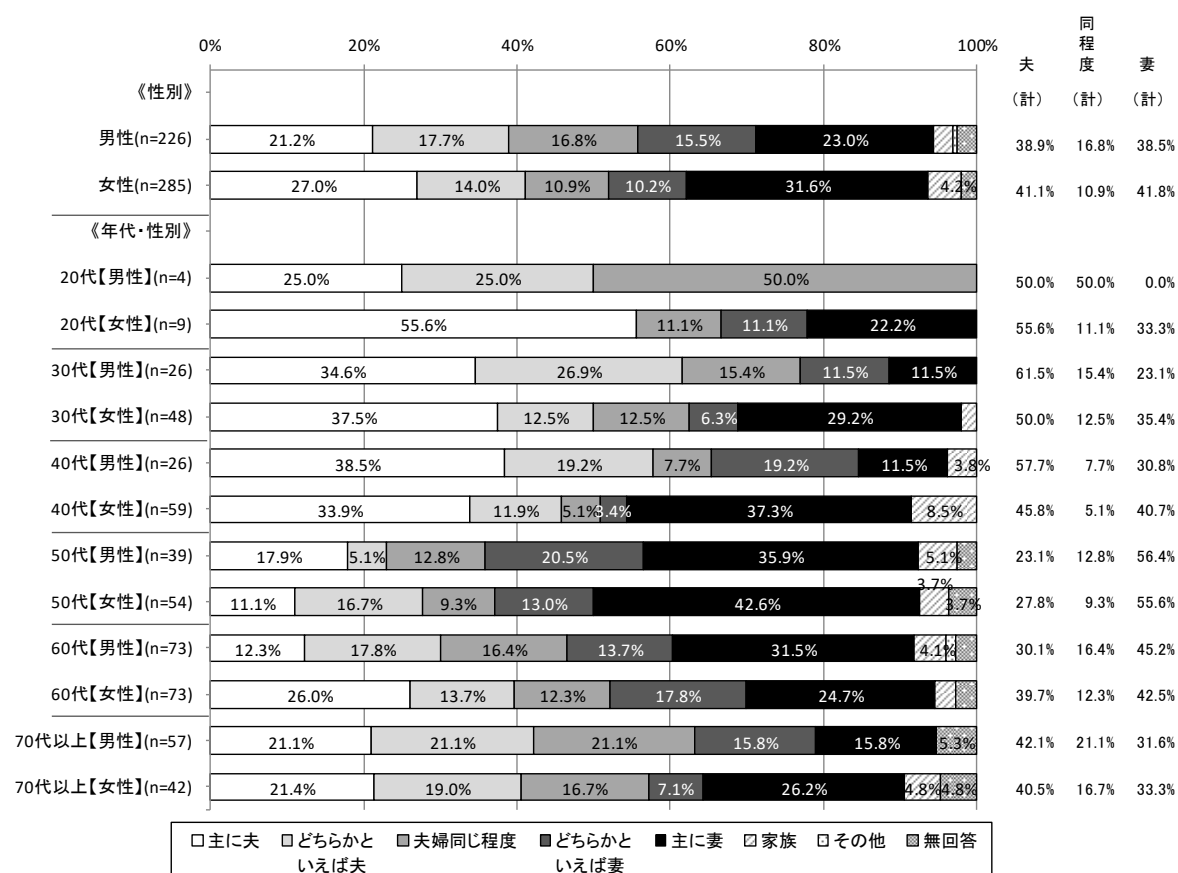
【夫婦の役割分担（２）食事の後かたづけ：性別・年代】《配偶者がいる方のみの集計》



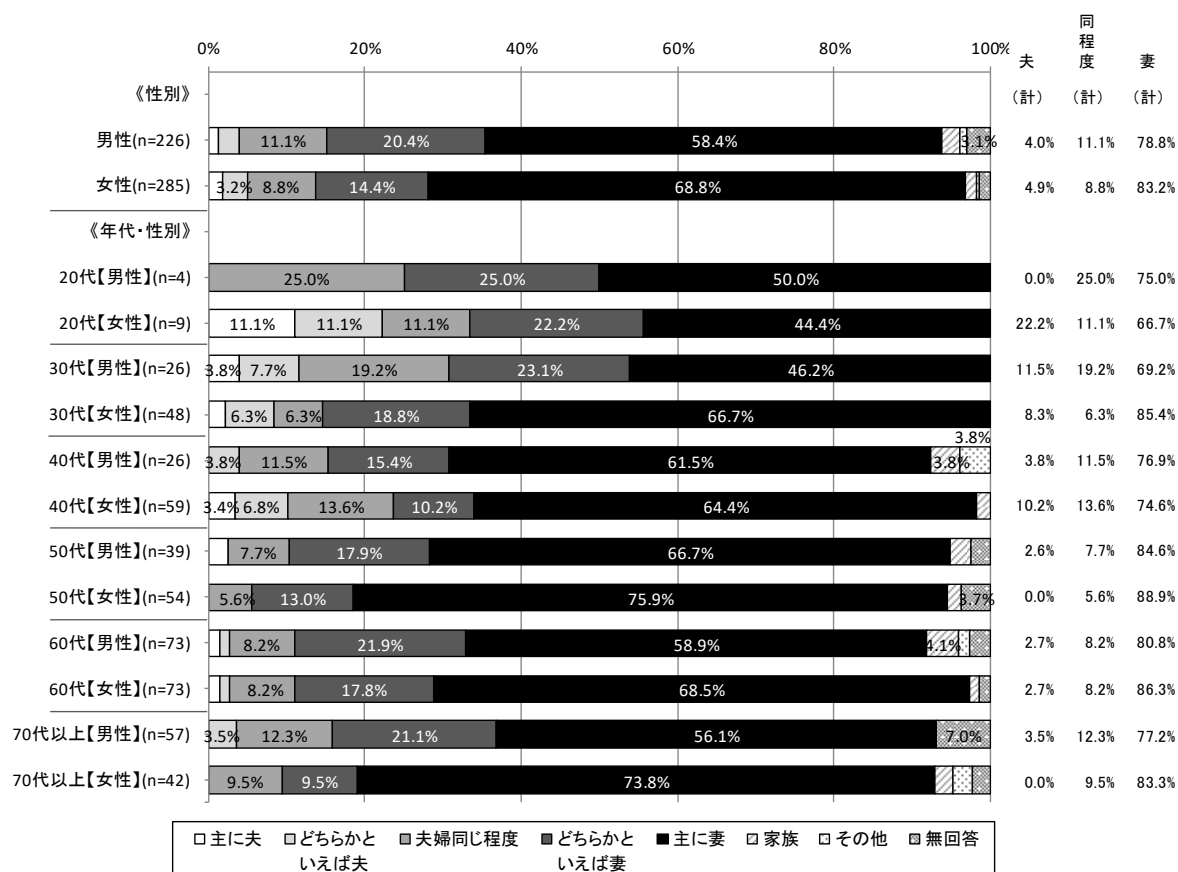
【夫婦の役割分担（３） そうじ：性別・年代】《 配偶者がいる方のみの集計 》



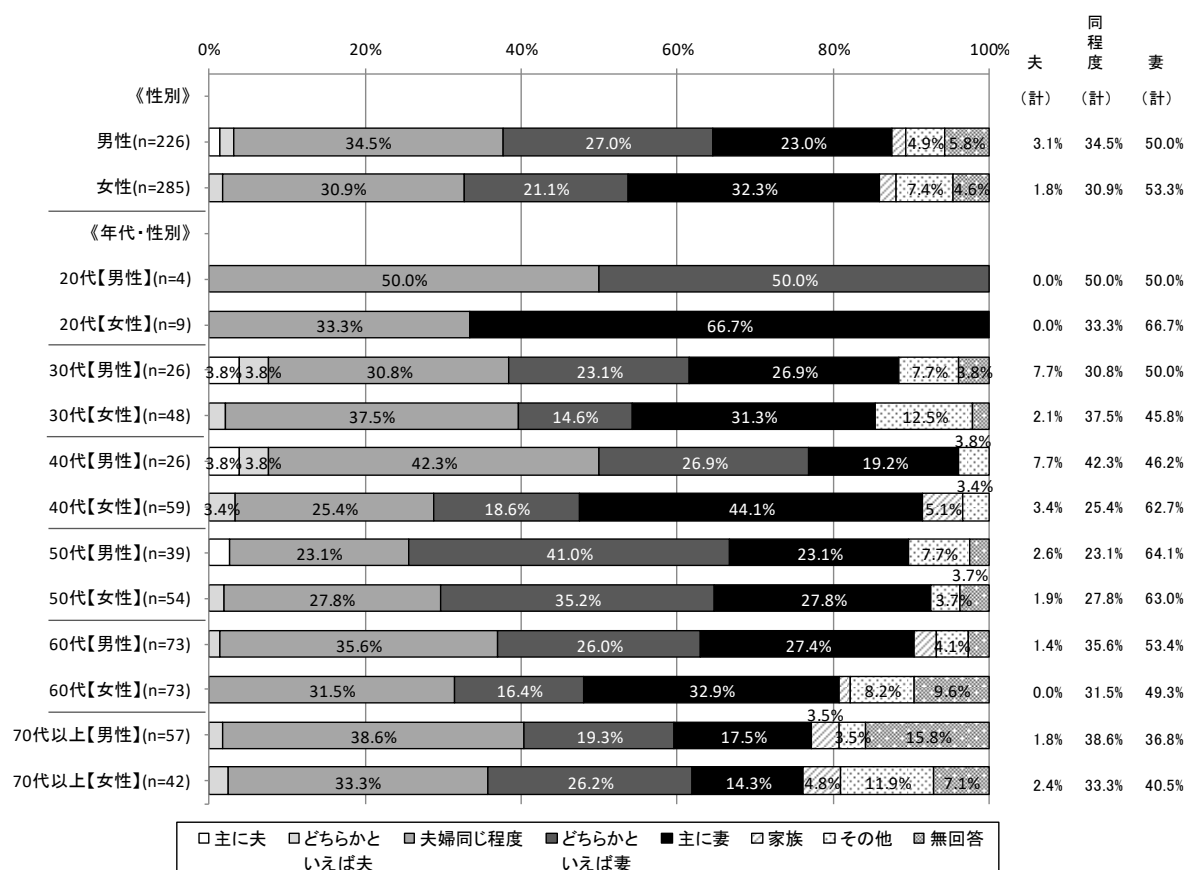
【夫婦の役割分担（４） ゴミ出し：性別・年代】《 配偶者がいる方のみの集計 》



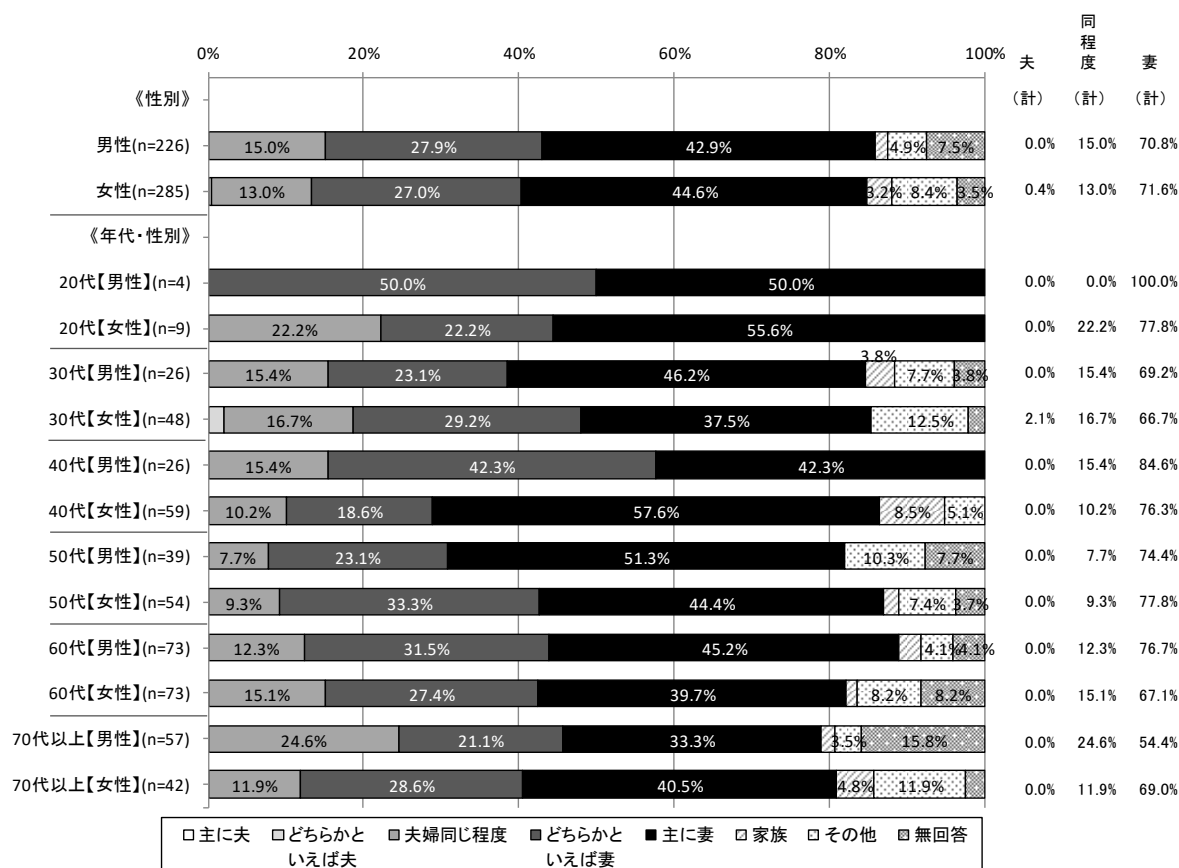
【夫婦の役割分担（５）洗濯：性別・年代】《配偶者がいる方のみの集計》



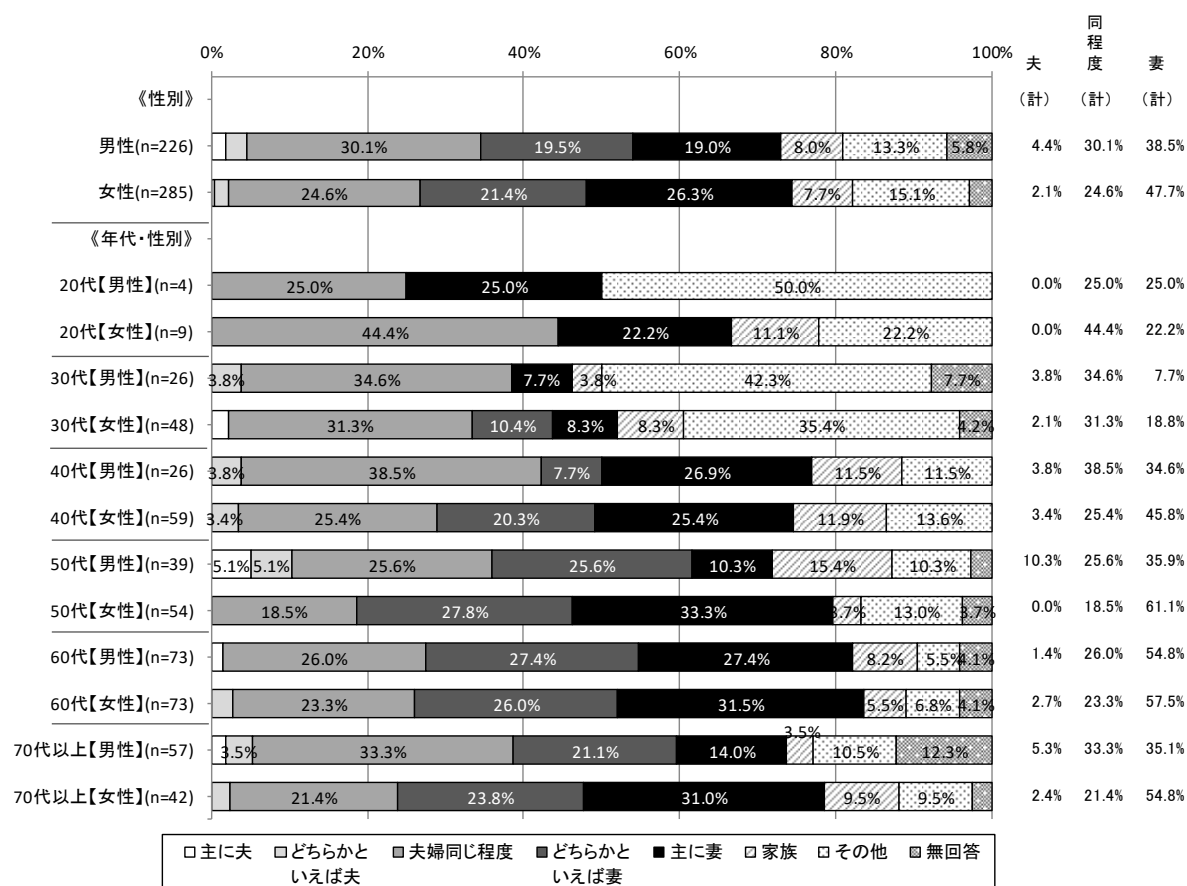
【夫婦の役割分担（６）子どものしつけや勉強：性別・年代】《配偶者がいる方のみの集計》



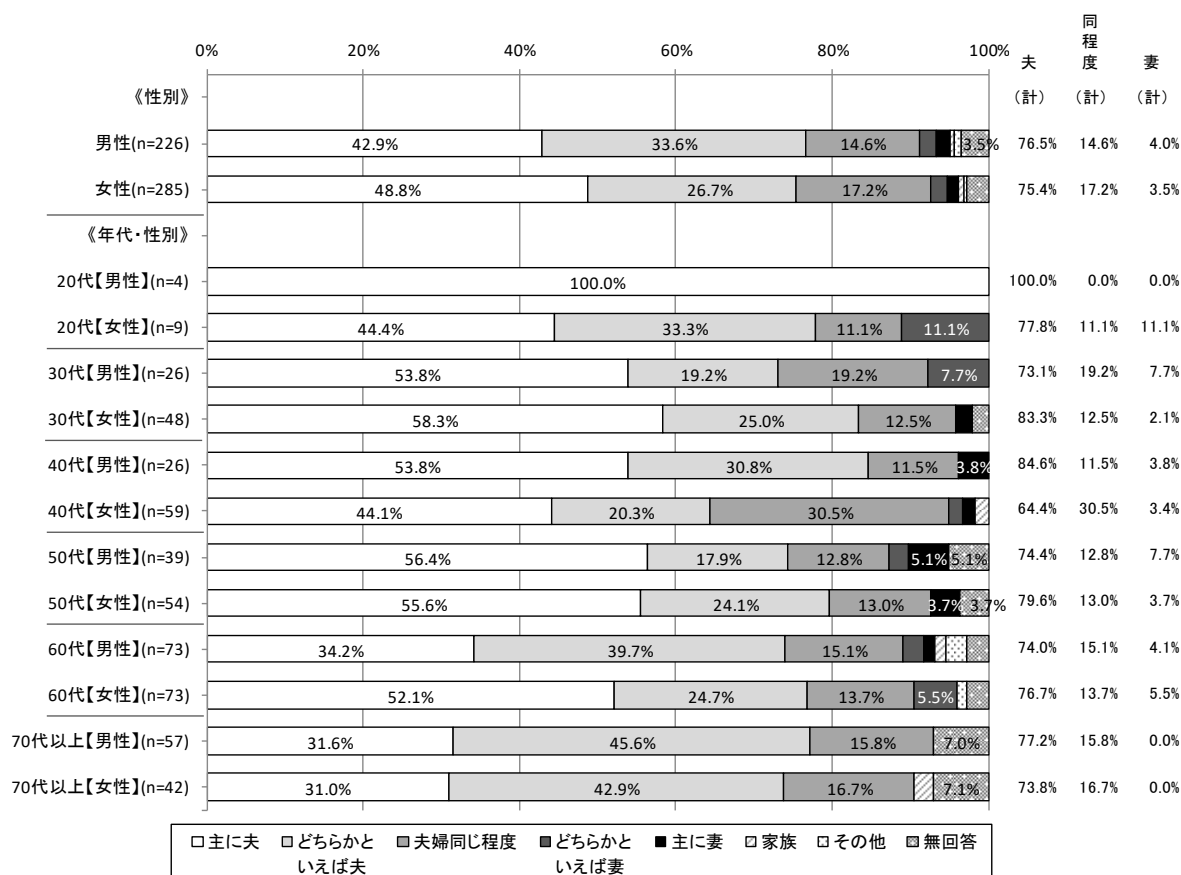
【夫婦の役割分担（７）乳児・幼児の世話：性別・年代】《 配偶者がいる方のみの集計 》



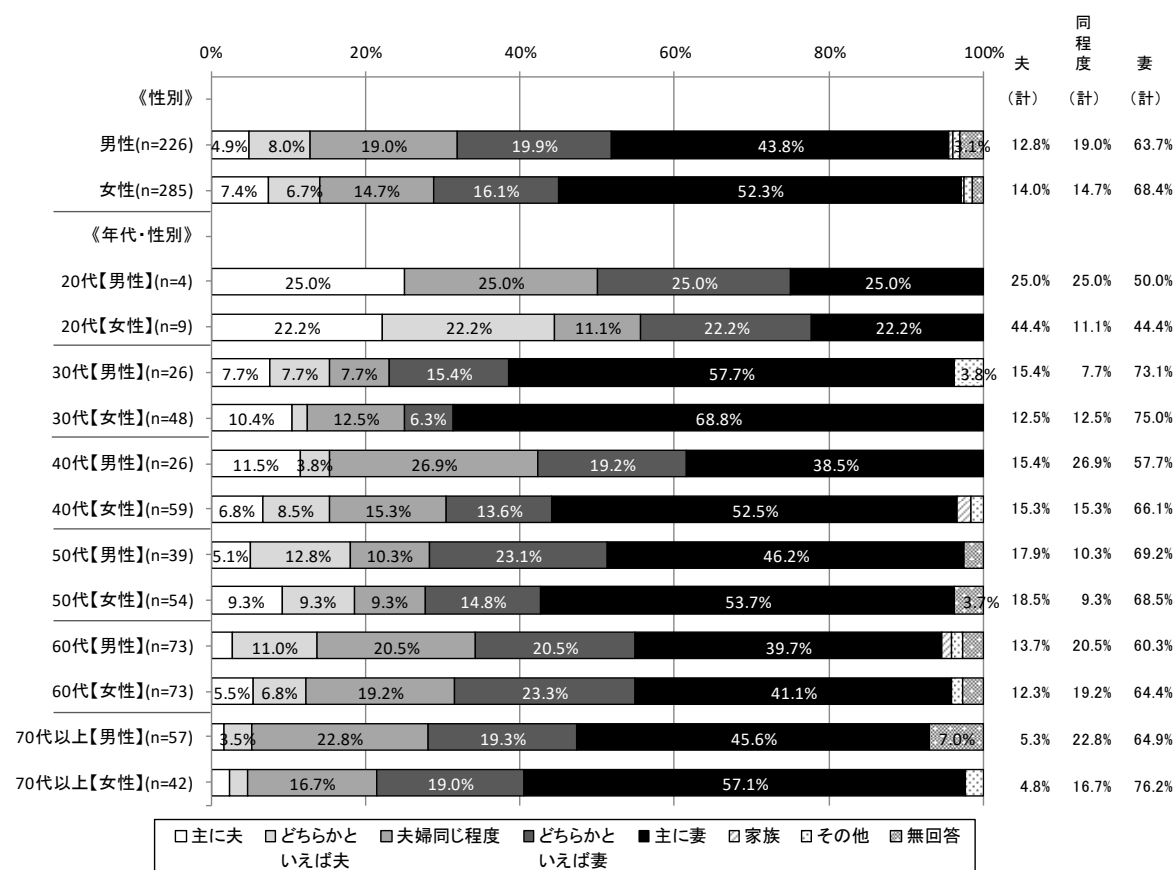
【夫婦の役割分担（８）親や身内の介護：性別・年代】《 配偶者がいる方のみの集計 》



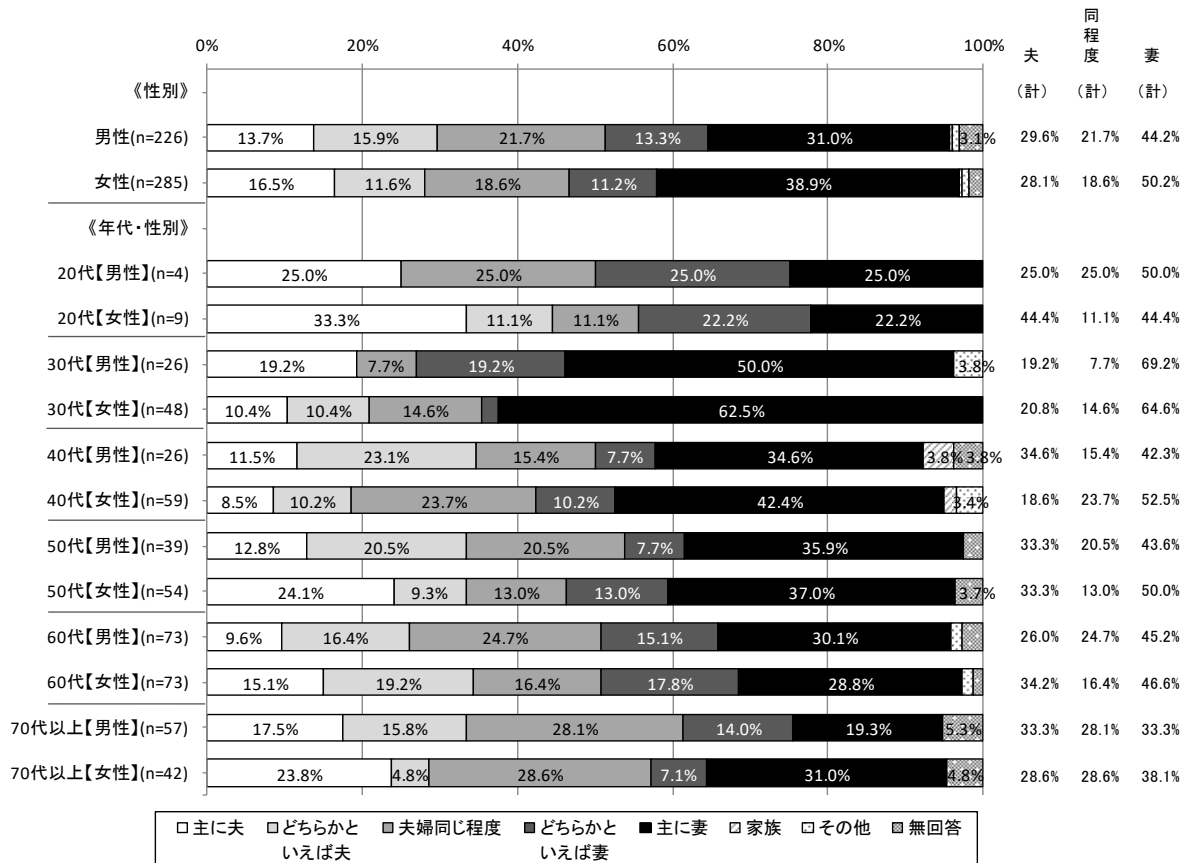
【夫婦の役割分担（９）主な収入を得る：性別・年代】《 配偶者がいる方のみの集計 》



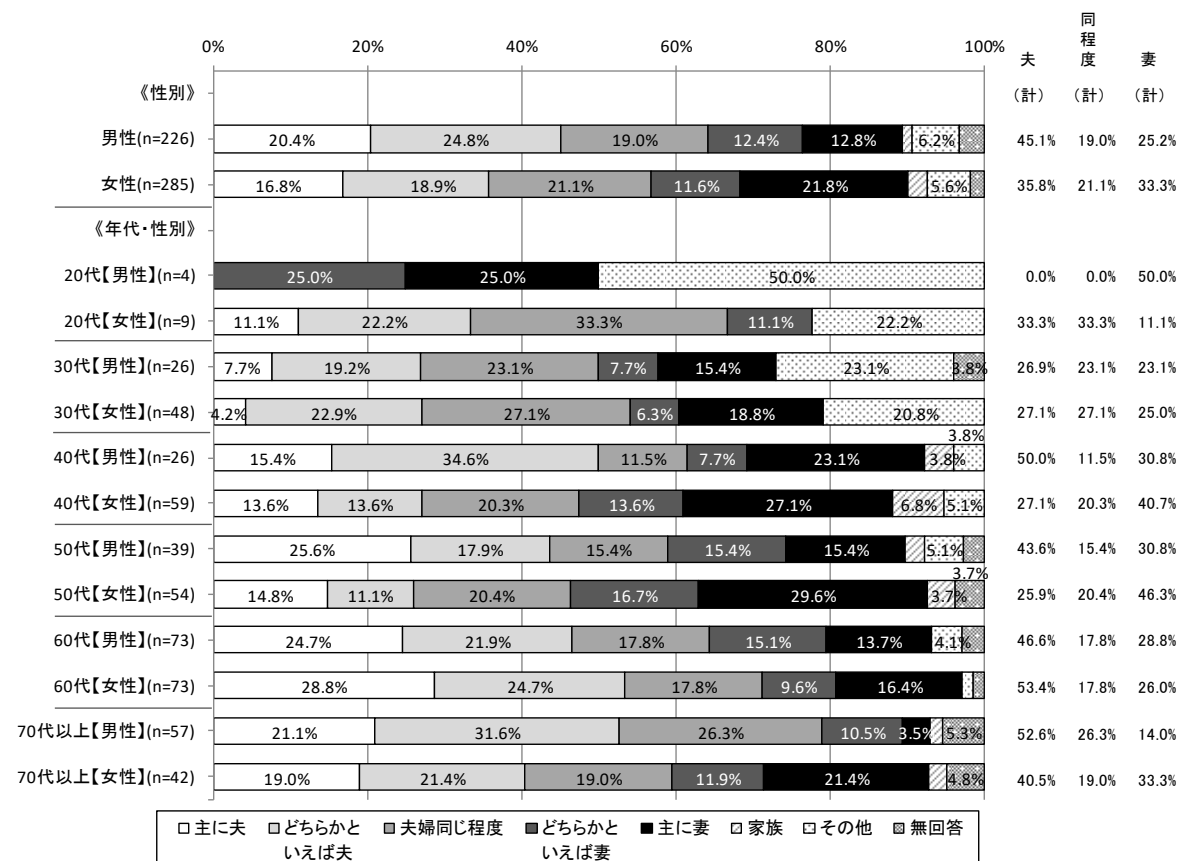
【夫婦の役割分担（10）家計の管理：性別・年代】《 配偶者がいる方のみの集計 》



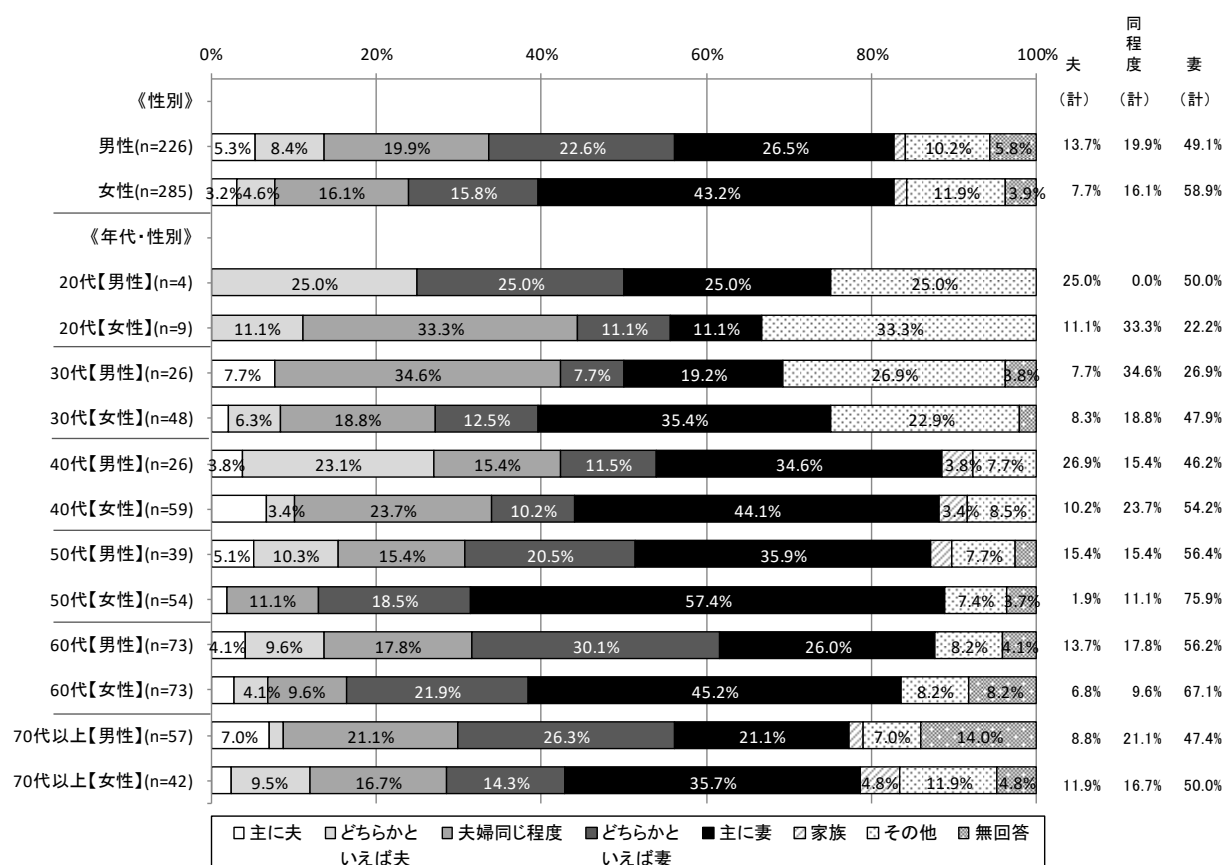
【夫婦の役割分担（11）財産の管理：性別・年代】《配偶者がいる方のみの集計》



【夫婦の役割分担（12）町内行事などの参加：性別・年代】《配偶者がいる方のみの集計》



【夫婦の役割分担 (13) PTA などの参加：性別・年代】《 配偶者がいる方のみの集計 》



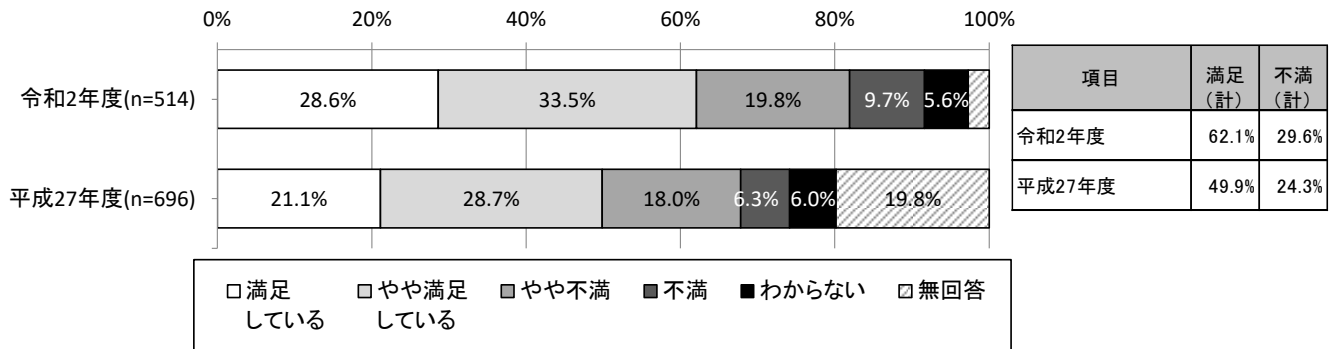
【配偶者がいる方に】

問5. あなたは、夫婦の間の役割分担の現状について、どのように思っていますか。

(1つだけに○)

「満足している」、「やや満足している」を合わせた『満足(計)』が62.1%と過半数を占め、「やや不満」、「不満」を合わせた『不満(計)』は約3割となっている。

前回調査と比べると、『満足(計)』が12.2ポイント増加している。

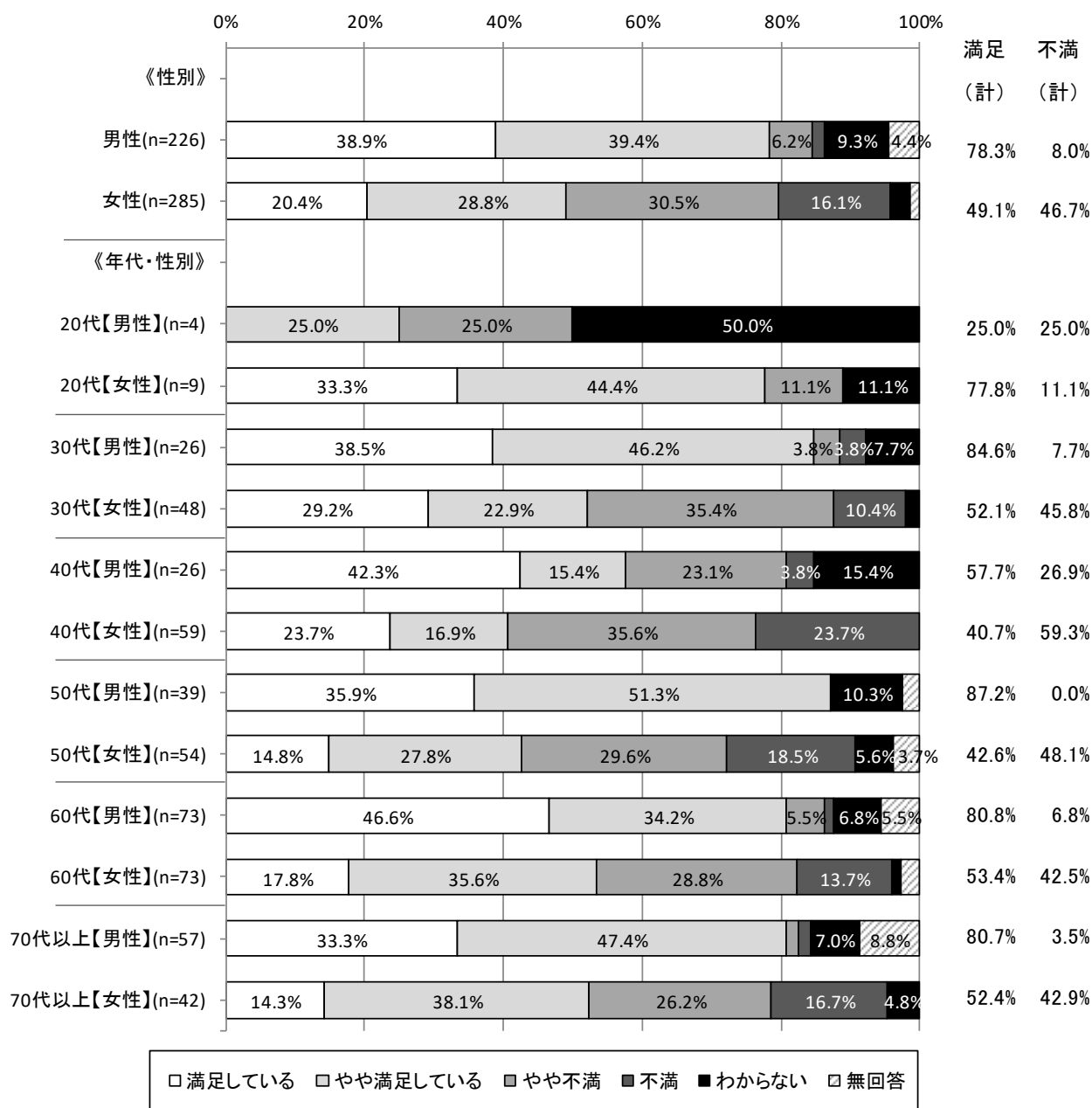


項目	度数	構成比
満足している	147	28.6%
やや満足している	172	33.5%
やや不満	102	19.8%
不満	50	9.7%
わからない	29	5.6%
無回答	14	2.7%
回答者数	514	
非該当	282	
合計	796	

【夫婦の役割分担（満足度）：性別・年代】 配偶者がいる方のみ

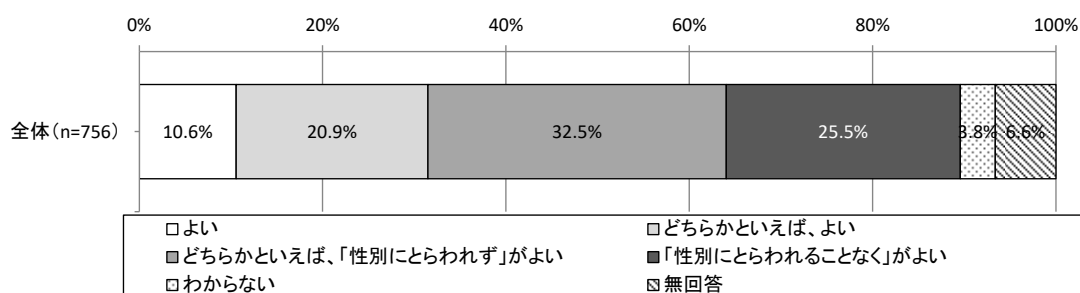
性別でみると、『満足（計）』の回答は、女性（49.1%）よりも男性（78.3%）の方が高くなっている。

年代・性別でみると、30代、50代、60代、70代以上の男性で『満足（計）』の回答が8割以上、40代、50代の女性で『不満（計）』との回答が5割前後と、それぞれ高くなっている。



問6. 「男の子は男らしく、女の子は女らしく」という考え方についてどう思いますか。
次の中から選んでください。(1 つだけに○)

「どちらかといえば、『性別にとらわれず』がよい」が 32.5%と最も高く、次いで「『性別にとらわれることなく』がよい」が 25.5%、「どちらかといえば、よい」が 20.9%となっている。



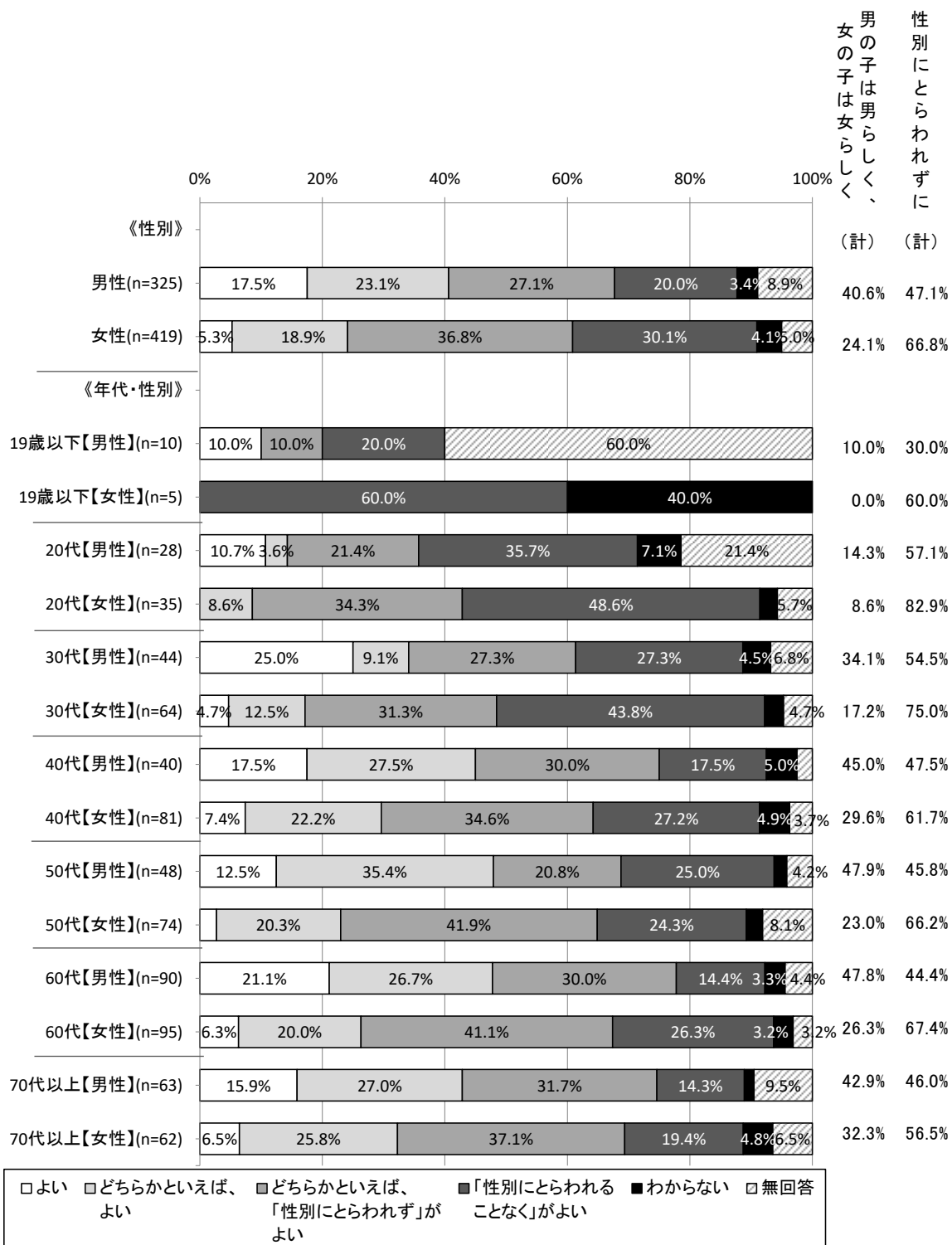
項目	度数	構成比
よい	80	10.6%
どちらかといえば、よい	158	20.9%
どちらかといえば、「性別にとらわれず」がよい	246	32.5%
「性別にとらわれることなく」がよい	193	25.5%
わからない	29	3.8%
無回答	50	6.6%
合計	756	100.0%

【「男の子は男らしく、女の子は女らしく」という考え方：性別・年代】

性別でみると、男女とも「どちらかといえば、『性別にとらわれず』がよい」と『性別にとらわれることなく』がよい』を合わせた『性別にとらわれずに（計）』の割合が高いが、男性（47.1%）よりも女性（66.8%）の方が19.7ポイント上回っている。

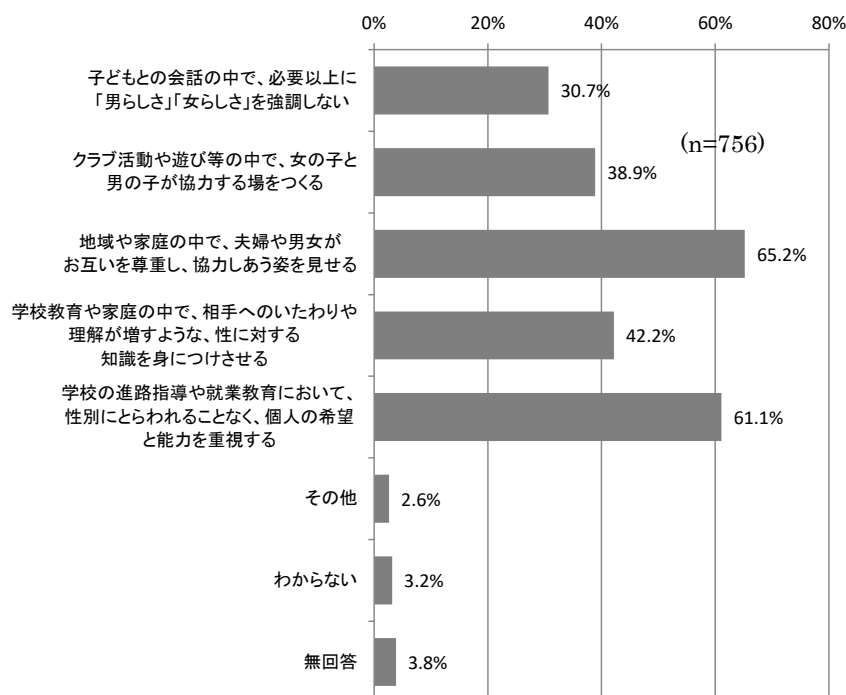
男性では、「よい」と「どちらかといえば、よい」を合わせた「男の子は男らしく、女の子は女らしく（計）」が40.6%で、女性（24.1%）を16.5ポイント上回っている。

年代・性別でみると、50代、60代の男性で『男の子は男らしく、女の子は女らしく（計）』の回答が約5割と比較的高く、20代、30代では男女ともに『性別にとらわれずに（計）』との回答が半数を超えている。



問7. 子どもたちが男女平等の人間関係をつくっていくために、親や大人はどのようなことを心がけるべきだと思いますか。（3つまでに○）

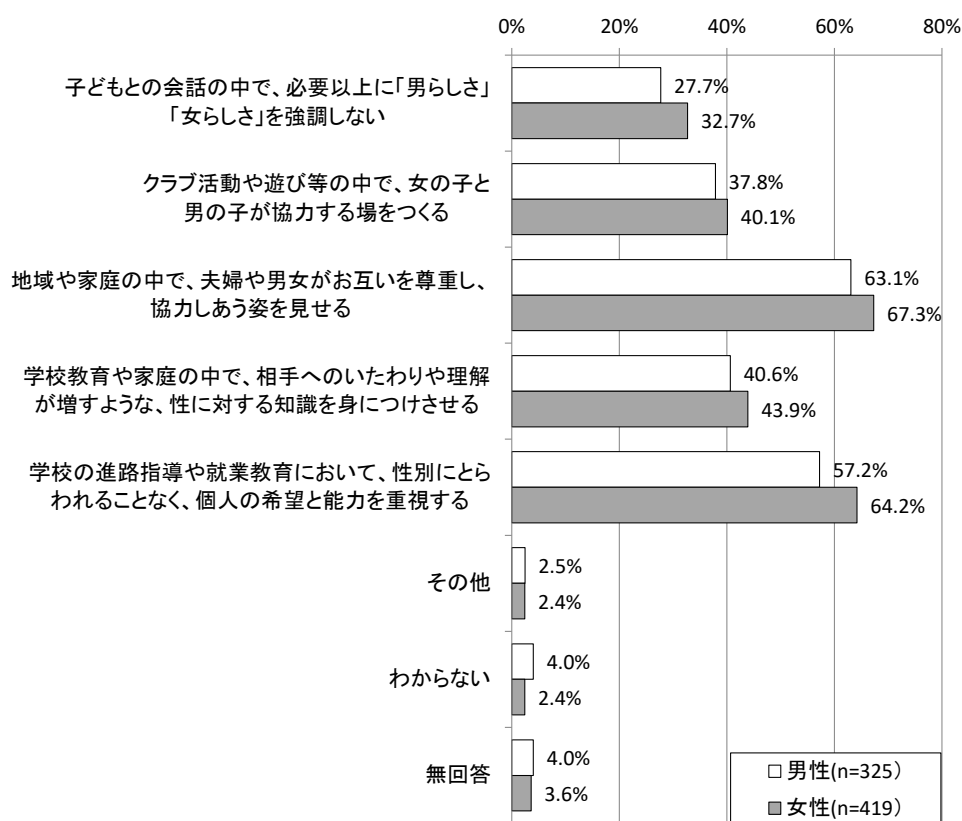
「地域や家庭の中で、夫婦や男女がお互いを尊重し、協力しあう姿を見せる」（65.2%）が最も高く、次いで「学校の進路指導や就業教育において、性別にとらわれることなく、個人の希望と能力を重視する」（61.1%）、「学校教育や家庭の中で、相手へのいたわりや理解が増すような、性に対する知識を身につけさせる」（42.2%）となっている。



項目	度数	構成比
子どもとの会話の中で、必要以上に「男らしさ」「女らしさ」を強調しない	232	30.7%
クラブ活動や遊び等の中で、女の子と男の子が協力する場をつくる	294	38.9%
地域や家庭の中で、夫婦や男女がお互いを尊重し、協力しあう姿を見せる	493	65.2%
学校教育や家庭の中で、相手へのいたわりや理解が増すような、性に対する知識を身につけさせる	319	42.2%
学校の進路指導や就業教育において、性別にとらわれることなく、個人の希望と能力を重視する	462	61.1%
その他	20	2.6%
わからない	24	3.2%
無回答	29	3.8%
合計	756	100.0%

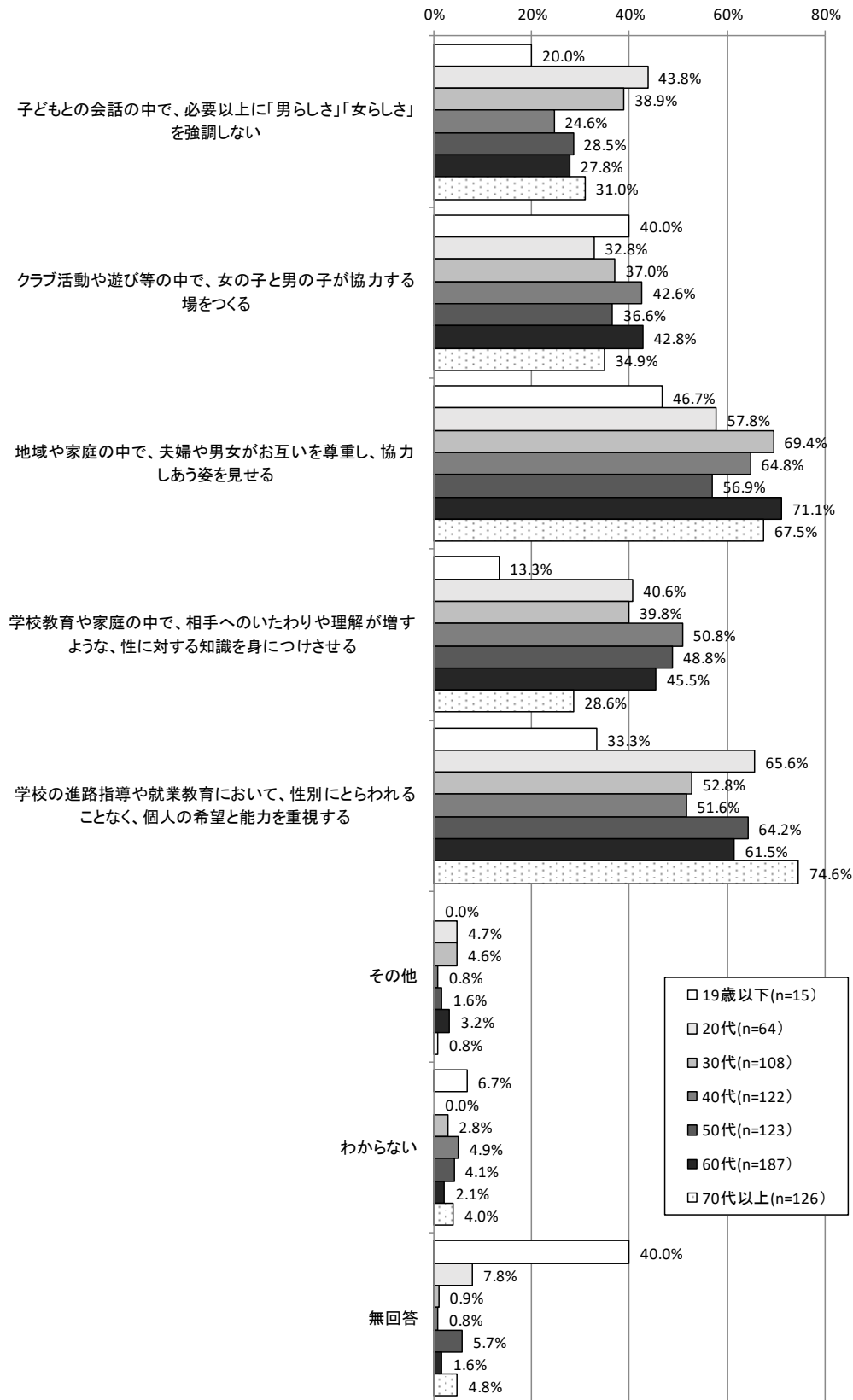
【子どもたちが男女平等の人間関係をつくっていくために心がけるべきこと：性別】

性別でみると、男女ともに「地域や家庭の中で、夫婦や男女がお互いを尊重し、協力しあう姿を見せる」が最も高く、次いで「学校の進路指導や就業教育において、性別にとらわれることなく、個人の希望と能力を重視する」となっている。「学校の進路指導や就業教育において、性別にとらわれることなく、個人の希望と能力を重視する」については、男性（57.2%）より女性（64.2%）の方が7.0ポイント高くなっている。



【子どもたちが男女平等の人間関係をつくっていくために心がけるべきこと：年代別】

年代別でみると、20代、50代、70代以上では「学校の進路指導や就業教育において、性別にとらわれることなく、個人の希望と能力を重視する」が、19歳以下、30代、40代、60代では「地域や家庭の中で、夫婦や男女がお互いを尊重し、協力しあう姿を見せる」が、それぞれ最も高くなっている。



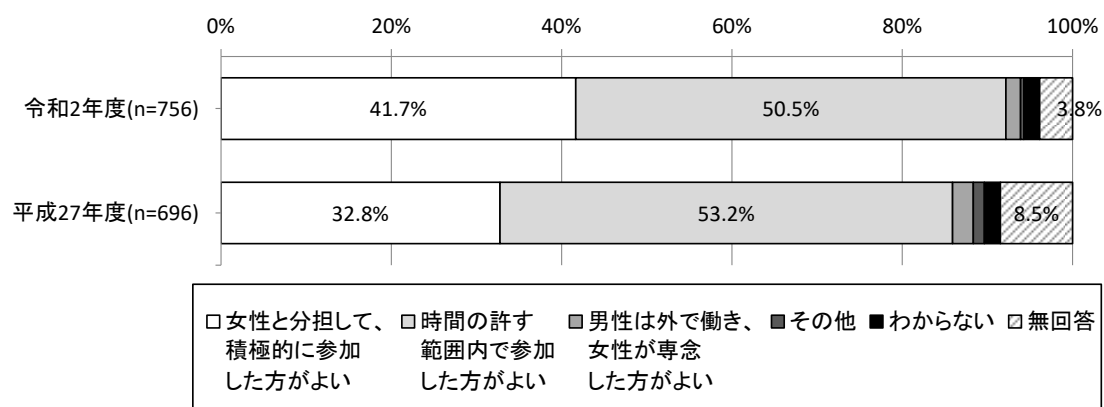
問 8. 男性が、育児・介護に参加することについてどう思いますか。

(それぞれ1つだけに○)

問 8-1. 男性の育児参加について

「時間の許す範囲内で参加した方がよい」が 50.5%と最も高く、次いで「女性と分担して、積極的に参加した方がよい」が 41.7%となっている。

前回調査と比べると、「女性と分担して、積極的に参加した方がよい」が前回調査より 8.9ポイント高くなっている。



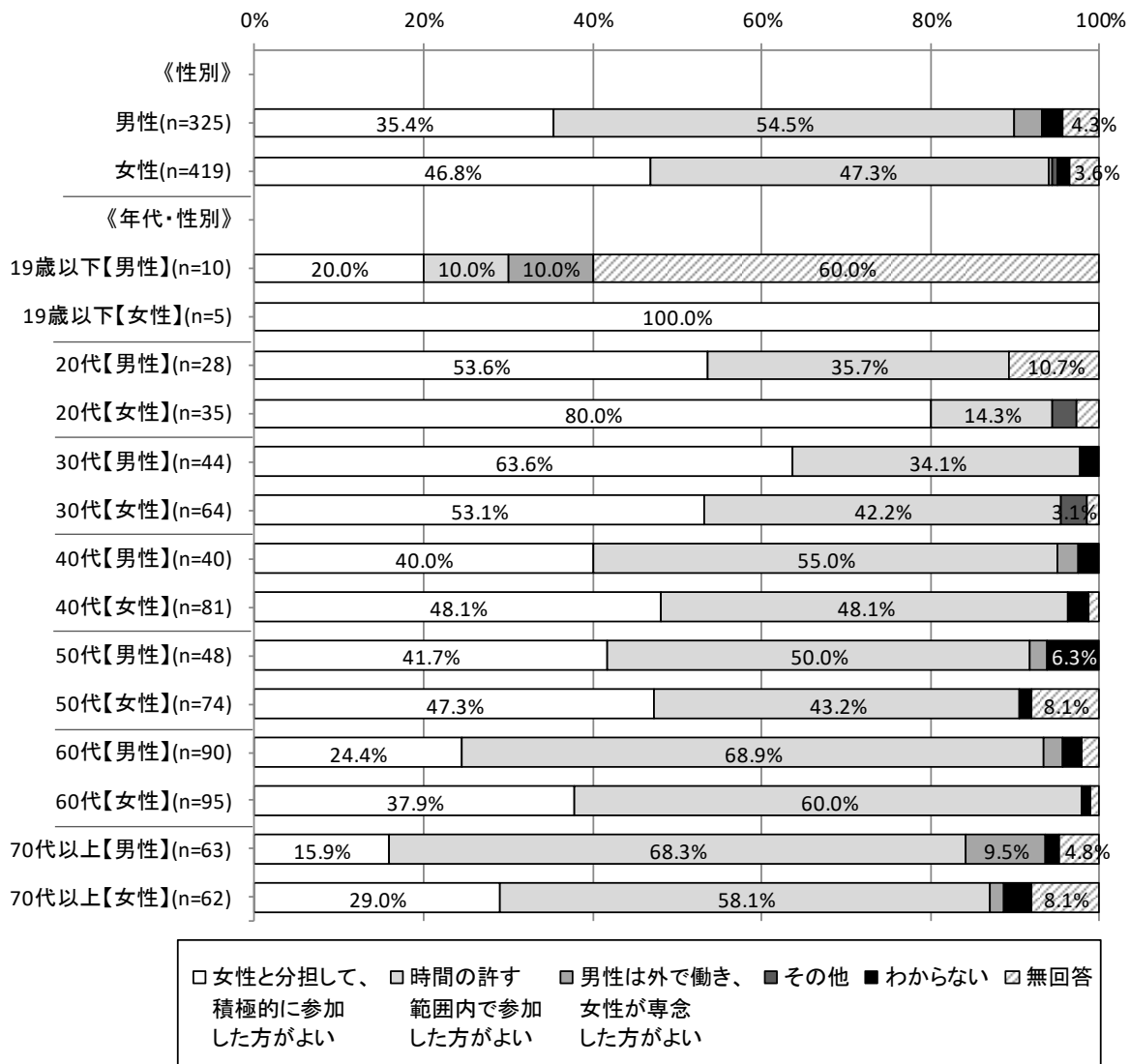
項目	度数	構成比
女性と分担して、積極的に参加した方がよい	315	41.7%
時間の許す範囲内で参加した方がよい	382	50.5%
男性は外で働き、女性が専念した方がよい	13	1.7%
その他	3	0.4%
わからない	14	1.9%
無回答	29	3.8%
合計	756	100.0%

※ 前回調査（平成 27 年度調査）では、「男性」を「父親」で、「女性」を「母親」で掲載している。

【男性の育児参加について：性別・年代】

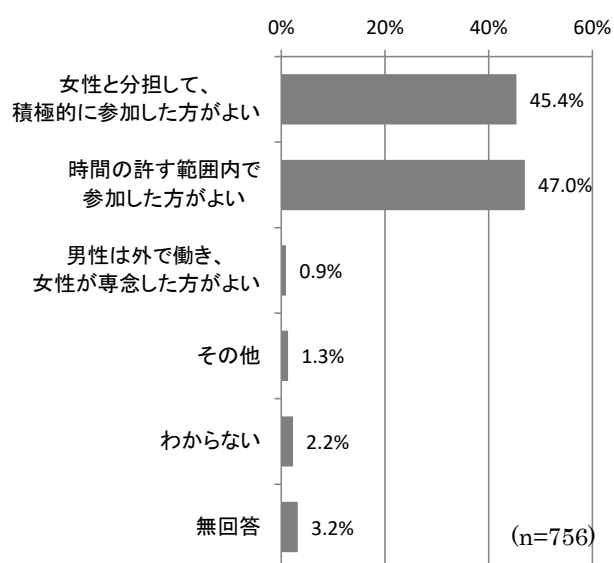
性別でみると、「女性と分担して、積極的に参加した方がよい」の項目では男性（35.4%）より女性（46.8%）が高く、「時間の許す範囲内で参加した方がよい」の項目では女性（47.3%）より男性（54.5%）が高くなっている。

年代・性別でみると、男女ともに20代以降で年代が上がるに従い「女性と分担して、積極的に参加した方がよい」の回答が概ね低くなり、反対に「時間の許す範囲内で参加した方がよい」の回答が概ね高くなっている。



問8-2. 男性の介護参加について

「時間の許す範囲内で参加した方がよい」が47.0%と最も高く、次いで「女性と分担して、積極的に参加するのがよい」が45.4%となっている。

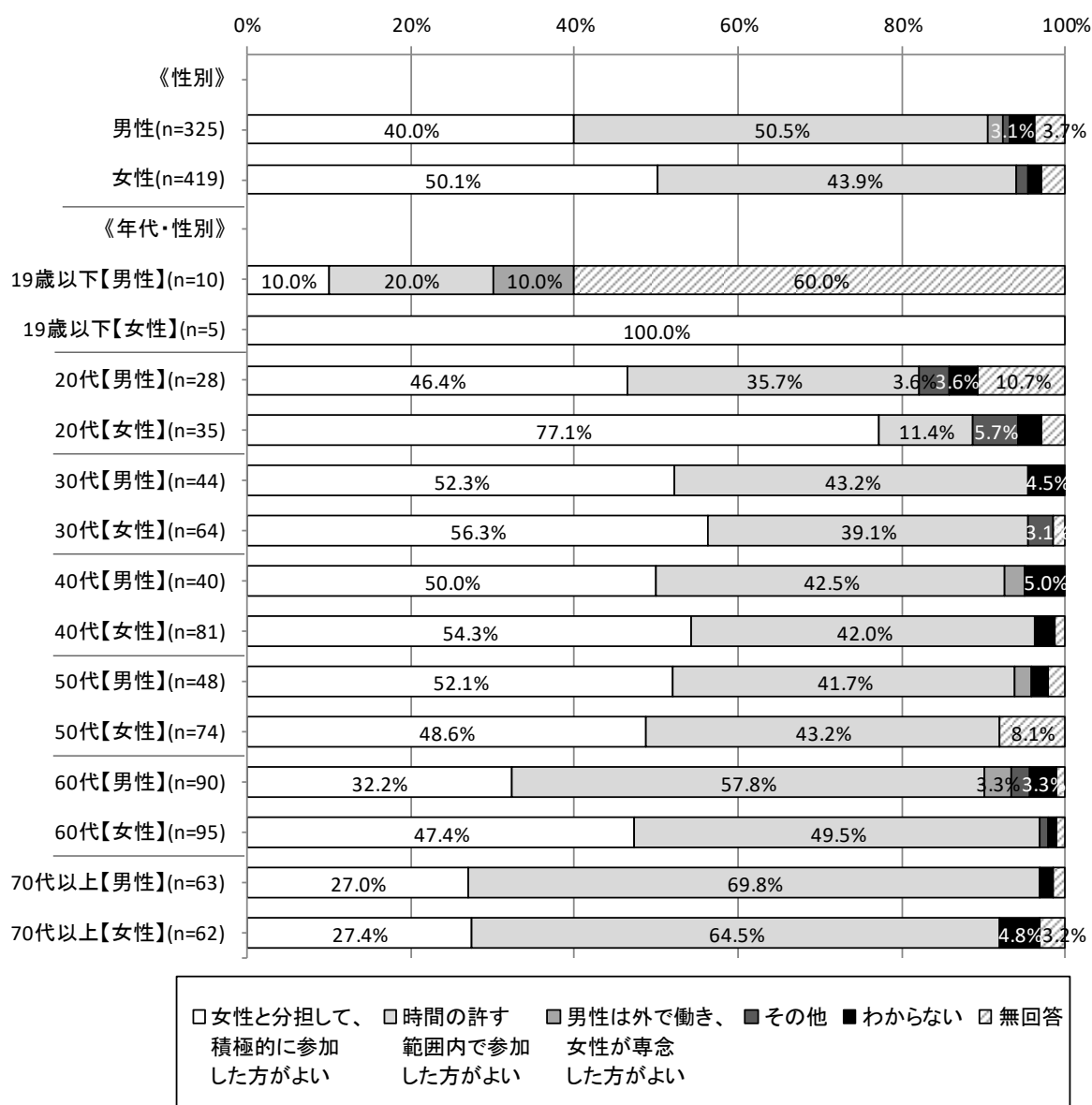


項目	度数	構成比
女性と分担して、積極的に参加した方がよい	343	45.4%
時間の許す範囲内で参加した方がよい	355	47.0%
男性は外で働き、女性が専念した方がよい	7	0.9%
その他	10	1.3%
わからない	17	2.2%
無回答	24	3.2%
合計	756	100.0%

【男性の介護参加について：性別・年代】

性別でみると、「女性と分担して、積極的に参加した方がよい」の項目で男性（40.0%）より女性（50.1%）の回答の方が高く、「時間の許す範囲内で参加した方がよい」の項目では女性（43.9%）より男性（50.5%）が高くなっている。

年代・性別でみると、男性は30代以降で、女性は20代以降で年代が上がるに従い、「女性と分担して、積極的に参加するのがよい」との回答が概ね低くなり、反対に「時間の許す範囲内で参加すればよい」との回答が概ね高くなっている。

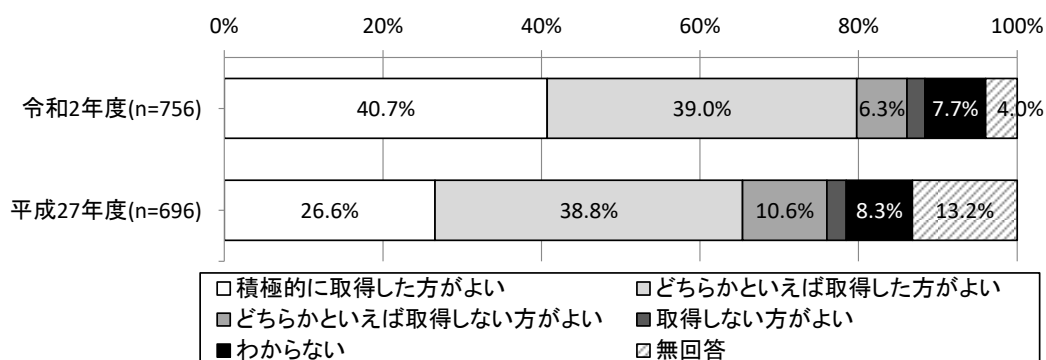


問 9. 育児や家族介護を行うために、法律に基づき育児休業や介護休業を取得できる制度があります。あなたは、この制度を活用して、男性が育児休業や介護休業を取得することについてどのように思いますか。（それぞれ 1 つだけに○）

問 9-1. 男性が育児休業を取得することについて

「育児休業について」の回答では、「積極的に取得した方がよい」が 40.7%と最も高く、次いで「どちらかといえば取得した方がよい」が 39.0%となり、2 つを合わせた『取得した方がよい（計）』は 79.7%となっている。

前回調査と比べると、『取得した方がよい（計）』は 14.3 ポイント増加している。



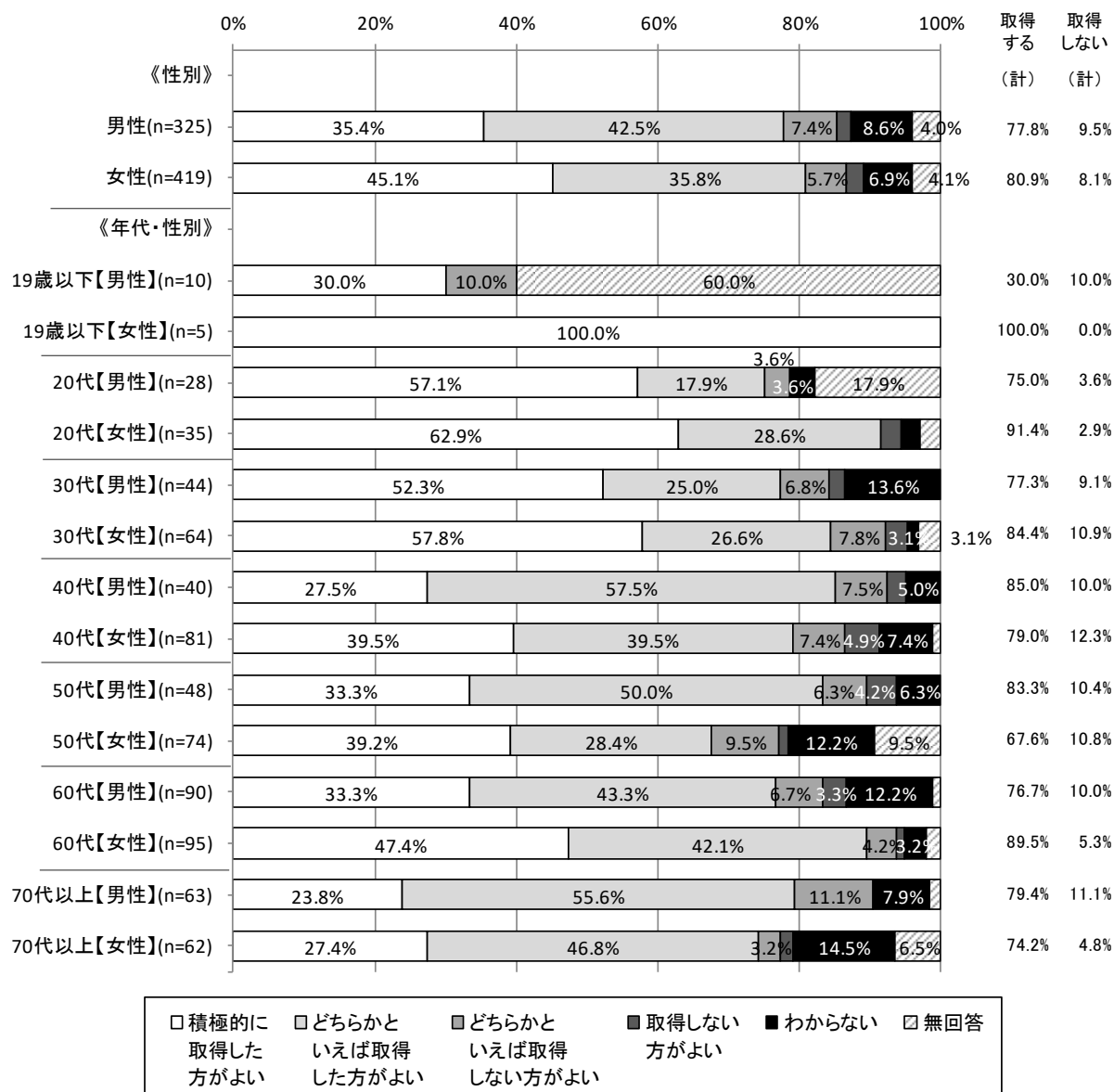
項 目	育児休業について	
	度数	構成比
積極的に取得した方がよい	308	40.7%
どちらかといえば取得した方がよい	295	39.0%
どちらかといえば取得しない方がよい	48	6.3%
取得しない方がよい	17	2.2%
わからない	58	7.7%
無回答	30	4.0%
合計	756	100.0%

項目	育児
取得した方がよい（計）	79.7%
取得しない方がよい（計）	8.6%

【男性が育児休業を取得することについて：性別・年代】

性別でみると、『取得した方がよい（計）』との回答は、男性（77.8%）より女性（80.9%）の方が、3.1ポイント高くなっている。

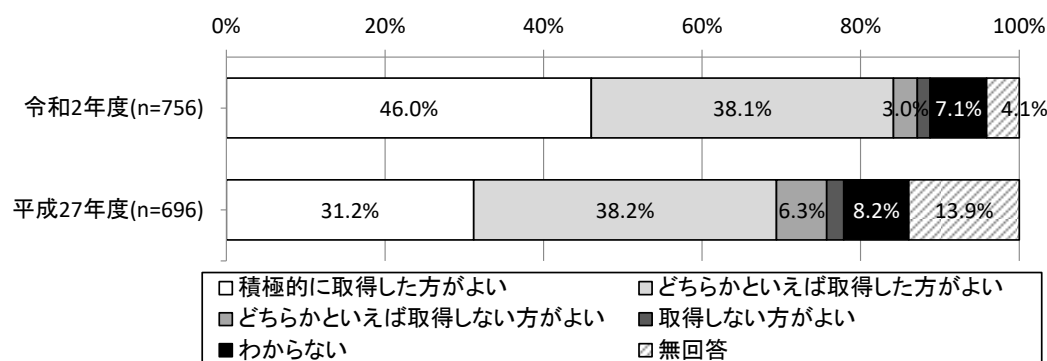
年代・性別でみると、50代女性では『取得した方がよい（計）』が67.6%と比較的低くなっている。40代男性、50代男性では『取得した方がよい（計）』が8割を超え、比較的高くなっている。



問9-2. 男性が介護休業を取得することについて

「介護休業について」の回答では、「積極的に取得した方がよい」が46.0%と最も高く、次いで「どちらかといえば取得した方がよい」が38.1%となっており、2つを合わせた『取得した方がよい（計）』は84.1%となっている。

前回調査と比べると、『取得した方がよい（計）』は14.7ポイント増加している。



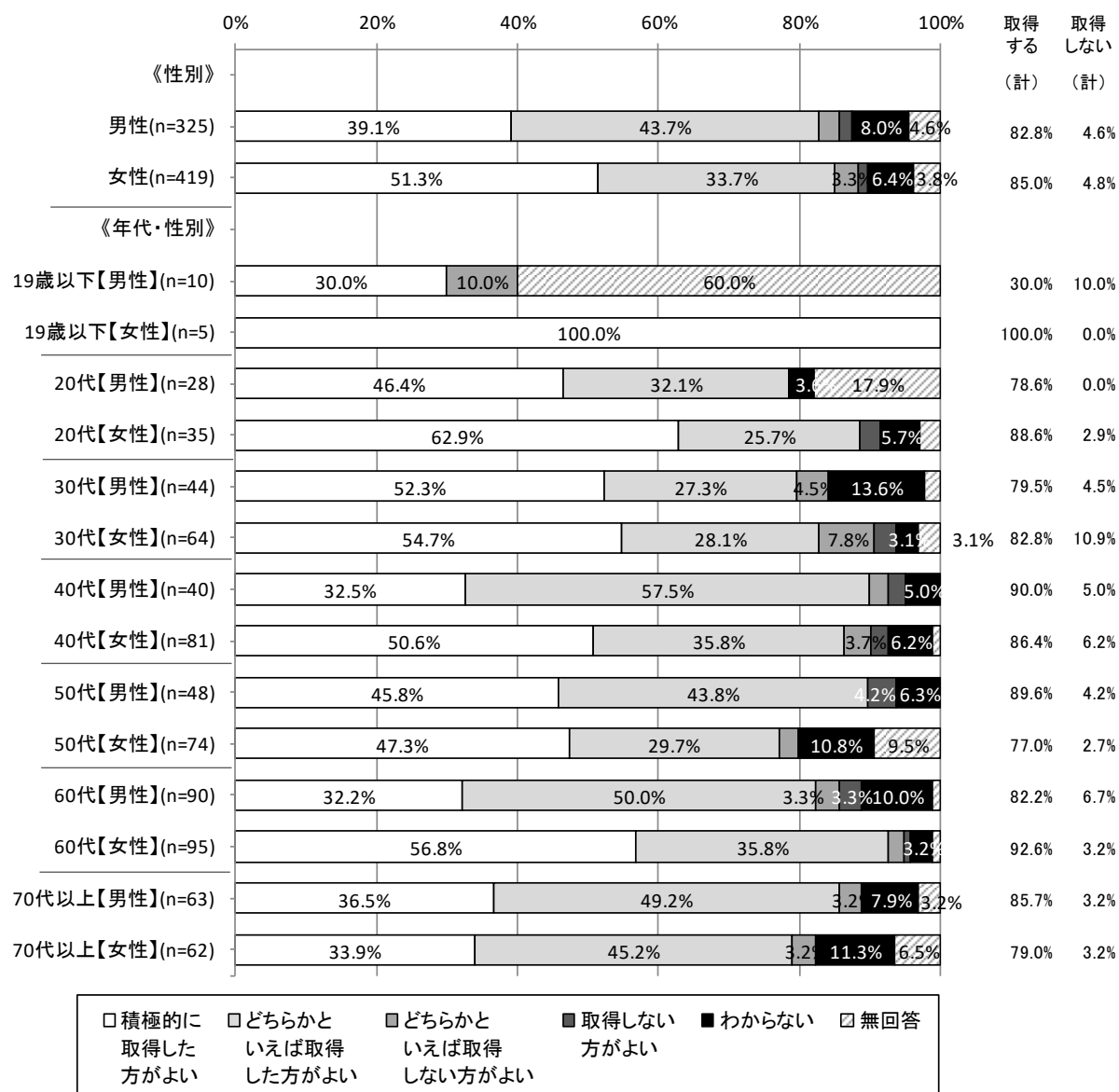
項 目	介護休業について	
	度数	構成比
積極的に取得した方がよい	348	46.0%
どちらかといえば取得した方がよい	288	38.1%
どちらかといえば取得しない方がよい□	23	3.0%
取得しない方がよい	12	1.6%
わからない	54	7.1%
無回答	31	4.1%

項目	介護
取得した方がよい（計）	84.1%
取得しない方がよい（計）	4.6%

【男性が介護休業を取得することについて：性別・年代】

性別でみると、『取得した方がよい（計）』の回答は、男性（82.8%）より女性（85.0%）の方が2.2ポイント高くなっている。

年代・性別でみると、40代男性、60代女性では『取得した方がよい（計）』との回答が9割以上となっており、比較的高くなっている。

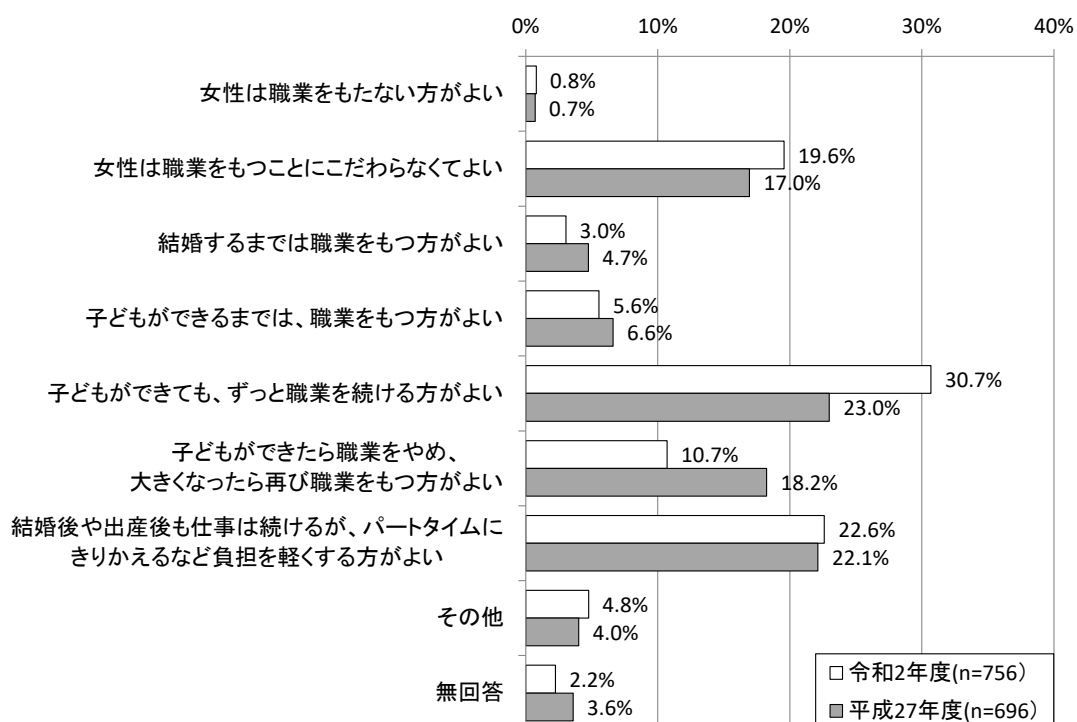


4) 女性の働き方や活躍について

問 10. あなたは、女性が職業をもつことについて、どうお考えですか。あなたの考えに最も近いものを選んでください。(1 つだけに○)

「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が 30.7%と最も高く、次いで「結婚後や出産後も仕事は続けるが、パートタイムにきりかえるなど負担を軽くする方がよい」が 22.6%、「女性は職業をもつことにこだわらなくてよい」が 19.6%となっている。

前回調査と比べると、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が 7.7 ポイント増加し、「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」が 7.5 ポイント減少している。



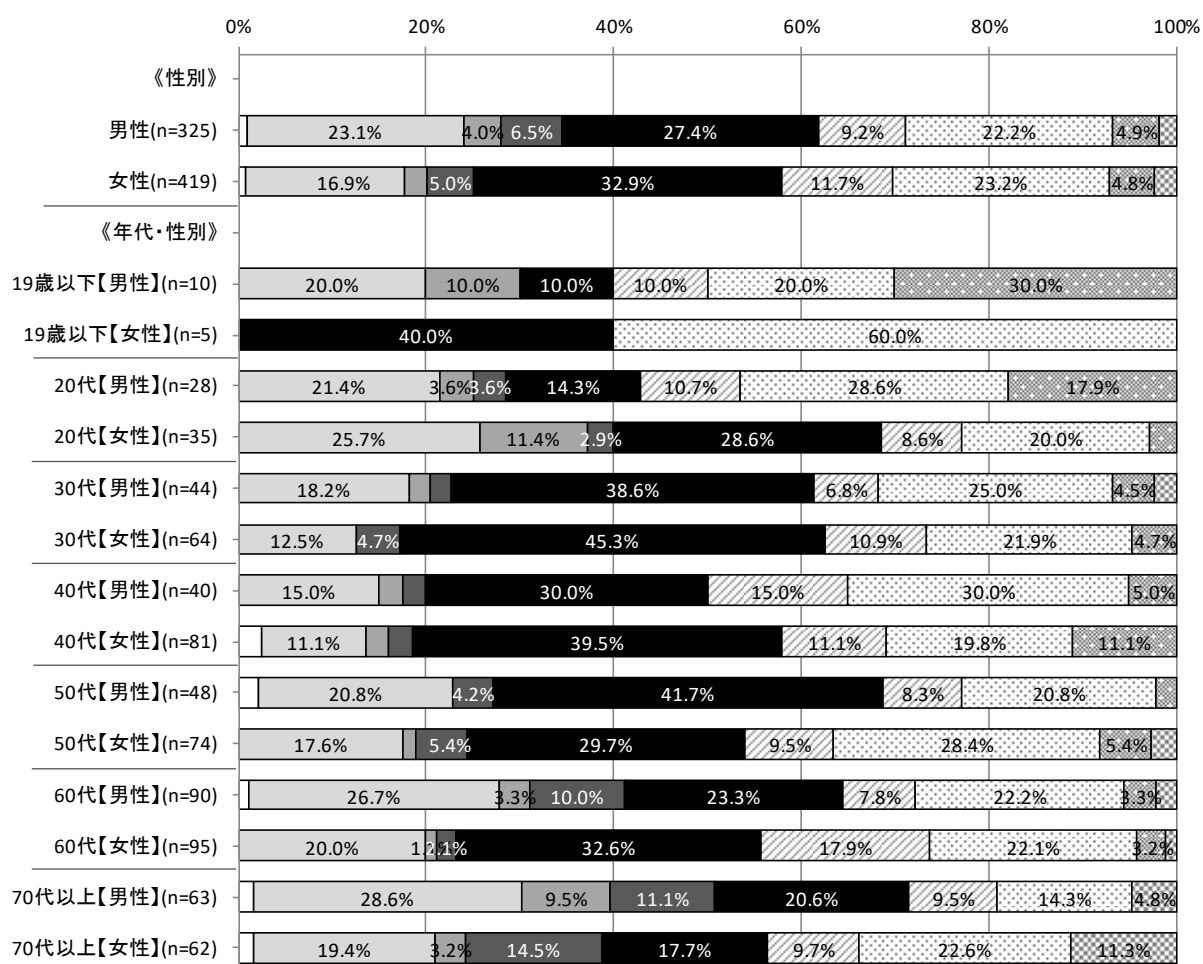
項目	度数	構成比
女性は職業をもたない方がよい	6	0.8%
女性は職業をもつことにこだわらなくてよい	148	19.6%
結婚するまでは職業をもつ方がよい	23	3.0%
子どもができるまでは、職業をもつ方がよい	42	5.6%
子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい	232	30.7%
子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい	81	10.7%
結婚後や出産後も仕事は続けるが、パートタイムにきりかえるなど負担を軽くする方がよい	171	22.6%
その他	36	4.8%
無回答	17	2.2%
合計	756	100.0%

【女性が職業をもつことについての考え方：性別・年代】

性別でみると、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」の項目で男性（27.4%）より女性（32.9%）の方が、5.5ポイント高くなっている。

年代・性別でみると、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」との回答では19歳以下女性、30代男女、40代女性、50代男性で4割前後と比較的高くなっている。

また、「結婚後や出産後も仕事は続けるが、パートタイムにきりかえるなど負担を軽くする方がよい」の回答は40代男性、50代女性で概ね3割と比較的高くなっている。

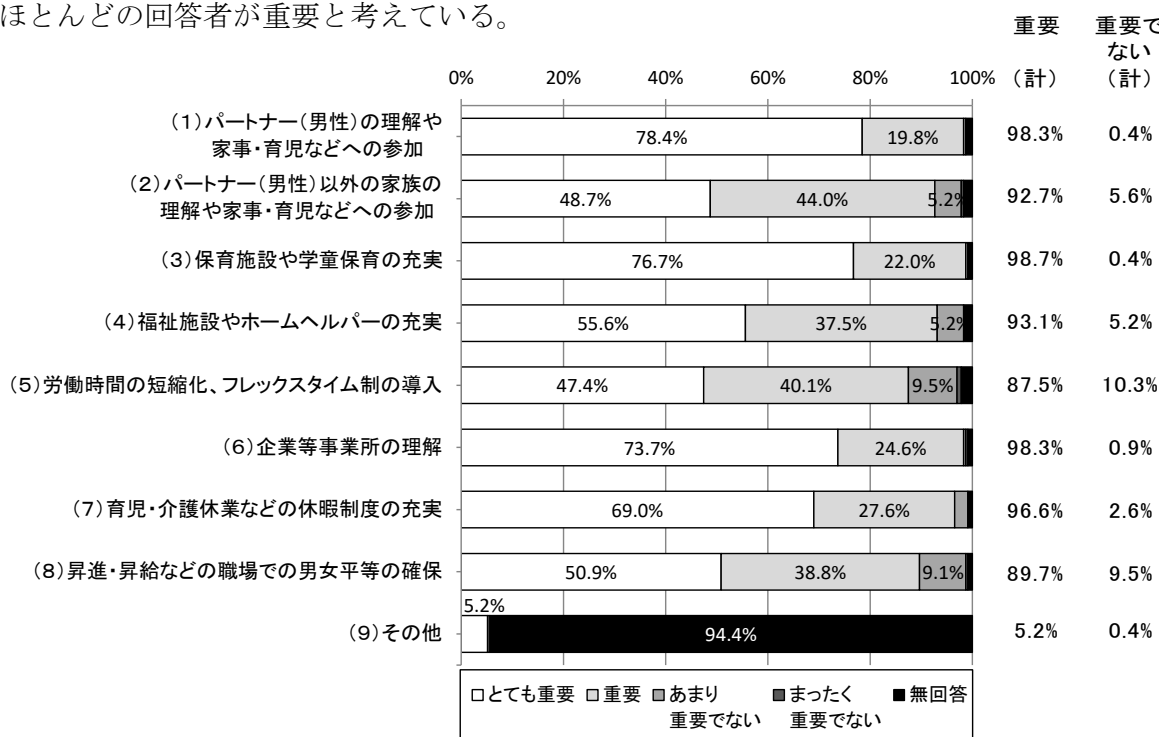


☐ 女性に職業をもたない方がよい
 ☐ 女性に職業をもつことにこだわらなくてよい
 ☐ 結婚するまでは職業をもつ方がよい
 ☐ 子どもができるまでは、職業をもつ方がよい
 ☐ 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい
 ☐ 子どもができて、職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい
 ☐ 結婚後や出産後も仕事は続けるが、パートタイムにきりかえるなど負担を軽くする方がよい
 ☐ その他
 ☐ 無回答

【問 10.（女性が職業をもつことについての考え方）で、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」と回答した方に】

問 10-1. あなたは、女性が結婚後、出産後も退職せずに働き続けるためには、どのようなことが重要だと思いますか。次の（１）～（８）のそれぞれについて、あなたの考えに近いものを選んでください。（それぞれ１つだけに○）

「とても重要」、「重要」を合わせた『重要（計）』は、その他以外の項目で８割以上となっている。特に「パートナー（男性）の理解や家事・育児などへの参加」、「保育施設や学童保育の充実」、「企業等事業所の理解」、「育児・介護休業などの休暇制度の充実」では、95%を超えほとんどの回答者が重要と考えている。



項目	とても重要	重要	あまり重要でない	まったく重要でない	無回答	回答者数	非該当	合計
(1) パートナー(男性)の理解や家事・育児などへの参加	182	46	1	0	3	232	524	756
(2) パートナー(男性)以外の家族の理解や家事・育児などへの参加	113	102	12	1	4	232	524	756
(3) 保育施設や学童保育の充実	178	51	1	0	2	232	524	756
(4) 福祉施設やホームヘルパーの充実	129	87	12	0	4	232	524	756
(5) 労働時間の短縮化、フレックスタイム制の導入	110	93	22	2	5	232	524	756
(6) 企業等事業所の理解	171	57	1	1	2	232	524	756
(7) 育児・介護休業などの休暇制度の充実	160	64	6	0	2	232	524	756
(8) 昇進・昇給などの職場での男女平等の確保	118	90	21	1	2	232	524	756
(9) その他	12	0	0	1	219	232	524	756

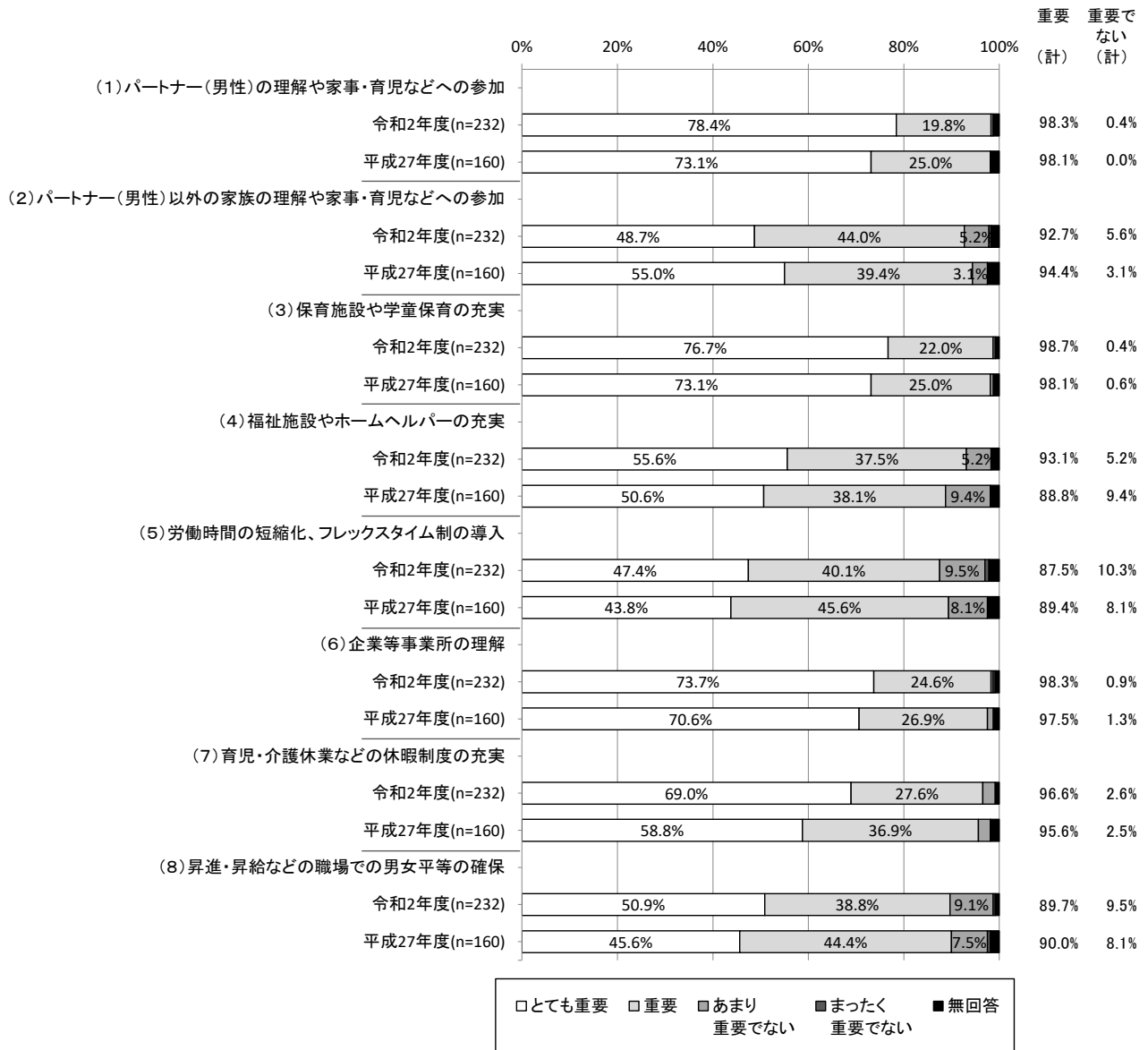
項目（構成比）	とても重要	重要	あまり重要でない	まったく重要でない	無回答	回答者数	非該当	合計
(1) パートナー(男性)の理解や家事・育児などへの参加	78.4%	19.8%	0.4%	0.0%	1.3%	100.0%		
(2) パートナー(男性)以外の家族の理解や家事・育児などへの参加	48.7%	44.0%	5.2%	0.4%	1.7%	100.0%		
(3) 保育施設や学童保育の充実	76.7%	22.0%	0.4%	0.0%	0.9%	100.0%		
(4) 福祉施設やホームヘルパーの充実	55.6%	37.5%	5.2%	0.0%	1.7%	100.0%		
(5) 労働時間の短縮化、フレックスタイム制の導入	47.4%	40.1%	9.5%	0.9%	2.2%	100.0%		
(6) 企業等事業所の理解	73.7%	24.6%	0.4%	0.4%	0.9%	100.0%		
(7) 育児・介護休業などの休暇制度の充実	69.0%	27.6%	2.6%	0.0%	0.9%	100.0%		
(8) 昇進・昇給などの職場での男女平等の確保	50.9%	38.8%	9.1%	0.4%	0.9%	100.0%		
(9) その他	5.2%	0.0%	0.0%	0.4%	94.4%	100.0%		

【女性が職業をもつことについての考え方

「結婚後も出産後も退職せずに働き続けるために重要なこと」：経年比較】

◆「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」と回答した方のみ

前回調査と比べると、ほぼ同様の結果となっている。「福祉施設やホームヘルパーの充実」は前回調査より 4.3 ポイント増加している。



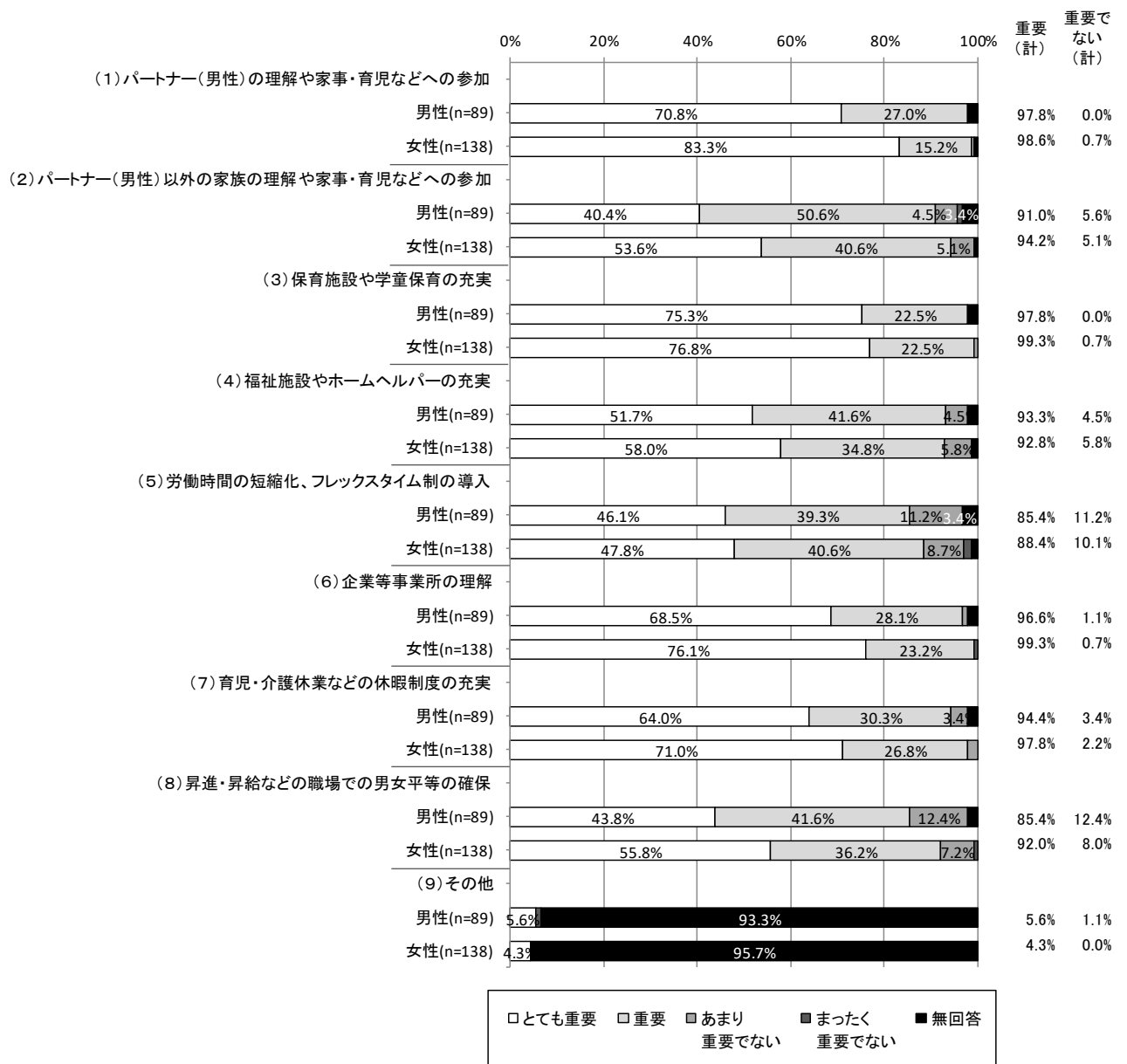
【女性が職業をもつことについての考え方

「結婚後も出産後も退職せずに働き続けるために重要なこと」：性別】

◆「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」と回答した方のみ

性別でみると、男女とも「その他」を除く全ての項目で『重要（計）』が8割を超え、高い割合となっている。

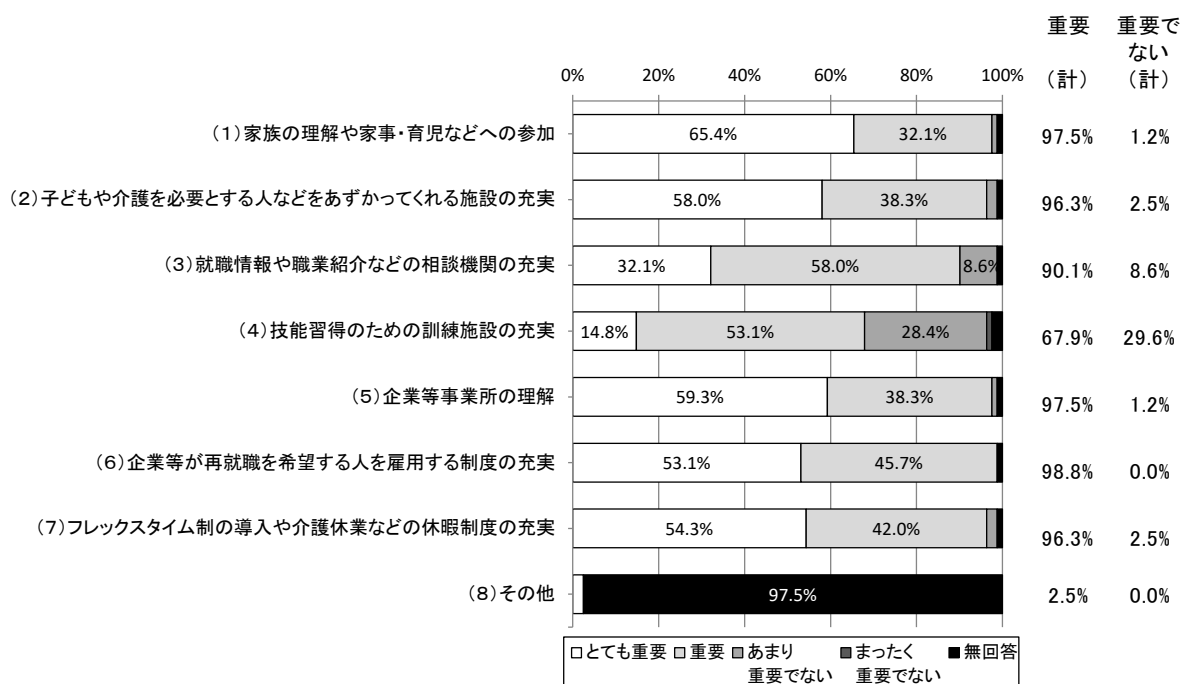
「保育施設や学童保育の充実」は男女ともに「とても重要」が7割を超えている。「パートナー（男性）の理解や家事・育児などへの参加」、「パートナー（男性）以外の家族の理解や家事・育児などへの参加」の項目では、女性で「とても重要」が男性を10ポイント以上上回っている。



【問 10（女性が職業をもつことについての考え方）で、「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」と回答した方に】

問 10-2. あなたは、女性が結婚や出産のために退職し、その後再就職するためには、どのようなことが重要だと思いますか。次の（１）～（７）のそれぞれについて、あなたの考えに近いものを選んでください。（それぞれ１つだけに○）

「とても重要」、「重要」を合わせた『重要（計）』は、「技能習得のための訓練施設の充実」以外の項目で 9 割以上となっている。「技能習得のための訓練施設の充実」は『重要（計）』が 67.9%と他の項目に比べ低く、「あまり重要でない」（28.4%）が比較的高くなっている。



項目	とても重要	重要	あまり重要でない	まったく重要でない	無回答	回答者数	非該当	合計
(1) 家族の理解や家事・育児などへの参加	53	26	1	0	1	81	675	756
(2) 子どもや介護を必要とする人などをあずかってくれる施設の充実	47	31	2	0	1	81	675	756
(3) 就職情報や職業紹介などの相談機関の充実	26	47	7	0	1	81	675	756
(4) 技能習得のための訓練施設の充実	12	43	23	1	2	81	675	756
(5) 企業等事業所の理解	48	31	1	0	1	81	675	756
(6) 企業等が再就職を希望する人を雇用する制度の充実	43	37	0	0	1	81	675	756
(7) フレックスタイム制の導入や介護休業などの休暇制度の充実	44	34	2	0	1	81	675	756
(8) その他	2	0	0	0	79	81	675	756

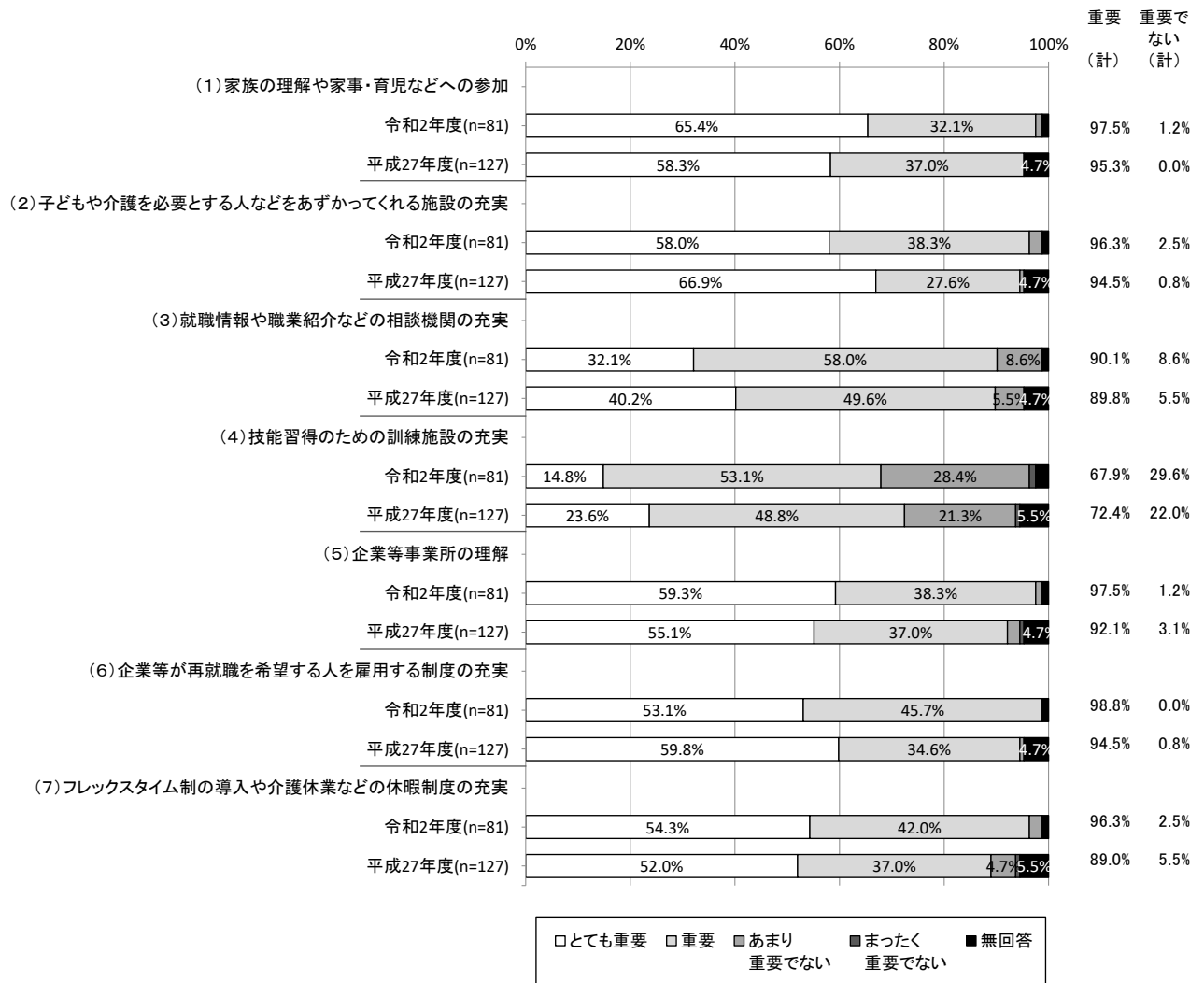
項目（構成比）	とても重要	重要	あまり重要でない	まったく重要でない	無回答	回答者数	非該当	合計
(1) 家族の理解や家事・育児などへの参加	65.4%	32.1%	1.2%	0.0%	1.2%	100.0%		
(2) 子どもや介護を必要とする人などをあずかってくれる施設の充実	58.0%	38.3%	2.5%	0.0%	1.2%	100.0%		
(3) 就職情報や職業紹介などの相談機関の充実	32.1%	58.0%	8.6%	0.0%	1.2%	100.0%		
(4) 技能習得のための訓練施設の充実	14.8%	53.1%	28.4%	1.2%	2.5%	100.0%		
(5) 企業等事業所の理解	59.3%	38.3%	1.2%	0.0%	1.2%	100.0%		
(6) 企業等が再就職を希望する人を雇用する制度の充実	53.1%	45.7%	0.0%	0.0%	1.2%	100.0%		
(7) フレックスタイム制の導入や介護休業などの休暇制度の充実	54.3%	42.0%	2.5%	0.0%	1.2%	100.0%		
(8) その他	2.5%	0.0%	0.0%	0.0%	97.5%	100.0%		

【女性が職業をもつことについての考え方

「結婚や出産で退職した女性が再就職するために重要なこと」：経年比較】

◆「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」と回答した方のみ

前回調査と比べると、「技能習得のための訓練施設の充実」以外の項目で、『重要（計）』の回答が高くなっている。「技能習得のための訓練施設の充実」では、『重要でない（計）』が29.6%と7.6ポイント増加している。

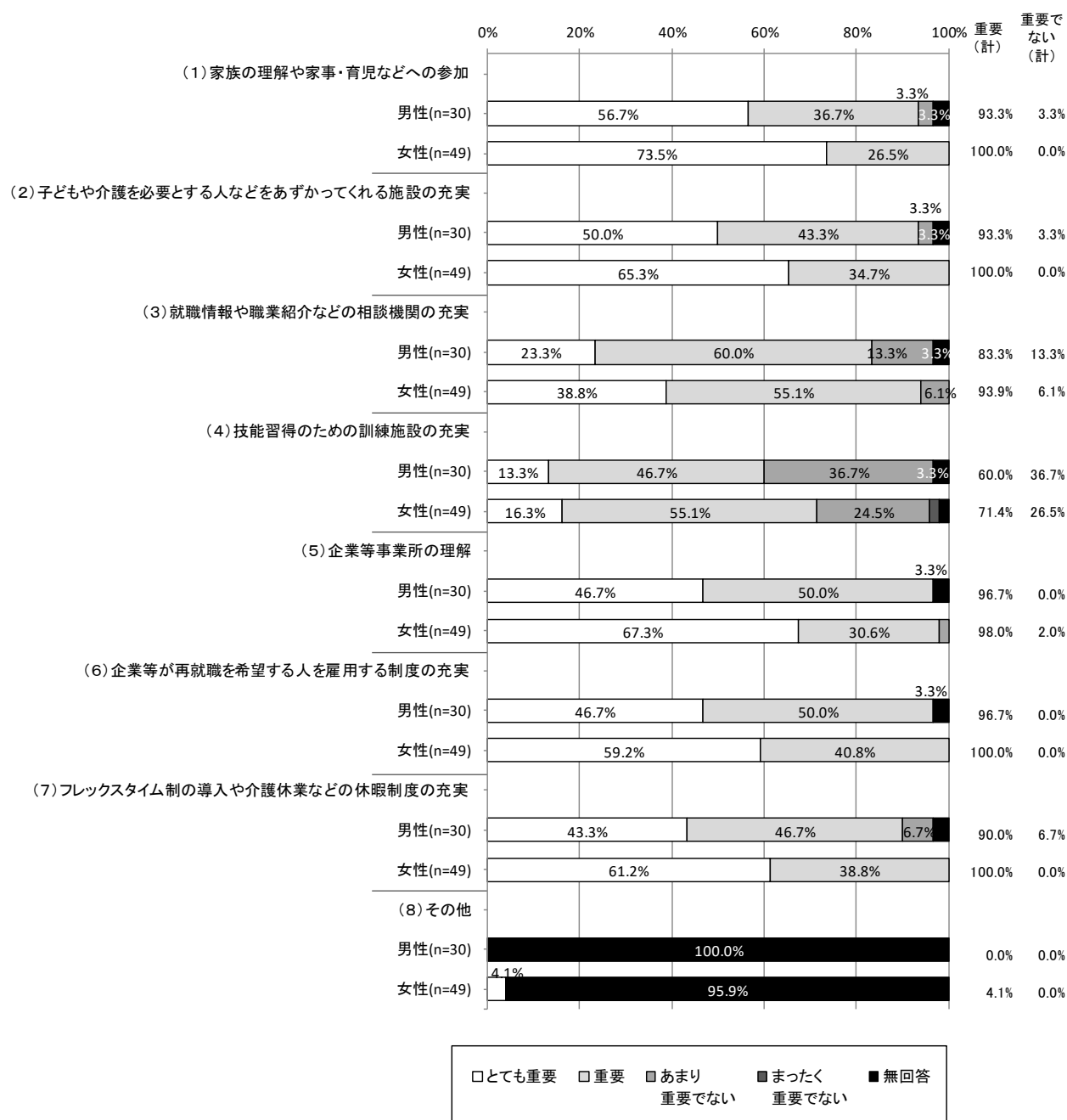


【女性が職業をもつことについての考え方

「結婚や出産で退職した女性が再就職するために重要なこと」：性別】

◆「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」と回答した方のみ

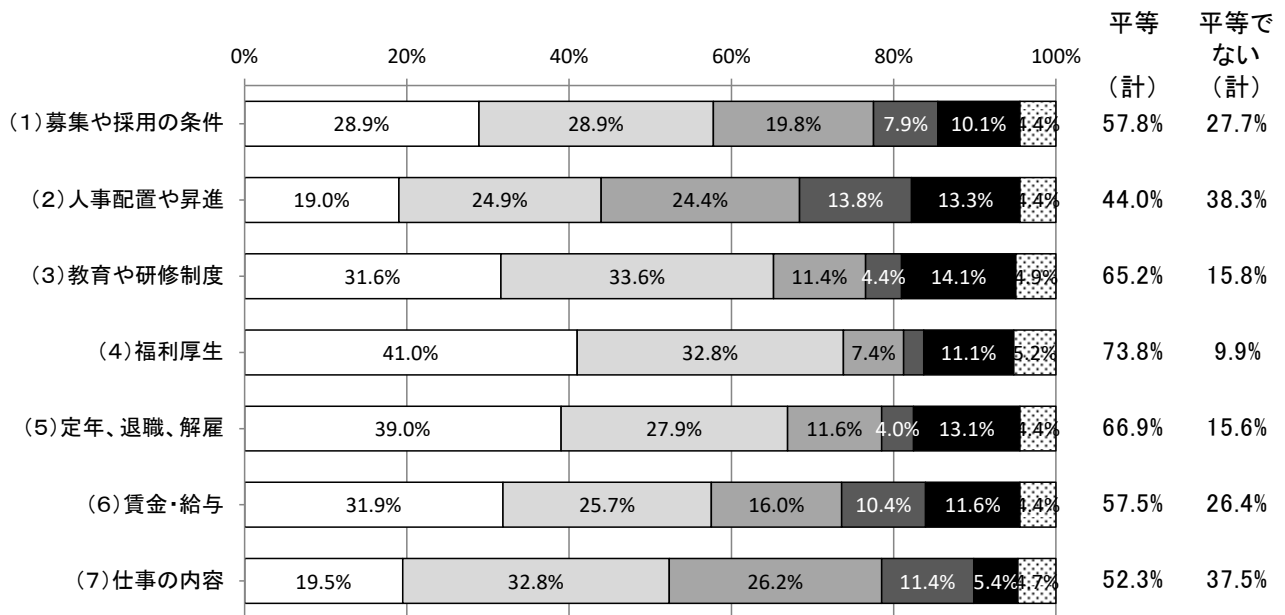
性別でみると、全ての項目において『重要（計）』と回答した割合は、男性よりも女性の方が高くなっている。「企業等事業所の理解」では女性で「とても重要」が 67.3%と、男性を 20.6 ポイント上回っている。



【お勤めしている方（フルタイム・常勤・パート・アルバイト）に】

問 11. あなたの職場では、次の（１）～（７）のことがらについて、男女平等になっていると思いますか。（それぞれ１つだけに○）

「平等」、「ほぼ平等」を合わせた『平等（計）』は、「福利厚生」が 7 割を超え最も高く、一方、「あまり平等とはいえない」、「男女の差が相当ある」を合わせた『平等でない（計）』は、「人事配置や昇進」、「仕事の内容」が約 4 割で高くなっている。



□ 平等 □ ほぼ平等 ■ あまり平等とはいえない ■ 男女の差が相当ある ■ わからない □ 無回答

項目	平等	ほぼ平等	あまり平等とはいえない	男女の差が相当ある	わからない	無回答	回答者数	非該当	合計
(1) 募集や採用の条件	117	117	80	32	41	18	405	351	756
(2) 人事配置や昇進	77	101	99	56	54	18	405	351	756
(3) 教育や研修制度	128	136	46	18	57	20	405	351	756
(4) 福利厚生	166	133	30	10	45	21	405	351	756
(5) 定年、退職、解雇	158	113	47	16	53	18	405	351	756
(6) 賃金・給与	129	104	65	42	47	18	405	351	756
(7) 仕事の内容	79	133	106	46	22	19	405	351	756

項目（構成比）	平等	ほぼ平等	あまり平等とはいえない	男女の差が相当ある	わからない	無回答	回答者数	非該当	合計
(1) 募集や採用の条件	28.9%	28.9%	19.8%	7.9%	10.1%	4.4%	100.0%		
(2) 人事配置や昇進	19.0%	24.9%	24.4%	13.8%	13.3%	4.4%	100.0%		
(3) 教育や研修制度	31.6%	33.6%	11.4%	4.4%	14.1%	4.9%	100.0%		
(4) 福利厚生	41.0%	32.8%	7.4%	2.5%	11.1%	5.2%	100.0%		
(5) 定年、退職、解雇	39.0%	27.9%	11.6%	4.0%	13.1%	4.4%	100.0%		
(6) 賃金・給与	31.9%	25.7%	16.0%	10.4%	11.6%	4.4%	100.0%		
(7) 仕事の内容	19.5%	32.8%	26.2%	11.4%	5.4%	4.7%	100.0%		

◆お勤めしている方（フルタイム・常勤・パート・アルバイト）のみ

	0%	20%	40%	60%	80%	100%	平等 (計)	平等で ない (計)
(1) 募集や採用の条件								
令和2年度(n=405)	28.9%	28.9%	19.8%	7.9%	10.1%		57.8%	27.7%
平成27年度(n=431)	22.0%	29.2%	24.6%	10.7%	13.5%		51.3%	35.3%
(2) 人事配置や昇進								
令和2年度(n=405)	19.0%	24.9%	24.4%	13.8%	13.3%		44.0%	38.3%
平成27年度(n=432)	13.0%	24.3%	28.0%	16.2%	18.5%		37.3%	44.2%
(3) 教育や研修制度								
令和2年度(n=405)	31.6%	33.6%	11.4%	4.4%	14.1%		65.2%	15.8%
平成27年度(n=428)	22.2%	35.0%	17.5%	6.5%	18.7%		57.2%	24.1%
(4) 福利厚生								
令和2年度(n=405)	41.0%	32.8%	7.4%	11.1%			73.8%	9.9%
平成27年度(n=429)	31.5%	36.6%	12.1%	4.2%	15.6%		68.1%	16.3%
(5) 定年、退職、解雇								
令和2年度(n=405)	39.0%	27.9%	11.6%	4.0%	13.1%		66.9%	15.6%
平成27年度(n=431)	30.4%	34.1%	12.5%	7.0%	16.0%		64.5%	19.5%
(6) 賃金・給与								
令和2年度(n=405)	31.9%	25.7%	16.0%	10.4%	11.6%		57.5%	26.4%
平成27年度(n=429)	22.1%	24.0%	22.1%	13.3%	18.4%		46.2%	35.4%
(7) 仕事の内容								
令和2年度(n=405)	19.5%	32.8%	26.2%	11.4%	5.4%		52.3%	37.5%
平成27年度(n=431)	14.4%	29.9%	23.0%	19.3%	13.5%		44.3%	42.2%

- 89 -

◆お勤めしている方（フルタイム・常勤・パート・アルバイト）のみ

年代・性別でみると、20代男女、40代、50代女性で『平等（計）』の回答が6割を超え、比較的高くなっている。

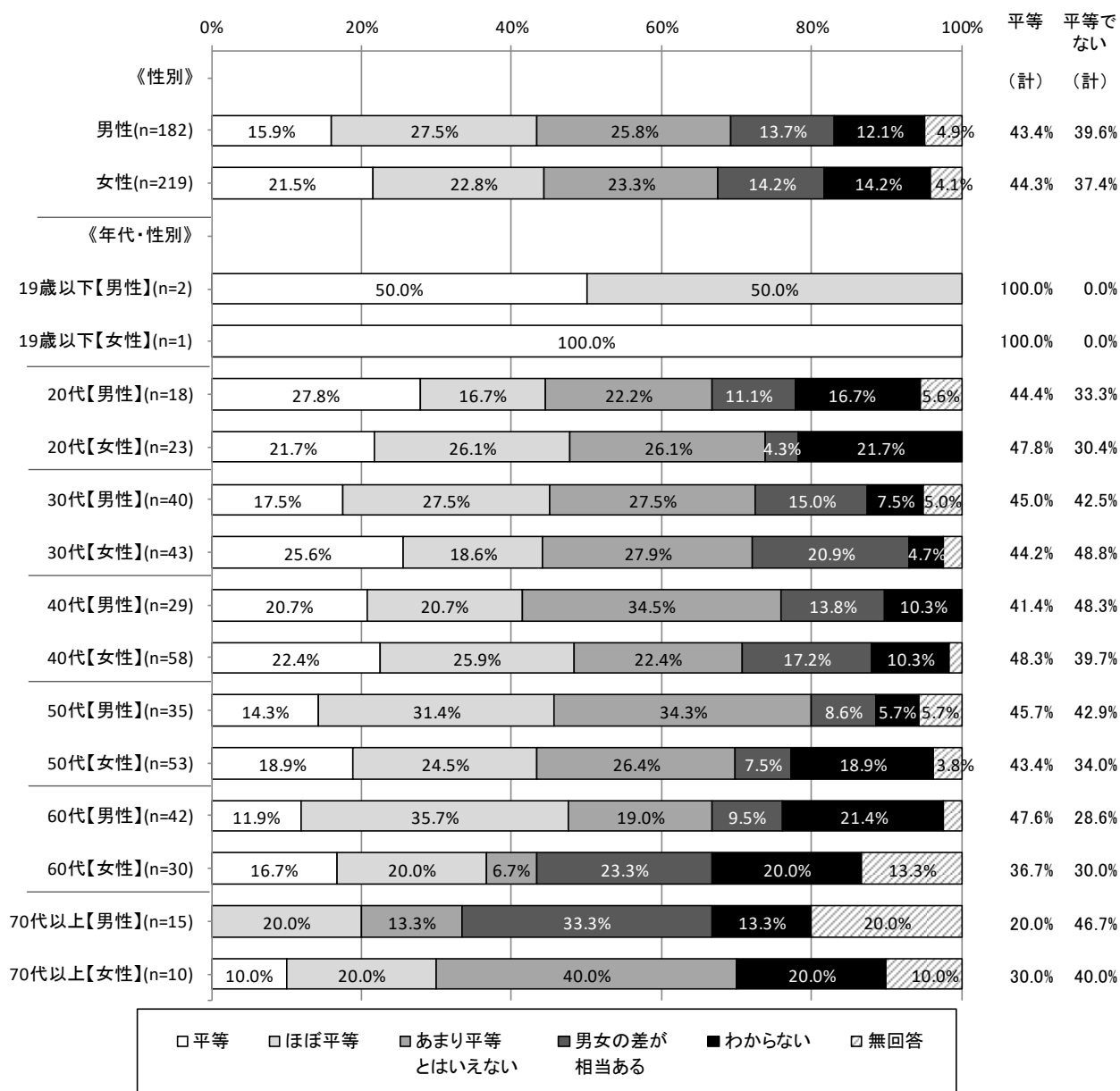


【職場での男女平等観（２）人事配置や昇進：性別・年代】

◆お勤めしている方（フルタイム・常勤・パート・アルバイト）のみ

性別でみると、『平等でない（計）』の回答は、男性（39.6%）、女性（37.4%）で同程度となっている。

年代・性別でみると、30代女性、40代男性で『平等でない（計）』の回答が約５割と比較的高くなっている。



◆お勤めしている方（フルタイム・常勤・パート・アルバイト）のみ

年代・性別でみると、20代男女、40代の女性で『平等（計）』の回答が高くなっている。



◆お勤めしている方（フルタイム・常勤・パート・アルバイト）のみ

年代・性別でみると、30代女性、40代男性、50代男性で『平等（計）』との回答が高くなっている。

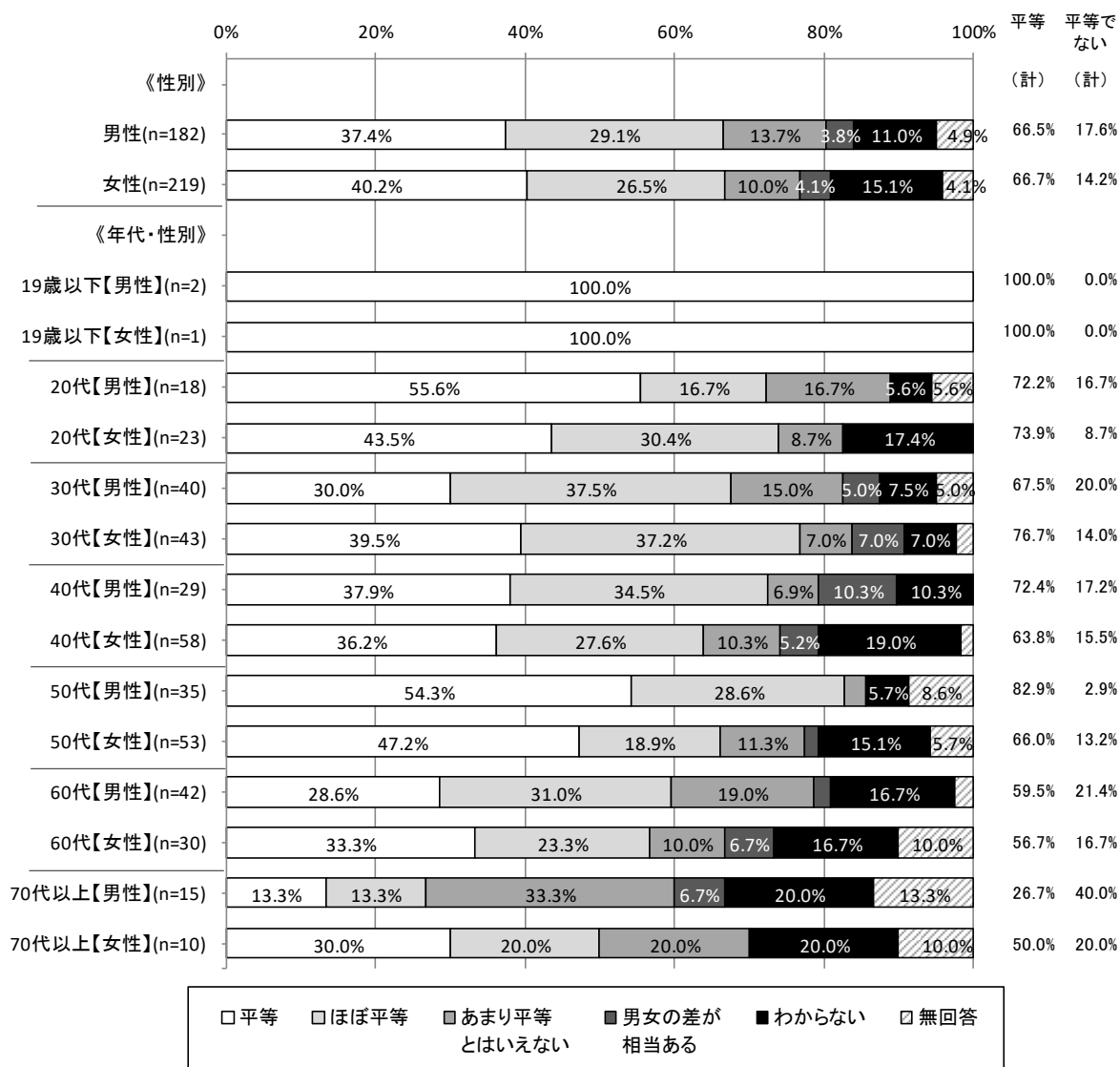


【職場での男女平等観（５）定年、退職、解雇：性別・年代】

◆お勤めしている方（フルタイム・常勤・パート・アルバイト）のみ

性別でみると、『平等（計）』の回答は、男性（66.5%）、女性（66.7%）でほぼ同程度となっている。

年代・性別でみると、20代男女、30代女性、40代男性、50代男性で『平等（計）』の回答が高くなっている。

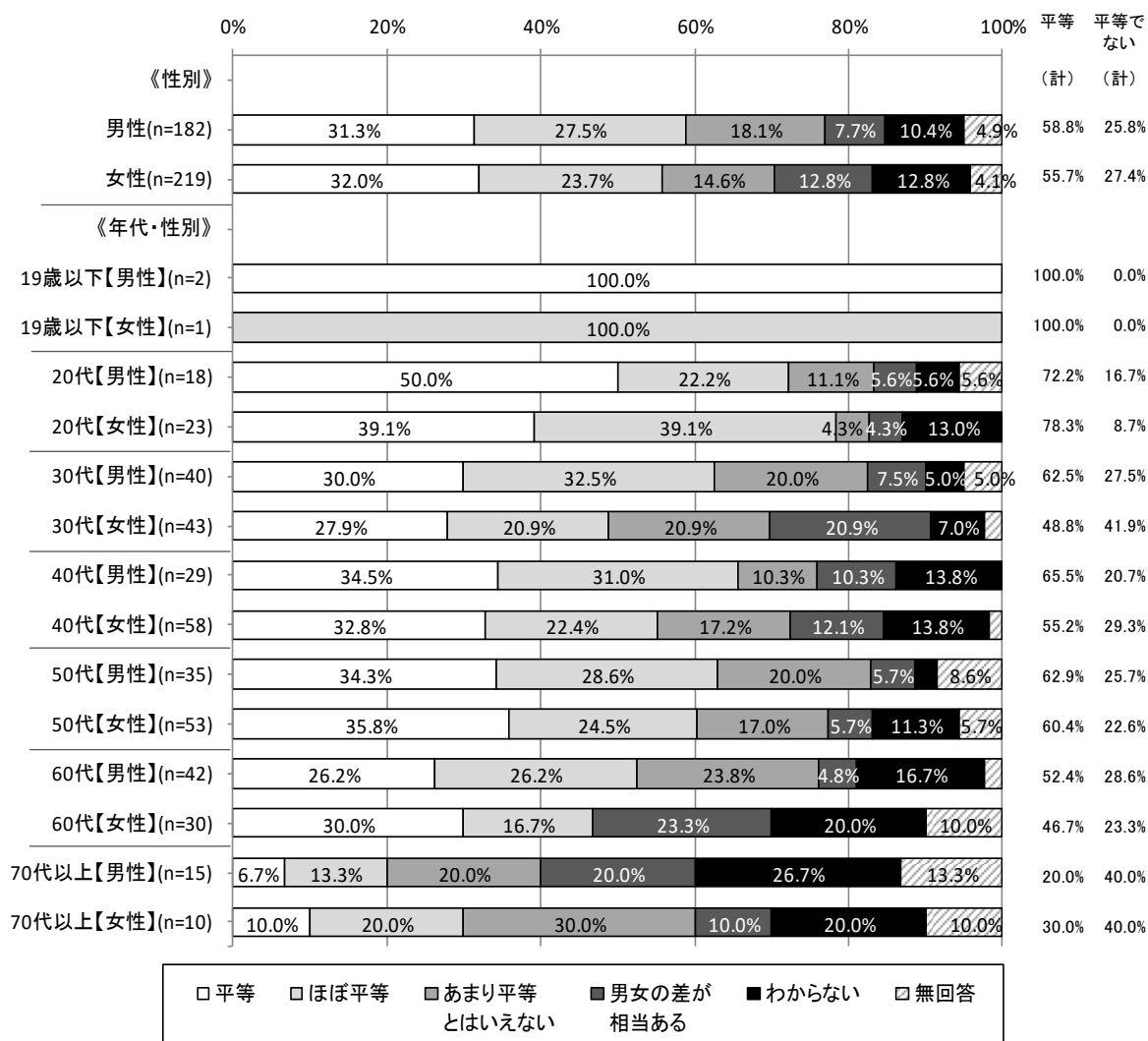


【職場での男女平等観（６）賃金・給与：性別・年代】

◆お勤めしている方（フルタイム・常勤・パート・アルバイト）のみ

性別でみると、『平等（計）』の回答は、男性（58.8%）より女性（55.7%）の方が 3.1 ポイント低くなっている。

年代・性別でみると、20 代男女で『平等（計）』の回答が 7 割を超え、比較的高くなっている。30 代女性では、『平等（計）』と『平等でない（計）』ともに 4 割台となっている。

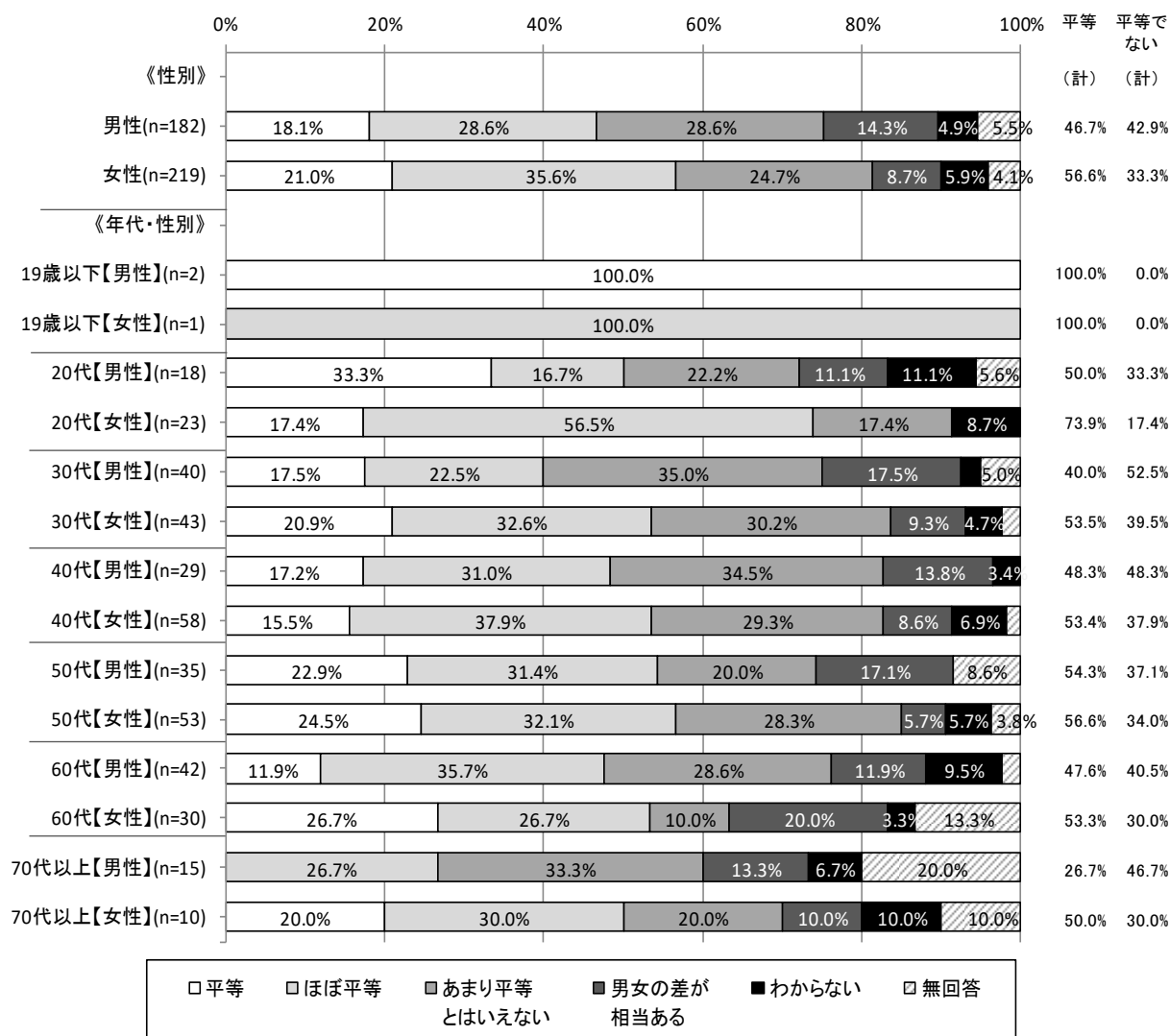


【職場での男女平等観（７）仕事の内容：性別・年代】

◆お勤めしている方（フルタイム・常勤・パート・アルバイト）のみ

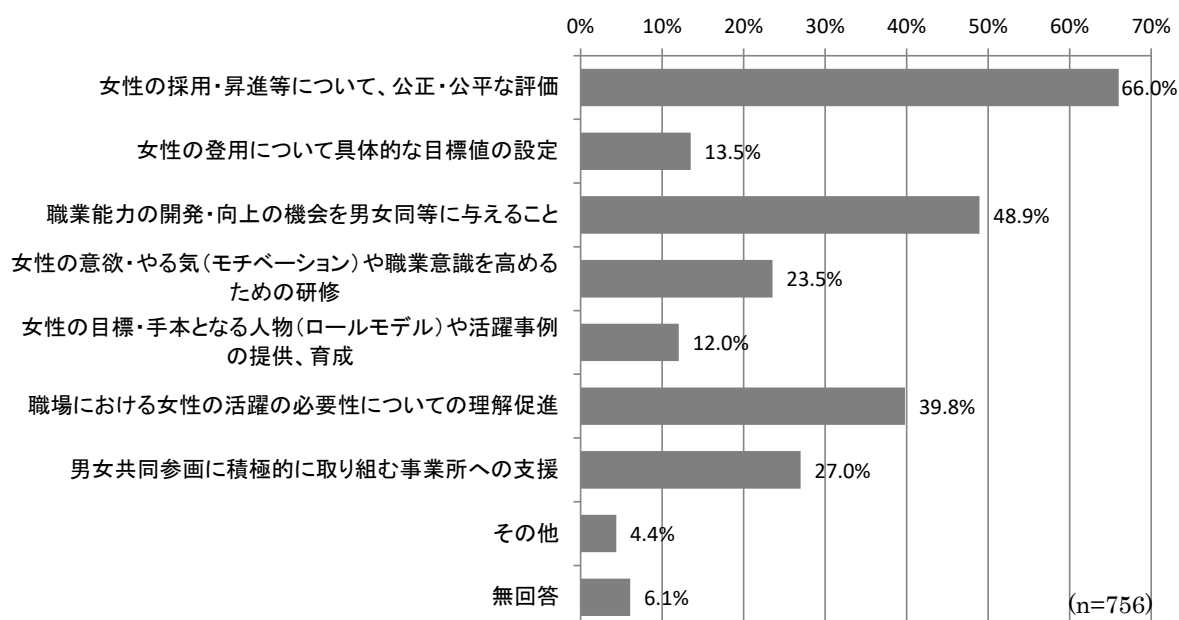
性別でみると、『平等（計）』の回答は、男性（46.7%）より女性（56.6%）の方が 9.9 ポイント高くなっている。

年代・性別でみると、20代女性で『平等（計）』が7割を超え、高くなっている。



問 12. 働く場において女性が更に活躍するためには、どのような取り組みが必要だと思いますか。（3つまでに○）

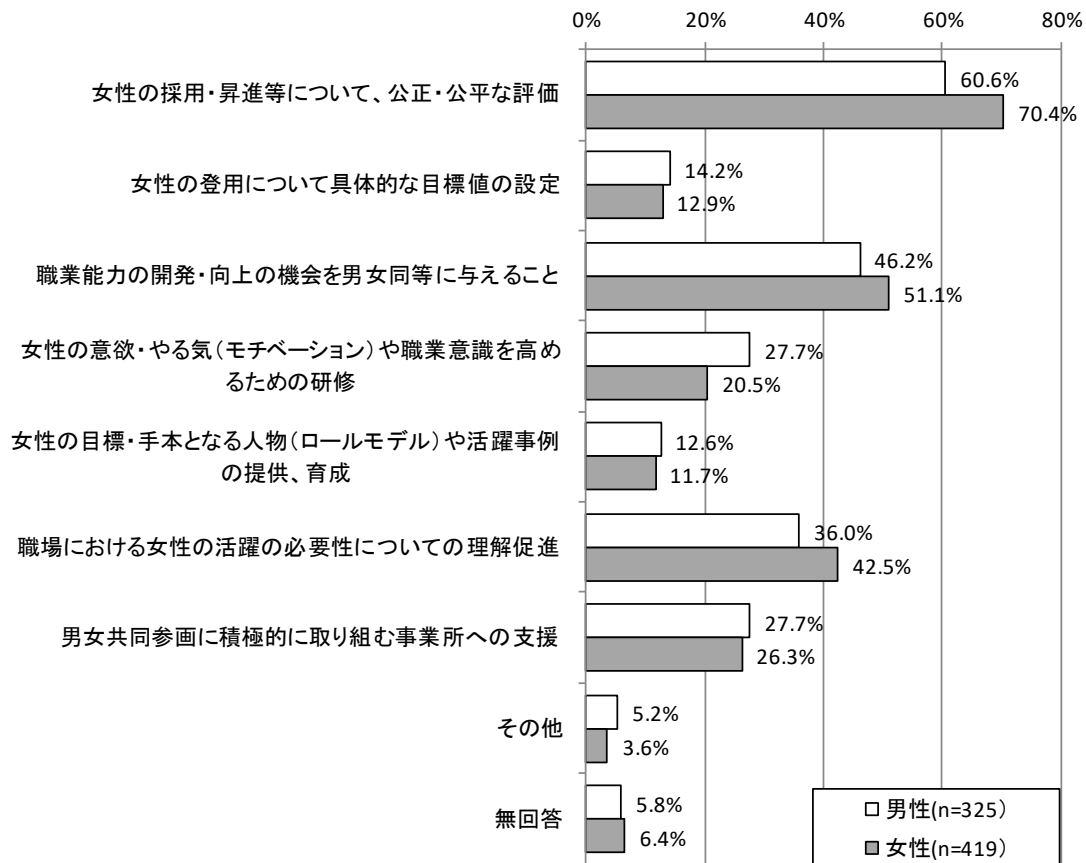
「女性の採用・昇進等について、公正・公平な評価」が 66.0%と最も高く、次いで「職業能力の開発・向上の機会を男女同等に与えること」が 48.9%、「職場における女性の活躍の必要性についての理解促進」が 39.8%となっている。



項目	度数	構成比
女性の採用・昇進等について、公正・公平な評価	499	66.0%
女性の登用について具体的な目標値の設定	102	13.5%
職業能力の開発・向上の機会を男女同等に与えること	370	48.9%
女性の意欲・やる気(モチベーション)や職業意識を高めるための研修	178	23.5%
女性の目標・手本となる人物(ロールモデル)や活躍事例の提供、育成	91	12.0%
職場における女性の活躍の必要性についての理解促進	301	39.8%
男女共同参画に積極的に取り組む事業所への支援	204	27.0%
その他	33	4.4%
無回答	46	6.1%
合計	756	100.0%

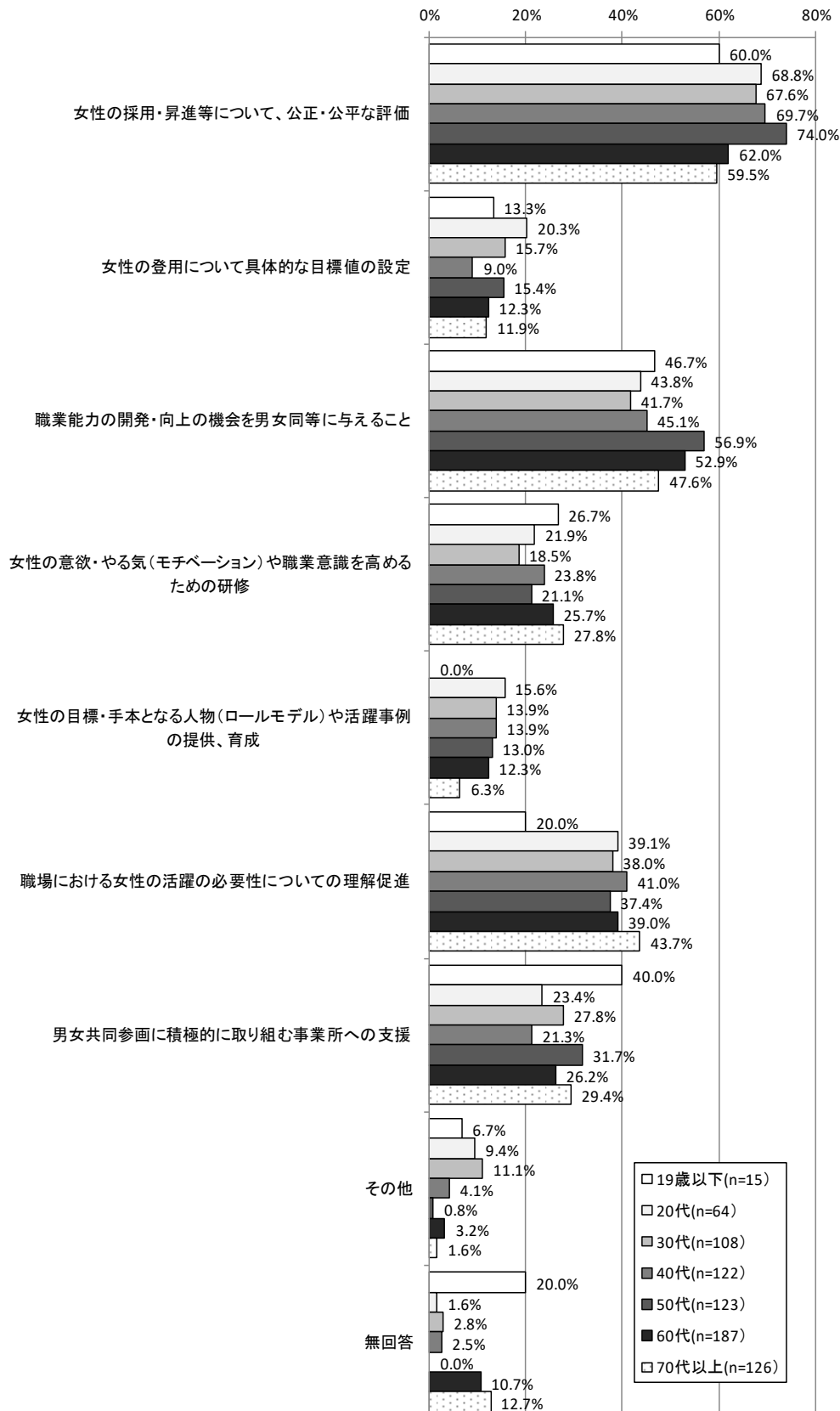
【働く場において女性が更に活躍するための取り組み：性別】

性別でみると、「女性の採用・昇進等について、公正・公平な評価」では男性（60.6%）より女性（70.4%）の方が 9.8 ポイント高くなっている。「職場における女性の活躍の必要性についての理解促進」でも男性（36.0%）より女性（42.5%）の方が 6.5 ポイント高くなっている。



【働く場において女性が更に活躍するための取り組み：年代別】

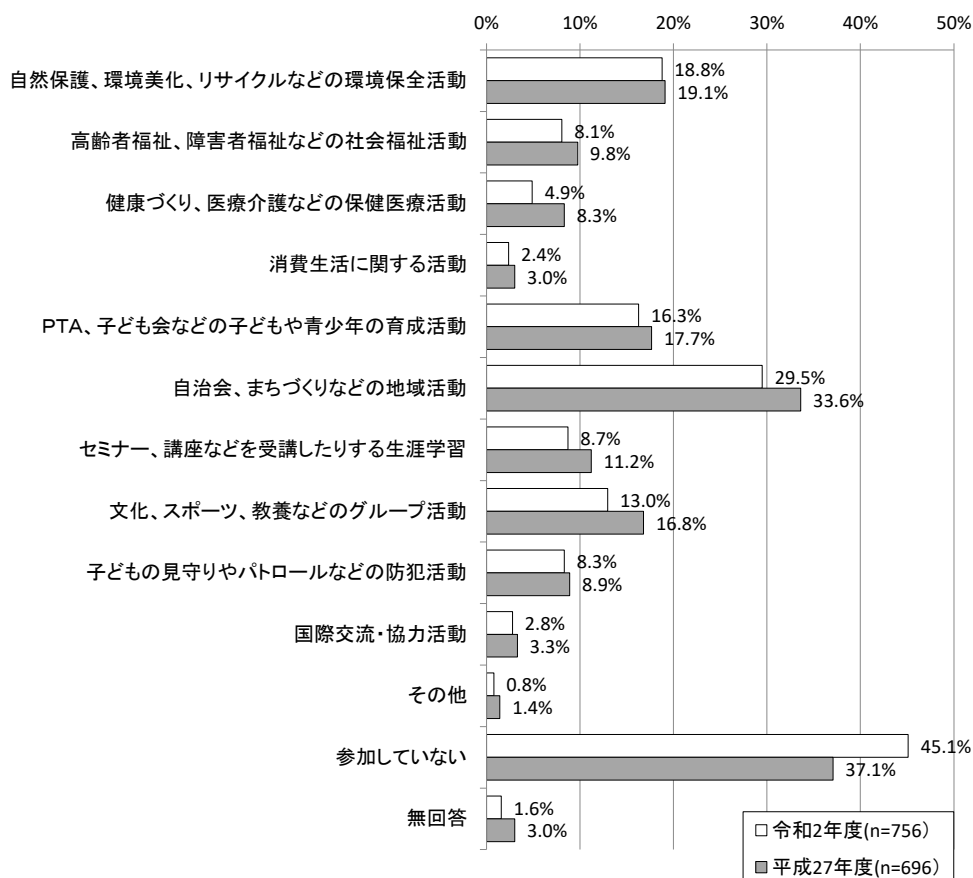
年代別でみると、60代以下で「女性の採用・昇進等について、公正・公平な評価」が6割以上となり、50代では74.0%と高くなっている。50代と60代では「職業能力の開発・向上の機会を男女同等に与えること」が5割を超え、比較的高くなっている。



5) 男女の地域・社会参画について

問 13. あなたは、次にあげるような活動に参加していますか。(あてはまるものすべてに○)

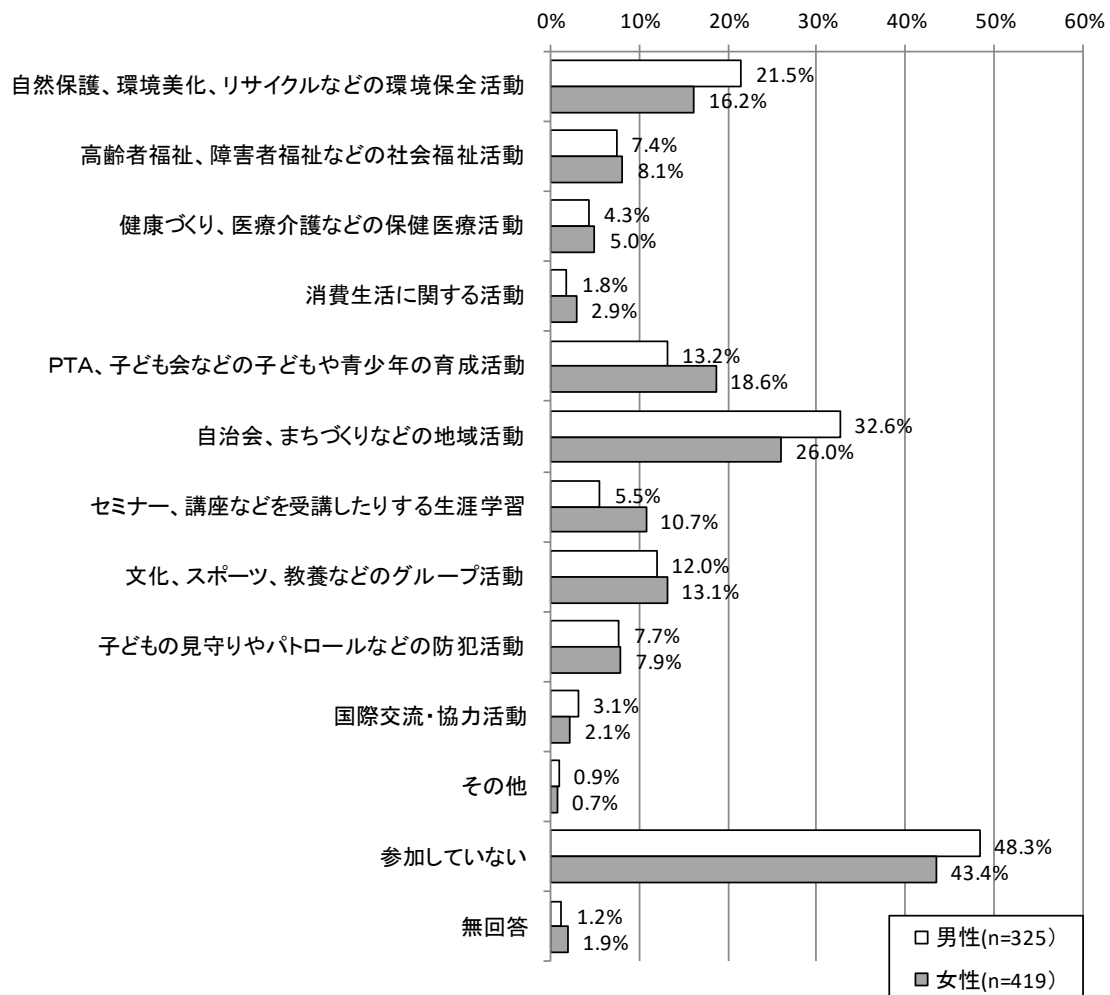
参加しているものでは、「自治会、まちづくりなどの地域活動」が 29.5%と最も高く、次いで「自然保護、環境美化、リサイクルなどの環境保全活動」18.8%、「PTA、子ども会などの子どもや青少年の育成活動」16.3%、「文化、スポーツ、教養などのグループ活動」13.0%となっている。一方、「参加していない」が 45.1%となっており、前回調査と比較すると 8.0 ポイント増加している。



項目	度数	構成比
自然保護、環境美化、リサイクルなどの環境保全活動	142	18.8%
高齢者福祉、障害者福祉などの社会福祉活動	61	8.1%
健康づくり、医療介護などの保健医療活動	37	4.9%
消費生活に関する活動	18	2.4%
PTA、子ども会などの子どもや青少年の育成活動	123	16.3%
自治会、まちづくりなどの地域活動	223	29.5%
セミナー、講座などを受講したりする生涯学習	66	8.7%
文化、スポーツ、教養などのグループ活動	98	13.0%
子どもの見守りやパトロールなどの防犯活動	63	8.3%
国際交流・協力活動	21	2.8%
その他	6	0.8%
参加していない	341	45.1%
無回答	12	1.6%
回答者数	756	

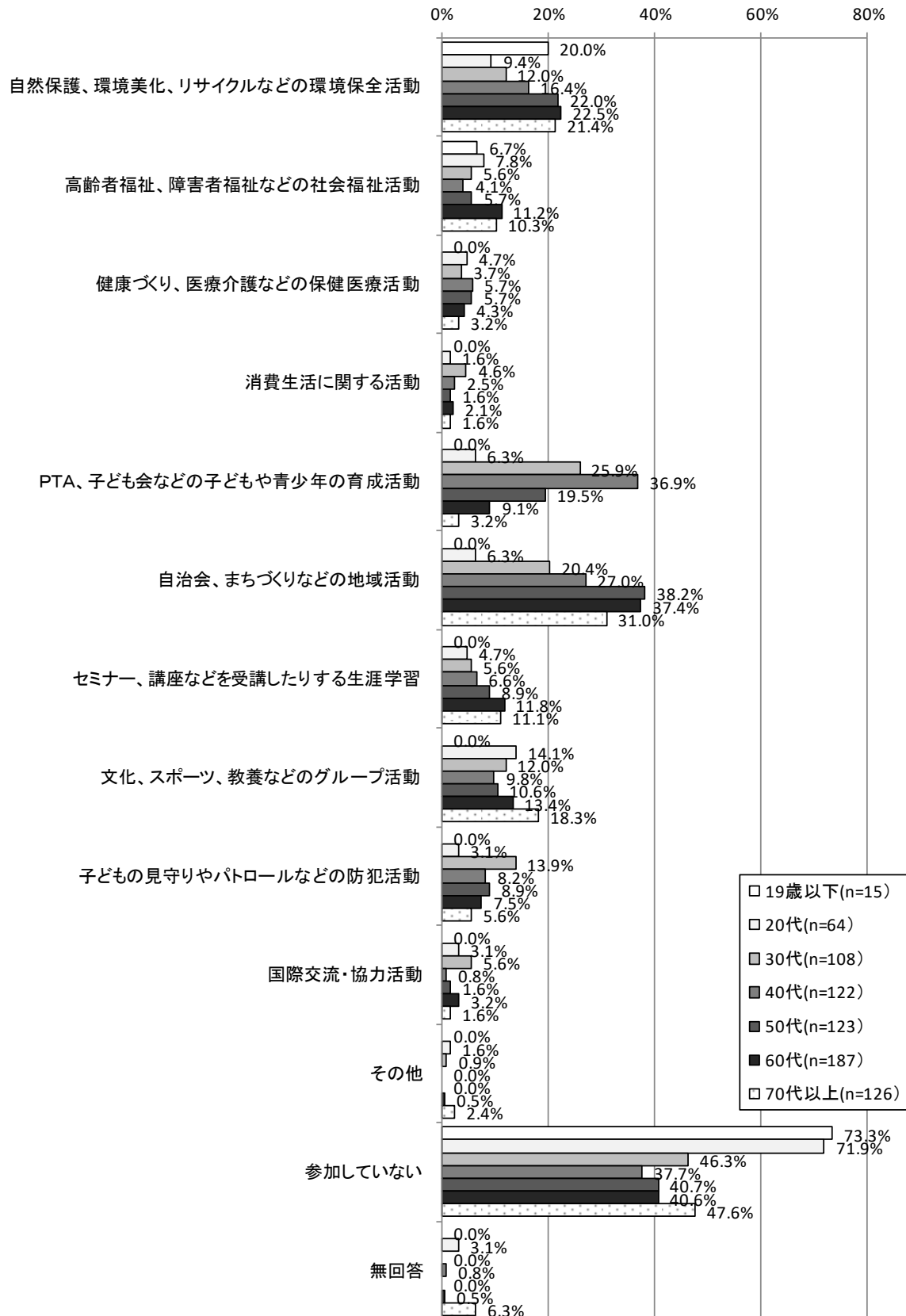
【地域活動への参加状況：性別】

性別でみると、「PTA、子ども会などの子どもや青少年の育成活動」、「セミナー、講座などを受講したりする生涯学習」で男性より女性の方が高くなっている。また、「自然保護、環境美化、リサイクルなどの環境保全活動」、「自治会、まちづくりなどの地域活動」で女性より男性の方が高くなっている。



【地域活動への参加状況：年代】

年代でみると、40代で「PTA、子ども会などの子どもや青少年の育成活動」が3割半ば、50代と60代で「自治会、まちづくりなどの地域活動」が約4割、19歳以下と20代で「参加していない」が7割を占め、それぞれ比較的高くなっている。



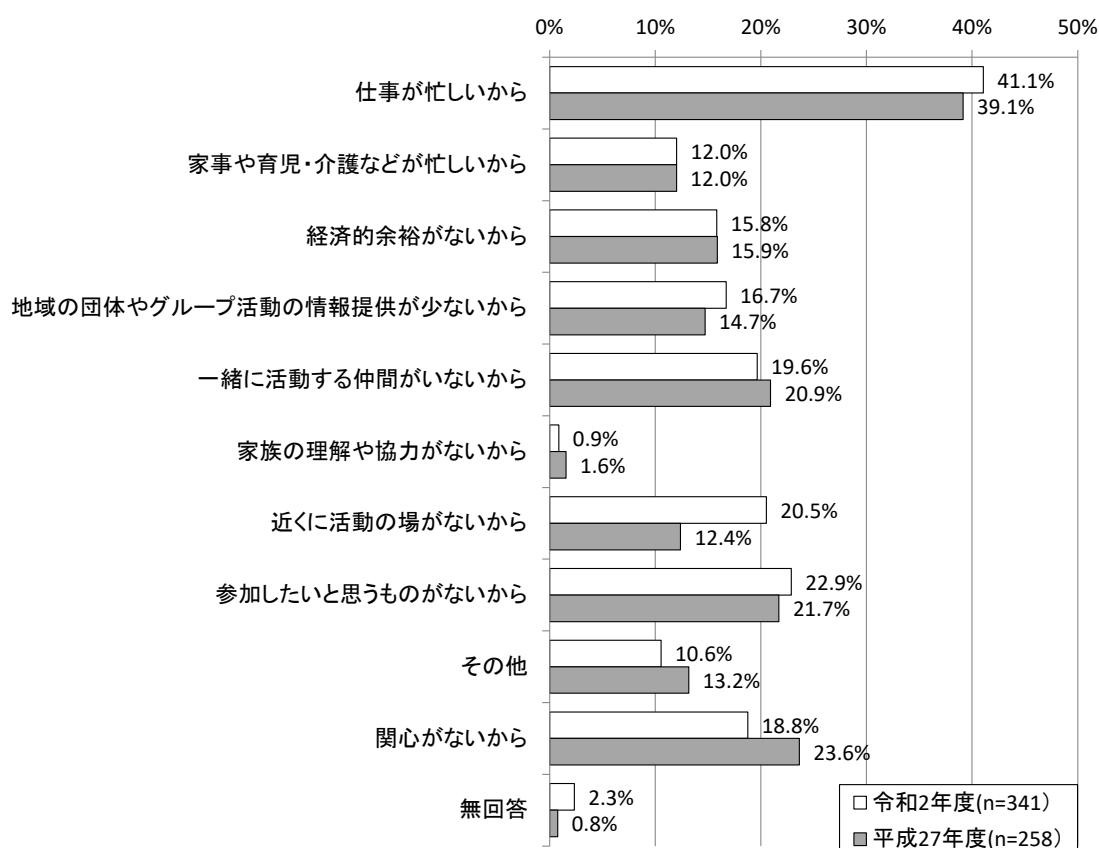
【問 13（地域活動への参加状況）で、「12. 参加していない」と回答した方に】

問 13-1. あなたが上記のような活動に参加していないのはなぜですか。

（あてはまるものすべてに○）

「仕事が忙しいから」が 41.1%と最も高く、次いで「参加したいと思うものがないから」が 22.9%、「近くに活動の場がないから」20.5%となっている。

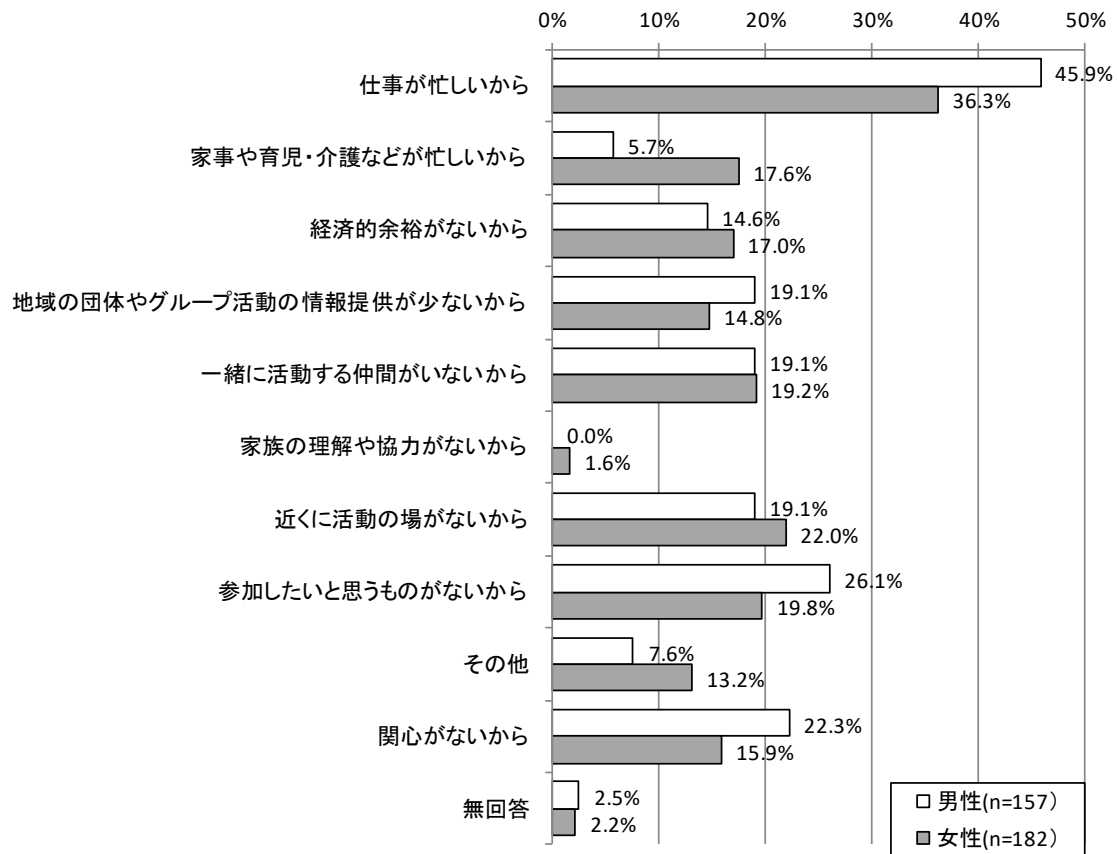
前回調査と比べると、「近くに活動の場がないから」が 8.1 ポイント高くなっている。



項目	度数	構成比
仕事が忙しいから	140	41.1%
家事や育児・介護などが忙しいから	41	12.0%
経済的余裕がないから	54	15.8%
地域の団体やグループ活動の情報提供が少ないから	57	16.7%
一緒に活動する仲間がいないから	67	19.6%
家族の理解や協力がないから	3	0.9%
近くに活動の場がないから	70	20.5%
参加したいと思うものがないから	78	22.9%
その他	36	10.6%
関心がないから	64	18.8%
無回答	8	2.3%
回答者数	341	
非該当	415	
合計	756	

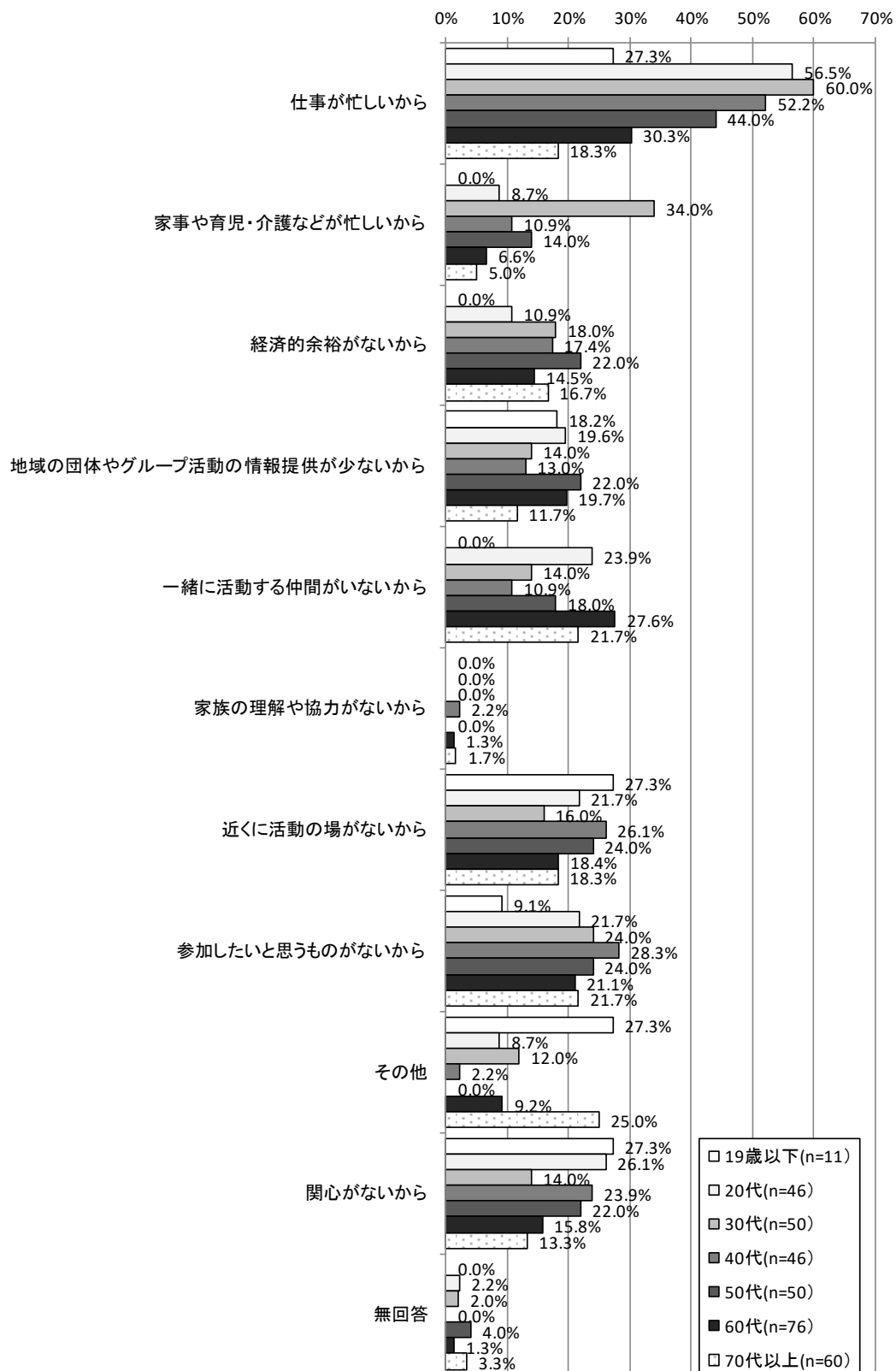
【地域活動へ参加していない理由：性別】

性別でみると、女性では「家事や育児・介護などが忙しいから」が 17.6%と、男性より 11.9 ポイント高く、男性では「仕事が忙しいから」が 45.9%と女性より 9.6 ポイント高くなっている。



【地域活動への参加していない理由：年代】

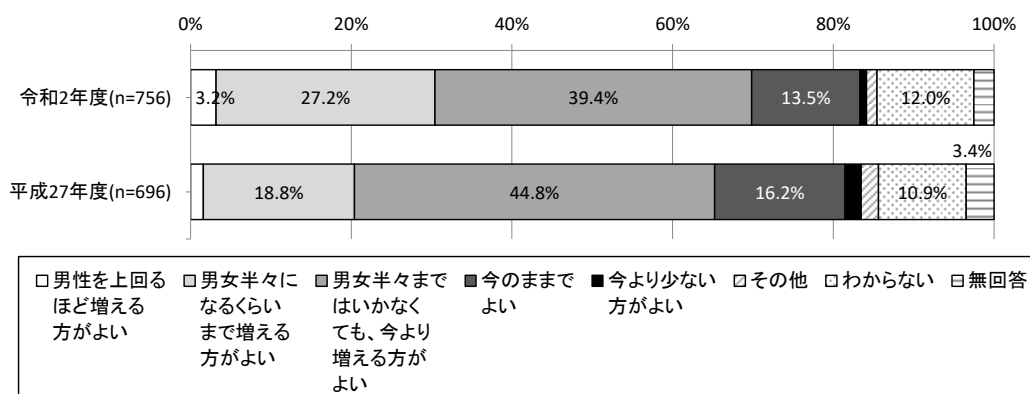
年代でみると、「仕事が忙しいから」は、20代から40代で5割を超え、高くなっている。「家事や育児・介護などが忙しいから」は30代で3割半ば、「近くに活動の場がないから」は19歳以下と40代、「関心がないから」は19歳以下と20代で約3割と、それぞれ比較的高くなっている。



問 14. 議員や審議会委員など、政策方針決定の場に女性が参画することについて、あなたは、どう思いますか。(1 つだけに○)

「男女半々まではいかなくても、今より増える方がよい」が 39.4%と最も高く、次いで「男女半々になるくらいまで増える方がよい」が 27.2%、「今のままでよい」が 13.5%となっている。

前回調査と比べると、「男女半々になるくらいまで増える方がよい」の回答が 8.4 ポイント高くなっている。



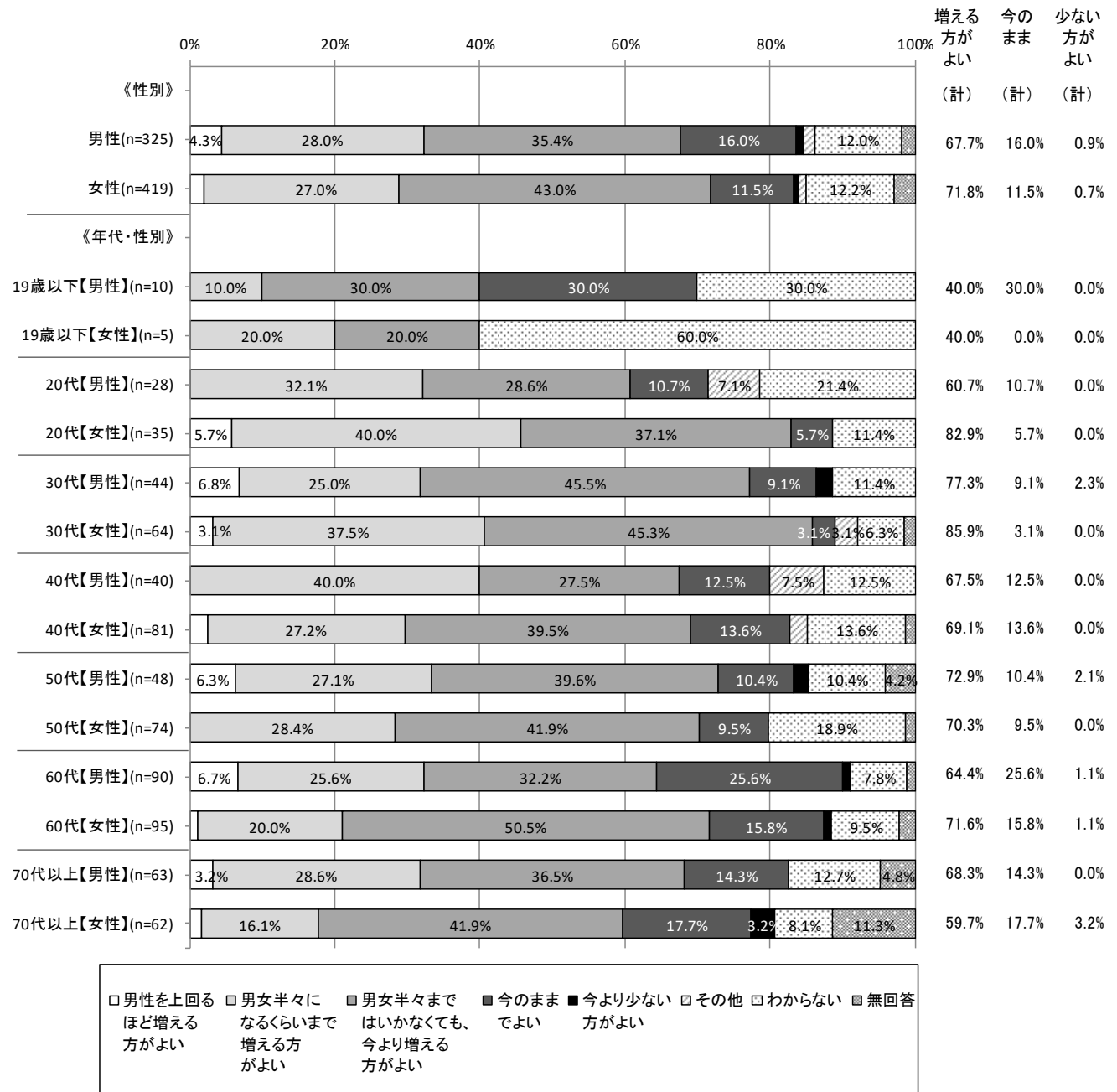
項目	増える方がよい (計)	今のまま (計)	少ない方がよい (計)
令和2年調査	69.8%	13.5%	0.8%
平成27年調査	65.2%	16.2%	2.0%

項目	度数	構成比
男性を上回るほど増える方がよい	24	3.2%
男女半々になるくらいまで増える方がよい	206	27.2%
男女半々まではいかなくても、今より増える方がよい	298	39.4%
今のままでよい	102	13.5%
今より少ない方がよい	6	0.8%
その他	10	1.3%
わからない	91	12.0%
無回答	19	2.5%
合計	756	100.0%

【政策方針決定の場への女性の参画について：性別・年代】

性別でみると、『増える方がよい（計）』の回答が男性（67.7%）より女性（71.8%）の方が4.1ポイント高くなっている。

年代・性別でみると、『増える方がよい（計）』は20代、30代女性で8割を超え、30代男性で約8割と、それぞれ比較的高くなっている。

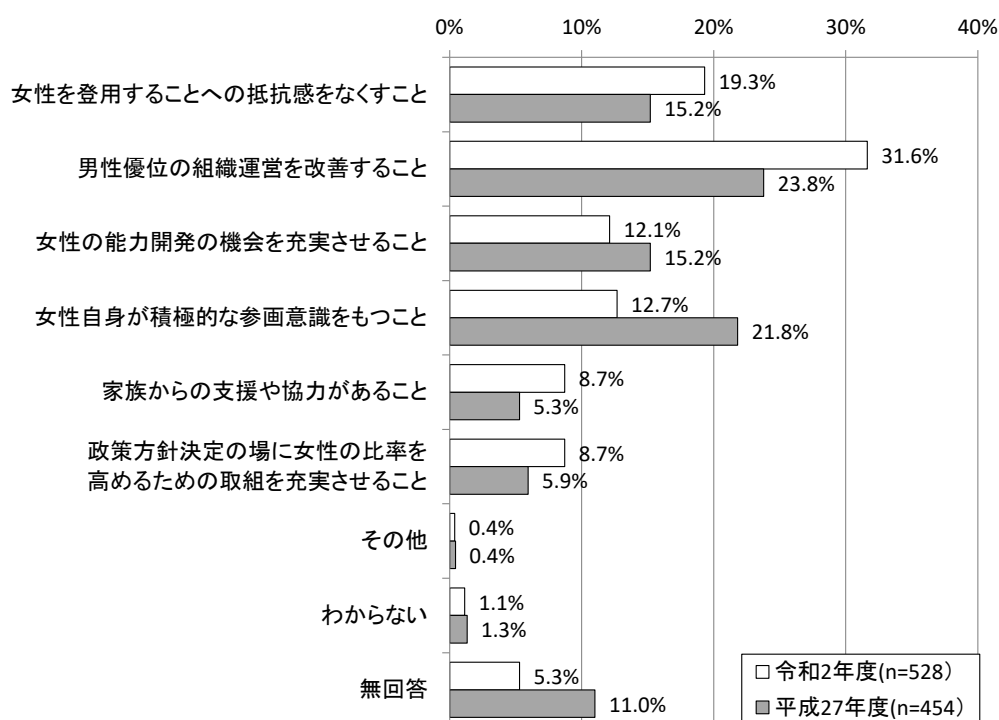


【問 14（政策方針決定の場への女性の参画について）で、「男性を上回るほど増える方がよい」～「男女半々まではいなくても、今より増える方がよい」と回答した方に】

問 14-1. 議員や審議会委員など、政策方針決定の場に女性の参画が増えていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。あなたが特に重要だと思うものを選んでください。（1つだけに○）

「男性優位の組織運営を改善すること」が 31.6%と最も高く、次いで「女性を登用することへの抵抗感をなくすこと」が 19.3%、「女性自身が積極的な参画意識をもつこと」が 12.7%、「女性の能力開発の機会を充実させること」が 12.1%となっている。

前回調査と比べると、「男性優位の組織運営を改善すること」が 7.8 ポイント高く、「女性自身が積極的な参画意識をもつこと」が 9.1 ポイント低くなっている。



項目	度数	構成比
女性を登用することへの抵抗感をなくすこと	102	19.3%
男性優位の組織運営を改善すること	167	31.6%
女性の能力開発の機会を充実させること	64	12.1%
女性自身が積極的な参画意識をもつこと	67	12.7%
家族からの支援や協力があること	46	8.7%
政策方針決定の場に女性の比率を高めるための取組を充実させること	46	8.7%
その他	2	0.4%
わからない	6	1.1%
無回答	28	5.3%
回答者数	528	100.0%
非該当	228	
合計	756	

【女性の参画が増えるために必要なこと：性別・年代】

◆「男性を上回るほど増える方がよい」～「男女半々まではいかなくても、今より増える方がよい」と回答した方のみ

性別でみると、「男性優位の組織運営を改善すること」の回答は、男性（29.5%）より女性（33.2%）の方が3.7ポイント高くなっている。

年代・性別でみると、「男性優位の組織運営を改善すること」は20代男性と30代女性で4割を超え、「女性を登用することへの抵抗感をなくすこと」は20代女性、30代男性、40代男性で3割前後と、それぞれ比較的高くなっている。



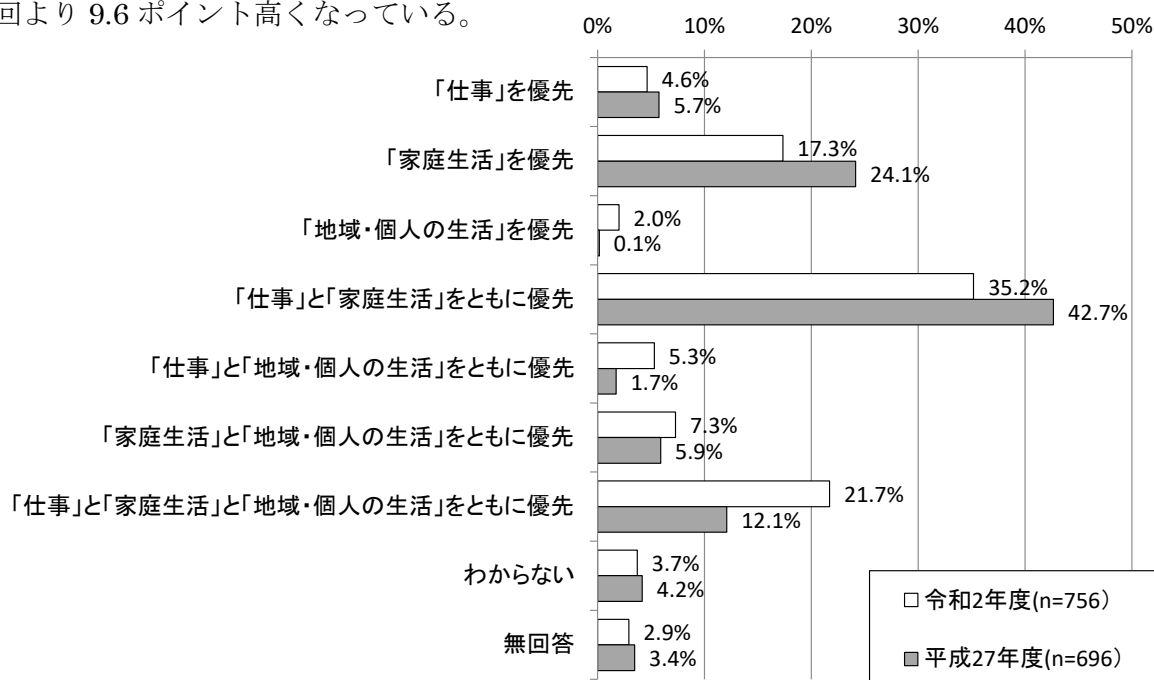
6) ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について

問 15. 生活の中での「仕事」、「家庭生活（家事・育児・介護など）」、「地域・個人の生活（地域活動・学習・趣味・付き合いなど）」の優先度について、あなたの希望と現実
に最も近いものを選んでください。（1つだけに○）

問 15-1. 希望として

「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」が 35.2%と最も高く、次いで「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先」が 21.7%、「『家庭生活』を優先」が 17.3%となっている。

前回調査と比べると、「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先」が前回より 9.6 ポイント高くなっている。

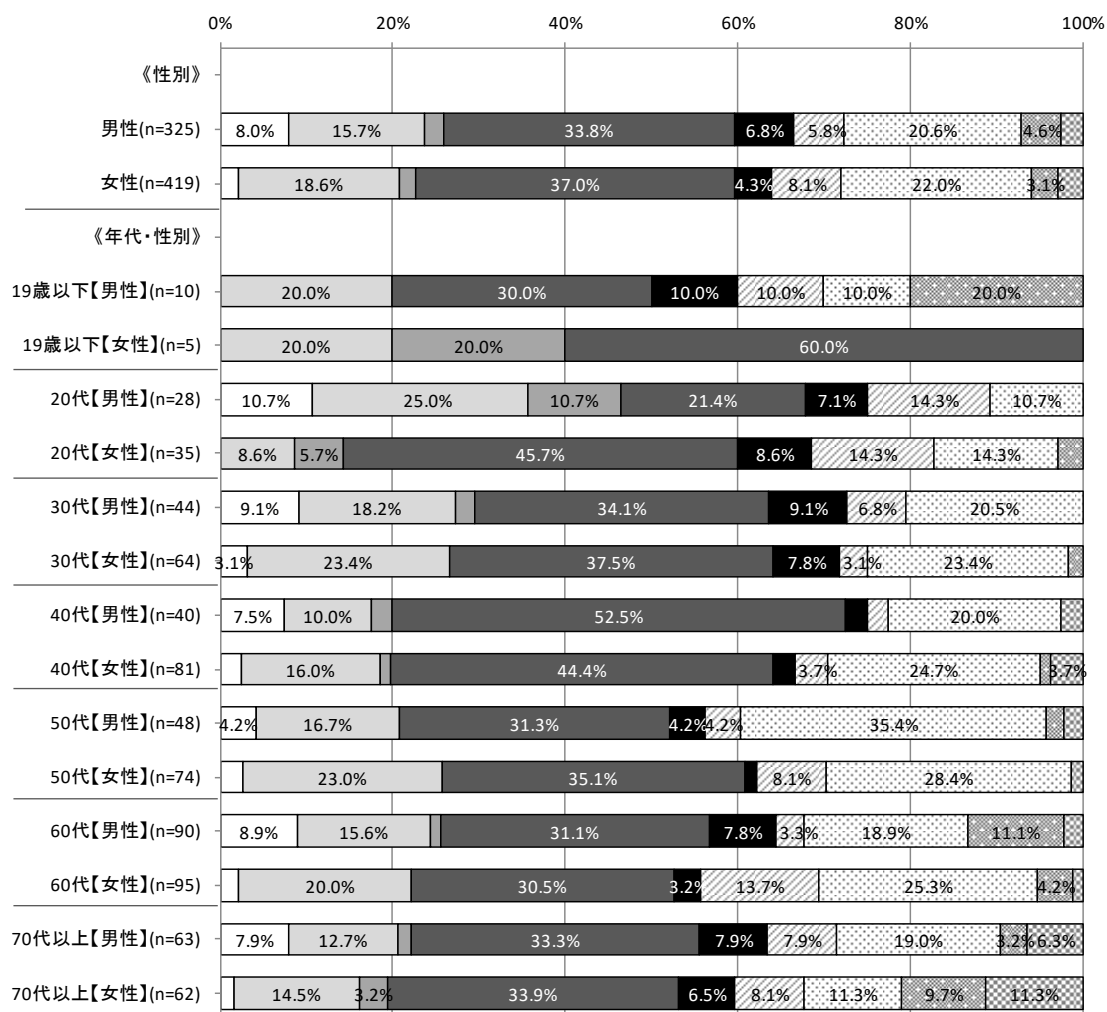


項目	度数	構成比
「仕事」を優先	35	4.6%
「家庭生活」を優先	131	17.3%
「地域・個人の生活」を優先	15	2.0%
「仕事」と「家庭生活」をともに優先	266	35.2%
「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先	40	5.3%
「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	55	7.3%
「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	164	21.7%
わからない	28	3.7%
無回答	22	2.9%
合計	756	100.0%

【「仕事」、「家庭生活」、「地域と個人の生活」の優先度（希望として）：性別・年代】

性別でみると、『仕事』と『家庭生活』をともに優先」の回答は、男性（33.8%）より女性（37.0%）の方が3.2ポイント高くなっている。

年代・性別でみると、『仕事』と『家庭生活』をともに優先」は、40代男性で5割以上、20代女性と40代女性で4割半ばと、他に比べ高くなっている。50代男性では『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先」が、3割半ばで最も高くなっている。

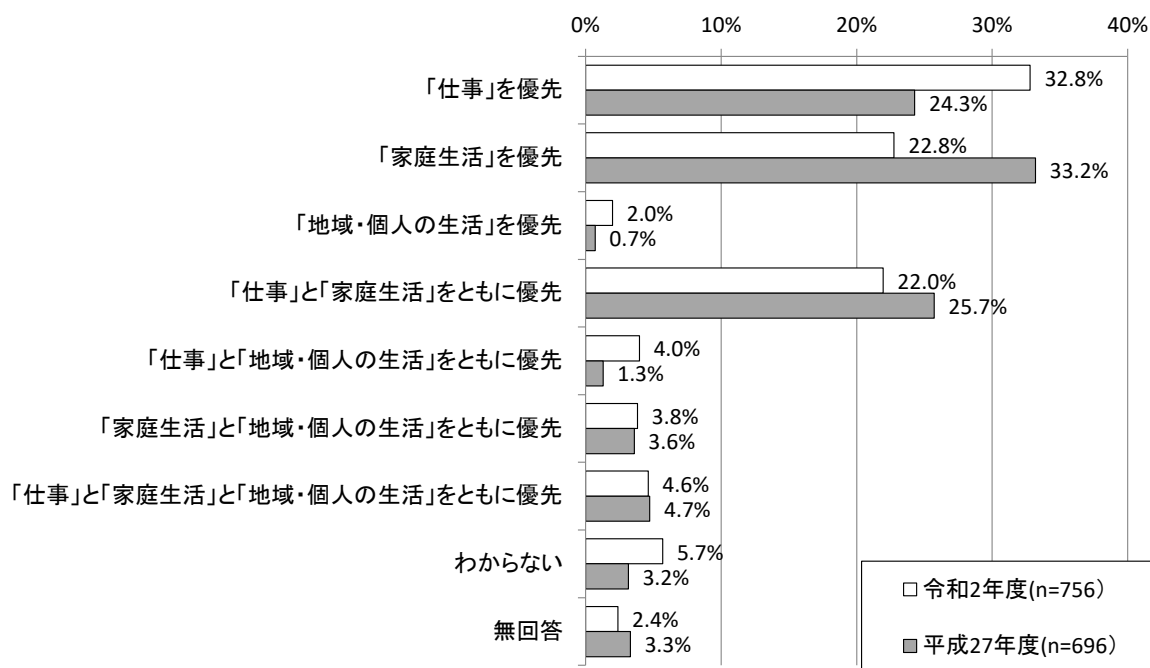


☐「仕事」を優先
 ☐「家庭生活」を優先
 ☐「地域・個人の生活」を優先
 ☒「仕事」と「家庭生活」をともに優先
 ☒「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先
 ☐「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
 ☐「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
 ☐わからない
 ☐無回答

問 15-2. 現実では

『仕事』を優先」が 32.8%と最も高く、次いで『家庭生活』を優先」が 22.8%、『仕事』と『家庭生活』をともに優先」が 22.0%となっている。

前回調査と比べると、『仕事』を優先」が 8.5 ポイント高く、『家庭生活』を優先」が 10.4 ポイント低くなっている。

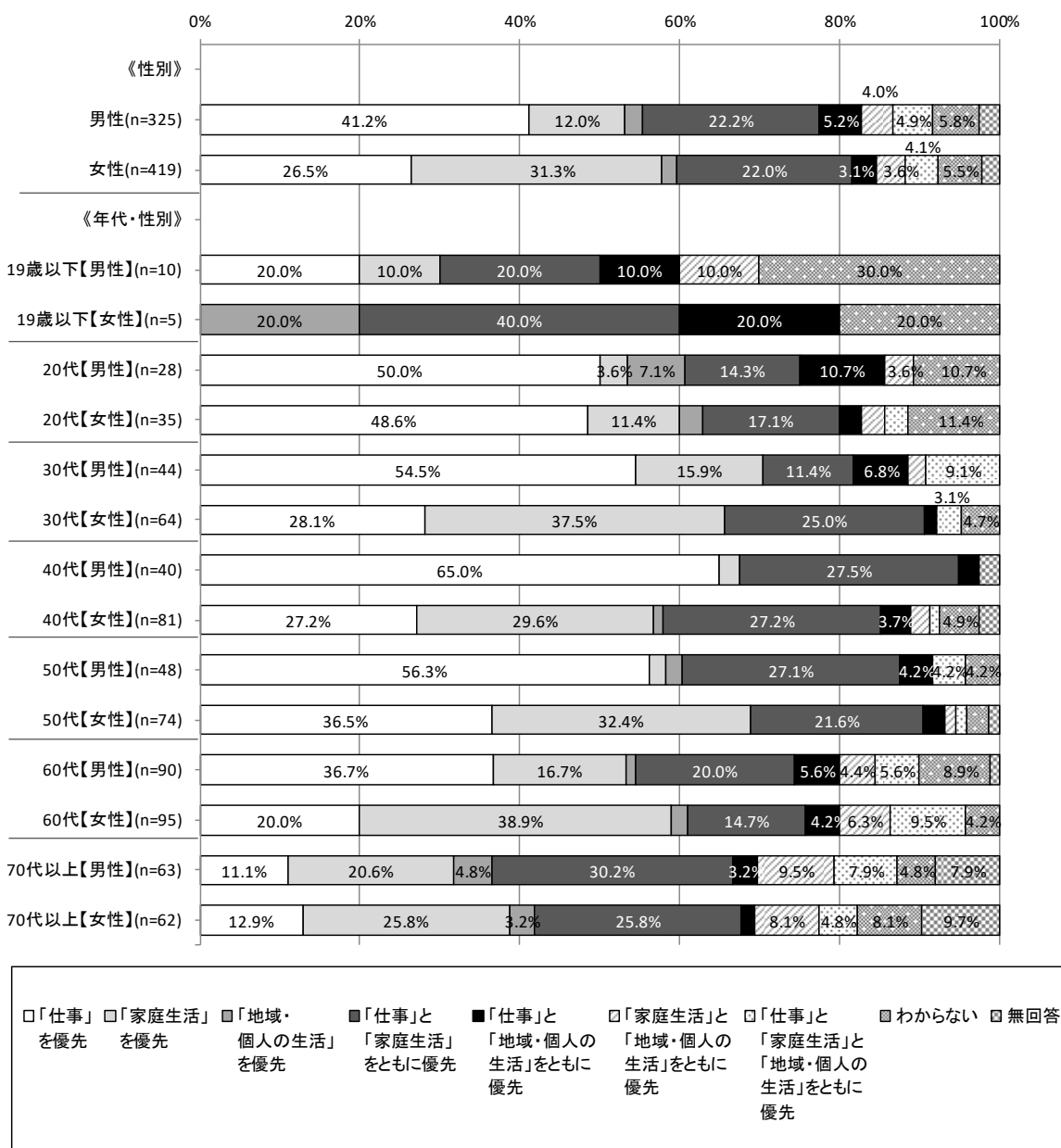


項目	度数	構成比
「仕事」を優先	248	32.8%
「家庭生活」を優先	172	22.8%
「地域・個人の生活」を優先	15	2.0%
「仕事」と「家庭生活」をともに優先	166	22.0%
「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先	30	4.0%
「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	29	3.8%
「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	35	4.6%
わからない	43	5.7%
無回答	18	2.4%
合計	756	100.0%

【「仕事」、「家庭生活」、「地域と個人の生活」の優先度（現実）：性別・年代】

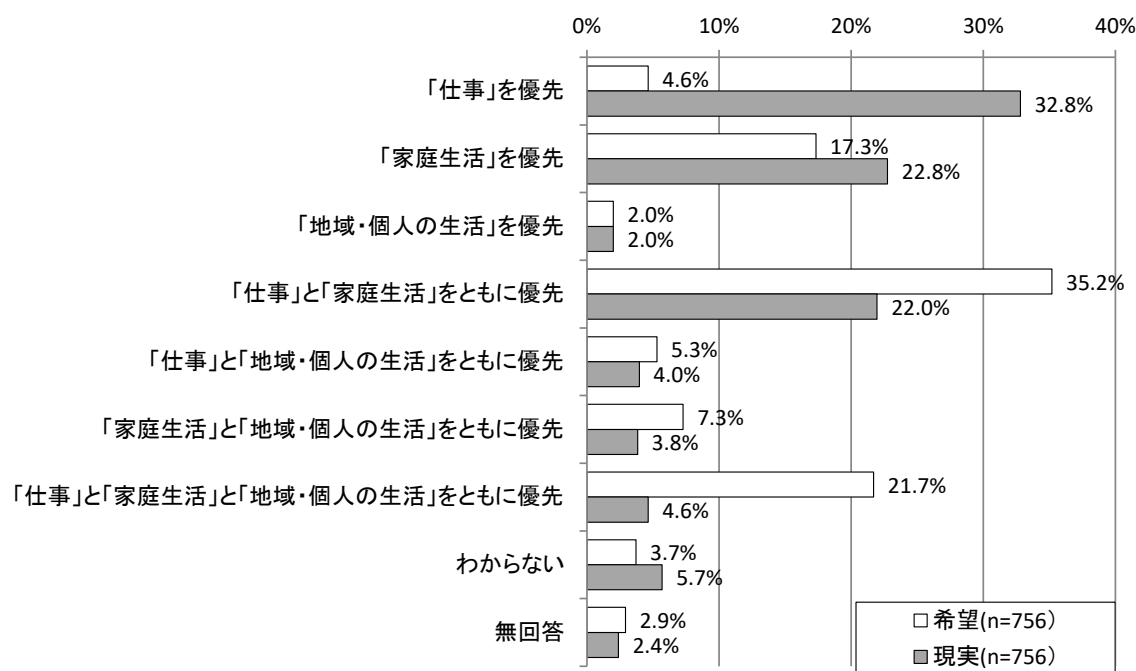
性別でみると、男性は「『仕事』を優先」が41.2%で最も高く、女性を14.7ポイント上回っている。女性では「『家庭生活』を優先」が31.3%で最も高く、男性を19.3ポイント上回っている。

年代・性別でみると、20代から50代の男性では「『仕事』を優先」が5割以上、30代と60代の女性では「『家庭生活』を優先」が約4割と、それぞれ比較的高くなっている。



【「仕事」、「家庭生活」、「地域と個人の生活」の優先度：希望と現実】

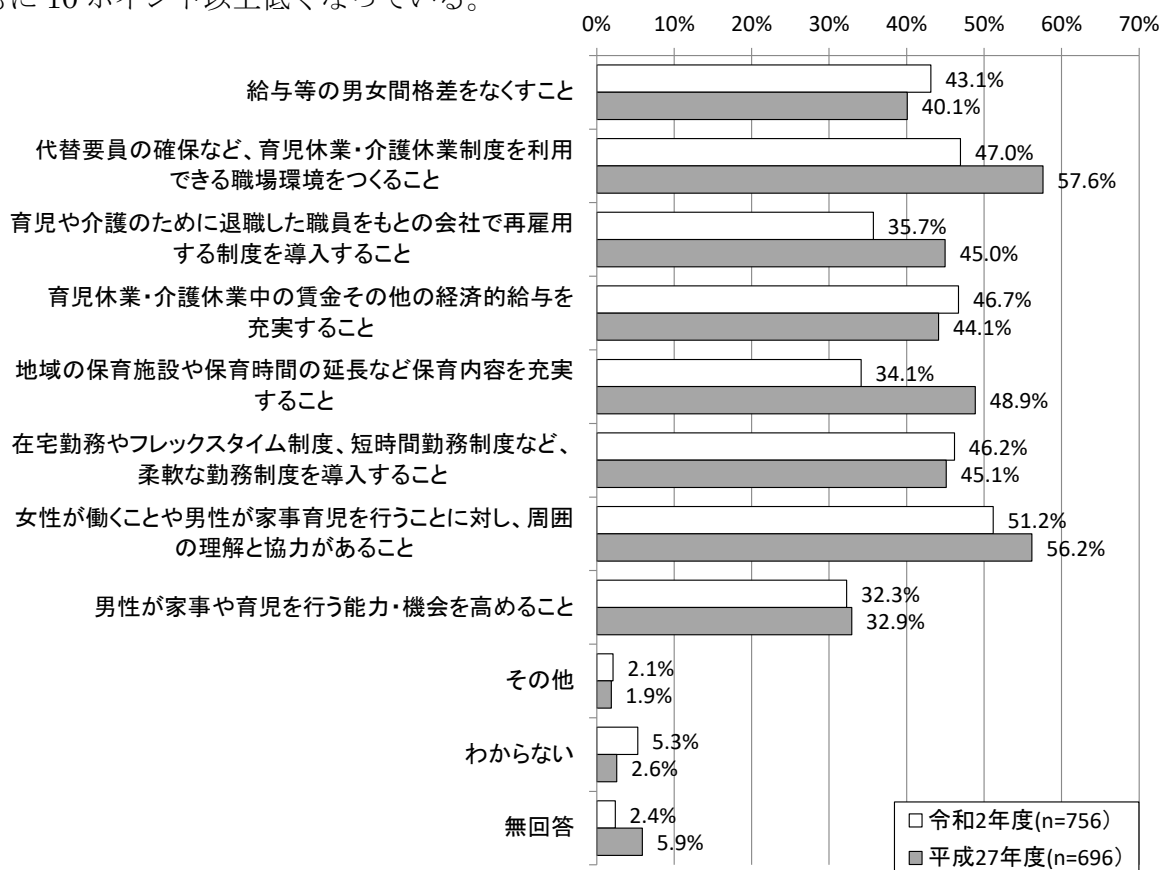
『希望』と『現実』を比較すると、『現実』が『希望』を上回っているのは、「『仕事』を優先」で 28.2 ポイント、「『家庭生活』を優先」で 5.5 ポイントとなっている。『希望』が『現実』を上回っているのは、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」で 13.2 ポイント、「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先」で 17.1 ポイントとなっている。



問 16. あなたは、性別に関わらず仕事と家庭の両立をしていくために、どのような条件が必要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

「女性が働くことや男性が家事育児を行うことに対し、周囲の理解と協力があること」が51.2%で最も高く、次いで「代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること」が47.0%、「育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的給与を充実すること」が46.7%となっている。

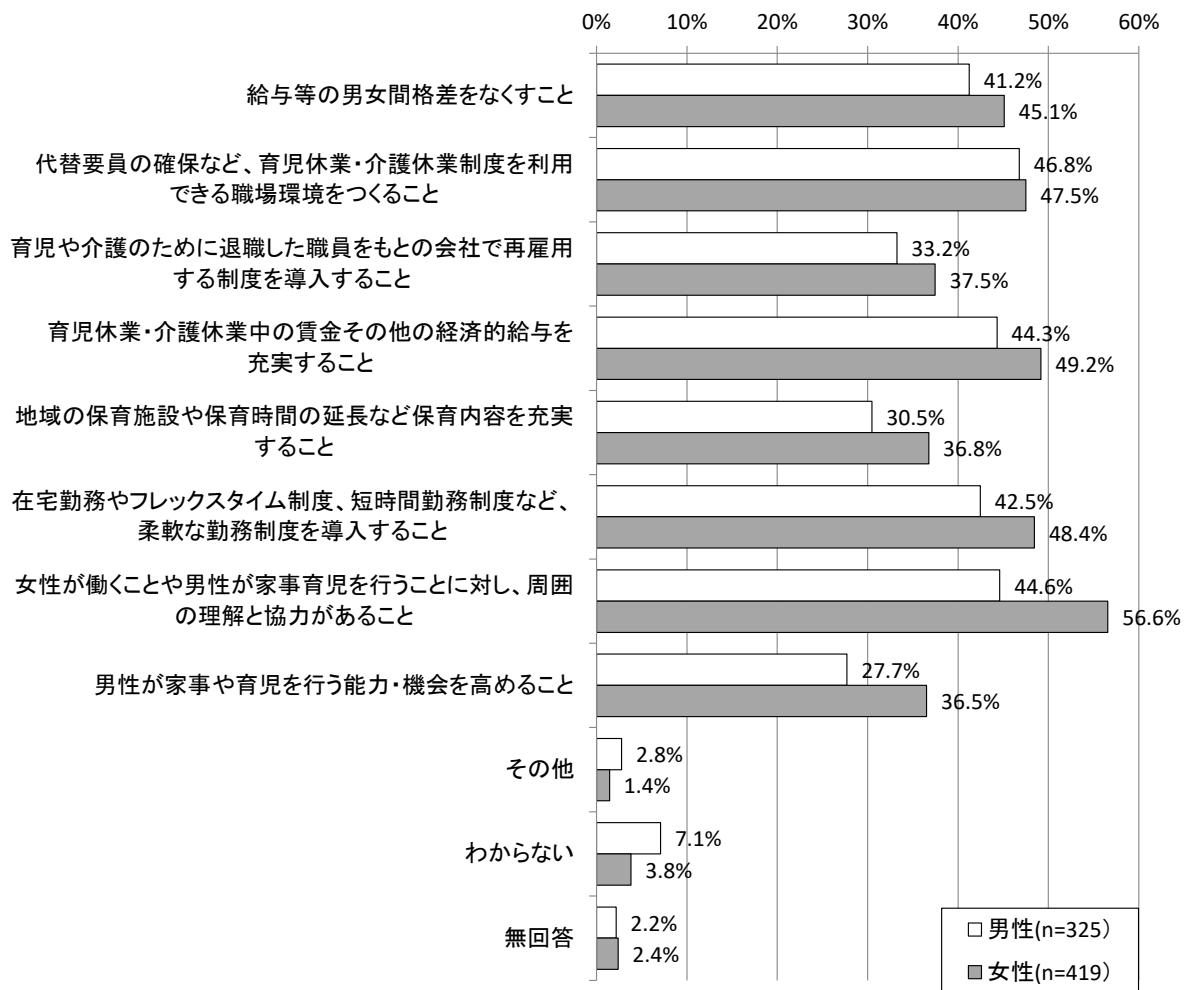
前回調査と比較すると、「代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること」、「地域の保育施設や保育時間の延長など保育内容を充実すること」がともに10ポイント以上低くなっている。



項目	度数	構成比
給与等の男女間格差をなくすこと	326	43.1%
代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること	355	47.0%
育児や介護のために退職した職員をもとの会社で再雇用する制度を導入すること	270	35.7%
育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的給与を充実すること	353	46.7%
地域の保育施設や保育時間の延長など保育内容を充実すること	258	34.1%
在宅勤務やフレックスタイム制度、短時間勤務制度など、柔軟な勤務制度を導入すること	349	46.2%
女性が働くことや男性が家事育児を行うことに対し、周囲の理解と協力があること	387	51.2%
男性が家事や育児を行う能力・機会を高めること	244	32.3%
その他	16	2.1%
わからない	40	5.3%
無回答	18	2.4%
回答者数	756	

【性別に関わらず仕事と家庭を両立していくために必要な条件：性別】

性別でみると、「女性が働くことや男性が家事育児を行うことに対し、周囲の理解と協力があること」は、女性（56.6%）が男性（44.6%）よりも 12.0 ポイント高くなっている。また「男性が家事や育児を行う能力・機会を高めること」は、女性（36.5%）が男性（27.7%）よりも 8.8 ポイント高くなっている。



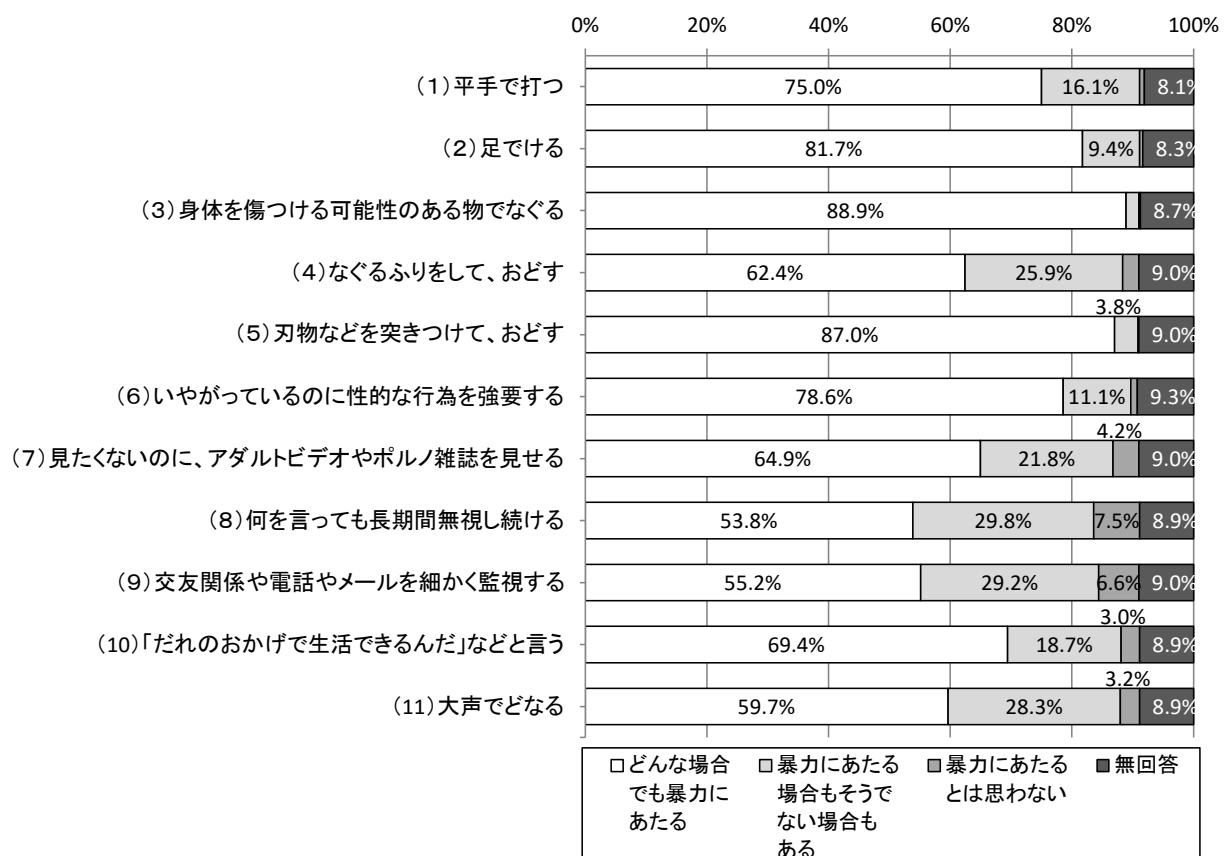
7) 配偶者や女性に対する暴力について

ここでの「配偶者」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦、元配偶者（離別・死別した相手、事実婚を解消した相手）も含まれます。

問 17. あなたは、次の（１）～（１１）のようなことが配偶者の間で行われた場合、それをどのように感じますか。あなたの考えに近いものを選んでください。

（それぞれ１つだけに○）

「どんな場合でも暴力にあたる」という回答は「平手で打つ」、「足でける」、「身体を傷つける可能性のある物でなぐる」、「刃物などを突きつけて、おどす」、「いやがっているのに性的な行為を強要する」の項目で 7 割以上となっている。一方、「暴力にあたるとは思わない」という回答は、「何を言っても長期間無視し続ける」（7.5%）、「交友関係や電話やメールを細かく監視する」（6.6%）の項目でやや高くなっている。



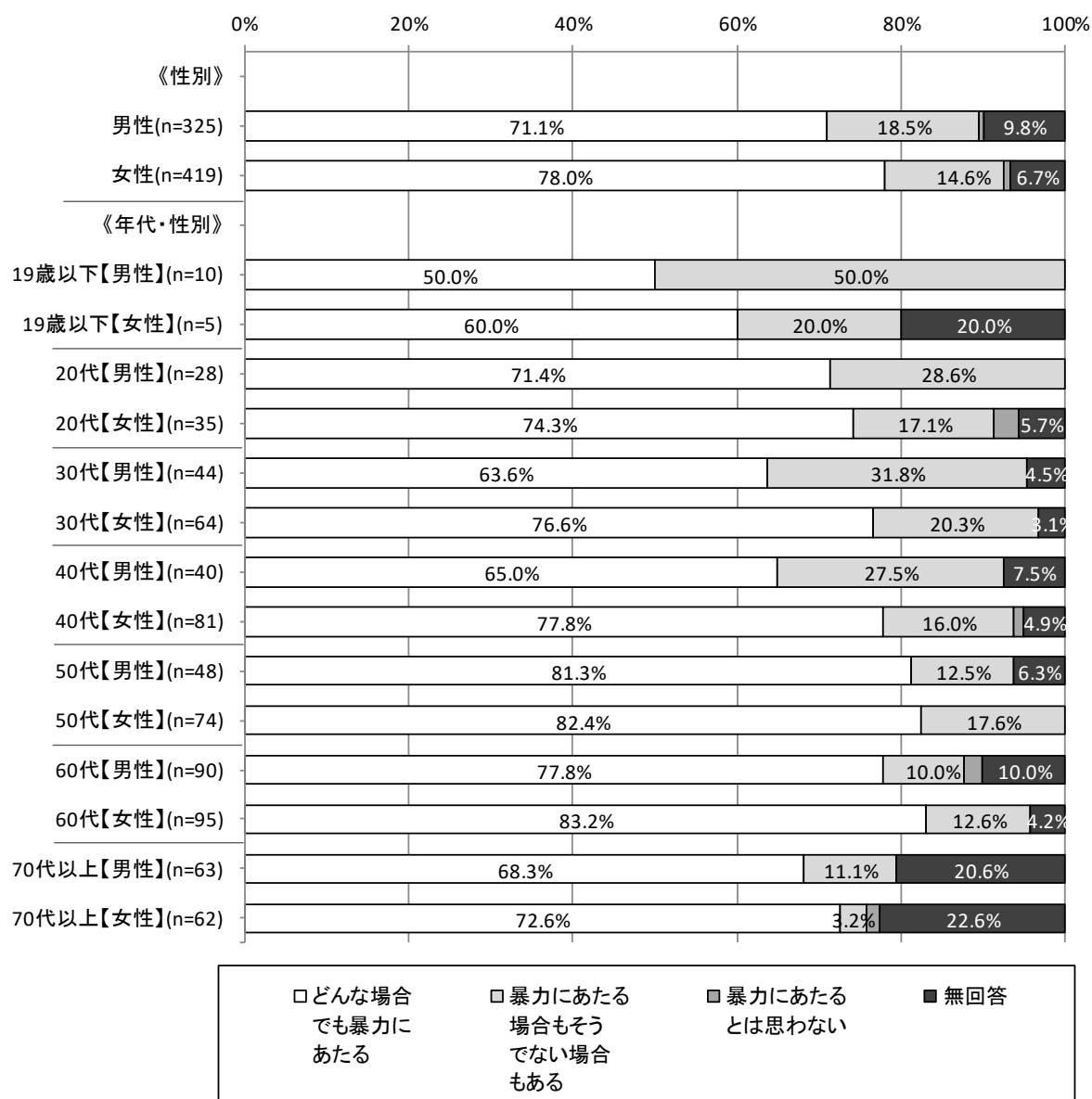
項目	どんな場合でも暴力にあたる	暴力にあたる場合もそうでない場合もある	暴力にあたるとは思わない	無回答	合計
(1)平手で打つ	567	122	6	61	756
(2)足でける	618	71	4	63	756
(3)身体を傷つける可能性のある物でなぐる	672	16	2	66	756
(4)なぐるふりをして、おどす	472	196	20	68	756
(5)刃物などを突きつけて、おどす	658	29	1	68	756
(6)いやがっているのに性的な行為を強要する	594	84	8	70	756
(7)見たくないのに、アダルトビデオやポルノ雑誌を見せる	491	165	32	68	756
(8)何を言っても長期間無視し続ける	407	225	57	67	756
(9)交友関係や電話やメールを細かく監視する	417	221	50	68	756
(10)「だれのおかげで生活できるんだ」などと言う	525	141	23	67	756
(11)大声でどなる	451	214	24	67	756

項目(構成比)	どんな場合でも暴力にあたる	暴力にあたる場合もそうでない場合もある	暴力にあたるとは思わない	無回答	合計
(1)平手で打つ	75.0%	16.1%	0.8%	8.1%	100.0%
(2)足でける	81.7%	9.4%	0.5%	8.3%	100.0%
(3)身体を傷つける可能性のある物でなぐる	88.9%	2.1%	0.3%	8.7%	100.0%
(4)なぐるふりをして、おどす	62.4%	25.9%	2.6%	9.0%	100.0%
(5)刃物などを突きつけて、おどす	87.0%	3.8%	0.1%	9.0%	100.0%
(6)いやがっているのに性的な行為を強要する	78.6%	11.1%	1.1%	9.3%	100.0%
(7)見たくないのに、アダルトビデオやポルノ雑誌を見せる	64.9%	21.8%	4.2%	9.0%	100.0%
(8)何を言っても長期間無視し続ける	53.8%	29.8%	7.5%	8.9%	100.0%
(9)交友関係や電話やメールを細かく監視する	55.2%	29.2%	6.6%	9.0%	100.0%
(10)「だれのおかげで生活できるんだ」などと言う	69.4%	18.7%	3.0%	8.9%	100.0%
(11)大声でどなる	59.7%	28.3%	3.2%	8.9%	100.0%

【配偶者間での暴力について（１）平手で打つ：性別・年代】

性別でみると、「どんな場合でも暴力にあたる」は、男性（71.1%）より女性（78.0%）の方が 6.9 ポイント上回っている。

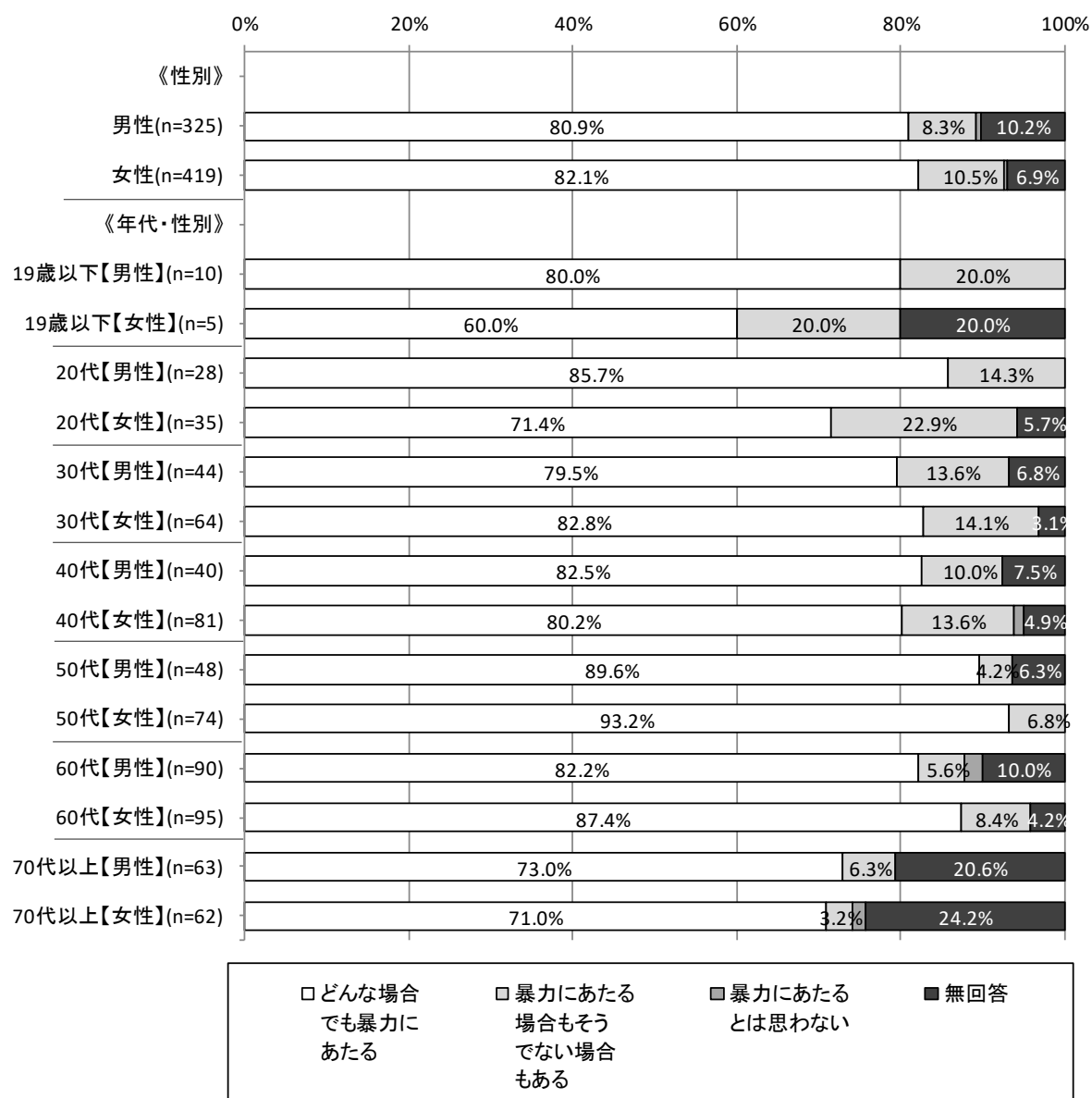
年代・性別でみると、30 代と 40 代では「どんな場合でも暴力にあたる」と回答した女性の割合が、男性を 12 ポイント以上上回っている。



【配偶者間での暴力について（２）足でける：性別・年代】

性別でみると、「どんな場合でも暴力にあたる」との回答は、男女とも８割以上となっている。

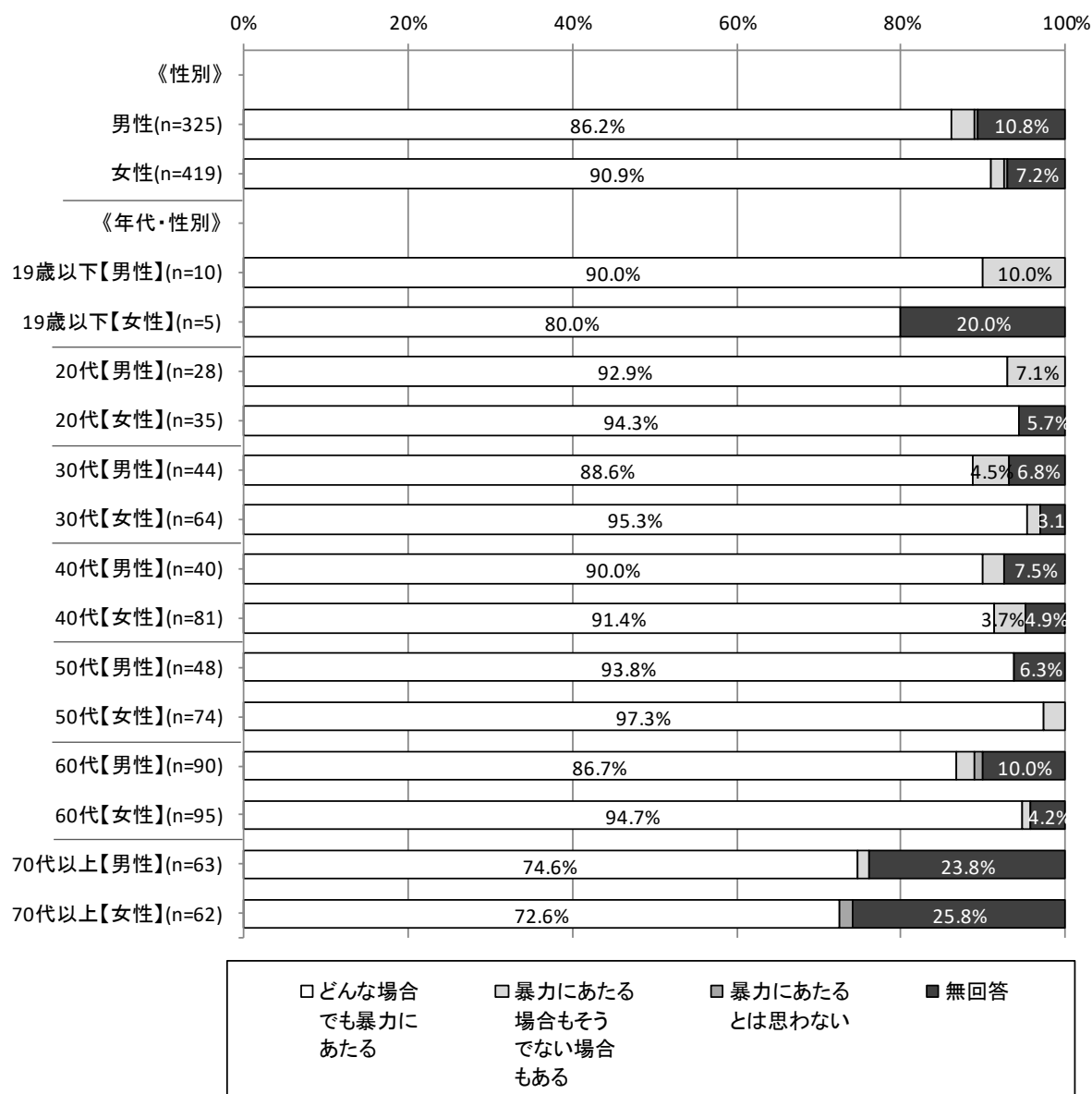
年代・性別でみると、50代では「どんな場合でも暴力にあたる」の割合が男女とも９割前後と比較的高くなっている。20代では「どんな場合でも暴力にあたる」と回答した男性が、女性を14.3ポイント上回っている。



【配偶者間での暴力について（3）身体を傷つける可能性のある物でなぐる：性別・年代】

性別でみると、「どんな場合でも暴力にあたる」との回答は、男性（86.2%）より女性（90.9%）が4.7ポイント高くなっている。

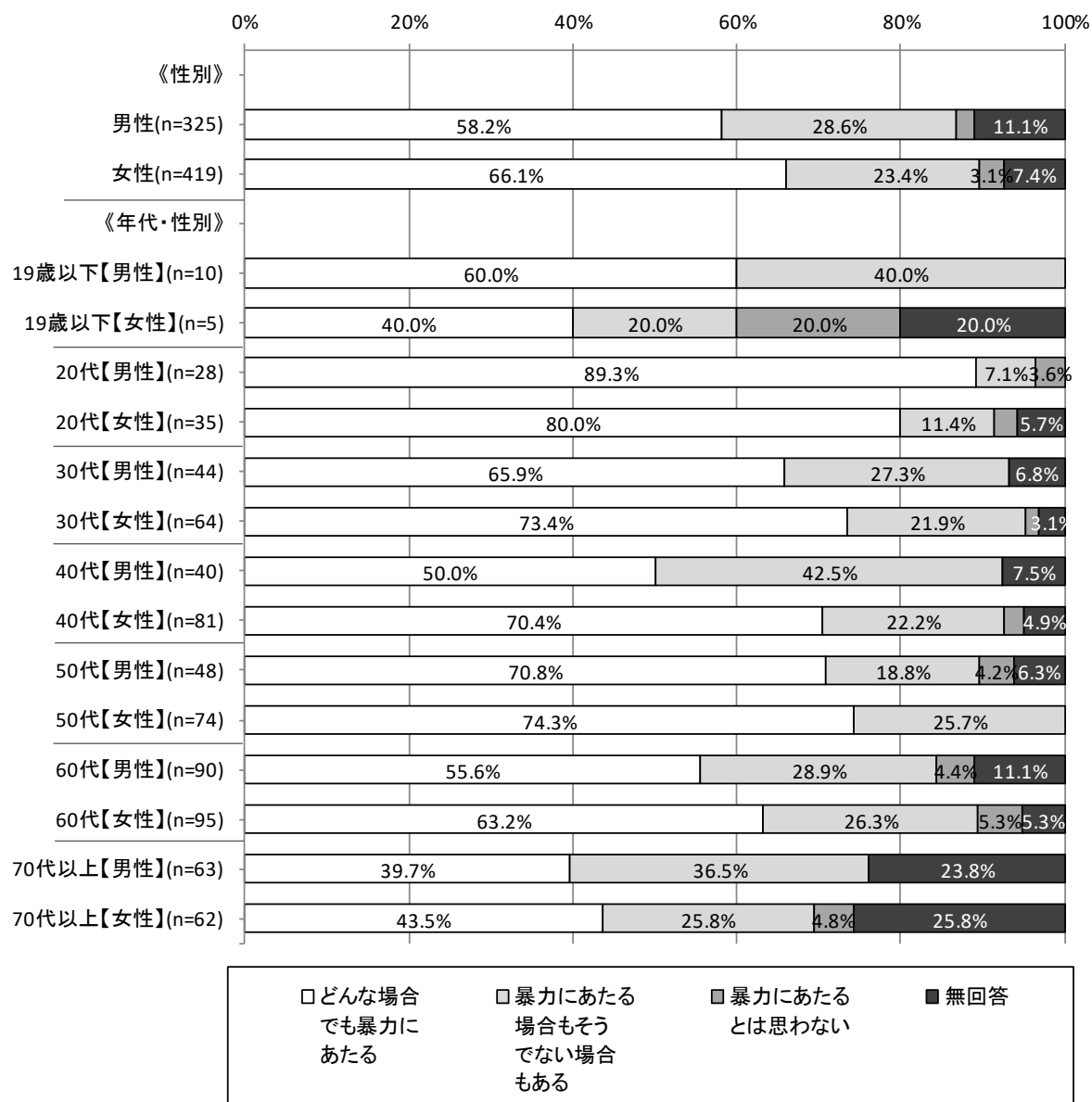
年代・性別でみると、70代男女では「どんな場合でも暴力にあたる」との回答が7割台と比較的低い割合となっている。



【配偶者間での暴力について（４）なぐるふりをして、おどす：性別・年代】

性別でみると、「どんな場合でも暴力にあたる」との回答は、男性（58.2%）より女性（66.1%）の方が 7.9 ポイント高くなっている。

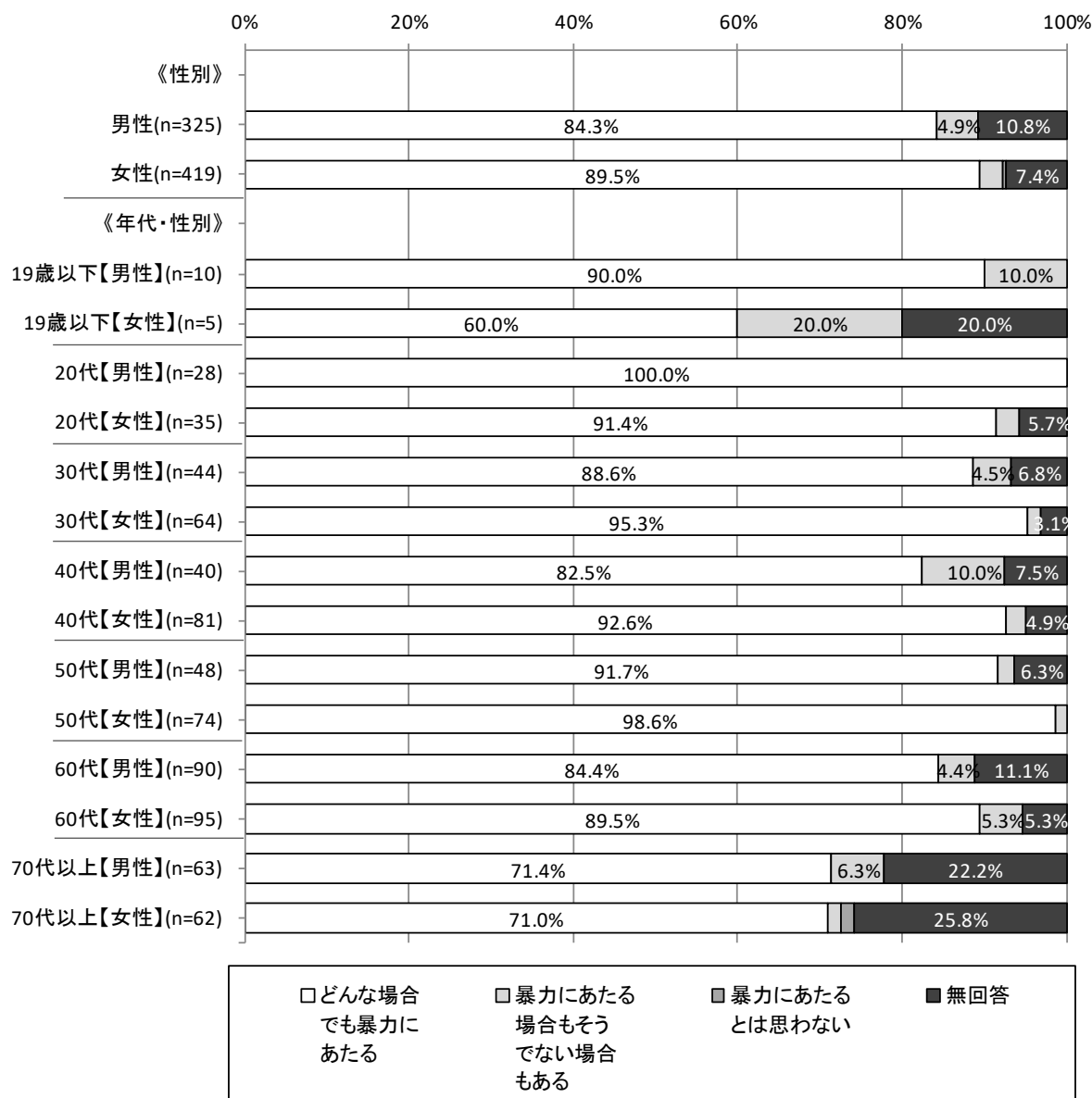
年代・性別でみると、「どんな場合でも暴力にあたる」は、20 代では男女とも 8 割以上と高くなっているのに対し、70 代以上では男女とも 4 割前後と低くなっている。40 代男性では「どんな場合でも暴力にあたる」が 40 代女性より 20.4 ポイント低く、「暴力にあたる場合もそうでない場合もある」が 4 割を超え、比較的高くなっている。



【配偶者間での暴力について（５）刃物などを突きつけて、おどす：性別・年代】

性別でみると、「どんな場合でも暴力にあたる」との回答は、男性（84.3%）より女性（89.5%）の方が 5.2 ポイント高くなっている。

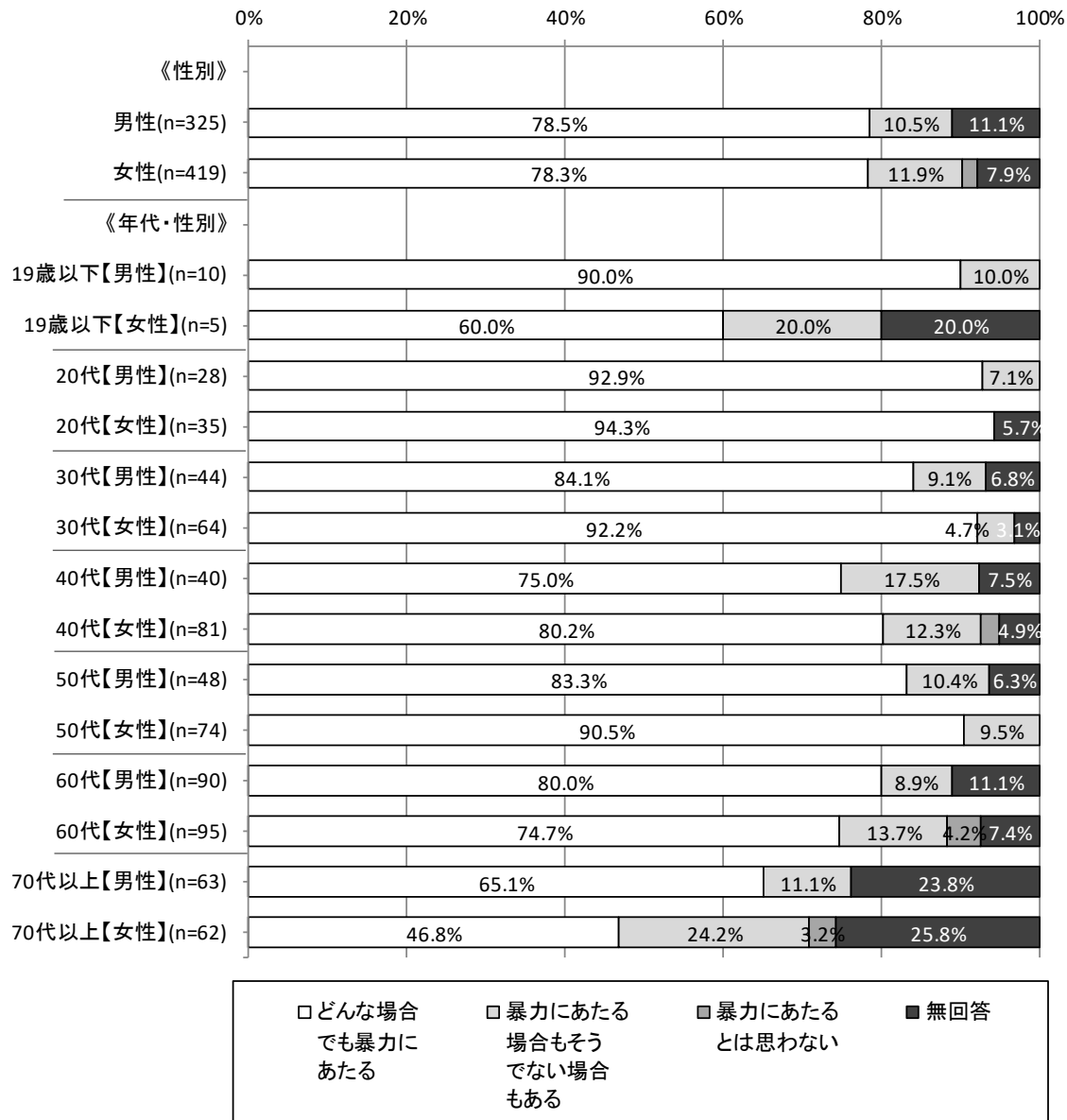
年代・性別でみると、70 代以上の男女では「どんな場合でも暴力にあたる」が約 7 割と比較的低くなっている。40 代男性では「どんな場合でも暴力にあたる」が 40 代女性より 10.1 ポイント低く、「暴力にあたる場合もそうでない場合もある」が 1 割と比較的高くなっている。



【配偶者間での暴力について（6）いやがっているのに性的な行為を強要する：性別・年代】

性別でみると、「どんな場合でも暴力にあたる」との回答は、男女とも約8割と同程度となっている。

年代・性別でみると、20代では男女とも「どんな場合でも暴力にあたる」が9割を超えている。30代から50代では、女性の方が男性よりも「どんな場合でも暴力にあたる」が5ポイント以上高くなっているのに対し、60代と70代以上では、男性の方が高い割合となっている。

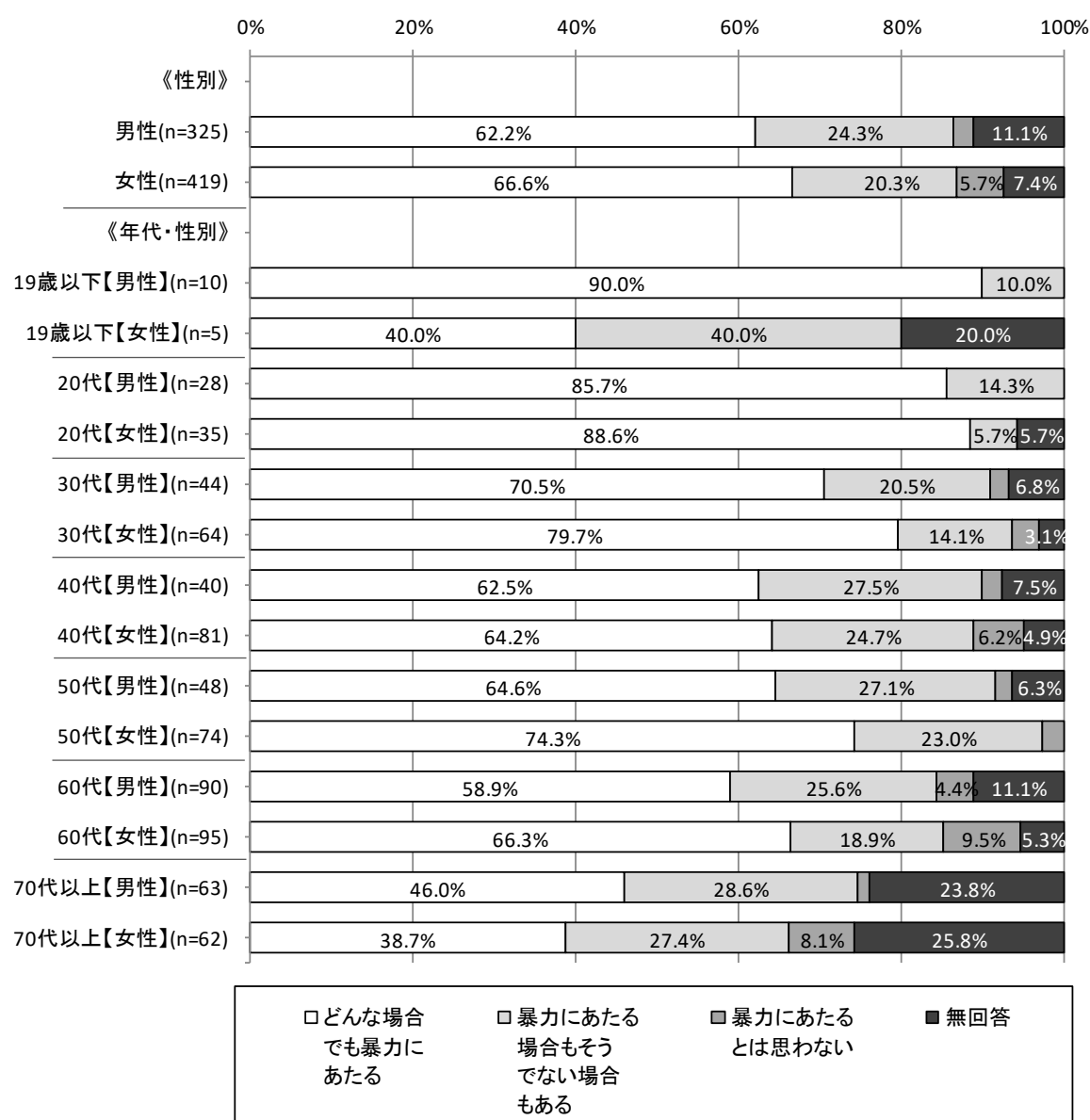


【配偶者間での暴力について（7）見たくないのに、アダルトビデオやポルノ雑誌を見せる

：性別・年代

性別でみると、「どんな場合でも暴力にあたる」との回答は、男性(62.2%)より女性(66.6%)の方が4.4ポイント高くなっている。

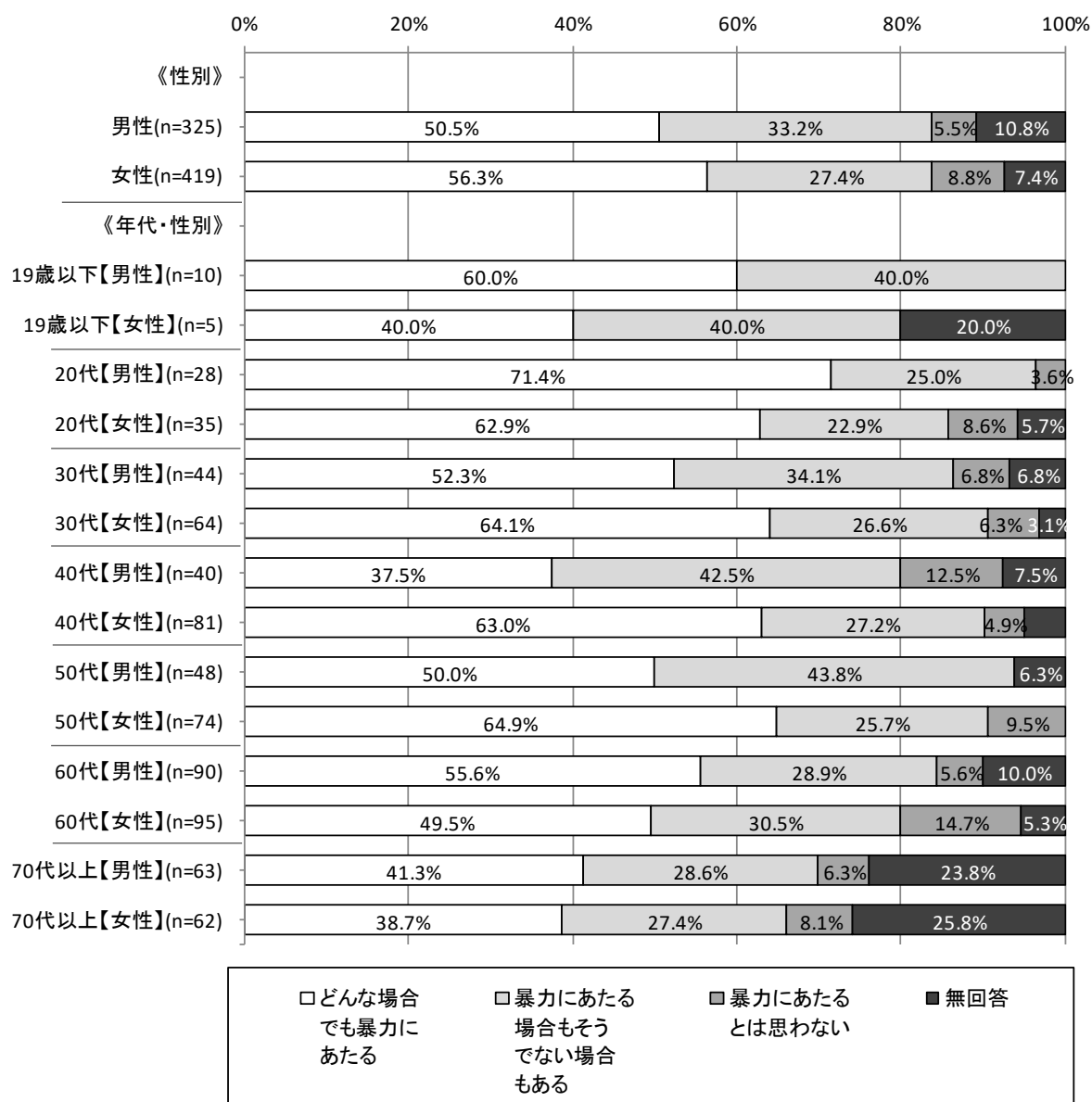
年代・性別でみると、20代、30代の男女、50代女性では「どんな場合でも暴力にあたる」との回答が7割を超えているのに対し、60代男性と70代男女では6割を下回っている。また、40代男性、50代男性、70代以上男女では「暴力にあたる場合もそうでない場合もある」が約3割と比較的高くなっている。



【配偶者間での暴力について（８）何を言っても長期間無視し続ける：性別・年代】

性別でみると、「どんな場合でも暴力にあたる」との回答は男性（50.5%）より女性（56.3%）で5.8ポイント高くなっている。

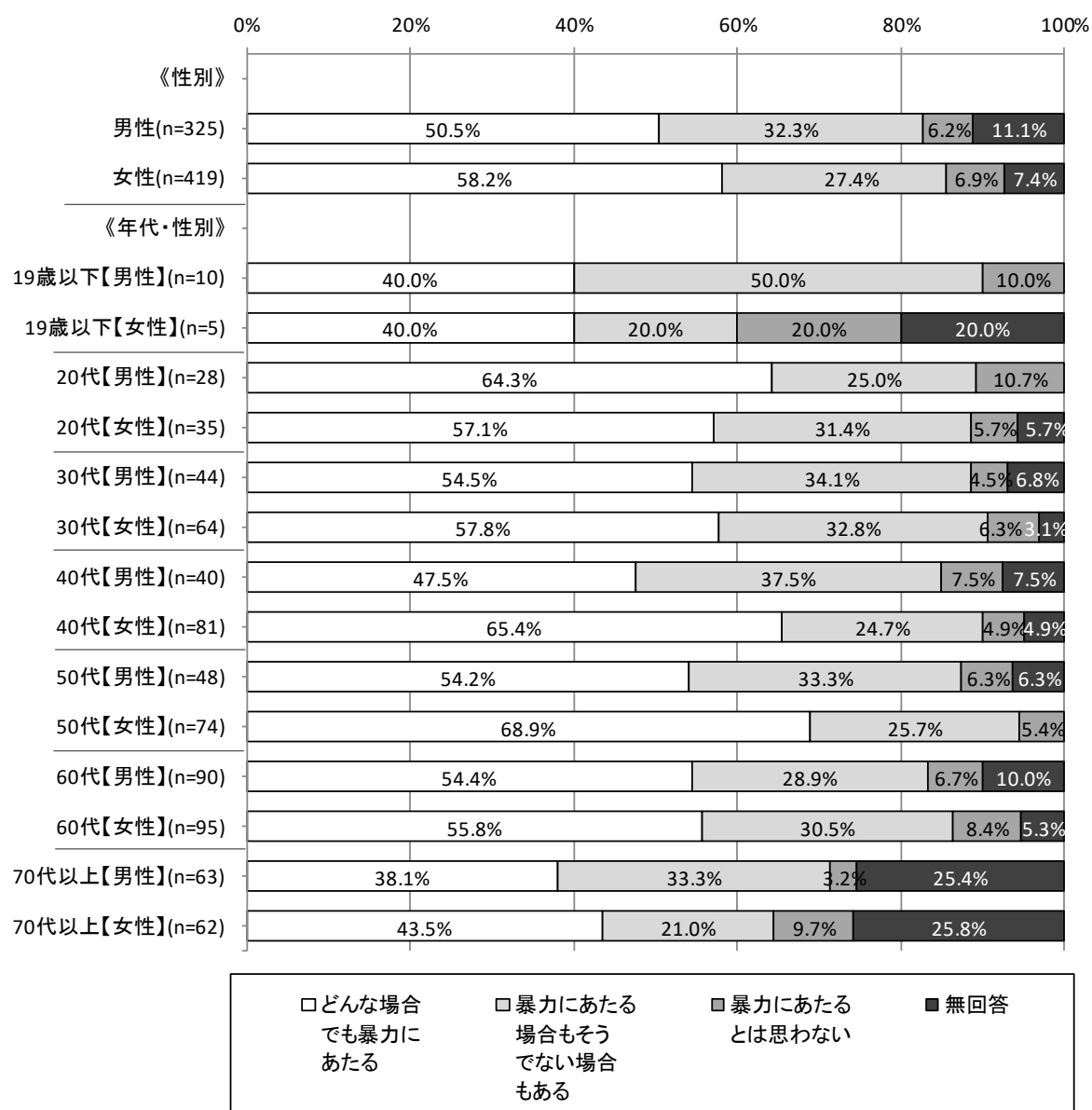
年代・性別でみると、「どんな場合でも暴力にあたる」との回答は40代男性、70代以上の男女で4割前後と比較的低くなっている。40代と50代男性では「暴力にあたる場合もそうでない場合もある」が4割を超え、比較的高くなっている。



【配偶者間での暴力について（９）交友関係や電話やメールを細かく監視する：性別・年代】

性別でみると、「どんな場合でも暴力にあたる」との回答は、男性（50.5%）よりも女性（58.2%）の方が 7.7 ポイント高くなっている。

年代・性別でみると、「どんな場合でも暴力にあたる」との回答は 40 代男性で 5 割を下回り、70 代以上の男女で 4 割前後と比較的低くなっている。40 代男性では「暴力にあたる場合もそうでない場合もある」（37.5%）が他に比べ高い割合となっている。

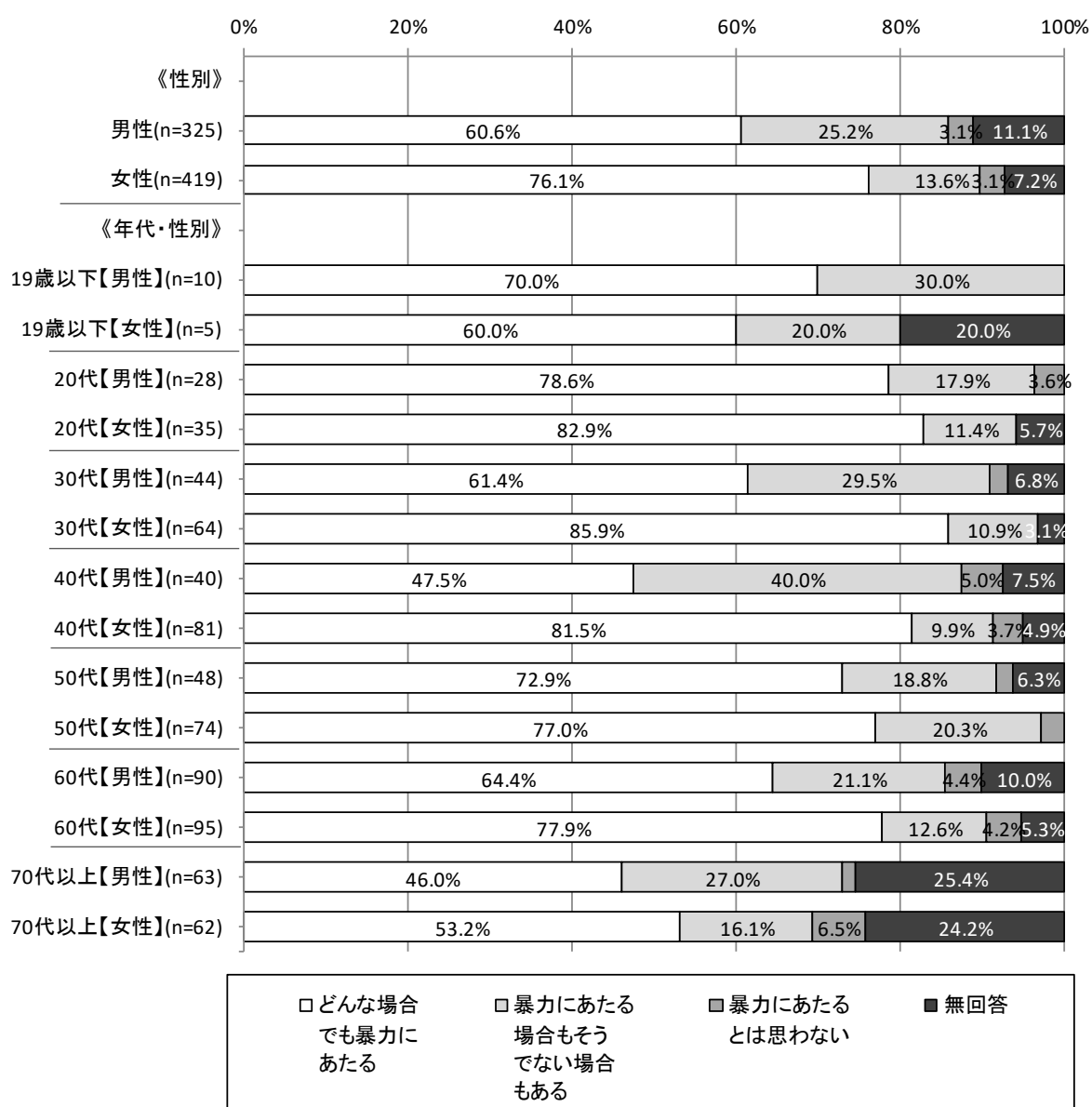


【配偶者間での暴力について（10）「だれのおかげで生活できるんだ」などと言う

：性別・年代

性別でみると、「どんな場合でも暴力にあたる」との回答は、男性（60.6%）より女性（76.1%）の方が 15.5 ポイント高くなっている。また、「暴力にあたる場合もそうでない場合もある」は、女性（13.6%）より男性（25.2%）の方が 11.6 ポイント高くなっている。

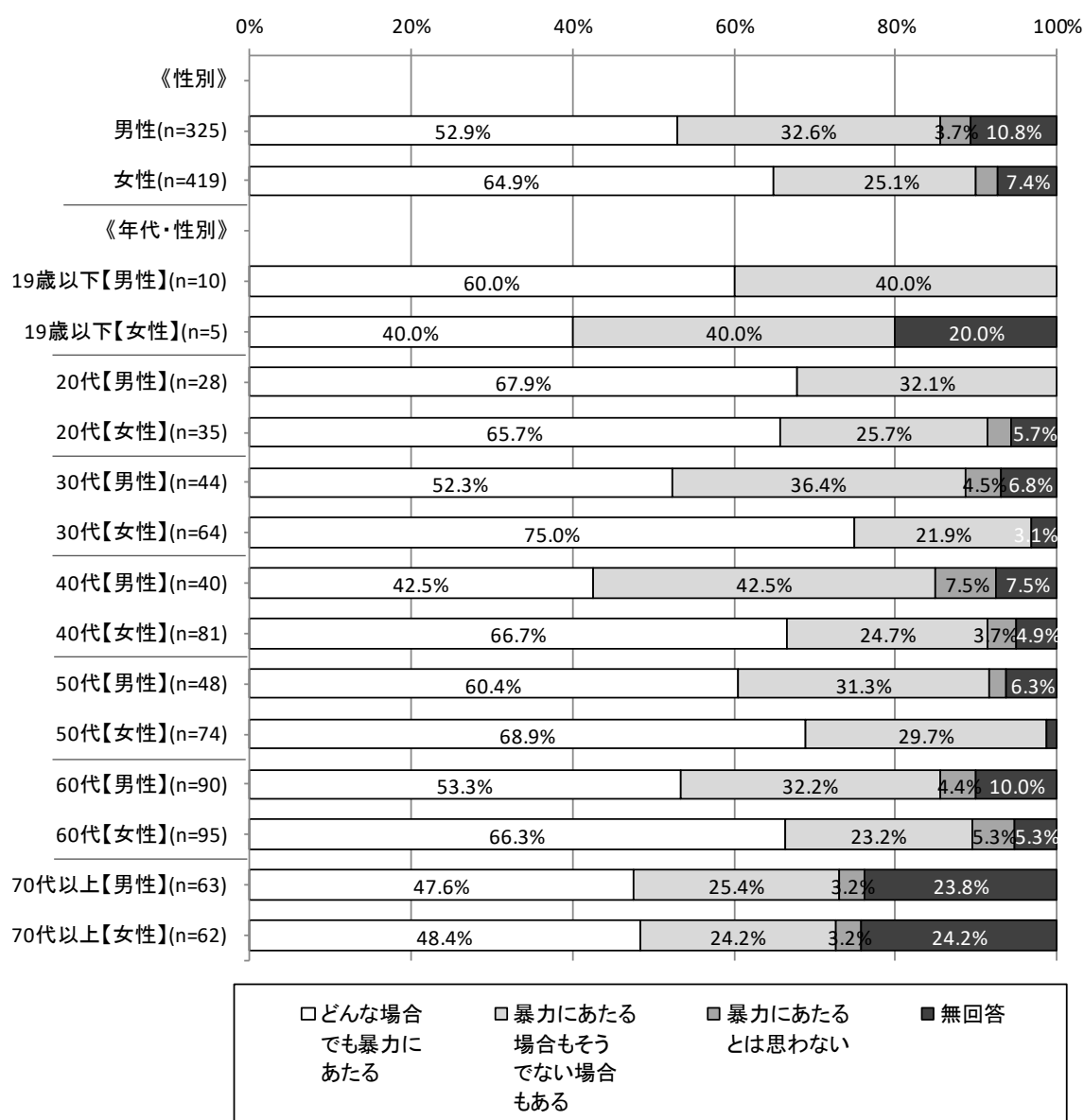
年代・性別でみると、30代と40代の女性では「どんな場合でも暴力にあたる」が8割を超え、同年代の男性を20ポイント以上上回っている。40代男性では「暴力にあたる場合もそうでない場合もある」が4割と比較的高くなっている。



【配偶者間での暴力について（11）大声でどなる：性別・年代】

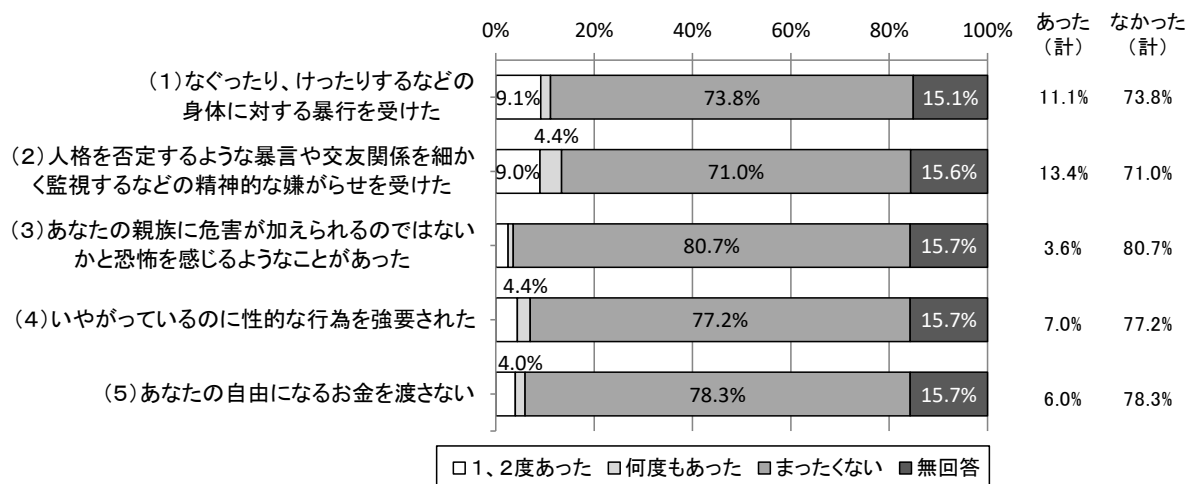
性別でみると、「どんな場合でも暴力にあたる」との回答は、男性（52.9%）より女性（64.9%）の方が 12.0 ポイント高くなっている。

年代・性別でみると、30 代と 40 代の女性では「どんな場合でも暴力にあたる」が男性を 20 ポイント以上上回っている。40 代男性と 70 代以上の男女では、「どんな場合でも暴力にあたる」が 5 割を下回り、比較的低くなっている。また、「どんな場合でも暴力にあたる」と「暴力にあたる場合もそうでない場合もある」が同程度となっている。



問 18. あなたはこれまでに、あなたの配偶者から次の（１）～（５）のようなことをされたことがありますか。（それぞれ１つだけに○）

「まったくない」が７割から８割となっている。一方、「１、２度あった」、「何度もあった」を合わせた『あった（計）』の高い項目は、「なぐったり、けったりするなどの身体に対する暴行を受けた」（11.1%）、「人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた」（13.4%）がともに１割を超えている。

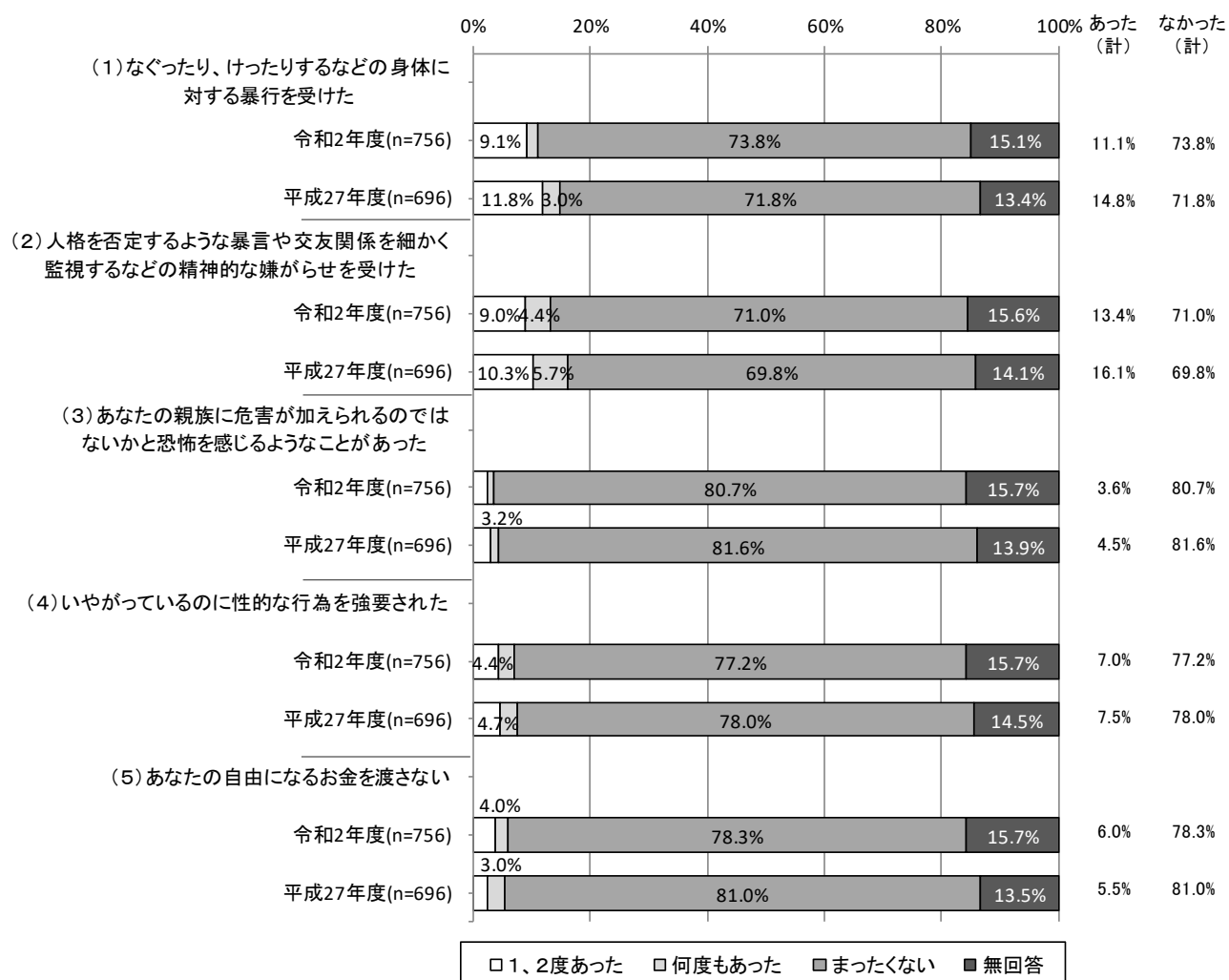


項目	1、2度あった	何度もあった	まったくない	無回答	合計
(1) なぐったり、けったりするなどの身体に対する暴行を受けた	69	15	558	114	756
(2) 人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた	68	33	537	118	756
(3) あなたの親族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるようなことがあった	19	8	610	119	756
(4) いやがっているのに性的な行為を強要された	33	20	584	119	756
(5) あなたの自由になるお金を渡さない	30	15	592	119	756

項目（構成比）	1、2度あった	何度もあった	まったくない	無回答	合計
(1) なぐったり、けったりするなどの身体に対する暴行を受けた	9.1%	2.0%	73.8%	15.1%	100.0%
(2) 人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた	9.0%	4.4%	71.0%	15.6%	100.0%
(3) あなたの親族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるようなことがあった	2.5%	1.1%	80.7%	15.7%	100.0%
(4) いやがっているのに性的な行為を強要された	4.4%	2.6%	77.2%	15.7%	100.0%
(5) あなたの自由になるお金を渡さない	4.0%	2.0%	78.3%	15.7%	100.0%

【配偶者から暴力を受けた経験：経年比較】

前回調査と比べると、あまり大きな差はみられない。

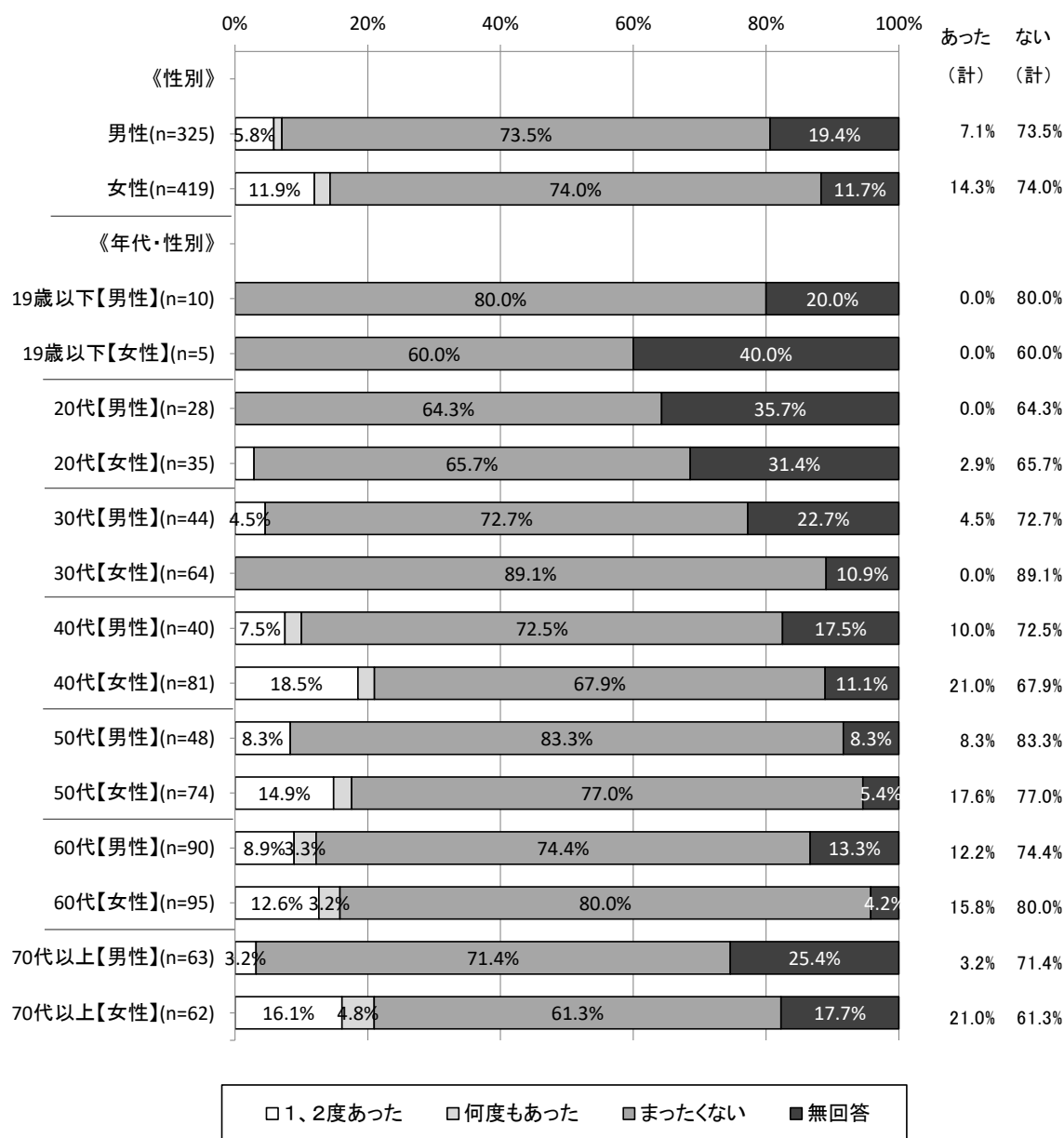


【配偶者から暴力を受けた経験

（１）なぐったり、けったりするなどの身体に対する暴行を受けた：性別・年代】

性別でみると、『あった（計）』の回答は、男性（7.1％）より女性（14.3％）の方が7.2ポイント高くなっている。

年代・性別でみると、40代以上の女性で「1、2度あった」の回答が1割を超え、比較的高くなっている。

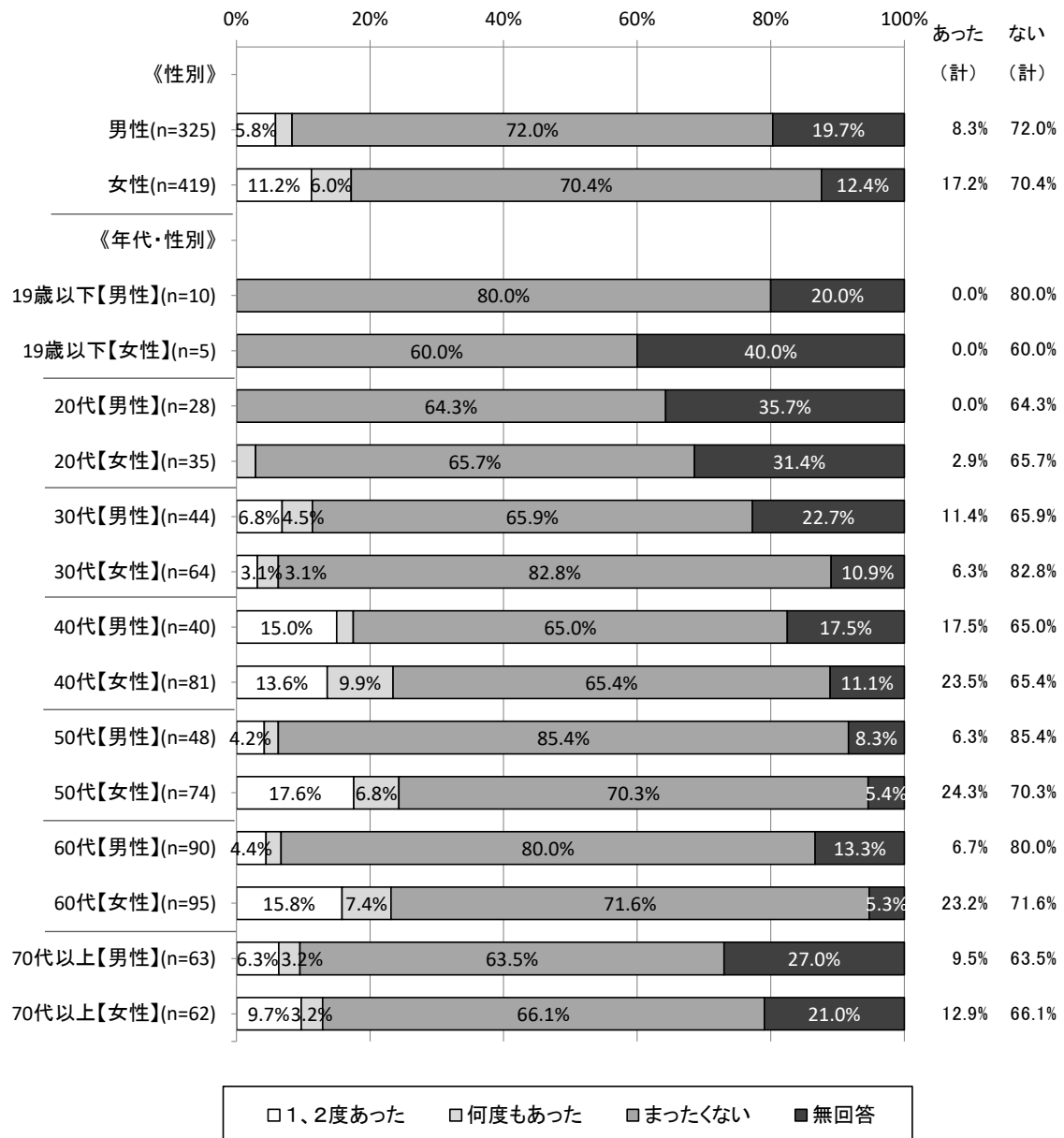


【配偶者から暴力を受けた経験

（２）人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた：性別・年代】

性別でみると、『あった（計）』の回答は、男性（8.3%）より女性（17.2%）の方が 8.9 ポイント高くなっている。

年代・性別でみると、40 代男女、50 代、60 代女性で「1、2 度あった」の回答が 1 割を超え、高くなっている。



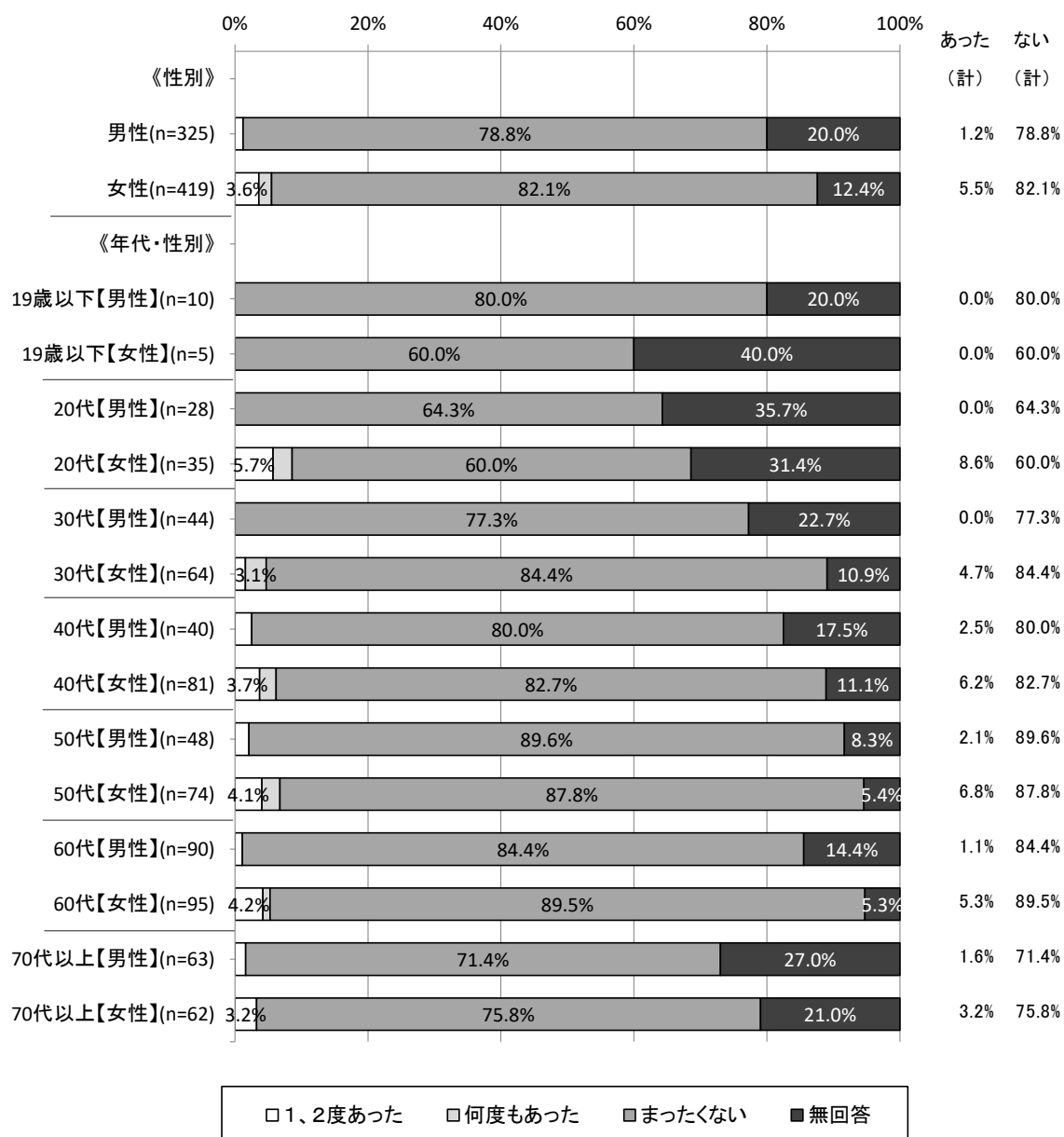
【配偶者から暴力を受けた経験

(3) あなたの親族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるようなことがあった

：性別・年代】

性別でみると、『あった（計）』の回答は、男女とも1割未満となっている。

年代・性別でみると、『あった（計）』の回答は、全ての区分で1割未満となっている。

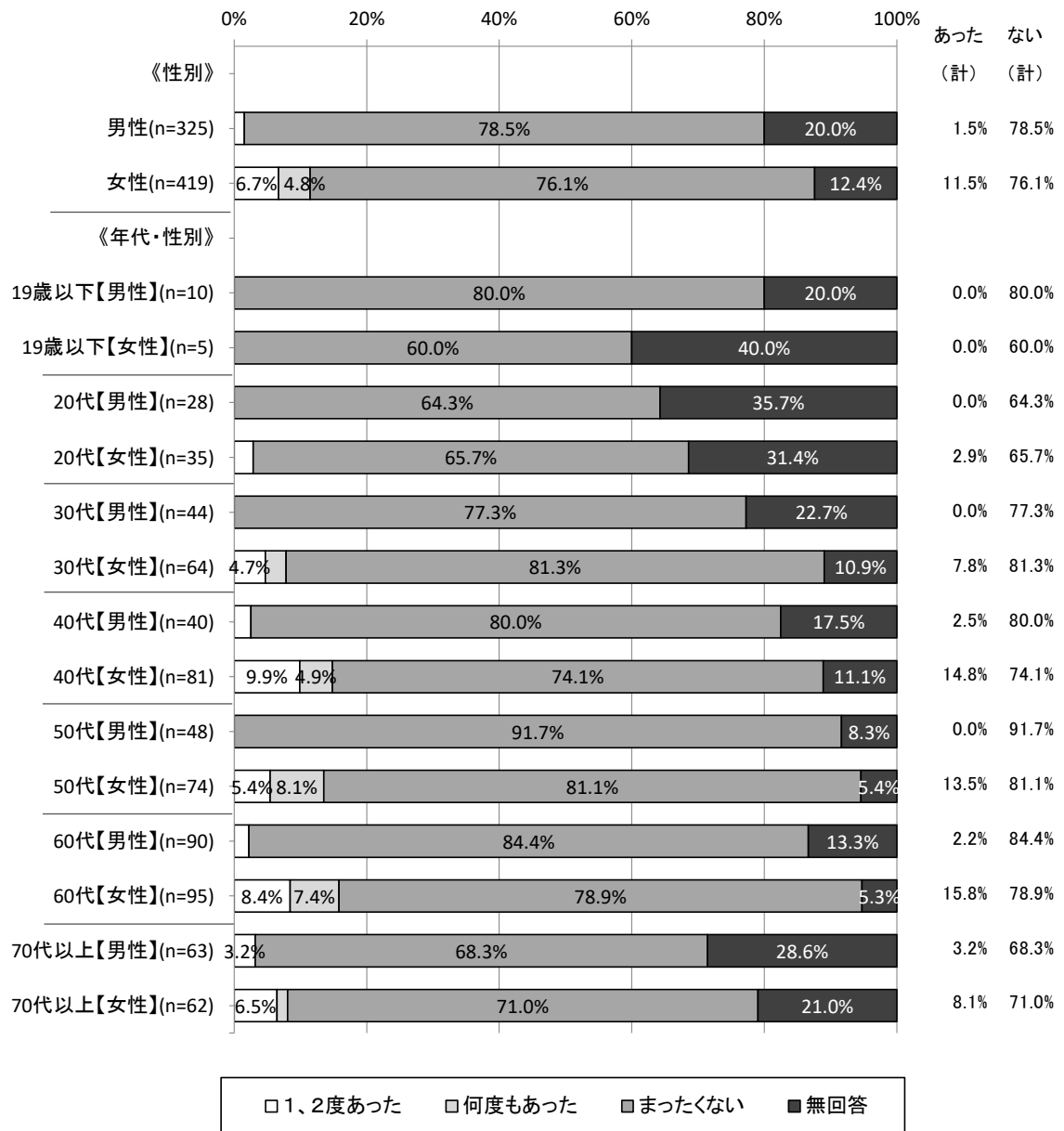


【配偶者から暴力を受けた経験

（４）いやがっているのに性的な行為を強要された：性別・年代】

性別でみると、『あった（計）』の回答は、男性（1.5%）より女性（11.5%）の方が 10.0 ポイント高くなっている。

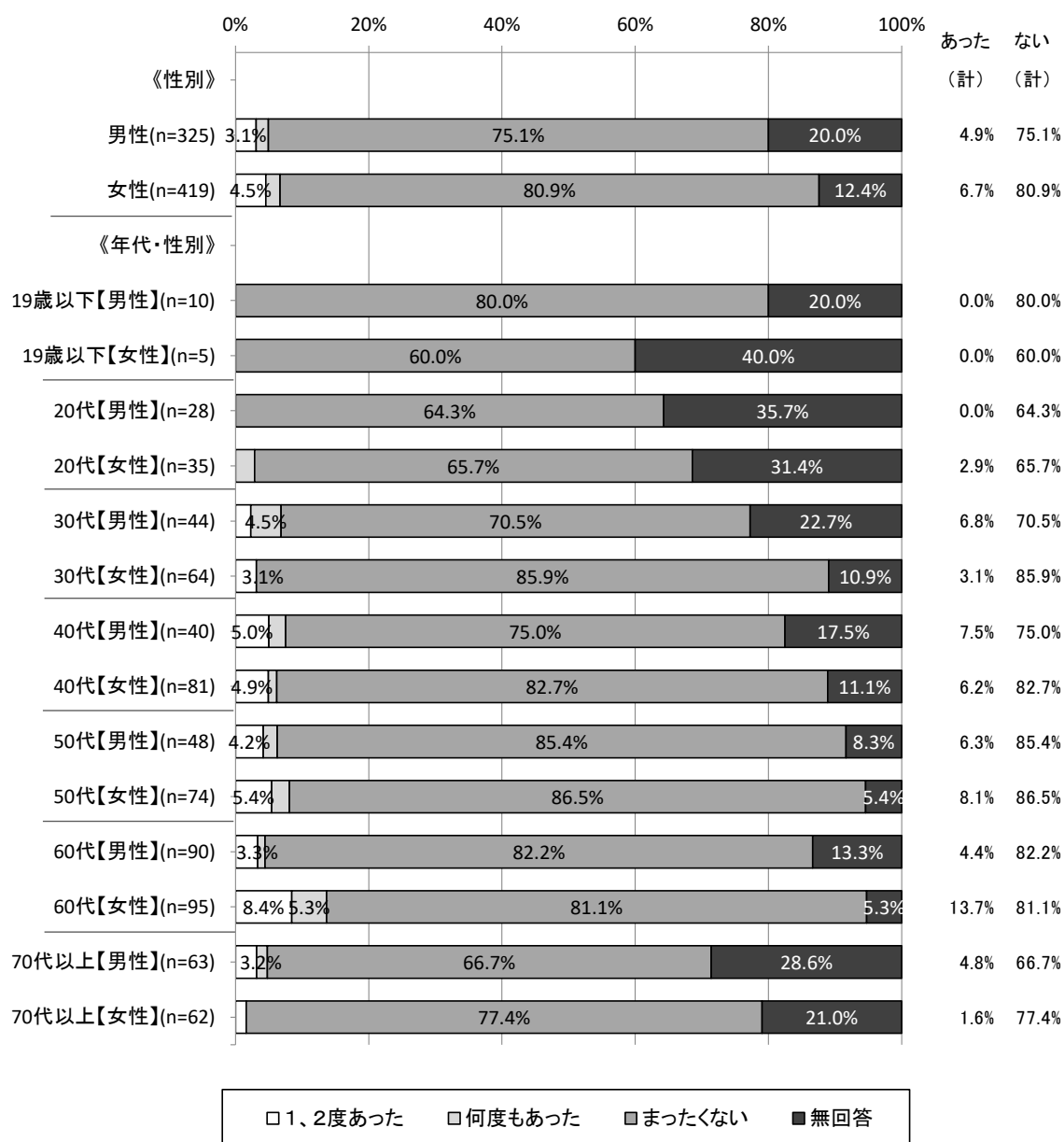
年代・性別でみると、40 代、50 代、60 代女性で『あった（計）』の回答が 1 割を超え、比較的高くなっている。



【配偶者から暴力を受けた経験（５）あなたの自由になるお金を渡さない：性別・年代】

性別でみると、『あった（計）』の回答は、男女とも１割未満となっている。

年代・性別でみると、60代女性で『あった（計）』の回答が13.7%と比較的高くなっている。

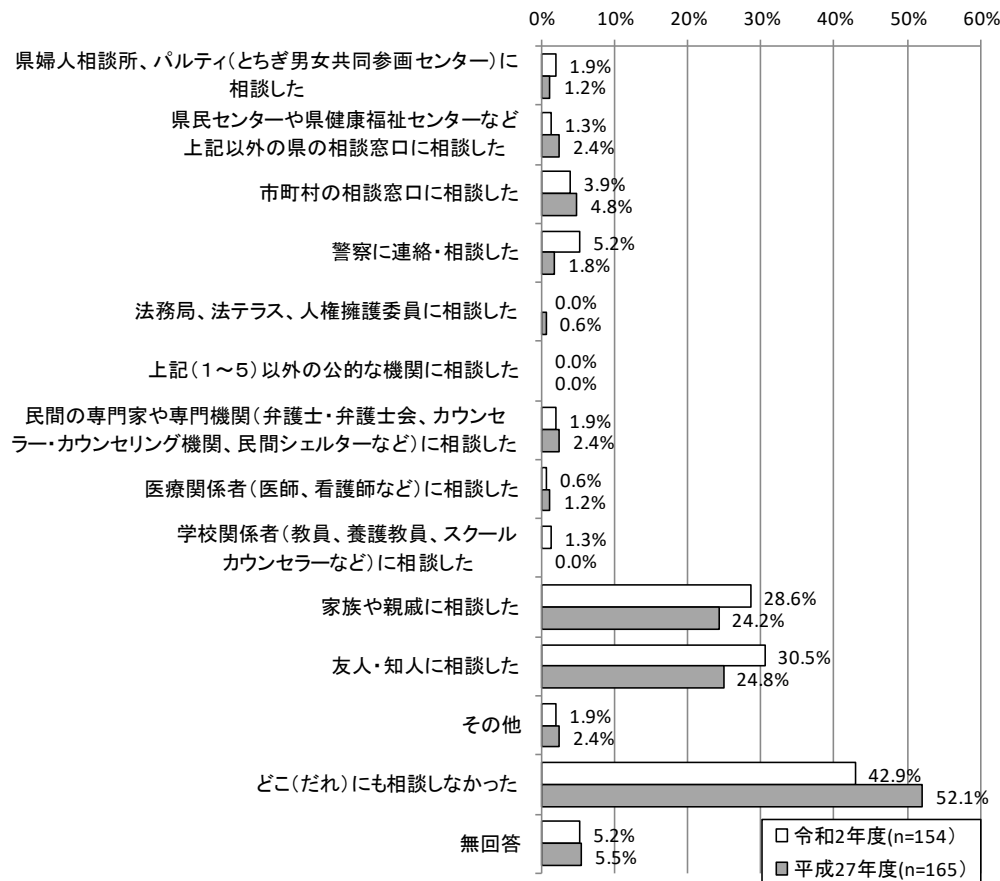


【問 18 で、(配偶者から暴力を受けた経験)で「1、2度あった」または「何度もあった」と
1つでも回答した方に】

問 18-1. あなたは、配偶者から受けたそのような行為について、だれかに打ち明けたり、相
談したりしましたか。(あてはまるものすべてに○)

「友人・知人に相談した」が 30.5%と最も高く、次いで「家族や親戚に相談した」が 28.6%
となっている。一方、「どこ（だれ）にも相談しなかった」が 42.9%となっている。

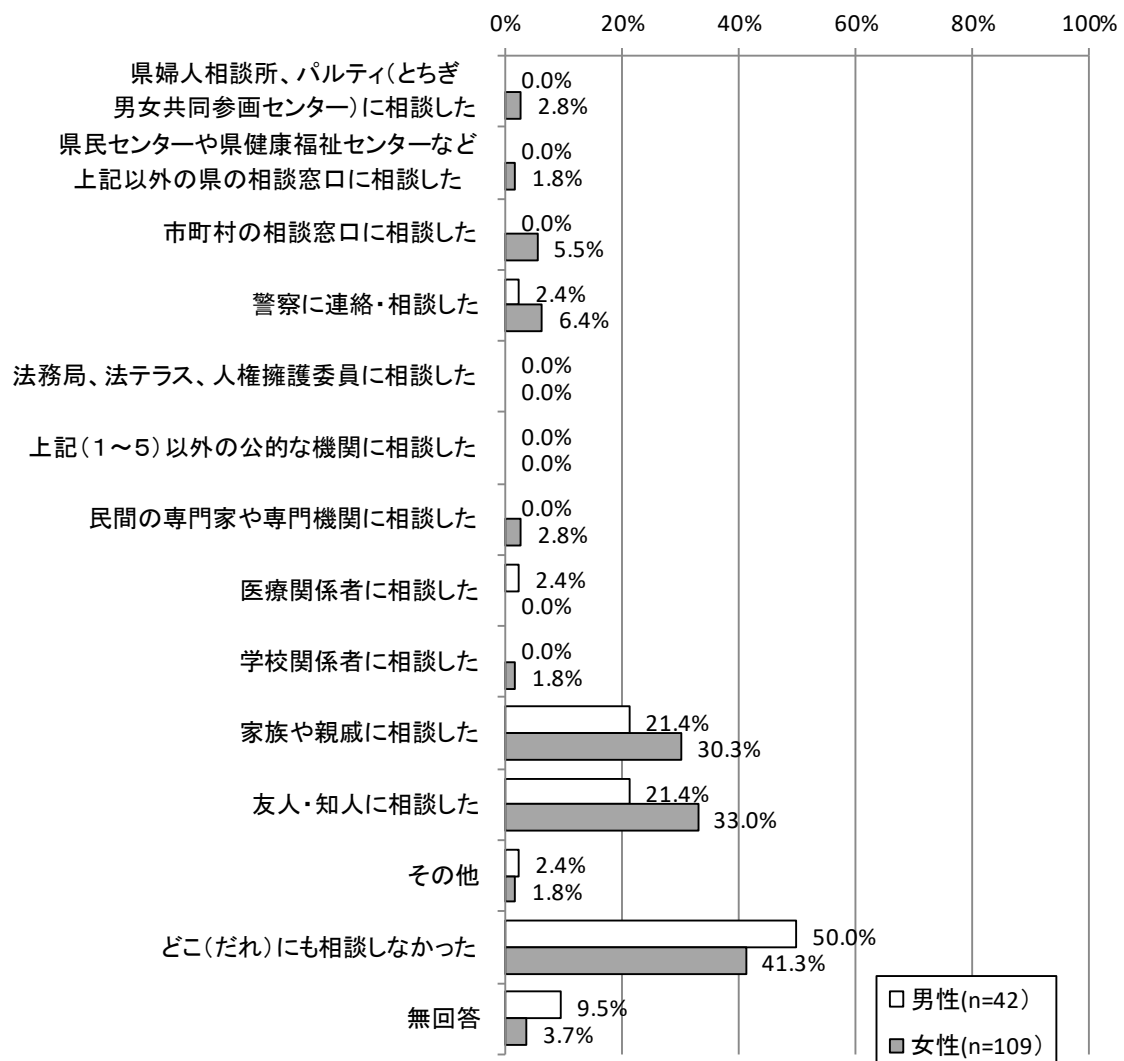
前回調査と比べると、「どこ（だれ）にも相談しなかった」が 9.2 ポイント減少している。



項目	度数	構成比
県婦人相談所、パルティ(とちぎ男女共同参画センター)に相談した	3	1.9%
県民センターや県健康福祉センターなど上記以外の県の相談窓口相談した	2	1.3%
市町村の相談窓口相談した	6	3.9%
警察に連絡・相談した	8	5.2%
法務局、法テラス、人権擁護委員に相談した	0	0.0%
上記(1～5)以外の公的な機関に相談した	0	0.0%
民間の専門家や専門機関(弁護士・弁護士会、カウンセラー・カウンセリング機関、民間シェルターなど)に相談した	3	1.9%
医療関係者(医師、看護師など)に相談した	1	0.6%
学校関係者(教員、養護教員、スクールカウンセラーなど)に相談した	2	1.3%
家族や親戚に相談した	44	28.6%
友人・知人に相談した	47	30.5%
その他	3	1.9%
どこ(だれ)にも相談しなかった	66	42.9%
無回答	8	5.2%
回答者数	154	
非該当	602	
合計	756	

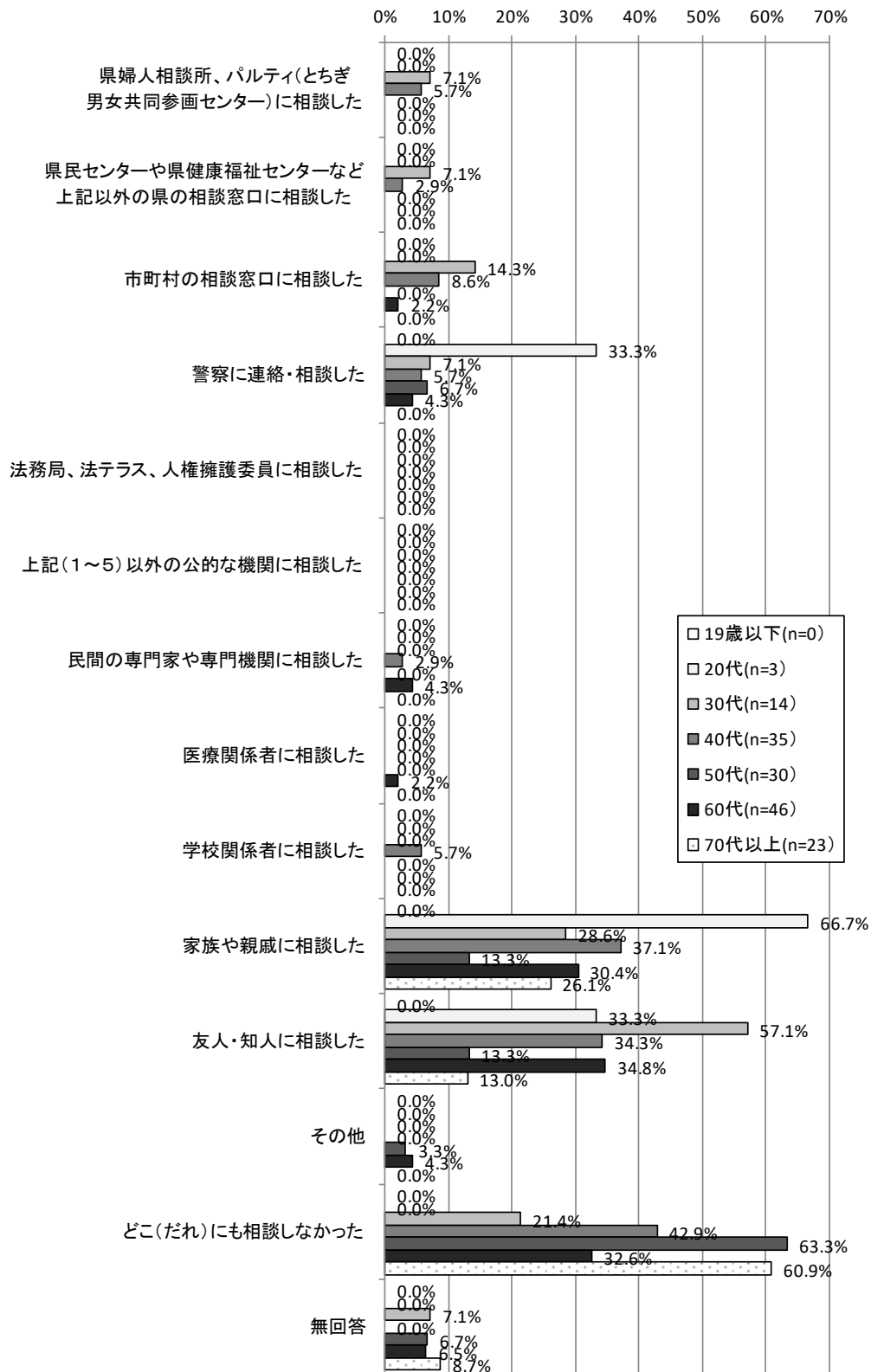
【配偶者から受けた暴力についての相談相手：性別】

性別でみると、女性では「友人・知人に相談した」、「家族や親戚に相談した」がともに約3割で、男性を上回っている。



【配偶者から受けた暴力についての相談相手：年代】

年代でみると、30代では「友人・知人に相談した」が57.1%と比較的高くなっている。50代女性と70代以上女性では「どこ（だれ）にも相談しなかった」が6割を超えている。

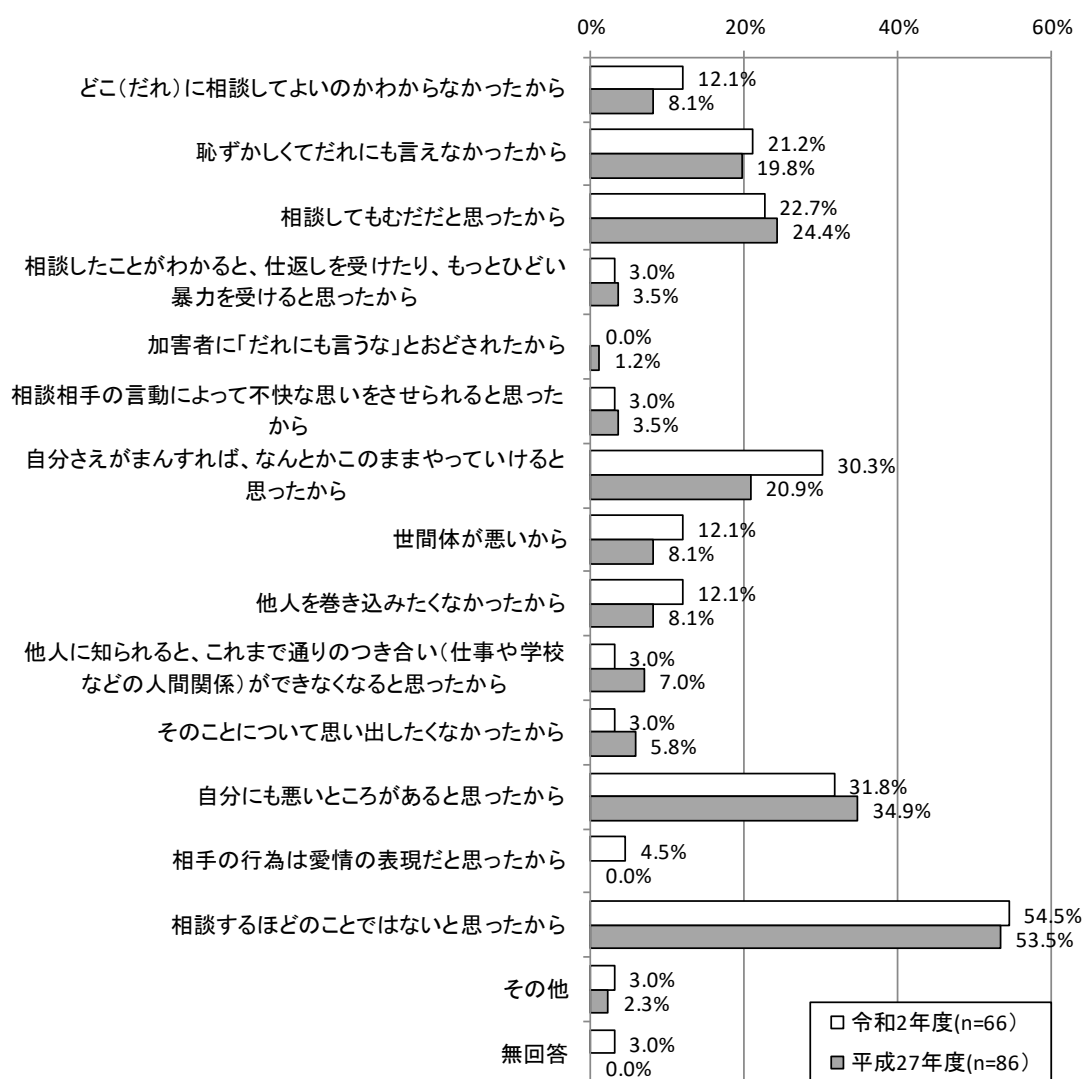


【問 18-1. （配偶者から受けた暴力についての相談相手）で、「どこ（だれ）にも相談しなかった」と回答した方に】

問 18-2. どこ（だれ）にも相談しなかったのは、なぜですか。（あてはまるものすべてに○）

「相談するほどのことではないと思ったから」が 54.5%と最も高く、次いで「自分にも悪いところがあると思ったから」31.8%、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」が 30.3%となっている。

前回調査と比べると、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」が 9.4 ポイント高くなっている。

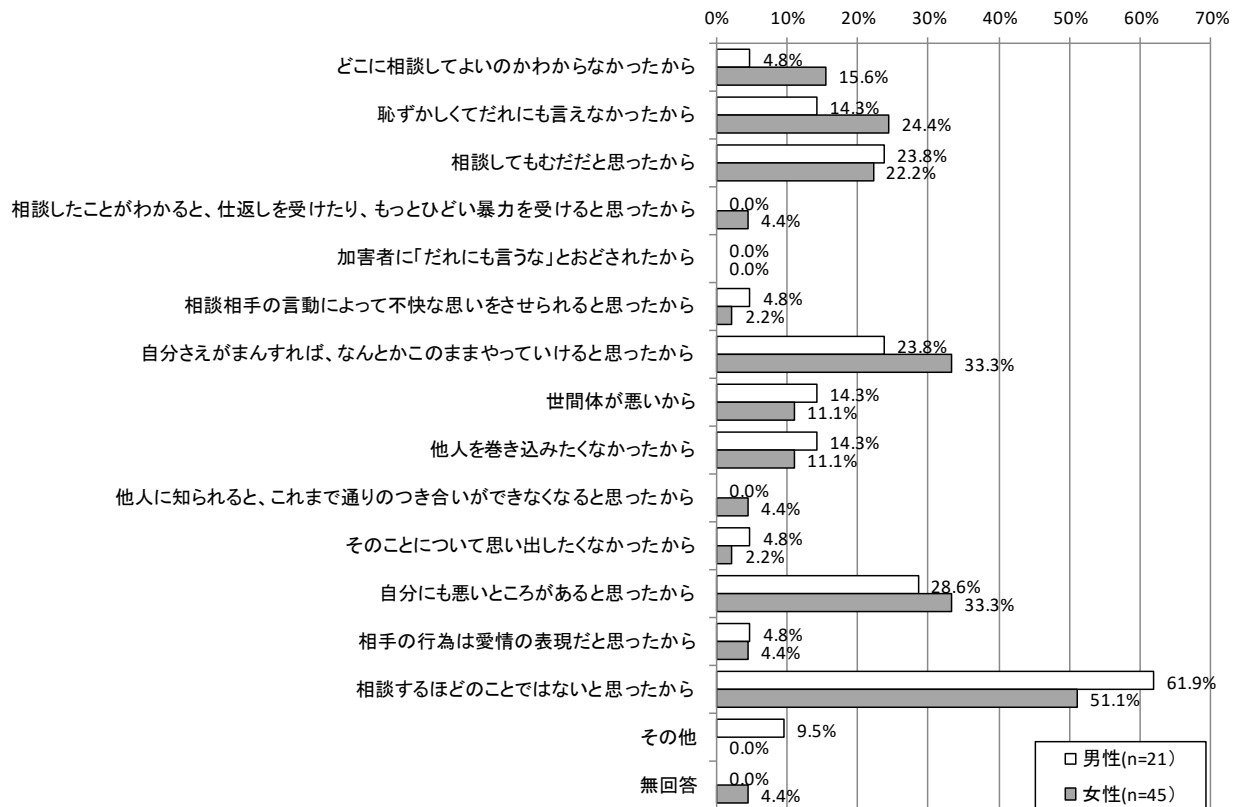


項目	度数	構成比
どこ(だれ)に相談してよいのかわからなかったから	8	12.1%
恥ずかしくてだれにも言えなかったから	14	21.2%
相談してもむだだと思ったから	15	22.7%
相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから	2	3.0%
加害者に「だれにも言うな」とおどされたから	0	0.0%
相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思ったから	2	3.0%
自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから	20	30.3%
世間体が悪いから	8	12.1%
他人を巻き込みたくなかったから	8	12.1%
他人に知られると、これまで通りの付き合い(仕事や学校などの人間関係)ができなくなると思ったから	2	3.0%
そのことについて思い出したくなかったから	2	3.0%
自分にも悪いところがあると思ったから	21	31.8%
相手の行為は愛情の表現だと思ったから	3	4.5%
相談するほどのことではないと思ったから	36	54.5%
その他	2	3.0%
無回答	2	3.0%
回答者数	66	
非該当	690	
合計	756	

【配偶者から受けた暴力について相談しなかった理由：性別】

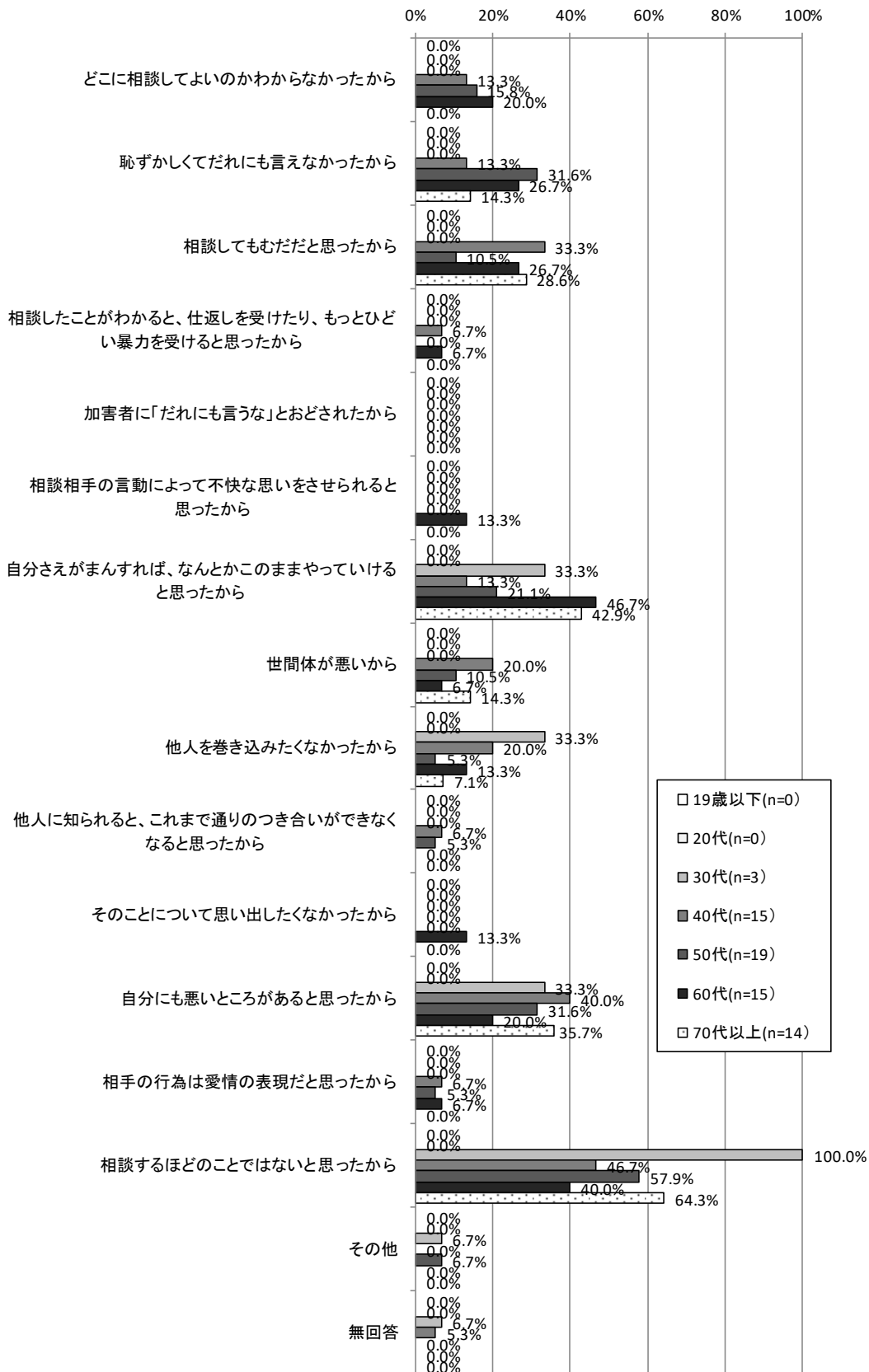
性別でみると、「どこに相談してよいのかわからなかったから」、「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」、「自分さえがまんすれば、なんとかやっていけると思ったから」の項目で、女性の方が男性よりも約 10 ポイント高くなっている。

また、「相談するほどのことではないと思ったから」の項目で、男性の方が女性よりも 10.8 ポイント高くなっている。



【配偶者から受けた暴力についての相談しなかった理由：年代】

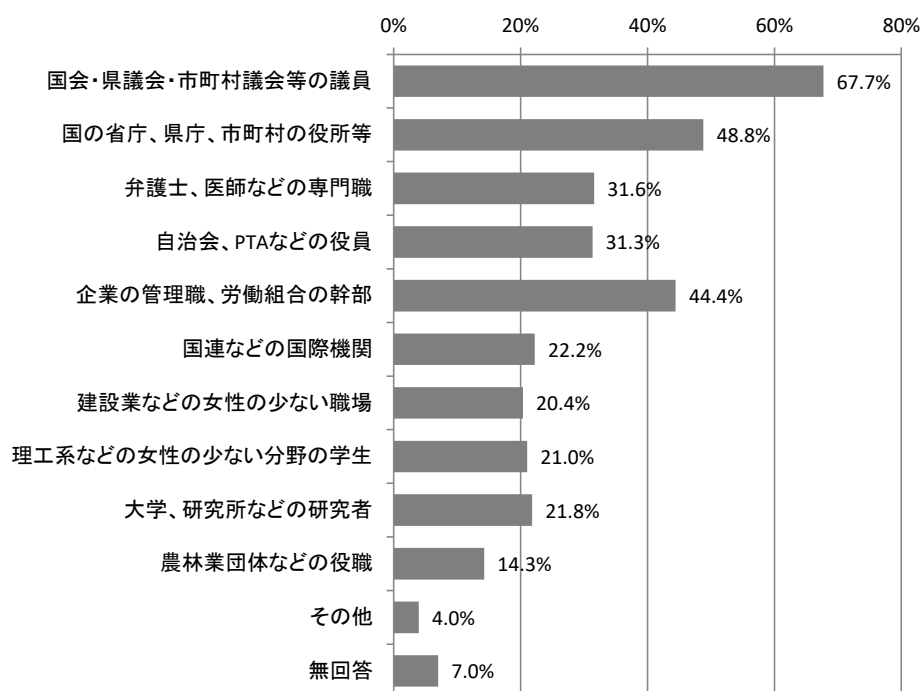
年代別にみると、50代、70代以上では「相談するほどのことではないと思ったから」が5割を超えている。また、60代、70代以上では「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけるといったから」が4割を超え、比較的高くなっている。



8) 男女共同参画を推進するための取組について

問 19. 男女共同参画を実現するためには、性別に関わらず、対等な立場で協力しあい、活躍できる社会づくりが求められています。男性に比べ女性の参画が少ない傾向です。あなたは、今後どのような分野で、特に女性の参画を進める必要があると思いますか。(あてはまるものすべてに○)

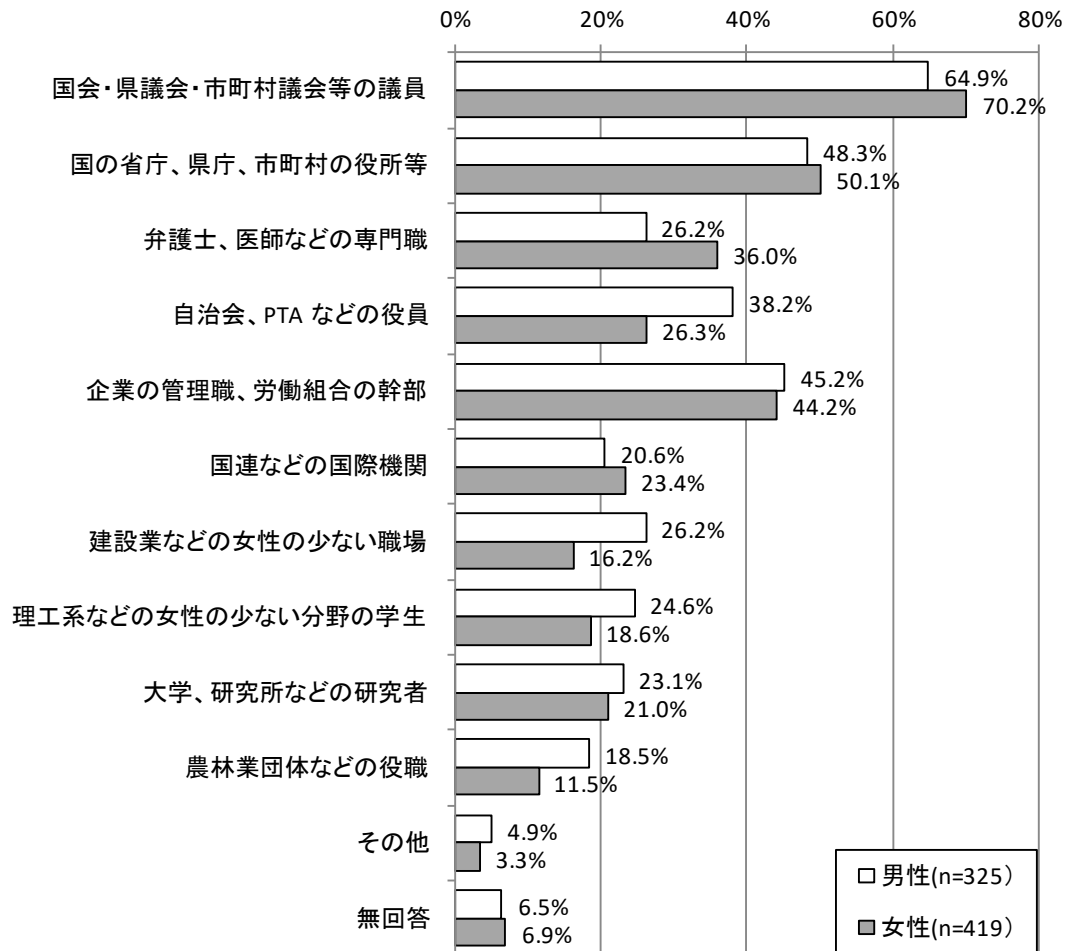
「国会・県議会・市町村議会等の議員」が 67.7%と最も高く、次いで「国の省庁、県庁、市町村の役所等」が 48.8%、「企業の管理職、労働組合の幹部」が 44.4%、「弁護士、医師などの専門職」が 31.6%、「自治会、PTAなどの役員」が 31.3%となっている。



項目	度数	構成比
国会・県議会・市町村議会等の議員	512	67.7%
国の省庁、県庁、市町村の役所等	369	48.8%
弁護士、医師などの専門職	239	31.6%
自治会、PTAなどの役員	237	31.3%
企業の管理職、労働組合の幹部	336	44.4%
国連などの国際機関	168	22.2%
建設業などの女性の少ない職場	154	20.4%
理工系などの女性の少ない分野の学生	159	21.0%
大学、研究所などの研究者	165	21.8%
農林業団体などの役職	108	14.3%
その他	30	4.0%
無回答	53	7.0%
回答者数	756	

【女性の参画を進める必要がある分野：性別】

性別で見ると、「自治会、PTA などの役員」、「建設業などの女性の少ない職場」で、男性が女性よりも 10 ポイント以上高くなっている。「弁護士、医師などの専門職」で、女性が男性よりも 9.8 ポイント高くなっている。

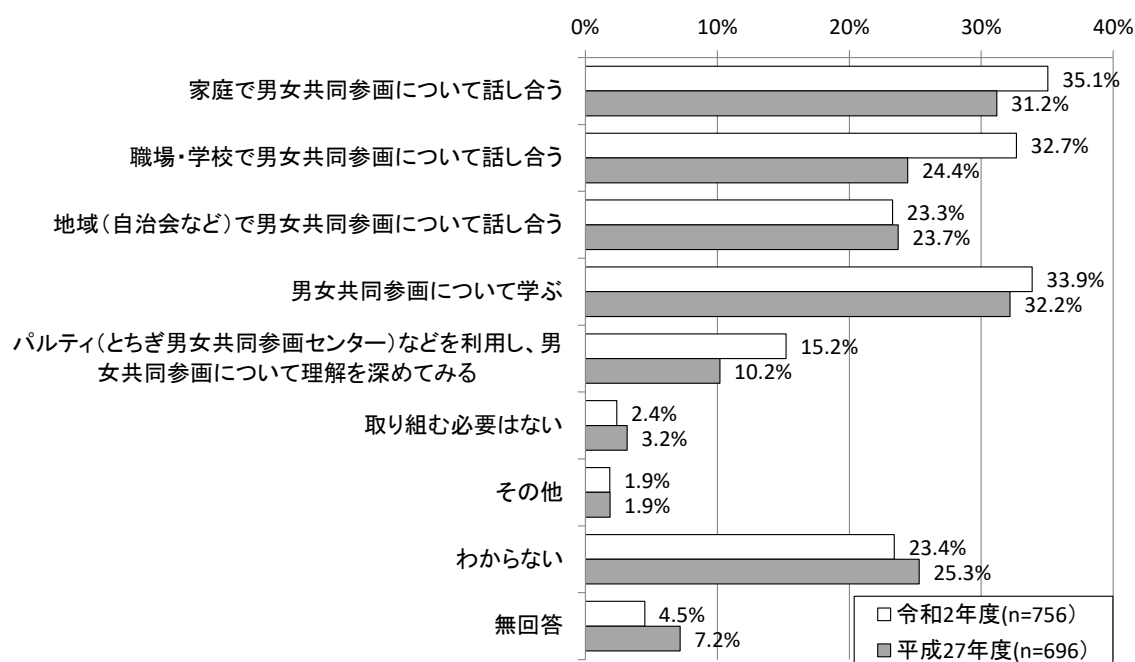


問 20. 男女共同参画を推進するために、あなたは、どのようなことができますか。

(あてはまるものすべてに○)

「家庭で男女共同参画について話し合う」が 35.1%と最も高く、次いで「男女共同参画について学ぶ」が 33.9%、「職場・学校で男女共同参画について話し合う」が 32.7%となっている。

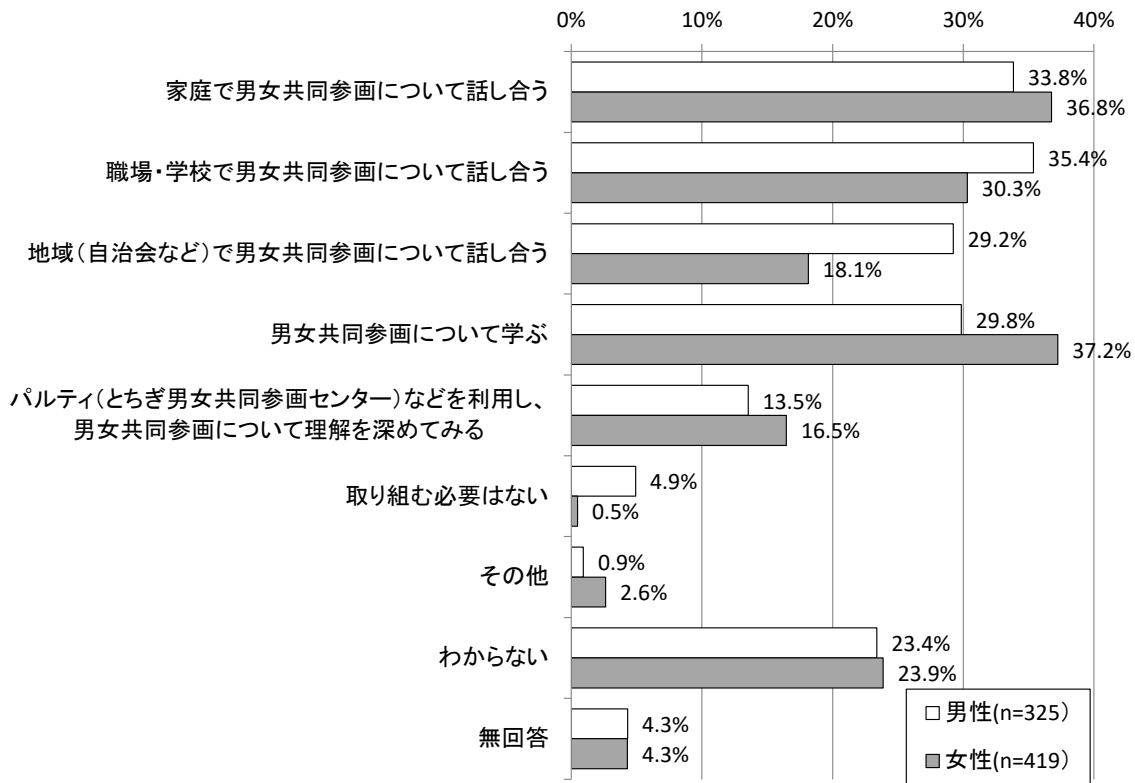
前回調査と比べると、「職場・学校で男女共同参画について話し合う」が 8.3 ポイント高くなっている。



項目	度数	構成比
家庭で男女共同参画について話し合う	265	35.1%
職場・学校で男女共同参画について話し合う	247	32.7%
地域(自治会など)で男女共同参画について話し合う	176	23.3%
男女共同参画について学ぶ	256	33.9%
パーティ(とちぎ男女共同参画センター)などを利用し、男女共同参画について理解を深めてみる	115	15.2%
取り組む必要はない	18	2.4%
その他	14	1.9%
わからない	177	23.4%
無回答	34	4.5%
回答者数	756	

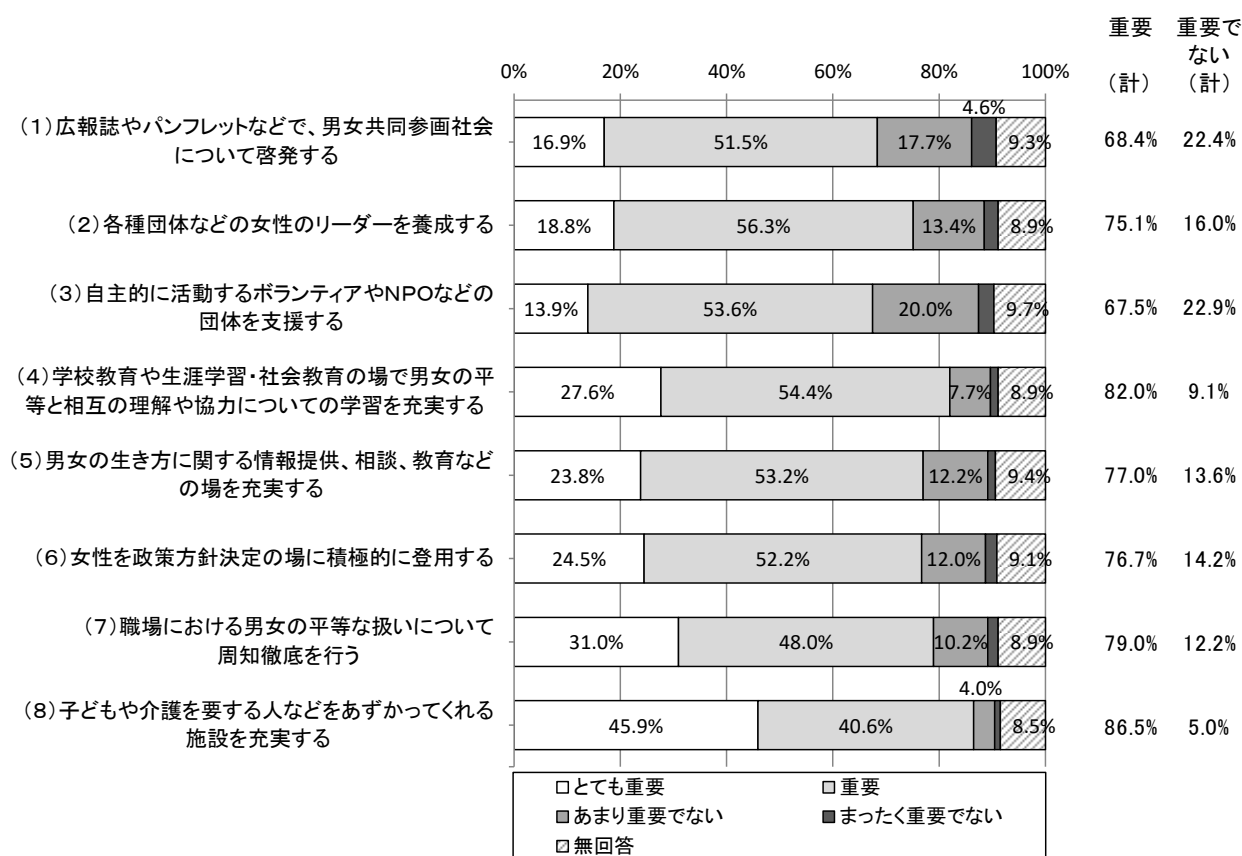
【男女共同参画を推進するためにできること：性別】

性別でみると、男性では「地域(自治会など)で男女共同参画について話し合う」が 29.2%で、女性を 11.1 ポイント上回っている。女性では「男女共同参画について学ぶ」が 37.2%で最も高く、男性を 7.4 ポイント上回っている。



問 21. あなたは、男女共同参画社会を実現するために、市は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。（それぞれ1つだけに○）

「とても重要」、「重要」を合わせた項目『重要（計）』は、「子どもや介護を要する人などをあずかってくれる施設を充実する」が86.5%と最も高く、次いで「学校教育や生涯学習・社会教育の場で男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する」が82.0%、「職場における男女の平等な扱いについて周知徹底を行う」が79.0%となっている。一方、「あまり重要でない」、「まったく重要でない」を合わせた項目『重要でない（計）』は、「自主的に活動するボランティアやNPOなどの団体を支援する」が22.9%と最も高く、次いで「広報誌やパンフレットなどで、男女共同参画社会について啓発する」が22.4%となっている。

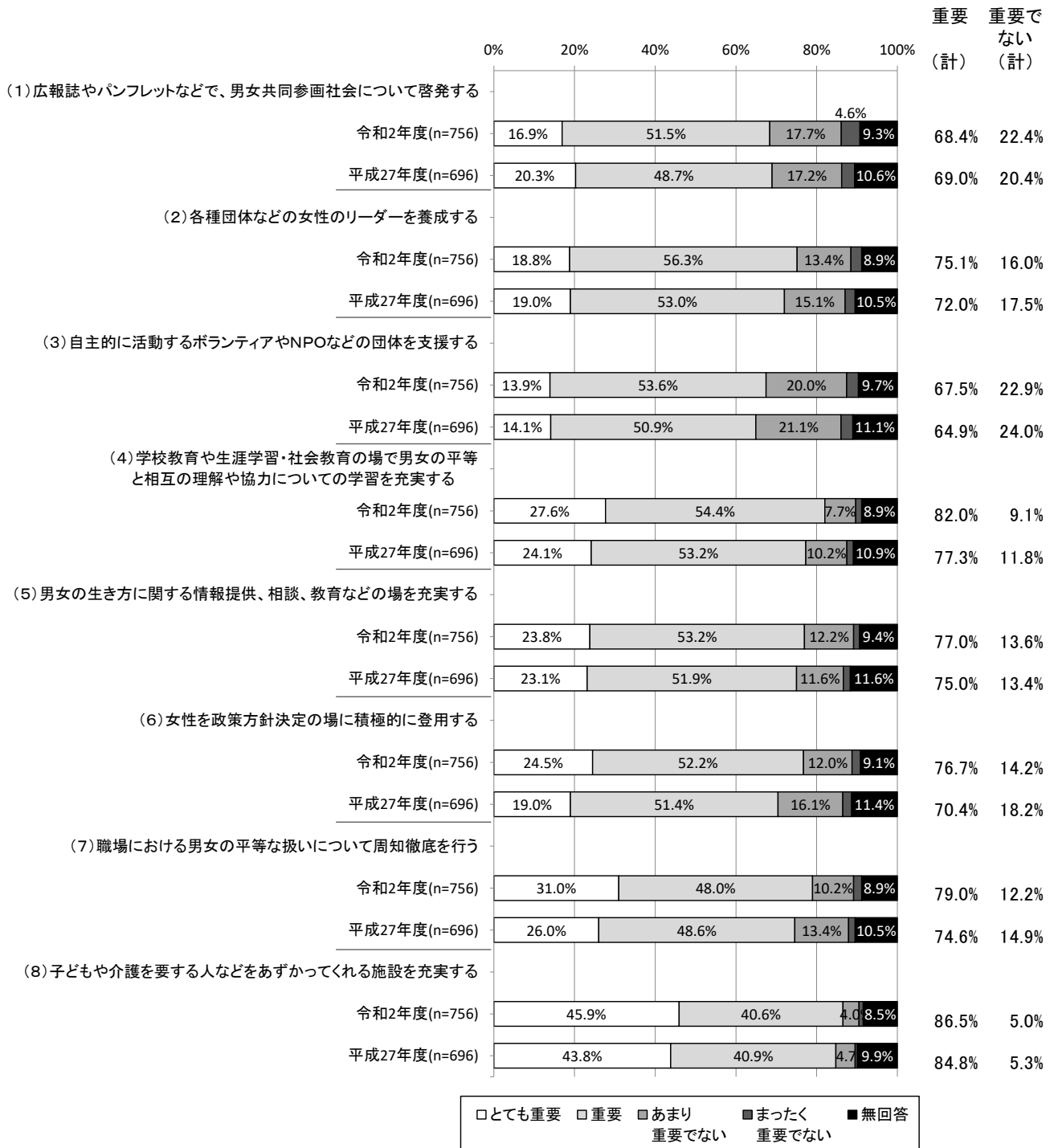


項目	とても重要	重要	あまり重要でない	まったく重要でない	無回答	合計
(1) 広報誌やパンフレットなどで、男女共同参画社会について啓発する	128	389	134	35	70	756
(2) 各種団体などの女性のリーダーを養成する	142	426	101	20	67	756
(3) 自主的に活動するボランティアやNPOなどの団体を支援する	105	405	151	22	73	756
(4) 学校教育や生涯学習・社会教育の場で男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する	209	411	58	11	67	756
(5) 男女の生き方に関する情報提供、相談、教育などの場を充実する	180	402	92	11	71	756
(6) 女性を政策方針決定の場に積極的に登用する	185	395	91	16	69	756
(7) 職場における男女の平等な扱いについて周知徹底を行う	234	363	77	15	67	756
(8) 子どもや介護を要する人などをあずかってくれる施設を充実する	347	307	30	8	64	756

項目(構成比)	とても重要	重要	あまり重要でない	まったく重要でない	無回答	合計
(1) 広報誌やパンフレットなどで、男女共同参画社会について啓発する	16.9%	51.5%	17.7%	4.6%	9.3%	100.0%
(2) 各種団体などの女性のリーダーを養成する	18.8%	56.3%	13.4%	2.6%	8.9%	100.0%
(3) 自主的に活動するボランティアやNPOなどの団体を支援する	13.9%	53.6%	20.0%	2.9%	9.7%	100.0%
(4) 学校教育や生涯学習・社会教育の場で男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する	27.6%	54.4%	7.7%	1.5%	8.9%	100.0%
(5) 男女の生き方に関する情報提供、相談、教育などの場を充実する	23.8%	53.2%	12.2%	1.5%	9.4%	100.0%
(6) 女性を政策方針決定の場に積極的に登用する	24.5%	52.2%	12.0%	2.1%	9.1%	100.0%
(7) 職場における男女の平等な扱いについて周知徹底を行う	31.0%	48.0%	10.2%	2.0%	8.9%	100.0%
(8) 子どもや介護を要する人などをあずかってくれる施設を充実する	45.9%	40.6%	4.0%	1.1%	8.5%	100.0%

【男女共同参画実現のため市が力を入れるべきこと：経年比較】

前回調査と比べると、「女性を政策方針決定の場に積極的に登用する」で、『重要（計）』が前回より 6.3 ポイント高くなっている。

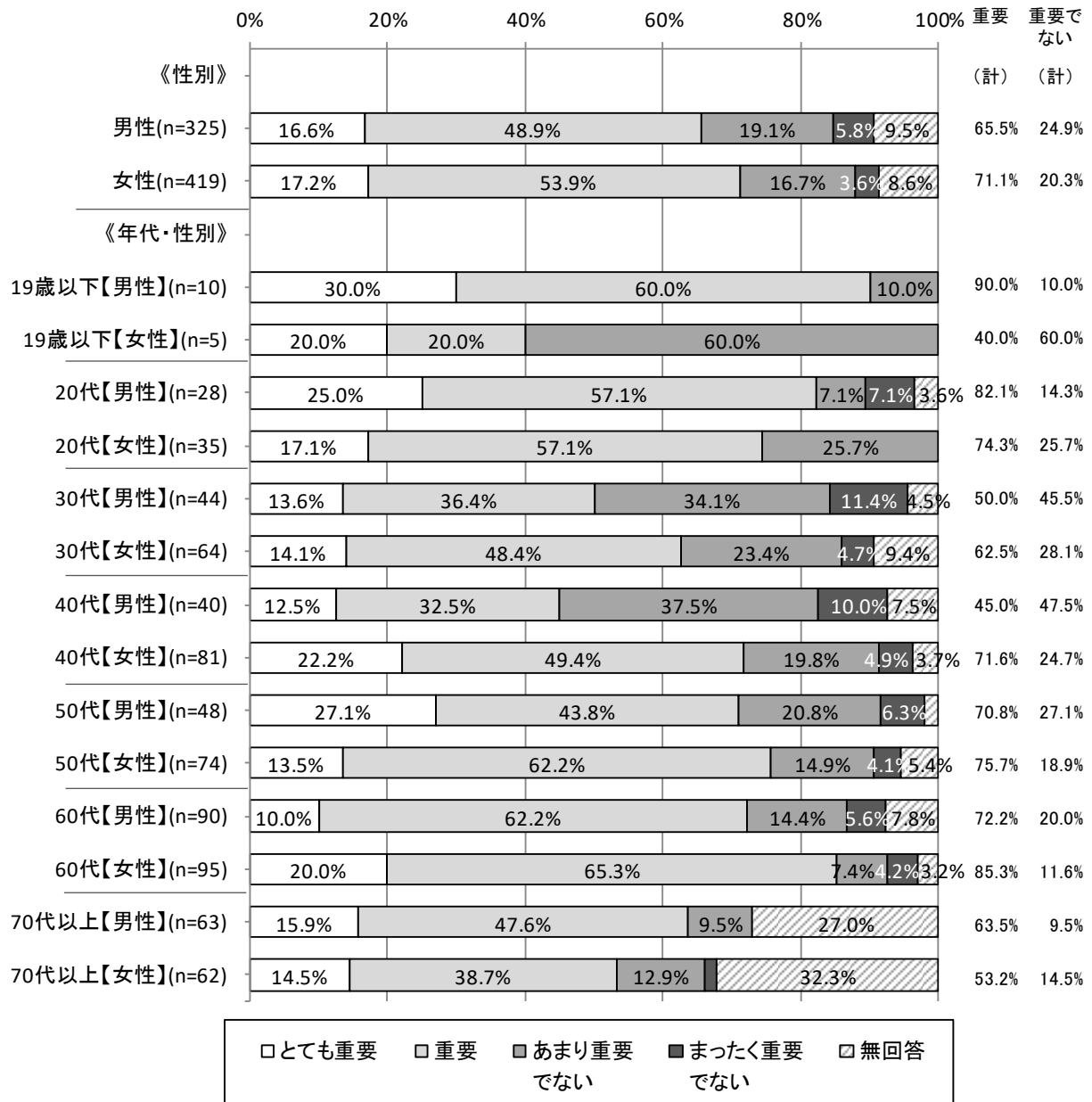


【男女共同参画実現のため市が力を入れるべきこと

（１）広報誌やパンフレットなどで、男女共同参画社会について啓発する：性別・年代】

性別でみると、『重要（計）』の回答は、男性（65.5%）より女性（71.1%）の方が 5.6 ポイント高くなっている。

年代・性別でみると、19 歳以下、20 代男性と 60 代女性で『重要（計）』の回答が 8 割を超え、高くなっている。一方、30 代、40 代男性で『重要（計）』の回答が 5 割以下と比較的低くなっている。

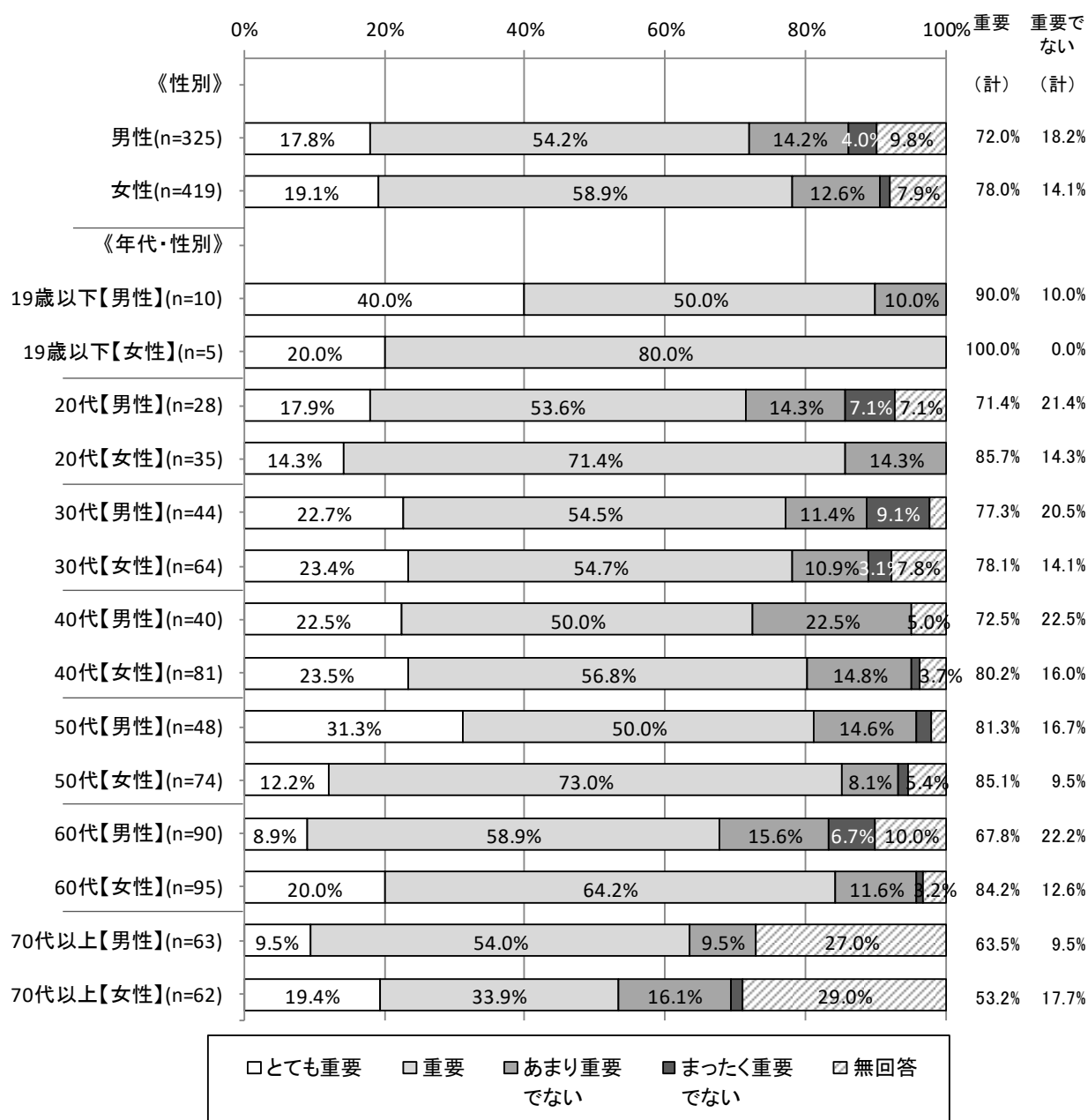


【男女共同参画実現のため市が力を入れるべきこと

（２）各種団体などの女性のリーダーを養成する：性別・年代

性別では、『重要（計）』の回答は、男性（72.0%）より女性（78.0%）の方が 6.0 ポイント高くなっている。

年代・性別でみると、50 代男女、19 歳以下男性、20 代女性、40 代女性、60 代女性で『重要（計）』の回答が 8 割を超え、高くなっている。

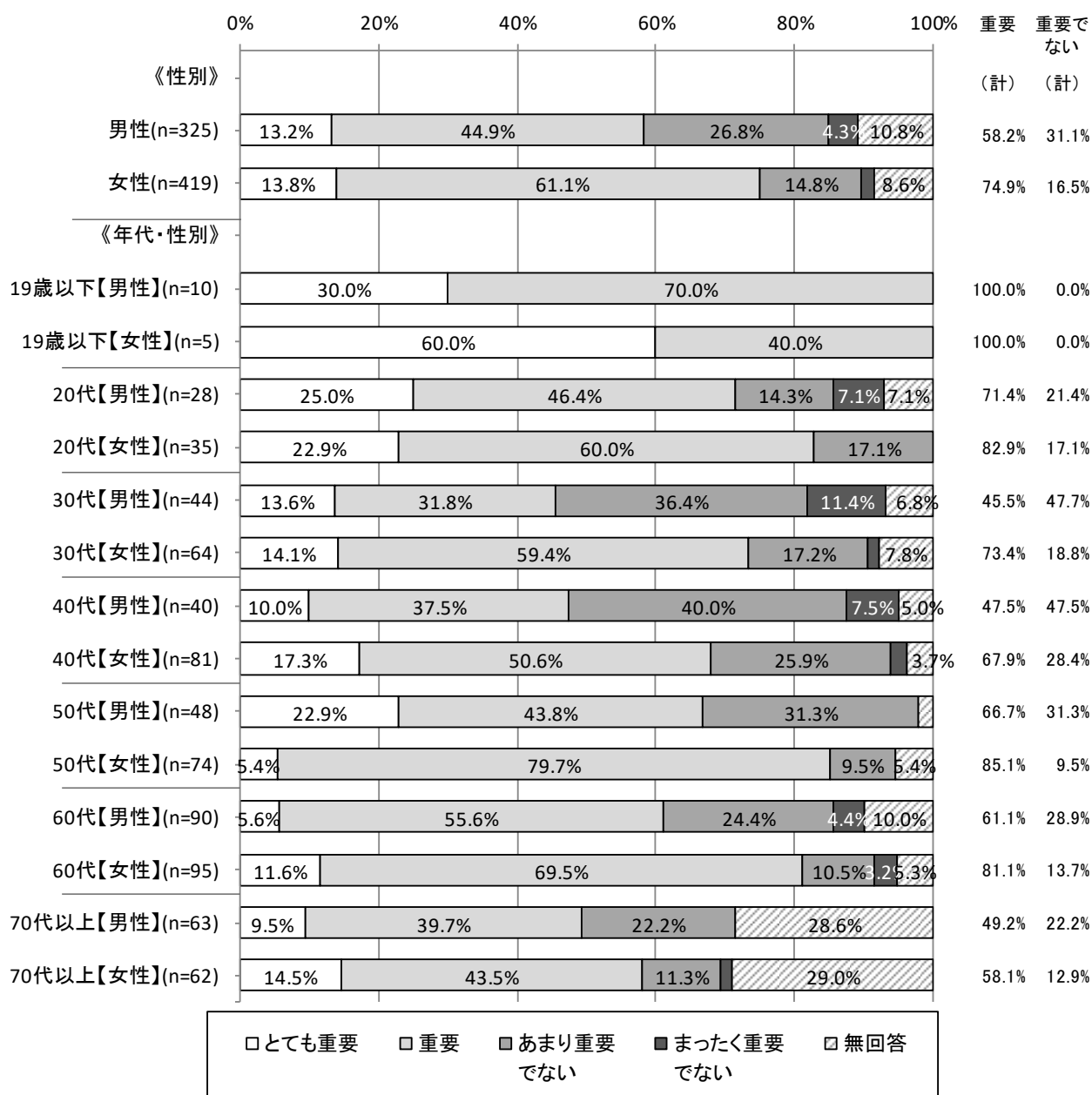


【男女共同参画実現のため市が力を入れるべきこと

（３）自主的に活動するボランティアやＮＰＯなどの団体を支援する：性別・年代】

性別では、『重要（計）』の回答は、男性（58.2%）より女性（74.9%）の方が16.7ポイント高くなっている。

年代・性別でみると、20代、50代、60代女性で『重要（計）』の回答が8割を超え、高くなっている。30代、40代男性では、『重要でない（計）』の回答がともに約5割で比較的高くなっている。

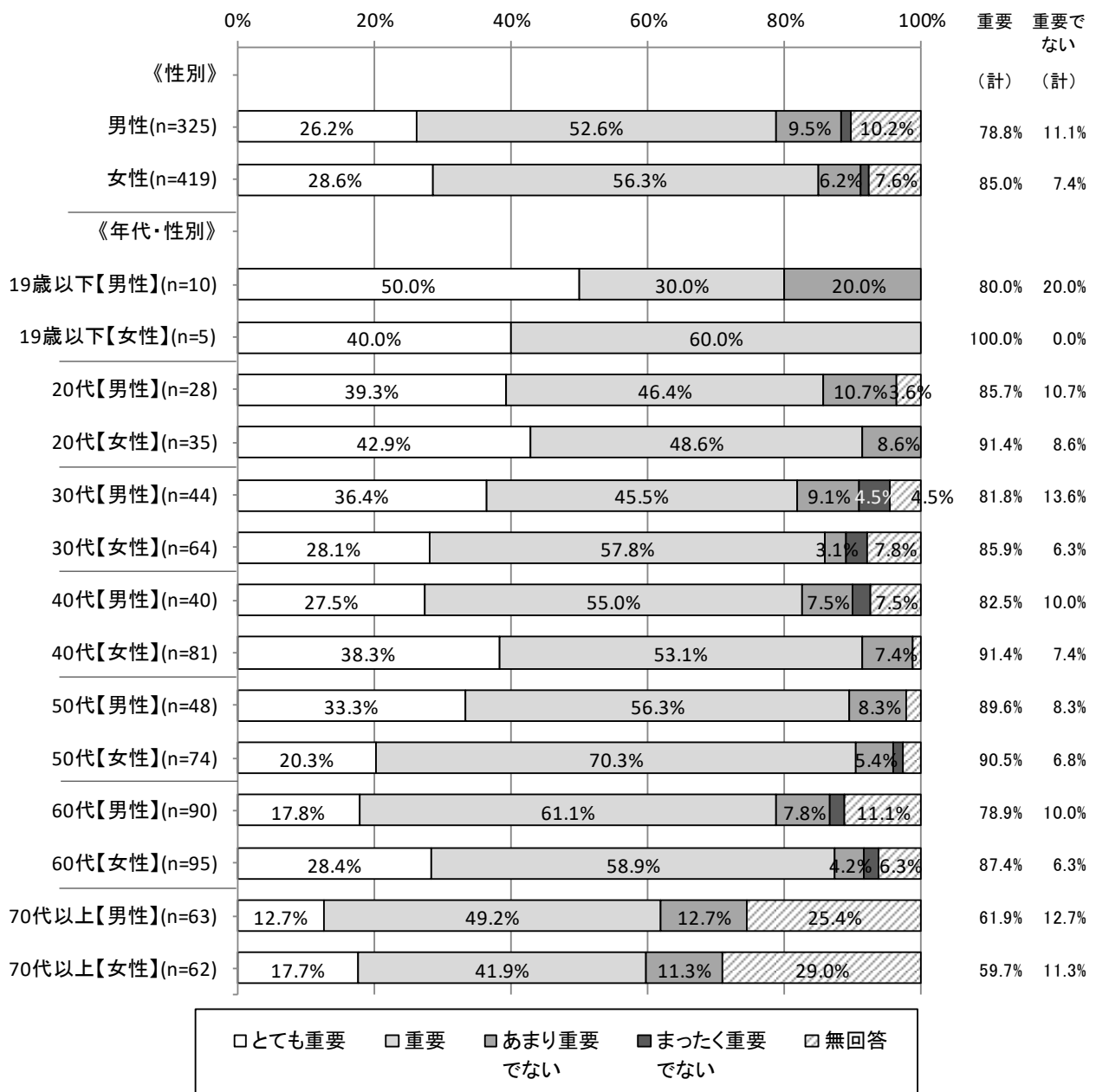


【男女共同参画実現のため市が力を入れるべきこと

（４）学校教育や生涯学習・社会教育の場で男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する：性別・年代】

性別では、『重要（計）』の回答は、男性（78.8%）より女性（85.0%）の方が 6.2 ポイント高くなっている。

年代・性別でみると、70 代以上を除き、いずれの区分も『重要（計）』の回答が約 8 割から 9 割を占め、特に 20 代、40 代、50 代女性で 9 割を超え、高くなっている。

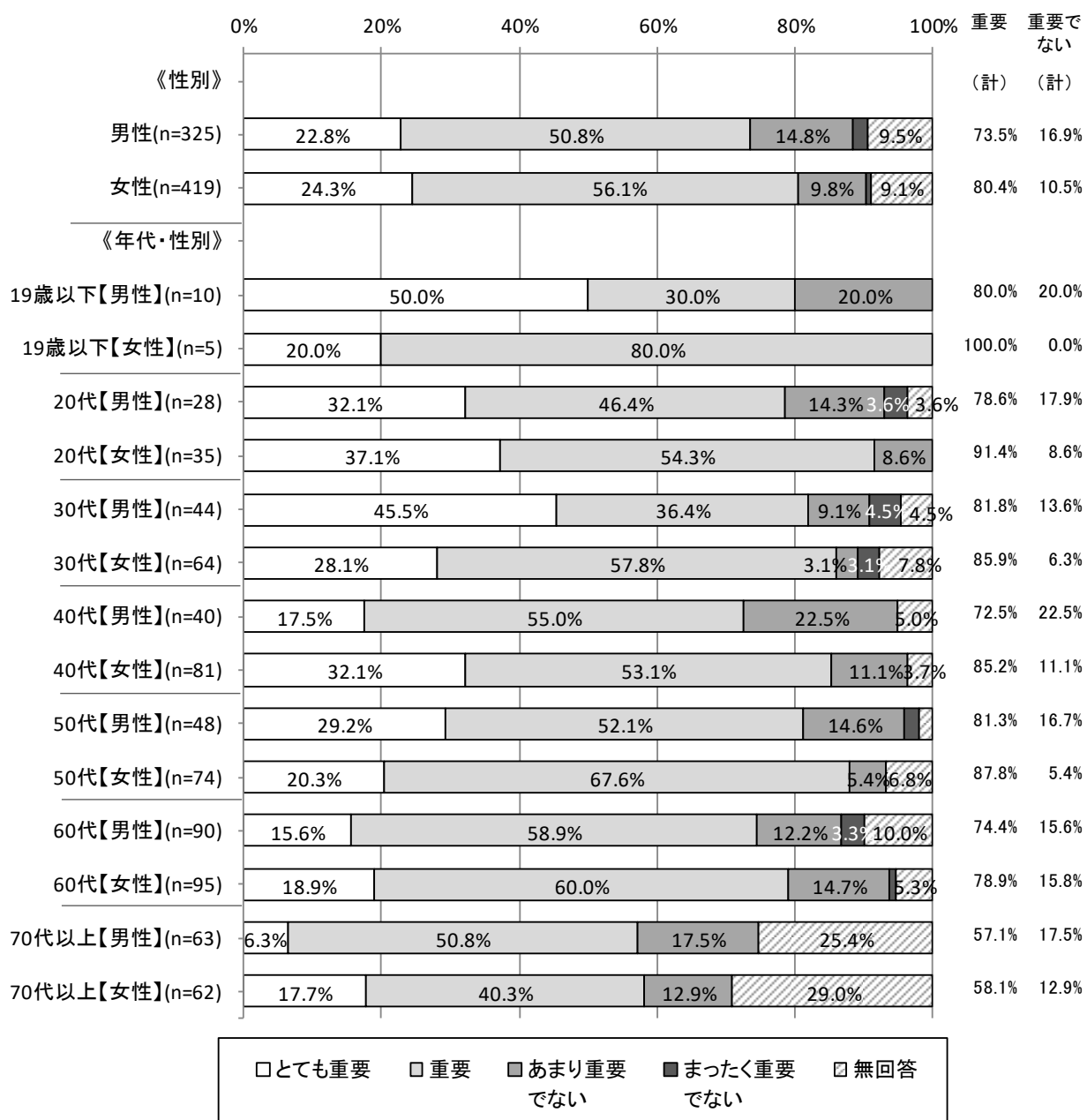


【男女共同参画実現のため市が力を入れるべきこと

（５）男女の生き方に関する情報提供、相談、教育などの場を充実する：性別・年代】

性別では、『重要（計）』の回答は、男性（73.5%）より女性（80.4%）の方が 6.9 ポイント高くなっている。

年代・性別でみると、70 代以上を除き、いずれの区分も『重要（計）』の回答が 7 割以上で、特に 20 代女性で 91.4%と高くなっている。40 代男性では『重要でない（計）』が 2 割を超え、比較的高くなっている。

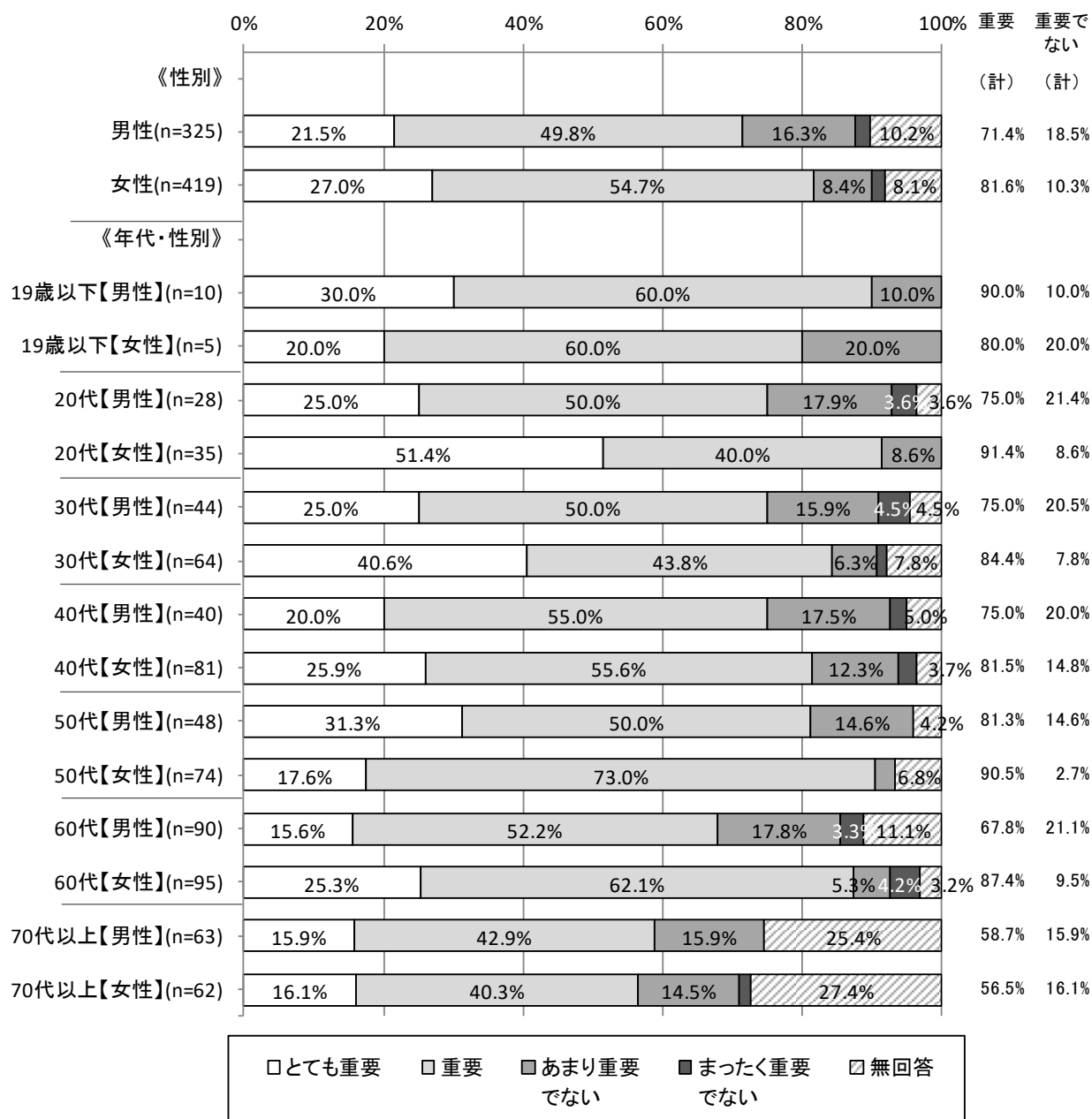


【男女共同参画実現のため市が力を入れるべきこと

（６）女性を政策方針決定の場に積極的に登用する：性別・年代】

性別では、『重要（計）』の回答は、男性（71.4%）より女性（81.6%）の方が10.2ポイント高くなっている。

年代・性別でみると、60代男性、70代以上を除き、いずれの区分でも『重要（計）』の回答が7割半ばを超え、特に19歳以下男性、20代、50代女性で9割以上と高くなっている。20代、30代、40代、60代男性では『重要でない（計）』が約2割で、比較的高い割合となっている。

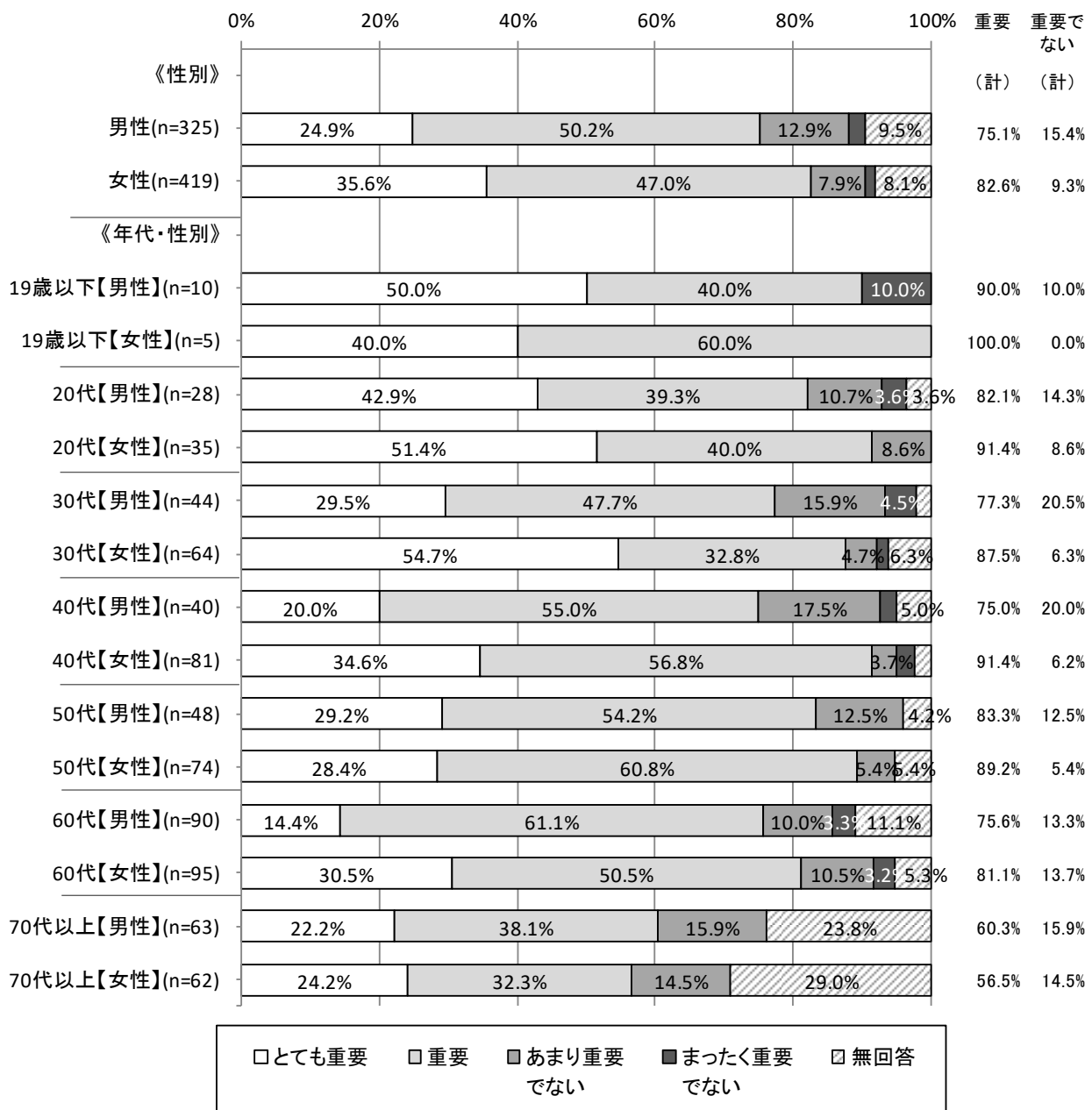


【男女共同参画実現のため市が力を入れるべきこと

（７）職場における男女の平等な扱いについて周知徹底を行う：性別・年代

性別では、『重要（計）』の回答は、男性（75.1%）より女性（82.6%）の方が 7.5 ポイント高くなっている。

年代・性別でみると、70 代以上を除き、いずれの区分も『重要（計）』の回答が 7 割半ばを超え、特に 19 歳以下男性、20 代、40 代女性で 9 割以上と高くなっている。30 代、40 代男性では『重要でない（計）』が約 2 割と比較的高くなっている。

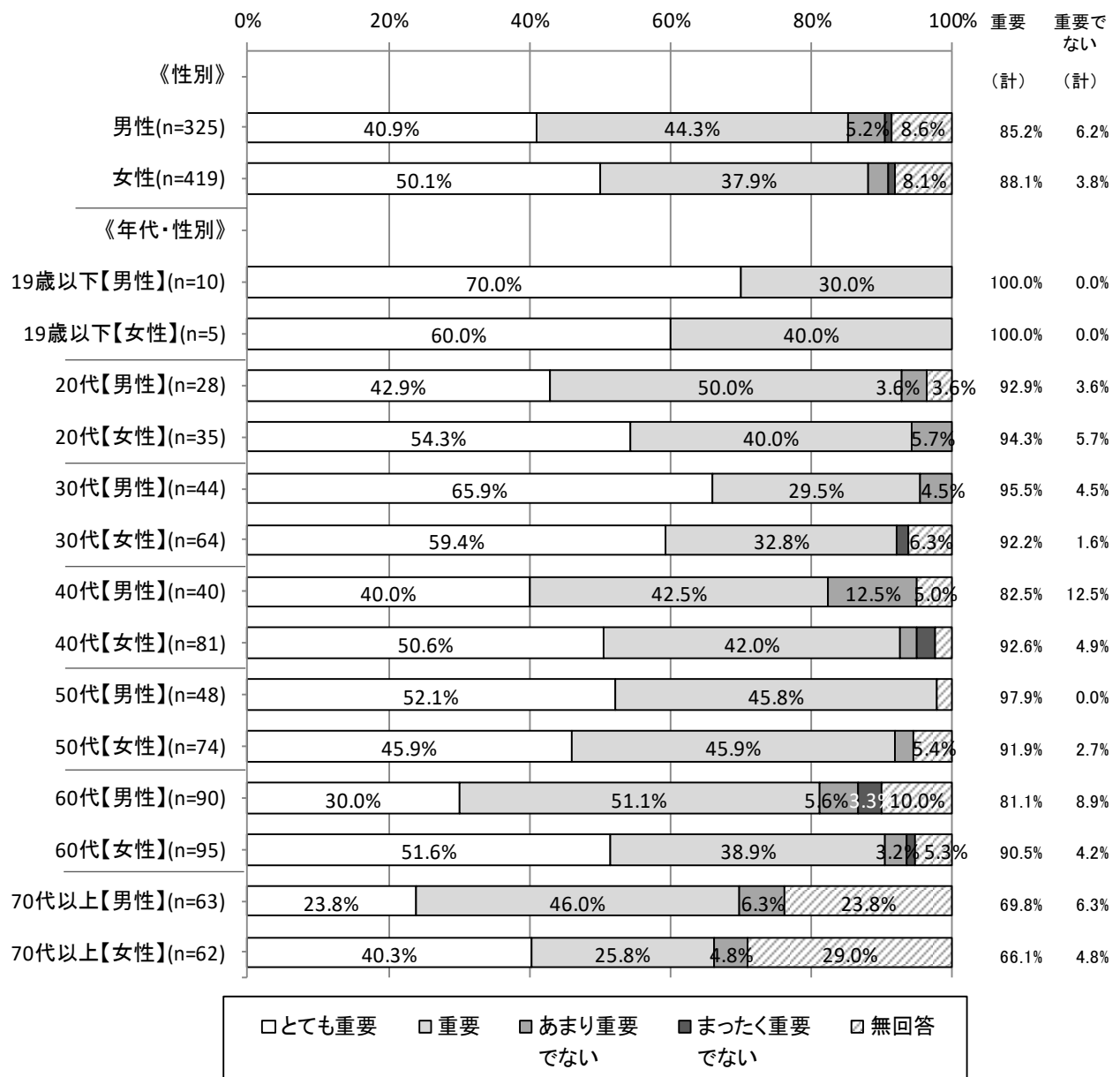


【男女共同参画実現のため市が力を入れるべきこと

（８）子どもや介護を要する人などをあずかってくれる施設を充実する：性別・年代】

性別では、『重要（計）』の回答は、男性（85.2%）より女性（88.1%）の方が 2.9 ポイント高くなっている。

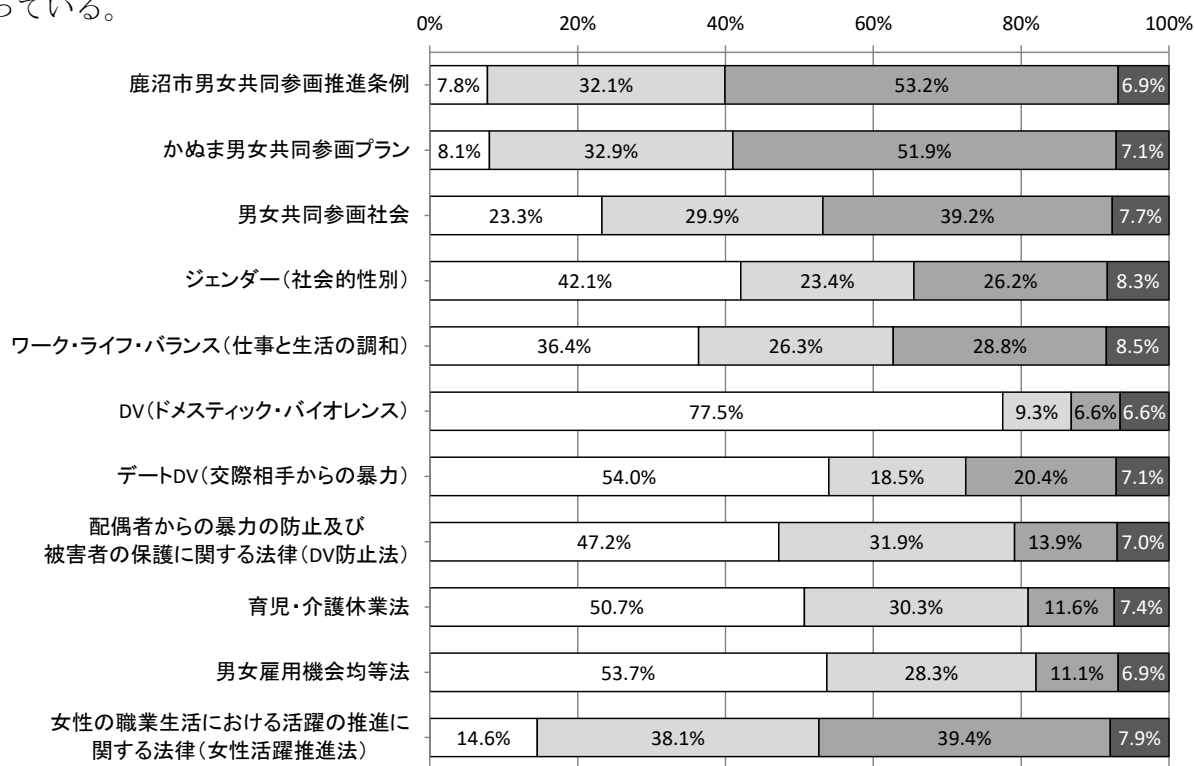
年代・性別でみると、70 代以上を除き、いずれの区分も『重要（計）』の回答が 8 割を超え、高くなっている。



問 22. あなたは、次の男女共同参画に関する社会の動きや言葉を知っていますか。

(それぞれ1つだけに○)

「知っている」の回答は、「DV（ドメスティック・バイオレンス）」が 77.5%と最も高く、次いで「デート DV（交際相手からの暴力）」が 54.0%、「男女雇用機会均等法」が 53.7%となっている。



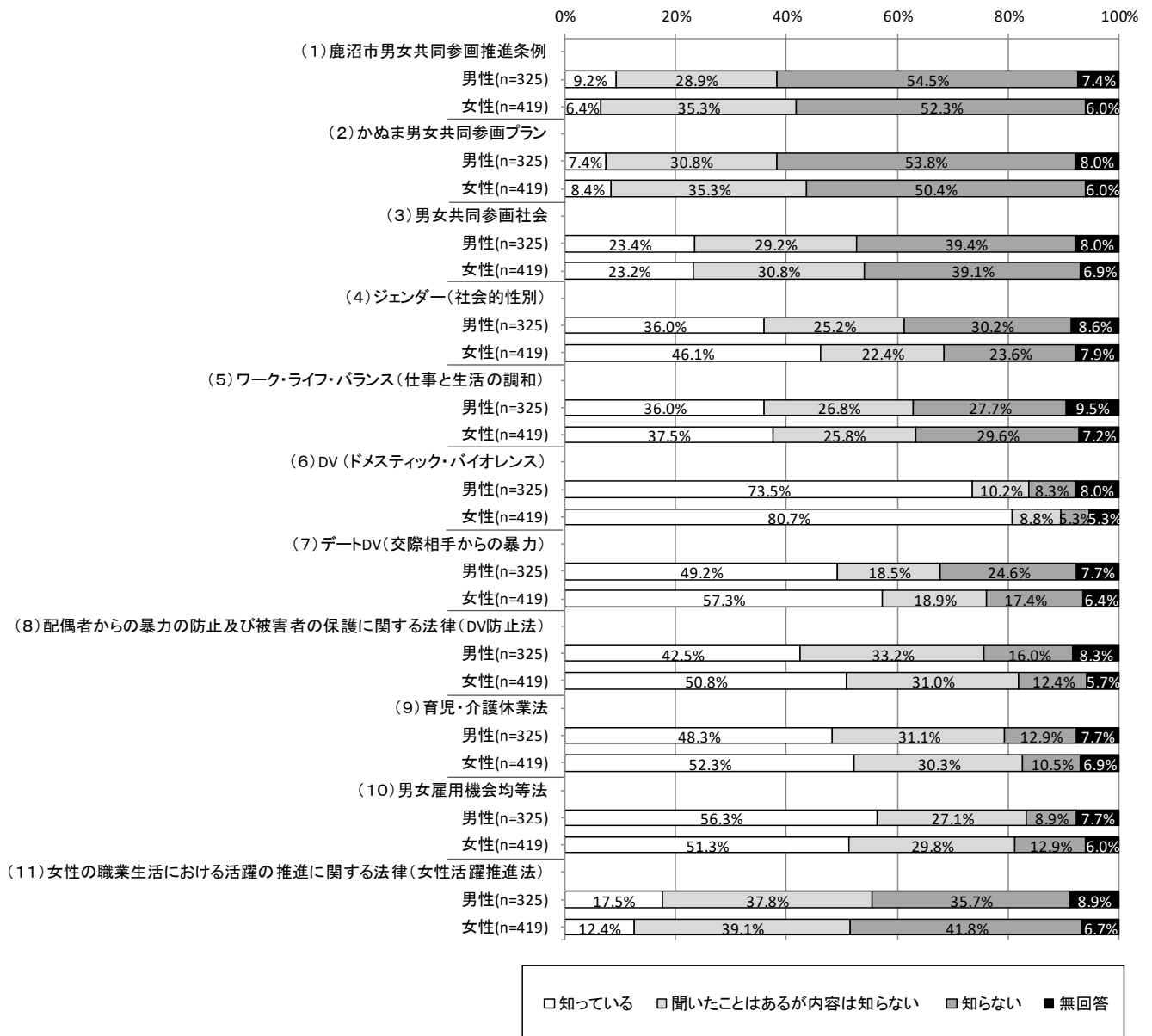
□ 知っている □ 聞いたことはあるが、内容は知らない □ 知らない ■ 無回答

項目	知っている	聞いたことはあるが、内容は知らない	知らない	無回答	合計
鹿沼市男女共同参画推進条例	59	243	402	52	756
かぬま男女共同参画プラン	61	249	392	54	756
男女共同参画社会	176	226	296	58	756
ジェンダー(社会的性別)	318	177	198	63	756
ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)	275	199	218	64	756
DV(ドメスティック・バイオレンス)	586	70	50	50	756
デートDV(交際相手からの暴力)	408	140	154	54	756
配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律(DV防止法)	357	241	105	53	756
育児・介護休業法	383	229	88	56	756
男女雇用機会均等法	406	214	84	52	756
女性の職業生活における活躍の推進に関する法律(女性活躍推進法)	110	288	298	60	756

項目	知っている	聞いたことはあるが、内容は知らない	知らない	無回答	合計
鹿沼市男女共同参画推進条例	7.8%	32.1%	53.2%	6.9%	100.0%
かぬま男女共同参画プラン	8.1%	32.9%	51.9%	7.1%	100.0%
男女共同参画社会	23.3%	29.9%	39.2%	7.7%	100.0%
ジェンダー(社会的性別)	42.1%	23.4%	26.2%	8.3%	100.0%
ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)	36.4%	26.3%	28.8%	8.5%	100.0%
DV(ドメスティック・バイオレンス)	77.5%	9.3%	6.6%	6.6%	100.0%
デートDV(交際相手からの暴力)	54.0%	18.5%	20.4%	7.1%	100.0%
配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律(DV防止法)	47.2%	31.9%	13.9%	7.0%	100.0%
育児・介護休業法	50.7%	30.3%	11.6%	7.4%	100.0%
男女雇用機会均等法	53.7%	28.3%	11.1%	6.9%	100.0%
女性の職業生活における活躍の推進に関する法律(女性活躍推進法)	14.6%	38.1%	39.4%	7.9%	100.0%

【男女共同参画に関する社会の動きや言葉の認知状況：性別】

性別でみると、「ジェンダー（社会的性別）」、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（DV 防止法）」、「デート DV（交際相手からの暴力）」、「DV（ドメスティック・バイオレンス）」は、男性より女性の方で「知っている」の回答が高く、7 ポイント以上上回っている。また、「男女雇用機会均等法」、「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）」は男性の方で「知っている」の回答が高く、5 ポイント以上上回っている。



資料編

【その他の自由記述：抜粋】

各設問に関して、回答者 756 人のうち、267 件の自由記述を得た。主な意見は次とおりである。なお、掲載にあたっては、一部省略や補足、言葉づかいを改めるなど若干の修正を加えているものもある。また、同様意見が寄せられたものには、文末に「他」と記載している。

男女平等に関する意識について

問1 「男は仕事、女は家庭」という考え方について

- 男女とも仕事をもち、家庭の事は男女の役割は固定せずにお互い出来る事をやればいい。
【40代女性】他
- 『男女とも仕事をもち、家庭でも責任を分担するのがよい』・『男女とも仕事をもち、家庭のことは女性が責任をもつのがよい』が必要になっている時代かなあ？【60代女性】
- 女性は仕事、男性は家庭がよい。【40代男性】
- 子が成長するまで家にいて欲しい。状況による。【40代男性】
- 主に男性に仕事をしてもらい、その時の家庭の状況によって 可能なら女性も仕事をし、家事は出来る事を分担する。【60代女性】他
- 『男女の役割は固定せずに、男女どちらが仕事をしても家庭にいてもよい』に近いですが、子どもがいた場合、母親の存在は大きいと思う。どちらかが家庭に入り 子育てをしなければならぬなら 3才くらいまでは女性が家庭にいる意味はあると思う。【30代女性】
- 子育ては二度とできないので小学低学年までは専業主婦で子育てを重視し 人としての育成の基礎に寄りそうほうがよい。【60代女性】他
- 収入が多い方が外で主に仕事、少ない方が主に家庭。【70代以上男性】
- こだわらなくてよいと思う。【40代女性】
- どれでも良い。夫婦が納得して望む形になれるのが大事。【30代男性】他
- 若いうちは『男女とも仕事をもち、家庭でも責任を分担するのがよい』になりますが、年を取ると『男女の役割は固定せずに、男女どちらが仕事をしても家庭にいてもよい』になります。【70代以上女性】

結婚・家庭生活・子育て・介護について

問7 子どもたちが男女平等の人間関係をつくっていくために心がけるべきこと

- 男・女について、変にとらわれないこと。【60代男性】
- 性別で区分するのではなく、「その人らしさ」「人間同士」としてお互いを尊重し理解し合うことが、男女平等につながると思うので、そう教育する。【30代女性】他
- 男と女の身体的特徴は理解すべき。【40代女性】他
- 男女平等とは？なぜそれが必要かを考えさせる。【60代女性】他
- 社会の中で人間的権利の平等をしっかりとみせること。【60代男性】
- 様々な個性、考え方があって良いという振る舞いを 大人が実践する。【30代男性】
- 家庭内で夫婦の仕事を分担して 笑顔でやる。【60代女性】
- 過度に干渉せず、本人が助けて欲しい時に助ける。【20代男性】他

問 8-1 男性の育児参加について

- 「参加」という言葉が理解不能。親として育児するのはあたり前。ただ仕事などでできない人がある。【30 代女性】

問 8-2 男性の介護参加について

- お互いに無理のないように、介護サービスなど利用したほうがよい。【40 代女性】 他
- 親の介護をするのはあたり前。【30 代女性】 他
- 本人の意思も考える。

女性の働き方や活躍について

問 10 女性が職業をもつことについての考え方

- 社会での女性が育児を分担することへの理解。【20 代男性】
- 産後の体調やサポート状況による。その時によって決めればよい。【40 代女性】
- 職業を持つ持たないは個人の経済状況にも関連する。既婚・未婚を問わず また子供の有無にも関係ない問題だと思う。
(実際は 働きたくても 求人がなくて働くことが出来ない人が多い。) 【50 代女性】
- 自身のおかれた環境に見合う働き方をすればよい。【40 代女性】 他
- 職場での立場、経済的な理由、色々あると思うが、3 才頃までは、母子が一緒にいる時間が長い方がよいと思う。【40 代女性】
- 『子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい』・『子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい』・『結婚後や出産後も仕事は続けるが、パートタイムにきりかえるなど負担を軽くする方がよい』 どれも納得する。【30 代女性】
- その時その時の生活で 相談して決めればよいと思う。【30 代女性】
- 『結婚後や出産後も仕事は続けるが、パートタイムにきりかえるなど負担を軽くする方がよい』にプラスして、子どもが大きくなったら再び職業をもつ。【60 代男性】
- 資格(技術・国家)を有する場合等、継続出来る休暇制度の確立の上 職業をもった方がよい。【70 代以上女性】
- その人の職業とか能力でこだわらなくてよい。【40 代女性】
- 「女性が」とひとくくりにはできない。個人の考え方や状況による。【40 代女性】 他
- 個人の意見を尊重する。【50 代男性】 他
- 仕事を続けるのは当人の自由だが、子ができたら家族と話し合うべき。【19 歳以下男性】
- 自営業の場合は仕事と育児は同時進行状態になる。【60 代男性】
- 個々の健康状態、生活スタイルに合わせ 両立できる方は職業をもてるのが理想です。
【50 代女性】

問 10-1 結婚後も出産後も退職せずに働き続けるために重要なこと

- 制度導入事業所への支援。【40 代男性】
- 上司の意識。【70 代以上女性】
- 保育所の預り時間延長。【60 代女性】
- 病児保育の充実。【40 代女性】 他
- 事業所専用の保育所の開設。【30 代女性】

- 医療施設の充実。【未記入】
- 本人の意思。【70 代以上男性】
- 職があるというありがたさを感じる気持ち。【30 代男性】

問 10-2 「結婚や出産で退職した女性が再就職するために重要なこと」

- 企業自体のバックアップ体制の強化。（他の人に迷惑がかかると制度があっても利用できない。絵にかいた餅である。）【60 代女性】
- 鹿沼に雇用を増やす。【40 代女性】

問 12 働く場において女性が更に活躍するための取り組み

- 離職させない工夫（在宅ワーク・リモートワークなどの活用）。【20 代男性】
- 託児施設の拡充（できれば職場内）、学校行事への対応、職場の理解、環境が整った上で、やる気等が生まれると思う。【40 代男性】
- 働く場においての男性からみた女性、女性からみた男性の働き方などについての意見交換の場を作る。事務所内等で外部講師を招くとよいと思います。【20 代】
- 活躍が何を意味するのか、女性側の意見でとらえてほしい。家と仕事を両立、家に重点、仕事一筋を、その人生のポイントごとに、仕事をセーブ、アクセルできるようにする。人事課？の考えと思いやり。【30 代女性】
- 仕事で活躍する為に家庭の協力がなければ出来ないと思う。帰りが遅くなったり、仕事の事が頭から離れない場合があったりすると思う。【70 代以上女性】
- 子供関係における休暇のとりやすさと 周囲の理解。【30 代女性】
- 結婚・出産等についての保障の充実、職場復帰への支援。【20 代男性】 他
- 家庭と両立できる体制作り。【30 代男性】 他
- 性別じゃなくて 能力等で評価すれば良い。女性が更に活躍するために、女性を優遇する必要は無い。【女性、20 代】 他
- 女性が活躍しなくて、普通に働ける考え方。【30 代男性】
- せまい見聞ではなく世界標準の流れを知るべきである。【40 代女性】
- 男女それぞれの意識改革。【60 代男性】 他
- 個人それぞれが勉強し、変化すること。【40 代女性】
- 本人の意識向上次第。【60 代男性】 他
- 自分の好きにすればいい。【40 代女性】
- 職業によって平等にはならない（力）。【60 代男性】
- 今で十分。【30 代男性】

男女の地域・社会参画について

問 13-1 地域活動へ参加していない理由

- 活動の場がわからない。【30 代女性】 他
- 活動する曜日があわない。【50 代女性】
- 以前にはPTAや子ども会、スポーツに参加していましたが 今はできていない。（子供が大きくなったため）【60 代女性】

問 14 政策方針決定の場への女性の参画について

- 男女の割合にこだわらず、参加したい人が参加すればよい。【40 代男性】他
- 能力がある方なら 男女関係ないです。【40 代男性】他
- どちらが参画しても平等な考え方があれば良いと思う。【40 代女性】

問 14-1 女性の参画が増えるために必要なこと

- 女性自身が、女性だから特別扱いされたいと思わないこと。【40 代女性】
- 女性の政治関心の向上。【20 代男性】
- 視野を歴史の長い国々のレベルに引き上げること。【40 代女性】
- 具合的な数値目標の設定（男女同数）。【70 代以上男性】

ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について

問 16 性別に関わらず仕事と家庭を両立していくために必要な条件

- 企業は、理念だけでなく、実践すること。【60 代男性】
- 助け合いの精神、おもいやりを学ぶこと。【40 代女性】
- 育児・介護休業を取得したことを理由に、人事的差別を受けないこと。【40 代男性】
- 子どものいない単身者への不公平感をなくす制度、意識をもつこと。【30 代女性】

男女共同参画を推進するための取組について

問 19 女性の参画を進める必要がある分野

- どの分野でも秀でた能力のある女性は参画を進めるべき。【30 代男性】他
- どれも参画する為に 何かしらのハードルがあると思う。まず、女性が参画できると思えるステージをふやすことが必要だと思う。【30 代女性】
- 女性がサポートを受けられる環境でなければ 何も叶わない。【40 代女性】
- 世代がかわれば、そのうち増えると思います。【30 代女性】
- 男女問わず議員が多すぎる。【50 代男性】
- 参加したい女性の自由。この職種を増やすとか 考えなくて良い。【40 代男性】他
- むりに参画する必要はないと思います。【60 代男性】
- 特定の職業に女性の参画がすすんでも 大きな意味をもつとは思わない。【40 代女性】

問 20 男女共同参画を推進するためにできること

- 推進する議員、政党に 選挙で投票する。【70 代以上男性】
- 女性の参画比率を政策で決め、登用すること。【30 代女性】
- 高齢の男性が少なくなるよう会議をもつ。【60 代女性】
- 男性とは違うアプローチの活躍のための研修が必要だと思います。（アンガーマネジメント 等）【30 代女性】
- 自分の子供に性差別をうえつけるような教育をしない。【40 代女性】他
- 性別で評価しない。【女性、20 代】
- それがあたりまえととらえる。【40 代女性】
- 根本的に 理屈ではなく 社会や家庭において 女性はとてもきびしく負担が大きい事を理解しなければ 変化はありえない。【40 代女性】

問 21 男女共同参画実現のため市が力を入れるべきこと

- 0歳の子をあずけられる施設を充実させて欲しい。【30代男性】
- 積極的に行動している女性をサポートしていく事が大切。【20代女性】
- 高等学校卒業程度認定試験合格支援がひとり親だけ対象なのはおかしいので、事情があり、高校入学できなかった全員が対象になるべき。そして土木や電気工事士などのルートへ女性でも入れるよう導くべき。【20代女性】
- 市が企業に真にワークライフバランスを実現できるよう働きかける。【20代男性】
- 問 22 における 9、10、11 の法律が現況では見えてこない。企業に対する罰則など徹底周知してはどうか。活用されない法律は無いものと同じ。強気で行く事も重要。【50代女性】
- 男女関係なく必要な人材、優秀な人材を登用してください。【30代男性】
- やらせるのではなく、自主的に取り組めるような人間性を育てる。男女それぞれのモチベーションを上げなきゃ。【40代女性】
- それぞれが好きなことを通じて、年代を越えてあつまり、自然な形で学んでいける方が良い。良識をもった人を大切にしてほしい。【40代女性】
- 女性が一人でも生きていくために必要なことは、教育でしょうか。手に職をつける。仕事を続け、男性に頼らない生き方を子どもの頃から知らせていく。【60代女性】
- 女性の活躍をスポーツから支援する（スポーツ強化選手の育成に力を入れる）。女性の政治家の育成。（政治塾などで関心をもってもらう。）【20代男性】
- 男女共同参画社会といってもどのような仕事をすれば良いか分らないと思う。こんな仕事等と例をつくり明記する。【60代男性】 他
- 他国や人種の、良い考え方等（良い例、悪い例）を役所から提示。【未記入】
- 学校や仕事の間（役所・民間企業・自営問わず）に、男女というくくりではなく、一人一人が明るく自分らしく生きれる共同参画についてのセミナーを受ける機会を設けるとよい。そのための土台作りを市にはしてほしいと思います。【20代】
- 家族を作る大切さ 重要性を学ぶ。男女とも お互い思いやりが必要。【30代女性】
- 若い頃から男女の平等をしっかりと分からせる必要がある。若い世代の考えを変えていく必要がある。【20代男性】 他
- 特別視して登用する場をもうけるのではなく、あたりまえに性別を問わない社会にする。【20代男性】
- 男女の平等はあたり前の世代に入っていると思います。【30代女性】
- 急激な変動は、男女ともに、ストレスもかかると思うので、急ぐべきものと、そうでないものの選別も慎重に行って欲しい。【60代男性】
- まず！市役所職員にアンケートする！【40代男性】
- このアンケートを通してあらためて考えたことも多いので、このアンケートを、定期的に多くの人に答えてもらうようにする。【30代女性】

資料編

【調査票】

男女共同参画社会に関する意識調査

【ご協力をお願い】

皆様には、日ごろから市政にご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。
さて、鹿沼市では、令和3年度に策定を行います次期「かぬま男女共同参画プラン」（令和4年度～令和8年度）の基礎資料とするために、市民の方々の意識等について調査を実施いたします。

本調査にあたり、市内にお住まいの18歳以上の中から、2,000人を無作為に選ばせていただきました。

お忙しいところ大変恐縮とは存じますが、調査の趣旨をご理解いただき、日ごろのお考えをお聞かせくださいますよう、ご協力をお願いいたします。

なお、お寄せいただきましたご回答は、統計的に処理し公表いたしますが、お答えいただいた方の個人名や回答内容など個人情報公表されることはございませんので、申し添えます。

令和2年7月

鹿沼市長 佐藤 信

ご回答にあたってのお願い

- ・ご記入は、あて名のご本人様をお願いいたします。
(ご本人様の記入が難しい場合には、他の方が代筆をしていただいてもかまいません。)
- ・回答は、この用紙に直接記入し、あなたのお考えにあてはまる又は近い番号を○印で囲んでください。 例) ①
お答えに「その他」を選んだ場合は、その内容を()内にご記入ください。
- ・質問ごとに(1つだけに○)、(3つまでに○)、(あてはまるものすべてに○)など指定しております。また、一部の方のみお答えいただくものもありますので、説明にしたがってご回答ください。
- ・お答えにくい質問もあるかと思いますが、回答できる範囲で結構です。

ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒(切手不要)に入れ、
8月17日(月)までに投函してください。(お名前の記入は不要です)

— この調査についてのお問い合わせ先 —

鹿沼市 市民部 人権推進課 男女共同参画係
電話 0289-63-8352



あなたご自身についてお伺いします

F1 性別をお答えください。※ご自身の主観によりお答えください。（1つだけに○）

- | | | |
|------|------|----------------|
| 1 男性 | 2 女性 | 3 答えたくない、わからない |
|------|------|----------------|

F2 あなたの年齢は何歳ですか。（1つだけに○）

- | | | |
|----------|----------|----------|
| 1 19歳以下 | 2 20～29歳 | 3 30～39歳 |
| 4 40～49歳 | 5 50～59歳 | 6 60～69歳 |
| 7 70歳以上 | | |

F3 あなたのお住まいの地区はどこですか。（1つだけに○）

- | | | | |
|---------|---------|----------|---------|
| 1 鹿沼地区 | 2 菊沢地区 | 3 東大芦地区 | 4 北押原地区 |
| 5 板荷地区 | 6 西大芦地区 | 7 加蘇地区 | 8 北犬飼地区 |
| 9 東部台地区 | 10 南摩地区 | 11 南押原地区 | 12 栗野地区 |
| 13 粕尾地区 | 14 永野地区 | 15 清洲地区 | |

F4 あなたの職業は次のどれにあてはまりますか。（1つだけに○）

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1 自営業 | 2 家族従業 |
| 3 勤め（フルタイム・常勤） | 4 勤め（パート・アルバイト） |
| 5 内職 | 6 家事従事（専業主婦・主夫） |
| 7 学生 | 8 働いていない |
| 9 年金生活 | 10 その他（ ） |

F5 婚姻の状況について、あなたは次のどれにあてはまりますか。（1つだけに○）

- | | |
|-------------------|--------------|
| 1 既婚（配偶者と同居） | 2 既婚（配偶者と別居） |
| 3 戸籍は別だが一緒に暮らしている | ⇒F5-1へ |
| 4 既婚（離別または死別） | 5 未婚 |

【F5で、「1」～「3」と回答した方にうかがいます】

F5-1 あなたの配偶者の職業は次のどれにあてはまりますか。（1つだけに○）

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1 自営業 | 2 家族従業 |
| 3 勤め（フルタイム・常勤） | 4 勤め（パート・アルバイト） |
| 5 内職 | 6 家事従事（専業主婦・主夫） |
| 7 学生 | 8 働いていない |
| 9 年金生活 | 10 その他（ ） |

F6 あなたの世帯構成は次のどれにあてはまりますか。（1つだけに○）

- | | |
|-------------|----------------|
| 1 ひとり暮らし | 2 夫婦のみ（事実婚も含む） |
| 3 2世代同居（親子） | 4 3世代同居（親と子と孫） |
| 5 その他（ ） | ⇒F6-1へ |

【F6で、「3」～「5」と回答した方にうかがいます】

F6-1 あなたの世帯では、あなたを含めて次の方と同居していますか。
（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|-------------|-----------|
| 1 6歳以下のお子さん | 2 70歳以上の方 |
|-------------|-----------|

男女平等に関する意識についてお伺いします

問1 「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。次の中から選んでください。（1つだけに○）

- 1 男は仕事、女は家庭にいるのがよい
- 2 男女とも仕事をもち、家庭でも責任を分担するのがよい
- 3 男女とも仕事をもち、家庭のことは女性が責任をもつのがよい
- 4 男女の役割は固定せずに、男女どちらが仕事をしていても家庭にいてもよい
- 5 その他（ ）
- 6 わからない

問2 あなたは、現在、男女の地位はどの程度平等になっていると思いますか。
次の(1)～(8)について、それぞれ選んでください。(それぞれ1つだけに○)

	男性の方が有利である	どちらかといえば男性の方が有利である	平等になっている	どちらかといえば女性の方が有利である	女性の方が有利である	わからない
(1) 家庭生活で	1	2	3	4	5	6
(2) 職場で	1	2	3	4	5	6
(3) 学校教育の場で	1	2	3	4	5	6
(4) 町内会や自治会等の地域社会で	1	2	3	4	5	6
(5) 社会通念・習慣・しきたりなどで	1	2	3	4	5	6
(6) 政治の場で	1	2	3	4	5	6
(7) 法律や制度の上で	1	2	3	4	5	6
(8) 社会全体の中で	1	2	3	4	5	6



結婚・家庭生活・子育て・介護についてお伺いします

問3 最近では、家族のあり方が大きく変化しており、結婚や離婚、家庭、男女の役割等に対してさまざまな考え方があります。

あなたは、次の意見についてどう思いますか。（それぞれ1つだけに○）

	そう 思う	どちらか という 思	どちらか という 思	そう 思	わ か ら な い
(1) 人生をより充実したものにするために、 結婚はしたほうがよい	1	2	3	4	5
(2) 結婚は個人の自由であるから、 しなくてもよい	1	2	3	4	5
(3) 結婚したら、家庭や仕事について、互い に話し合い、分担すればよい	1	2	3	4	5
(4) 結婚しても必ずしも子どもを持つ必要は ない	1	2	3	4	5
(5) 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきで ある	1	2	3	4	5
(6) 結婚生活がうまくいかない時は、離婚 すればよい	1	2	3	4	5
(7) 一般に、今の社会では離婚すると男性 より女性の方が不利である	1	2	3	4	5
(8) 婚姻を続けられないと感じた時は、我慢 せず、ひとり親となる生き方を選んでも よい	1	2	3	4	5
(9) 同性同士の結婚があってもよい	1	2	3	4	5

問4 あなたは、次の（１）～（１３）について、夫婦の間でどのように分担していますか。
配偶者がいない場合は、配偶者がいるとしたらどのようにしたいと思いますか。
(それぞれ１つだけに○)

	主に夫	どちらかといえば夫	夫婦同じ程度	どちらかといえば妻	主に妻	家族	その他
(１) 食事のしたく	1	2	3	4	5	6	7
(２) 食事の後かたづけ	1	2	3	4	5	6	7
(３) そうじ	1	2	3	4	5	6	7
(４) ゴミ出し	1	2	3	4	5	6	7
(５) 洗濯	1	2	3	4	5	6	7
(６) 子どものしつけや勉強	1	2	3	4	5	6	7
(７) 乳児・幼児の世話	1	2	3	4	5	6	7
(８) 親や身内の介護	1	2	3	4	5	6	7
(９) 主な収入を得る	1	2	3	4	5	6	7
(１０) 家計の管理	1	2	3	4	5	6	7
(１１) 財産の管理	1	2	3	4	5	6	7
(１２) 町内行事などの参加	1	2	3	4	5	6	7
(１３) PTA などの参加	1	2	3	4	5	6	7

【配偶者がいる方にうかがいます】

問5 あなたは、夫婦の間の役割分担の現状について、どのように思っていますか。
(１つだけに○)

1 満足している	2 やや満足している
3 やや不満	4 不満
5 わからない	

問6 「男の子は男らしく、女の子は女らしく」という考え方についてどう思いますか。次の中から選んでください。(１つだけに○)

1 よい
2 どちらかといえば、よい
3 どちらかといえば、「性別にとらわれず」がよい
4 「性別にとらわれることなく」がよい
5 わからない

問7 子どもたちが男女平等の人間関係をつくっていくために、親や大人はどのようなことを心がけるべきだと思いますか。（3つまでに○）

1 子どもとの会話の中で、必要以上に「男らしさ」「女らしさ」を強調しない 2 クラブ活動や遊び等の中で、女の子と男の子が協力する場をつくる 3 地域や家庭の中で、夫婦や男女がお互いを尊重し、協力しあう姿を見せる 4 学校教育や家庭の中で、相手へのいたわりや理解が増すような、性に対する知識を身につけさせる 5 学校の進路指導や就業教育において、性別にとらわれることなく、個人の希望と能力を重視する 6 その他（ ） 7 わからない

問8 男性が、育児・介護に参加することについてどう思いますか。
(それぞれ1つだけに○)

問8-1 【育児参加について】	問8-2 【介護参加について】
1 女性と分担して、積極的に参加した方がよい	1 女性と分担して、積極的に参加した方がよい
2 時間の許す範囲内で参加した方がよい	2 時間の許す範囲内で参加した方がよい
3 男性は外で働き、女性が専念した方がよい	3 男性は外で働き、女性が専念した方がよい
4 その他（ ）	4 その他（ ）
5 わからない	5 わからない

問9 育児や家族介護を行うために、法律に基づき育児休業や介護休業を取得できる制度があります。あなたは、この制度を活用して、男性が育児休業や介護休業を取得することについてどのように思いますか。（それぞれ1つだけに○）

問9-1 【育児休業について】	問9-2 【介護休業について】
1 積極的に取得した方がよい	1 積極的に取得した方がよい
2 どちらかといえば取得した方がよい	2 どちらかといえば取得した方がよい
3 どちらかといえば取得しない方がよい	3 どちらかといえば取得しない方がよい
4 取得しない方がよい	4 取得しない方がよい
5 わからない	5 わからない

女性の働き方や活躍について伺います

問10 あなたは、女性が職業をもつことについて、どうお考えですか。あなたの考えに最も近いものを選んでください。（1つだけに○）

- 1 女性は職業をもたない方がよい
- 2 女性は職業をもつことにこだわらなくてよい
- 3 結婚するまでは職業をもつ方がよい
- 4 子どもができるまでは、職業をもつ方がよい
- 5 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい ⇒問10-1へ
- 6 子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい ⇒問10-2へ
- 7 結婚後や出産後も仕事は続けるが、パートタイムにきりかえるなど負担を軽くする方がよい
- 8 その他（ ）

【問10で、「5」と回答した方にうかがいます】

問10-1 あなたは、女性が結婚後、出産後も退職せずに働き続けるためには、どのようなことが重要だと思いますか。次の（１）～（８）のそれぞれについて、あなたの考えに近いものを選んでください。（それぞれ１つだけに○）

	とても重要	重要	あまり重要でない	まったく重要でない
(1) パートナー（男性）の理解や家事・育児などへの参加	1	2	3	4
(2) パートナー（男性）以外の家族の理解や家事・育児などへの参加	1	2	3	4
(3) 保育施設や学童保育の充実	1	2	3	4
(4) 福祉施設やホームヘルパーの充実	1	2	3	4
(5) 労働時間の短縮化、フレックスタイム制の導入	1	2	3	4
(6) 企業等事業所の理解	1	2	3	4
(7) 育児・介護休業などの休暇制度の充実	1	2	3	4
(8) 昇進・昇給などの職場での男女平等の確保	1	2	3	4
(9) その他（ ）	1	2	3	4

【問10で、「6」と回答した方にうかがいます】

問10-2 あなたは、女性が結婚や出産のために退職し、その後再就職するためには、どのようなことが重要だと思いますか。次の（１）～（７）のそれぞれについて、あなたの考えに近いものを選んでください。（それぞれ１つだけに○）

	とても重要	重要	あまり重要でない	まったく重要でない
（１）家族の理解や家事・育児などへの参加	1	2	3	4
（２）子どもや介護を必要とする人などをあずかってくれる施設の充実	1	2	3	4
（３）就職情報や職業紹介などの相談機関の充実	1	2	3	4
（４）技能習得のための訓練施設の充実	1	2	3	4
（５）企業等事業所の理解	1	2	3	4
（６）企業等が再就職を希望する人を雇用する制度の充実	1	2	3	4
（７）フレックスタイム制の導入や介護休業などの休暇制度の充実	1	2	3	4
（８）その他（ ）	1	2	3	4

【お勤めしている方（フルタイム・常勤・パート・アルバイト）にうかがいます】

問11 あなたの職場では、次の（１）～（７）のことがらについて、男女平等になっていると思いますか。（それぞれ１つだけに○）

	平等	ほぼ平等	あまり平等とはいえない	男女の差が相当ある	わからない
（１）募集や採用の条件	1	2	3	4	5
（２）人事配置や昇進	1	2	3	4	5
（３）教育や研修制度	1	2	3	4	5
（４）福利厚生	1	2	3	4	5
（５）定年、退職、解雇	1	2	3	4	5
（６）賃金・給与	1	2	3	4	5
（７）仕事の内容	1	2	3	4	5

問13 あなたは、次にあげるような活動に参加していますか。
(あてはまるものすべてに○)

- 1 自然保護、環境美化、リサイクルなどの環境保全活動
- 2 高齢者福祉、障害者福祉などの社会福祉活動
- 3 健康づくり、医療介護などの保健医療活動
- 4 消費生活に関する活動
- 5 PTA、子ども会などの子どもや青少年の育成活動
- 6 自治会、まちづくりなどの地域活動
- 7 セミナー、講座などを受講したりする生涯学習
- 8 文化、スポーツ、教養などのグループ活動
- 9 子どもの見守りやパトロールなどの防犯活動
- 10 国際交流・協力活動
- 11 その他（

⇒問13-1△



【問13で、「12」と回答した方にうかがいます】

問13-1 あなたが上記のような活動に参加していないのはなぜですか。

(あてはまるものすべてに○)

- 1 仕事が忙しいから
- 2 家事や育児・介護などが忙しいから
- 3 経済的余裕がないから
- 4 地域の団体やグループ活動の情報提供が少ないから
- 5 一緒に活動する仲間がいないから
- 6 家族の理解や協力がいないから
- 7 近くに活動の場がないから
- 8 参加したいと思うものがないから
- 9 その他 ()
- 10 関心がないから

問14 議員や審議会委員など、政策方針決定の場に女性が参画することについて、あなたは、どう思いますか。(1つだけに○)

- 1 男性を上回るほど増える方がよい
- 2 男女半々になるくらいまで増える方がよい
- 3 男女半々まではいなくても、今より増える方がよい ⇒14-1ハ
- 4 今のままでよい
- 5 今より少ない方がよい
- 6 その他 ()
- 7 わからない

【問14で、「1」～「3」と回答した方にうかがいます】

問14-1 議員や審議会委員など、政策方針決定の場に女性の参画が増えていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。あなたが特に重要だと思うものを選んでください。(1つだけに○)

- 1 女性を登用することへの抵抗感をなくすこと
- 2 男性優位の組織運営を改善すること
- 3 女性の能力開発の機会を充実させること
- 4 女性自身が積極的な参画意識をもつこと
- 5 家族からの支援や協力があること
- 6 政策方針決定の場に女性の比率を高めるための取組を充実させること
- 7 その他 ()
- 8 わからない

ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）についてお伺いします

問15 生活の中での「仕事」、「家庭生活（家事・育児・介護 など）」、「地域・個人の生活（地域活動・学習・趣味・付き合い など）」の優先度について、あなたの希望と現実にもっと近いものを選んでください。

問15-1 希望として（1つだけに○）

- 1 「仕事」を優先
- 2 「家庭生活」を優先
- 3 「地域・個人の生活」を優先
- 4 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
- 5 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先
- 6 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
- 7 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
- 8 わからない

問15-2 現実では（1つだけに○）

- 1 「仕事」を優先
- 2 「家庭生活」を優先
- 3 「地域・個人の生活」を優先
- 4 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
- 5 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先
- 6 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
- 7 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
- 8 わからない

問16 あなたは、性別に関わらず仕事と家庭の両立をしていくために、どのような条件が必要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

- 1 給与等の男女間格差をなくすこと
- 2 代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること
- 3 育児や介護のために退職した職員をもとの会社で再雇用する制度を導入すること
- 4 育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的給与を充実すること
- 5 地域の保育施設や保育時間の延長など保育内容を充実すること
- 6 在宅勤務やフレックスタイム制度、短時間勤務制度など、柔軟な勤務制度を導入すること
- 7 女性が働くことや男性が家事育児を行うことに対し、周囲の理解と協力があること
- 8 男性が家事や育児を行う能力・機会を高めること
- 9 その他（ ）
- 10 わからない

配偶者や女性に対する暴力についてお伺いします

ここでの「配偶者」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦、元配偶者（離別・死別した相手、事実婚を解消した相手）も含まれます。

問17 あなたは、次の（１）～（１１）のようなことが配偶者の間で行われた場合、それをどのように感じますか。あなたの考えに近いものを選んでください。

（それぞれ１つだけに○）

	暴力にあたる ような場合でも	暴力にあたる場合も そうでない場合もある	暴力にあたるとは思 わない
（１）平手で打つ	1	2	3
（２）足でける	1	2	3
（３）身体を傷つける可能性のある物でなぐる	1	2	3
（４）なぐるふりをして、おどす	1	2	3
（５）刃物などを突きつけて、おどす	1	2	3
（６）いやがっているのに性的な行為を強要する	1	2	3
（７）見たくないのに、アダルトビデオやポルノ雑誌を見せる	1	2	3
（８）何を言っても長期間無視し続ける	1	2	3
（９）交友関係や電話やメールを細かく監視する	1	2	3
（１０）「だれのおかげで生活できるんだ」などと言う	1	2	3
（１１）大声でどなる	1	2	3

問18 あなたはこれまでに、あなたの配偶者から次の（１）～（５）のようなことをされたことがありますか。（それぞれ１つだけに○）

	1、 2度あ った	何 度も あつ た	ま った く な い
（１）なぐったり、けったりするなどの身体に対する暴行を受けた	1	2	3
（２）人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた	1	2	3
（３）あなたの親族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるようなことがあった	1	2	3
（４）いやがっているのに性的な行為を強要された	1	2	3
（５）あなたの自由になるお金を渡さない	1	2	3

⇒ 問18-1へ

【問18で、「1」または「2」と1つでも回答した方にうかがいます】

問18-1 あなたは、配偶者から受けたそのような行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。（あてはまるものすべてに○）

- | |
|---|
| 1 県婦人相談所、パルティ（とちぎ男女共同参画センター）に相談した |
| 2 県民センターや県健康福祉センターなど上記以外の県の相談窓口相談した |
| 3 市町村の相談窓口相談した |
| 4 警察に連絡・相談した |
| 5 法務局、法テラス、人権擁護委員に相談した |
| 6 上記（1～5）以外の公的な機関に相談した |
| 7 民間の専門家や専門機関（弁護士・弁護士会、カウンセラー・カウンセリング機関、民間シェルターなど）に相談した |
| 8 医療関係者（医師、看護師など）に相談した |
| 9 学校関係者（教員、養護教員、スクールカウンセラーなど）に相談した |
| 10 家族や親戚に相談した |
| 11 友人・知人に相談した |
| 12 その他（ ） |
| 13 どこ（だれ）にも相談しなかった ⇒問18-2へ |

【問18-1で、「13」と回答した方にうかがいます】

問18-2 どこ（だれ）にも相談しなかったのは、なぜですか。

（あてはまるものすべてに○）

- | |
|--|
| 1 どこ（だれ）に相談してよいのかわからなかったから |
| 2 恥ずかしくてだれにも言えなかったから |
| 3 相談してもむだだと思ったから |
| 4 相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから |
| 5 加害者に「だれにも言うな」とおどされたから |
| 6 相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思ったから |
| 7 自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから |
| 8 世間体が悪いから |
| 9 他人を巻き込みたくなかったから |
| 10 他人に知られると、これまで通りの付き合い（仕事や学校などの人間関係）ができなくなると思ったから |
| 11 そのことについて思い出したくなかったから |
| 12 自分にも悪いところがあると思ったから |
| 13 相手の行為は愛情の表現だと思ったから |
| 14 相談するほどのことではないと思ったから |
| 15 その他（ ） |

男女共同参画を推進するための取組について伺います

問19 男女共同参画を実現するためには、性別に関わらず、対等な立場で協力しあい、活躍できる社会づくりが求められていますが、男性に比べ女性の参画が少ない傾向です。

あなたは、今後どのような分野で、特に女性の参画を進める必要があると思いますか。（あてはまるものすべてに○）

- 1 国会・県議会・市町村議会等の議員
- 2 国の省庁、県庁、市町村の役所等
- 3 弁護士、医師などの専門職
- 4 自治会、PTAなどの役員
- 5 企業の管理職、労働組合の幹部
- 6 国連などの国際機関
- 7 建設業などの女性の少ない職場
- 8 理工系などの女性の少ない分野の学生
- 9 大学、研究所などの研究者
- 10 農林業団体などの役職
- 11 その他（

問20 男女共同参画を推進するために、あなたは、どのようなことができますか。

(あてはまるものすべてに○)

- 1 家庭で男女共同参画について話し合う
- 2 職場・学校で男女共同参画について話し合う
- 3 地域（自治会など）で男女共同参画について話し合う
- 4 男女共同参画について学ぶ
- 5 パルティ（とちぎ男女共同参画センター）などを利用し、男女共同参画について理解を深めてみる
- 6 取り組む必要はない
- 7 その他（
- 8 わからない



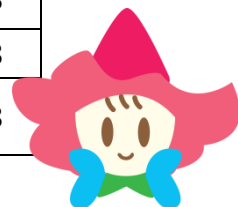
問21 あなたは、男女共同参画社会を実現するために、市は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。（それぞれ1つだけに○）

	とても重要	重要	あまり重要でない	まったく重要でない
(1) 広報誌やパンフレットなどで、男女共同参画社会について啓発する	1	2	3	4
(2) 各種団体などの女性のリーダーを養成する	1	2	3	4
(3) 自主的に活動するボランティアやNPOなどの団体を支援する	1	2	3	4
(4) 学校教育や生涯学習・社会教育の場で男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する	1	2	3	4
(5) 男女の生き方に関する情報提供、相談、教育などの場を充実する	1	2	3	4
(6) 女性を政策方針決定の場に積極的に登用する	1	2	3	4
(7) 職場における男女の平等な扱いについて周知徹底を行う	1	2	3	4
(8) 子どもや介護を要する人などをあずかってくれる施設を充実する	1	2	3	4
(9) その他の取組として重要なことがありましたらお書きください。				

問22 あなたは、次の男女共同参画に関する社会の動きや言葉を知っていますか。（それぞれ1つだけに○）

	知っている	聞いたことはあるが内容は知らない	知らない
1 鹿沼市男女共同参画推進条例	1	2	3
2 かぬま男女共同参画プラン	1	2	3
3 男女共同参画社会	1	2	3
4 ジェンダー（社会的性別）	1	2	3
5 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）	1	2	3
6 DV（ドメスティック・バイオレンス）	1	2	3
7 デートDV（交際相手からの暴力）	1	2	3
8 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（DV防止法）	1	2	3
9 育児・介護休業法	1	2	3
10 男女雇用機会均等法	1	2	3
11 女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）	1	2	3

これで調査は終了です。ご協力いただき、誠にありがとうございました。



鹿沼市 男女共同参画社会に関する意識調査報告書

令和3年3月

鹿沼市 市民部 人権推進課 男女共同参画係
TEL 0289-63-8352（内線 211602）
FAX 0289-60-1001
